

- 茂(も)すべて → 茂(しげる)
- 4400 茂庵(もあん;通称・佐々井さい、名;玄敬)?-? 江中後期安永-文化1772-1818頃和泉堺の医者:  
足立栄庵門/産科;賀川玄悦門、1775「産科やしなひ草」1807「こやすのき」著、「麻疹例草」訳  
茂育(もいく・吉田) → 茂育(しげる・吉田よしだ、弓術家) C 2 1 6 4
- 4401 望一(望都/茂都もいち・もいつ・もういち・杉木すぎき、正春男/本姓大中臣) 1586-1643 58 伊勢の師かざり職の家、  
盲目のため伊勢山田神呂山下の勾当職/十二律の調を聞き吉凶を占う、  
俳人;貞徳の批点を請、荒木田守武に私淑;伊勢俳壇を指導し隆盛に導く、  
1633重頼「犬子集」編纂参加、「伊勢俳諧大発句帳抜書」編、  
没後刊;独吟「望一千句」「望一後千句」、「伊勢山田俳諧集」独吟百韻入、「俳諧二千句」百韻入、  
[雨に声鬼一口ひとくちか郭公ほととぎす](望一千句、伊勢物語芥川の雨中の女の一声を踏まえる)  
[世を去らばたゞ冬山のかたち哉](辞世)、  
杉木正友は弟 → 正友(せいゆう・まさとも・杉木、俳人) D 2 4 0 2  
茂市(もいち・松原) → 正名(まさな・松原/源、藩士/詩/随筆) E 4 0 9 2  
茂一郎(もいちろう・吉村) → 千秋(ちあき・吉村よしむら、国学者) 2 8 3 3  
茂一郎(もいちろう・草間) → 正雄(まさお・草間、藩士/茶華道/日記) B 4 0 4 1  
茂一郎(もいちろう・本多) → 思斎(しさい・本多ほんた、藩儒官) T 2 1 4 9  
茂一郎(もいちろう・田井) → 正路(まさみち・田井たい、儒/連歌/歌人) Q 4 0 4 4  
茂一郎(もいちろう・末永) → 茂世(しげつぐ・末永すえなが、藩士/歌人) Z 2 1 0 0  
茂一郎(模一郎もいちろう・仁井田) → 南陽(なんよう・仁井田、儒者/地誌) 3 2 4 8  
茂一郎(もいちろう・服部) → 安長(やすなが・服部はつとり、神職/国学) G 4 5 4 0  
茂逸(もいつ・中島) → 元丈(げんじょう・中島なかじま、儒者) E 1 8 1 3  
最一拳六(もいつけんりゅう) → 拳六(けんりゅう・最一もいつ、洒落本作者) E 1 8 6 1  
茂胤(もいん/しげたね・土生) → 玄昌(げんしょう・土生はぶ、眼科医) J 1 8 9 8
- 4439 蒙(もう・石原いしはら) ? - ? 江戸期大阪の医者/蘭方を研究、  
「銀海漫筆」「痘疹集成」著、「多摩斯外科書」訳  
[蒙(;名)の字/号]字;清泉、号;稲坡/悠然亭  
蒙(もう・山川) → 東林(とうりん・山川やまかわ、藩士/儒者) I 3 1 4 1  
蒙(もう・小泉) → 五林(ごりん・小泉こいずみ、医者/詩文) O 1 9 0 4  
孟(もう・菅原) → 孟(たけし・菅原すがわら/菅、医者) O 2 6 3 8  
孟(もう・堀田) → 正順(まさあり・堀田ほった、藩主/歌) B 4 0 2 1
- 4440 蒙庵(もうあん・渡辺わたなべ、名;操、久耀男) 1687-1775 89 遠江浜松の医者;幼時父に死別/上方に遊学、  
医;小川朔庵門/漢学;中野撫謙門/同門の太宰春台と交遊;古文辞学を修学、1725浜松藩医、  
1729藩主松平資訓の三河吉田転封に随う/再び浜松転封で帰郷、致仕後漢学塾を開、  
賀茂真淵・小沢玄沢の師、1748「老子愚読」62「莊子口義愚解」「鉛刀一割」、「易学講義」著、  
「易説」「詩経辨義」「詩伝悪名」「戦国策注解」外著多、没後「蒙庵先生詩文集」(内山真竜編)、  
[蒙庵(;号)の字/別号]字;友節、別号;竹亭、祖父は三河西尾藩士安藤久時
- 4441 蒙庵(もうあん・志村むら、名;弘強、実弘男) 1769-1845 77 陸前江刺郡羽黒堂村の儒者;昌平黌出、  
古賀精里門、兄五城の嗣/仙台藩に出仕;1834仙台藩学問所師範/養賢堂副学頭/藩主侍講、  
1807「環海異聞」編の参加(世界を廻った津太夫の聞取記述/大槻玄沢著)、  
「菊隠詩集」「志村篤治上書」「社倉法」「小学集成」著、五城・東嶼の弟、  
[蒙庵(;号)の字/通称/別号]字;仲行、通称;篤治、別号;菊隠/石溪/獲心軒/菊垣/紫霞山人  
蒙庵(もうあん;号) → 春荘(しゅんそう;道号・宗椿;法諱、臨濟僧) L 2 1 3 2  
蒙庵(もうあん・福井) → 玄効(げんこう・福井ふくい、藩侍医) I 1 8 7 9  
孟緯(もうい・稲津/梁川) → 星巖(せいがん・梁川やながわ、詩人) 2 4 0 5  
孟彝(もうい・小俣) → 蟻庵(かみあん・小俣こまた/おまた、商人/篆刻) J 1 5 4 3  
孟懿(もうい・笠原) → 孟懿(たけよし・笠原かさばら、幕臣/歌人) O 2 6 9 0

- 望一(もういち・杉本) → 望一(もち・杉木、俳人) 4 4 0 1  
 孟永(もうえい・田中) → 蘭斎(らんさい・田中たなか、藩士/書家) C 4 8 1 5  
 孟栄(もうえい・竹原) → 澧水(れいすい・竹原たけはら、医者/篆刻) 5 1 4 1  
 4442 毛越(もうえつ) ? - ? 江中期俳人: 祇徳系?、蕪村と交友、  
 1742「曠野菊」51「古今短冊集」編  
 4443 孟遠(もうえん・山本やまと) 1669-1729 61 近江彦根藩士/俳人: 許六門、1714法体/諸国行脚、  
 芭蕉道統3世と自称、京・備中足守・備前岡山・豊後日田・肥後熊本などに彦根蕉風を普及、  
 1708「七句集」編/19「俳諧桃の杖」24「秘蘊集」、「波数農葉能紀行」著、13回忌追善「猿の華」、  
 [孟遠の別号] 横斜庵/四十九軒/七々軒、夢明坊/須弥仏[須弥弗]  
 孟園(もうえん・神吉) → 弘範(ひろのり・神吉かんき、本陣主人/国学) G 3 7 8 9  
 4444 耆翁(もうおう・行田ぎょうだ) ? - ? 江中期武州忍の地誌家: 名所案内記を編纂、  
 1799「七在所廻り付録」、「七ざい所巡道しるべ」編  
 孟王(もうおう・望月) → 毅軒(きけん・望月もちづき、昌平黌儒官) I 1 6 4 8  
 4445 毛越(もうおつ・大夢庵) ? - ? 京の俳人: 路通門、巴人系俳人と交流; 蕪村と親交、  
 1742「曠野菊」51「古今短冊集」編、「大夢庵句集」著、  
 [毛越の別号] 完子/雪尾/大夢/大夢庵  
 4446 蒙窩(もうか・奥村おくむら、名; 庸礼/和豊/克、和忠男) 1627-87 61 加賀藩士; 1637前田光高の侍臣、  
 1643父早世のため祖父易英の家督継嗣、52家老に就任/86年寄、仏典を修学/儒: 林鳳岡門、  
 木下順庵・朱舜水門/経史を修学、1682「読書抜尤録」著、  
 [蒙窩(;号)の字/通称] 字; 師儉/顕忠、通称; 多宮/因幡/壱岐  
 4447 蒙窩(もうか・堀ほり、名; 正樸、立庵男/本姓; 菅原) 1655-1700 46 京の儒者; 父門、  
 1662安藝広島藩儒: 父を継嗣/1671広島赴任/73江戸出府; 藩主浅野綱長に謁す、  
 以後家学を以って出仕、藩主に随従し江戸広島間を往復/95致仕、  
 「黙桃摘藁」編/「蒙窩文集」「杏庵先生年譜」著、  
 蒙窩系統を[北堀]・弟蘭窩(広島藩医)系統を[南堀]と称す、  
 [蒙窩(;号)の字/通称] 字; 毅父、通称; 一六兵衛、槐庵の弟、蘭窩の兄、南湖の父  
 4448 猛火(もうか; 法諱) 1716 - 1788 73 伊勢松阪大工町の真宗真台寺4世住職、  
 書; 荒木是水流、外典・老荘に精通、南宮大大湫・涌蓮と交流、1777「赤須真人詩集」著、  
 [猛火(;法諱)の幼名/字/号] 幼名; 勝、字; 明了、号; 赤須真人、法号; 東海院明了上人  
 孟夏(もうか・山本) → 蕉逸(しょういつ・山本やまと、儒者/教育) F 2 2 1 0  
 孟雅(もうが/たけまさ?・斯波) → 黒人(くろひと・浜辺、書肆/狂歌) B 1 7 1 8  
 孟雅(もうが・臼井) → 孟雅(たけまさ・臼井/平、神道家) O 2 6 7 3  
 猛雅(もうが・奥) → 猛雅(たけまさ・奥おく、藩士/砲術家) W 2 6 3 4  
 孟介(もうがい・橋本) → 実盛(さねもり・橋本、神職/神典/書) L 2 0 4 5  
 孟晦(もうかい・世古) → 延世(のぶよ・世古せこ、商家/和漢学/歌) G 3 5 2 0  
 孟恪(もうかく・神田) → 孝平(こうへい・たかひら・神田かんだ、蘭学者) F 1 9 3 8  
 孟確(もうかく・長野) → 豊山(ほうざん・長野ながの、儒者) B 3 9 1 0  
 孟諤(もうがく・戸田) → 寿昌(としまさ・戸田、藩士/本草家) N 3 1 7 3  
 孟寛(もうかん・小俣) → 嬖庵(かくあん・小俣こまた/おまた、商人/篆刻) J 1 5 4 3  
 孟幹(もうかん・鍋島) → 直条(なおえだ・鍋島、藩主/詩歌) 3 2 7 7  
 孟観(もうかん・高瀬) → 学山(がくざん・高瀬たかせ、儒者) E 1 5 6 9  
 4449 毛紬(もうがん・大雅堂たいがどう、姓; 喜多山/名; 正矩) ?-? 近江彦根藩士/俳人; 森川許六門、画も嗜む、  
 1696許六「韻塞いんふたぎ」入、「十三歌仙」本座後見、几董「続明烏」1句入; 689、  
 [雪にゆきまたげの股にたんまれり](続明烏: 乙689/雪の街道景/またげ; 道中駕籠かき)  
 ([徒然草181段「ふれふれこゆきたんばのこゆき」; たんまれ粉雪を誤て丹波のと言ふ:  
 「垣や木の股に」と謡ふべしと云々]を踏まえての趣向)  
 [大雅堂毛紬(;号)の通称] 十蔵  
 孟卷舎(もうかんしゃ) → 一石子(いっせきし・孟卷舎、俳人) H 1 1 4 5  
 孟熙(もうき・馬) → 寒巖(かんばん・北山/馬、幕臣/絵師) Q 1 5 1 2  
 毛義(もうぎ・畑はた) → 銀鷄(ぎんけい・平亭、藩医/狂歌/戯作) D 1 6 9 5

- 蒙鳩子(もうきゅうし) → 四郎左衛門(しろうざえもん・丹羽にわ、藩士) N 2 2 1 0  
 孟喜(もうき・唐金) → 梅所(ばいしょ・唐金からかね/倉野、商家/詩文) B 3 6 5 3  
 孟擣(もうき・本庄) → 星川(せいせん・本庄/本莊ほんじょう、藩儒) C 2 4 4 7  
 孟喬(もうきょう:画号) → 綾足(あやたり・建部、涼袋、歌/俳/画人) 1 0 2 8  
 孟教(もうきょう・山地) → 蕉窓(しょうそう・山地/山路、儒者/詩) T 2 2 9 9  
 孟郷(もうきょう・山田) → 東園(とうえん・山田、儒者/随筆) B 3 1 5 4  
 孟鞏(もうきょう・増島) → 蘭園(らんえん・増島/平/増、幕臣儒官) B 4 8 5 9  
 孟玉(もうぎょく・望月) → 毅軒(きけん・望月もちつき、昌平覺儒官) I 1 6 4 8  
 孟君(もうくん・三井) → 宗之(むねゆき・三井みつゐ、眼科医/歌人) C 4 2 7 8  
 孟敬(もうけい・堀) → 杏庵(きょうあん・堀ほり、医者/儒者) 1 6 2 9  
 孟卿(もうけい・近藤) → 孟卿(たかあきら・近藤/藤原、幕臣、歌人) C 2 6 4 7  
 4450 盲目(もうめつ・雲奴うんぬ) ? - ? 江前期俳人;調和編1680-1「金剛砂」83「誹諧題林一句」入  
 孟軒(もうけん・志倉) → 西馬(さいば・富処[所]ふどころ、俳人) B 2 0 0 5  
 孟憲(もうけん・森本) → 眞弓(まゆみ・森本もりもと、商家/国学/歌) P 4 0 3 5  
 孟鉉(もうげん・小野) → 杜陵(とりょう・小野おの、藩士/儒詩) R 3 1 9 1  
 猛彦(孟彦もうげん・市岡) → 猛彦(たけひこ・市岡、藩士/国学・歌) E 2 6 4 9  
 猛虎(もうこ・小野/山岡) → 鉄舟(てつしゅう・山岡、幕臣/武道家) C 3 0 4 3  
 孟固(もうこ・野村) → 重威(しげたけ・野村のむら、藩士/詩歌) R 2 1 2 8  
 4451 蒙光(もうこう) ? - ? 大阪生玉の円通寺住職/俳人;1790大江丸「俳讖悔」跋  
 蒙光(もうこう) → 仏定(ぶつじょう;法諱、浄土僧) D 3 8 3 6  
 孟光(もうこう・井上) → 蘆洲(ろしゅう・井上いのうえ、儒者/易学) B 5 2 7 2  
 孟幸(もうこう・菅) → 基(もとき・菅すが、儒者) C 4 4 4 1  
 孟公(もうこう・香川) → 南洋(なんよう・香川かがわ、医/儒者) 3 2 4 3  
 孟行(もうこう・中口) → 孟行(たけゆき・中口なかぐち、蘭学者) O 2 6 8 7  
 孟功(もうこう・曾我部) → 正積(まさかず・曾我部そがべ、国学/歌人) Q 4 0 4 2  
 孟厚(もうこう・杉原) → 惇(じゅん・杉原、藩医者/詩文) 2 1 8 5  
 孟厚(もうこう・岩垣) → 竜溪(りゅうけい・巖[岩]垣/三善、儒者) D 4 9 5 3  
 孟鴻(もうこう・大淵) → 常範(つねのり・大淵おおぶち、幕医/本草学) D 2 9 2 1  
 孟紘(もうこう・沢辺) → 北溟(ほくめい・沢辺さわべ、藩士/儒者) D 3 9 9 5  
 毛孔(もうこう) → 鶴翁(かくおう・花月庵、田中、茶人;煎茶) J 1 5 5 9  
 蒙光触(もうこうしよく;号) → 靈応(れいおう;法諱、浄土僧) 5 1 1 4  
 4452 蒙斎(もうさい・土田つちだ、名;敬之) 1765-1837 73 常陸水戸の藩医、1794「痘家知方論」著、  
 1800「麻疹撮要」「麻疹証治要方」著/1835「舌胎図説」編、「常陽遊路」著、  
 [蒙斎(;)号)の字/別号]字;子頭、別号;恕庵  
 4453 蒙斎(もうさい・広瀬ひろせ、名;典/政典、政則男) 1768-1829 62 磐城白河の儒者;  
 1791藩命で昌平覺入学/柴野栗山門、西国遊歴;安藝の頼春水・山陽と交流、  
 1797白河藩校立教館学頭/98教授、1800物頭格;藩主定信に抜擢され藩政参与、  
 郡代・長柄奉行/用人歴任、1823藩主松平定永の伊勢桑名国替に伴い移住/25世子定和の傳、  
 「浴恩園図記」「有方録」「蒙斎先生文集」「羽林源公伝」「学思斎詩稿」「扈游録」「蚊やり火」著、  
 「南湖記」「搦墟記」外著多数、  
 [蒙斎(;)号)の字/通称]字;以寧/仲謨/仁重、通称;台八  
 4454 蒙斎(もうさい・月田つきだ、名;強、弘政男) 1807-66 60 代々肥後玉名郡荒尾郷の野原八幡宮宮司、  
 藩校時習館入学;辛島塩井門/上京し千手旭山門;崎門朱子学修学/江戸遊学後帰郷、  
 郷学の師/1857熊本藩儒:時習館助教/61二公子に進講、幕末期九州の崎門学派の重鎮、  
 「蒙斎詩草」「蒙斎随筆」「蒙斎文集」「梨花小窻集」「偶記」「偶記詩草」「女子日用訓」外著多数、  
 [蒙斎(;)号)の字/通称/別号]字;伯恕、通称;鉄太郎/右門、別号;道胤/輝  
 孟斎(もうさい・竹内) → 休山(きゅうざん・竹内たけのうち、藩士) M 1 6 6 5  
 孟斎(もうさい・歌川) → 芳虎(よしとら・歌川うたがわ/永島、絵師) F 4 7 1 1  
 蒙斎(もうさい・藤/藤原) → 貞幹(さだもと・藤原/藤、国学/故実家) 2 0 2 7  
 蒙斎(もうさい・多田ただ) → 東溪(とうけい・多田、書/儒者) D 3 1 0 8

- 蒙齋(もうさい・富川) → 大塊(たいかい・富川/大橋、大庄屋/詩文) J 2 6 4 3  
 毛山(もうざん・橋本) → 香坡(こうは・橋本はしもと、儒者/詩/勤王) F 1 9 3 4  
 孟山(もうざん・植村) → 重遠(しげとお・植村うえむら、和算家) R 2 1 6 3  
 蒙山(もうざん;道号・智明) → 智明(ちみょう・ちみん;法諱・蒙山、臨濟僧) F 2 8 4 3  
 蒙山(もうざん;道号・玄光) → 玄光(げんこう;法諱・独庵;号、曹洞僧) B 1 8 7 7  
 蒙山(もうざん・鍋島) → 直条(なおえだ・鍋島、藩主/詩歌人) 3 2 7 7  
 蒙山(もうざん・長沼) → 采石(さいせき・長沼、藩士/国学者) G 2 0 8 4  
 毛山人(もうざんじん) → 香坡(こうは・橋本はしもと、儒者/詩/勤王) F 1 9 3 4  
 猛之(もうし・田中) → 猛之(たけゆき・田中たなか/山村、藩士/国学) X 2 6 8 7  
 孟綽(もうしゃく・孫福) → 公裕(きみひろ・孫福まごふく/度会、神職/詩) M 1 6 0 7  
 孟綽(もうしゃく・川名) → 孟綽(たけひろ・川名かわな、儒者/詩人) O 2 6 7 0  
 猛叔(もうしゅく・生方) → 寛(ひろし・生方うぶかた/源、書家) F 3 7 9 0  
 孟叔(もうしゅく・山地) → 蕉窓(しょうそう・山地/山路、儒者/詩) T 2 2 9 9  
 孟俊(もうしゅん・末包) → 立石(りっせき・末包すえかね、儒者) C 4 9 0 7  
 孟純(もうじゅん・青木) → 樹堂(じゅどう・青木あおき、禅僧/漢学/詩) 2 1 7 5  
 孟純(もうじゅん;字・大蔵) → 永常(ながつね・大蔵おおくら、農政家) E 3 2 5 4  
 孟句(もうじゅん・菅) → 新菴(しんあん・菅すが、儒者) D 2 2 4 4  
 4455 **蒙所**(もうしょ・新興におう/修姓;興/本姓;堀) 1687-1755<sup>69</sup> 江戸の生?、和泉堺で書家:篆隸書に秀づ、  
 篆刻に長ず;今体派篆刻、のちに肥前蓮池藩に出仕、「蒙所資問」「蒙所手簡」著、  
 「草海」「黒帖」、1735「艸彙書翰集」50「国字様」外著・書多数、牧(新興)夏嶽・都賀庭鐘らの師、  
 [蒙所(;号)の名/字/通称/別号]名;光鍾/光鐘、字;中連、通称;文治/文治郎、別号;積小館  
 孟恕(もうじょ・三木/木) → 蛭洲(いしゅう・寺崎、儒/詩) 5 1 3 7  
 孟祥(もうしょう・九里) → 将興(まさおき・九里くのり、藩士/詩人) B 4 0 4 8  
 孟章(もうしょう・西川) → 高煥(たかあき・西川にしかわ、藩士/国学) Y 2 6 8 3  
 4456 **毛条**(もうじょう・奥田おくだ、別号;野菊のぎく)?-? 宇治田原の俳人;蕪村門、1776几董「続明鳥」1句入、  
 1777江涯「仮日記」1句/82蕪村「花鳥篇」1句/83維駒「五車反古」1句入、  
 [初桜はつぎらひそかに咲ける風情哉](花鳥篇;7/咲初の花に可憐な命の営み;野菊名)  
 孟場(もうじょう・鎌田) → 碩庵(せきあん・鎌田かまた、医者/歌人) J 2 4 9 1  
 4458 **孟縉**(もうしん・植田うえだ) 1757- 1843<sup>87</sup> 武蔵八王子の千人同心組頭/幕臣;日光勤番、  
 往復すること数十回、郷土史家;「八王子十五組地誌」/1820「武蔵名勝図会」著、  
 1825「日光山志」29「鎌倉攬勝考」、「鎌倉名勝図会」「石平道人外記」著/「浅草寺旧跡考」編、  
 [孟縉(;名)の字/通称/号]字;子夏/君夏、通称;十兵衛/重兵衛、号;雲楽斎/雲夢斎  
 孟親(もうしん・高瀬) → 学山(がくざん・高瀬たかせ、儒者) E 1 5 6 9  
 孟津(もうしん・桃/桃井) → 西河(せいか・桃井/桃/脇坂、藩儒/詩) 2 4 7 9  
 4457 **望翠**(もうすい/ぼうすい・片野かたの、名;良久、通称;井筒屋新蔵) 1657-1705<sup>49</sup> 伊賀上野の商人、  
 俳人;芭蕉門/芭蕉の妹婿、1694其角「枯尾花」・浪化「有磯海」・96風国「初蟬」入、  
 1698「続猿蓑」4句入、  
 [涼しさや駕籠を出いでての縄手みち](続猿蓑;下/屋根なき旅駕籠から降り田道を歩く)  
 毛助(もうすけ・木綿屋) → 兆如(ちようじょ・中島、庄屋/俳人) I 2 8 8 9  
 孟成(もうせい・松本) → 奎堂(けいどう・松本まつもと、儒者/天誅組) 1 8 8 7  
 孟清(もうせい・西村) → 古愚(こご・西村にしむら、商家/詩人) M 1 9 1 5  
 孟政(もうせい・中村) → 孟政(たけまさ・中村なかむら、酒造業/歌人) Y 2 6 6 3  
 毛生必華(もうせいひっか) → 学川(がくせん・曾谷そだに、儒者/詩/篆刻) E 1 5 8 8  
 I4460 **網川**(もうせん・那波なば/旧姓;佐々木) 1757-1813<sup>57</sup> 播磨の儒者;那波魯堂門、  
 師に随い阿波徳島藩に随従、魯堂の養子、徳島藩の寺島学問所教授、鉄復堂の師、  
 [網川(;号)の名/字/通称]名;績、字;世勲、通称;与蔵  
 4459 **毛川**(もうせん・林はやし、名;棟、通頭男) 1801-58<sup>58</sup> 越前勝山藩士;1815出仕;250石、江戸で修学、  
 儒者;1827湯島聖堂入寮/1840家老職勝手頭取、藩政改革;民政安定・学校興隆・兵備充実、  
 藩校成器堂創設、勝山文庫設置;典籍収集、出費過超と1855大地震による江戸藩邸倒壊;



閉門塾居/失脚、「毛川遺稿」、雪篷せつぼうの父、

[毛川(；号)の字/通称/別号]字；季梁/季華、通称；崑三郎がんさぶろう/主税/芥蔵、法号；開示院

- 孟素(もうそ・桜井) → 雪鮮(せつせん・桜井さくらい、幕臣/絵師) L 2 4 1 3  
孟率(もうそつ・八木) → 巽所(そんしょ・八木やぎ/米、絵師) K 2 5 8 2  
孟倬(もうたく・村山) → 漢古(かんこ・村山むらやま、役人/漢学/詩歌/教育) V 1 5 9 6  
孟著(もうちよ・林) → 梅洞(ばいどう・林、儒者) B 3 6 8 9  
孟瀦(もうちよ・原) → 白圭(はくけい・原はら、藩儒/詩人) C 3 6 9 8  
孟潮(もうちよう・小浦) → 広名(ひろな・小浦こうら、藩士/国学/歌) J 3 7 5 2  
毛長翁(もうちようおう) → 道斎(どうさい・川口/田原、医者) E 3 1 4 3  
孟直(もうちよく・渡辺) → 直(なおし・渡辺、藩国老/歌) B 3 2 2 6  
孟典(もうてん・大島) → 芙蓉(ふよう・高こう/大島、篆刻家) E 3 8 4 7  
孟篆(もうてん・横尾) → 紫洋(しよく・横尾/黄、藩儒/勤王家) Q 2 2 6 3  
望都(もうと) → 望一(もち・杉本、俳人) 4 4 0 1  
毛唐陳奮翰(もうとうちんぶんかん) → 南畝(なんぼ・大田、幕臣/狂歌詩) 3 2 3 3  
孟敦(もうとん・喜多川) → 孟敦(たけあつ・喜多川/福田/松原、和算家) O 2 6 2 5  
孟博(もうはく・小森) → 愚堂(ぐどう・小森こもり、医者/歌) C 1 7 5 4  
孟美(もうび・兼康) → 百濟(ひやくさい・兼康かねやす、医/儒者) E 3 7 4 9  
猛比古(もうひこ・青木) → 猛比古(たけひこ・青木あおき、尊皇運動) V 2 6 0 4  
孟弼(もうひつ・宮川) → 孟弼(たけすけ・宮川みやがわ、和算家) O 2 6 4 1  
毛必華(もうひつか) → 学川(がくせん・曾谷そだに、儒者/詩/篆刻) E 1 5 8 8  
孟彪(もうひよう・大島) → 芙蓉(ふよう・高こう/大島、篆刻家) E 3 8 4 7  
孟敏(もうびん・矢田) → 好古(よしふる・矢田やだ/源、坊官) G 4 7 8 7  
孟賁(もうぶん/もうひ・赤松、蘭室男) 詩文；1818「蘭室先生詩文集」編  
孟文(もうぶん・武田) → 孟文(たけふみ・武田たけだ、洋学者) O 2 6 7 2  
孟甫(もうほ・水越) → 八郎左衛門(はちろうざえもん・水越みずこし、藩士) F 3 6 0 4  
孟溟(もうめい) → 蕪村(ぶそん・与謝・谷口、俳人/絵師) 3 8 1 1  
孟明(もうめい・深山) → 陸渾(りくこん・深山みやま、儒者/詩人) 4 9 7 2  
孟明(もうめい・山田) → 孟明(たけあき・山田やまだ/田、儒者/詩人) 2 7 1 4  
孟明(もうめい・境田/紅林) → 梅処(ばいしょ・紅林くればやし/吳/境田、藩儒) B 3 6 5 4

4460 蒙々齋牛貫(もうもうさいうしつら、姓；杉浦/名；貞幹)?-? 文政1818-30頃江戸市ヶ谷の狂歌作者：

酔竹庵門/のち西来居の社中で判者、「放屁百首」編、

[蒙々齋牛貫(；号)の字/別号]字；固卿、別号；能楽齋

- 毛野(もうや・田中) → 亦太郎(またたろう・田中/小林、藩士/国学) J 4 0 5 0  
孟耶観(もうやかん) → 李由(りゆう・河野、真宗僧；通賢、俳人) 4 9 0 5  
孟雄(もうゆう・天津) → 孟雄(たけお・天津あまつ、神職/国学) V 2 6 2 8  
孟陽(もうよう・鈴木/鱸すずき) → 透軒(とうけん・鈴木/鱸、儒/詩) D 3 1 3 7  
孟揚(もうよう・鎌田) → 碩庵(せきあん・鎌田かまた、医者/歌人) J 2 4 9 1  
孟瑤(もうよう・市川) → 一学(いちがく・市川いちかわ、儒者) G 1 1 1 1  
罔両子(もうりょうし) → 江雲(こううん；道号・宗竜；法諱、臨濟僧) H 1 9 4 2  
孟隣斎(もうりんさい) → 探雪(たんせつ・狩野かのう、絵師) T 2 6 9 3  
孟烈(もうれつ・菊池) → 武侯(たけよし・菊池きくち、国学者/俳人) W 2 6 7 8  
朦朧斎(もうろうさい) → 武禪(ぶぜん・墨江すみえ、絵師) D 3 8 1 2  
蒙陸(もうろく・自辞矛斎) → 自辞矛斎蒙陸(じじちまうろく、多々良輝雄/通俗本作者) T 2 1 6 3  
茂栄(もえい・久世/中院) → 通枝(みちえだ・中院なかのいん/久世、廷臣/歌) B 4 1 2 2  
茂栄(もえい・木村) → 茂栄(しげひで・木村きむら、国学/歌人) O 2 1 1 9

4461 茂右衛門(もえもん・弭間はずま、名；金丸)?-? 江後期出前鶴岡の製麺業/荒物屋、庄内藩の給人、

俳人；1813松童窟文二門、鶴岡(大泉)の古今の俳人資料を蒐集刊行、

1844「大泉俳諧叢書目録」著、45「於保伊頭美」著(草稿)、

[茂右衛門(；通称)の別通称/号]別通称；茂助、号；古梅こばい/芳風舎、屋号；丸屋

茂右衛門(もえもん・福王)→ 盛有(もりあり・福王/長束、能楽師/記録) F 4 4 1 2  
 茂右衛門(もえもん・千葉)→ 芸閣(うんかく・千葉ちば、儒者) B 1 2 0 6  
 茂右衛門(もえもん・梅津)→ 政景(まさかげ・梅津/藤原、藩家老/日記) B 4 0 6 9  
 茂右衛門(もえもん・楫取)→ 魚彦(なひこ・楫取/伊能、名主/歌人) 3 2 2 4  
 茂右衛門(もえもん・渡辺/戸田)→ 茂睡(茂妥もすい・戸田/渡辺、歌人) 4 4 0 5  
 茂右衛門(もえもん・戸田)→ 元周(もとちか・戸田とだ、茂睡男/国学者) D 4 4 0 3  
 茂右衛門(もえもん・名倉)→ 安興(やすおき・名倉なくら、商家/国学者) G 4 5 3 1  
 茂右衛門(もえもん・大地)→ 昌業(まさなり・大地おおち、藩士/詩人) F 4 0 4 4  
 茂右衛門(もえもん・吉村)→ 千春(ちはる・吉村よしむら、藩士/国学者) F 2 8 2 0  
 茂右衛門(もえもん・後藤)→ 雪旦(せつたん・長谷川/後藤、絵師) E 2 4 5 4  
 茂右衛門(もえもん・正亀)→ 慶次(よしつぐ・正亀しょうがめ、神職/俳人) E 4 7 6 5  
 茂右衛門(もえもん・西田)→ 直養(なおかい・西田にしだ、国学/歌人) 3 2 8 1  
 茂右衛門(もえもん・穎川えがわ/丸屋)→ 庸徳(つねのり・奥田/穎川、質商/陶工) D 2 9 1 5  
 茂右衛門(もえもん・谷川)→ 物外(ぶつがい・谷川たにがわ、心学者) D 3 8 2 7  
 茂右衛門(もえもん・宮崎/上田)→ 纘明(つぐあき・上田/宮崎、藩士/教育) 2 9 6 5  
 茂右衛門(もえもん・吉川)→ 秀道(ひでみち・吉川よしかわ、伊豆諸島探査) D 3 7 8 7  
 茂右衛門(もえもん・辻)→ 守静(もりきよ・辻/源/三枝、幕臣/歌人) F 4 4 3 6  
 茂右衛門(もえもん・岡田)→ 忠栄(ただひで・岡田おかだ、国学/歌人) W 2 6 2 9  
 茂右衛門(もえもん・笠井)→ 行宣(ゆきのぶ・笠井かさい、国学者) G 4 6 7 2  
 茂右衛門(もえもん・堅田)→ 種知(たねとも・堅田かただ、神職/和漢学/歌) W 2 6 4 9  
 茂右衛門(もえもん・寺尾)→ 古史(ひさふみ・寺尾てらお、商家/歌人) K 3 7 2 2  
 茂右衛門(もえもん・藤井)→ 承基(つぐもと・藤井ふじい、商家/国学) G 2 9 2 7  
 茂園(もえん・黒沢)→ 敬信(たかのぶ・黒沢くろさわ、藩士/国学) W 2 6 8 2  
 茂園(もえん・関)→ 治彦(はるひこ・関せき/勝浦、国学者) K 3 6 3 1  
 茂延(もえん・鍋島)→ 茂延(しげのぶ・鍋島なべしま、藩家老/歌人) R 2 1 9 8  
 茂延(もえん・丸川)→ 松隠(しょういん・丸川まるかわ、藩儒) F 2 2 1 9  
 茂屋(もおく・深沢)→ 喬山(きょうざん・深沢ふかざわ、藩士/儒/歌) N 1 6 8 9  
 茂嘉(もか・原田)→ 茂嘉(しげよし・原田はらだ、藩士/暦算家) T 2 1 1 2  
 茂雅(もが・美濃部)→ 茂雅(しげまさ・美濃部みのべ、藩士/剣術) S 2 1 6 1  
 茂岳(もがく・植松)→ 茂岳(しげおか・植松/小林、藩士/国学者) B 2 1 9 5  
 茂賀美(もがみ・千家)→ 豊広(とよひろ・千家せんげ/出雲臣、国学/歌) C 3 1 4 2

**最上流四天王**; 会田安明の開いた和算最上流の初伝者四人をいう

→ 一(かず・渡辺) 1767-1839 C 1 5 1 4  
 → 正通(まさみち・丸田)?-? H 4 0 6 0  
 → 惟長(これなが・市瀬)?-? O 1 9 6 1  
 → 茂喬(しげたか・市野)?-? R 2 1 2 4

J4436 藻苺(もがり・潮田うしおだ、為久男) 1806-8277 信濃飯田藩士; 1834父没; 家督嗣、  
 表御用人/御側御用人席を歴任、1868隠居、国学者; 岩崎長世門; 平田、北村稻雄と交流、  
 [藻苺(;名)の初名/通称/号] 初名; 為呈、通称; 銀次郎/伝五郎/喜内(;父の称継嗣)、  
 号; 大瑞/由多禰/濤屋、法名; 靈雲院濤屋藻苺居士

茂寛(もかん・和田)→ 茂寛(しげひろ・和田わだ、国学者) a 2 1 1 0  
 茂丸(もがん・外山)→ 資親(すけちか・長沢/外山、幕臣/高家) G 2 3 4 7  
 茂季(もき・藤木)→ 茂季(しげすえ・藤木ふじき/賀茂、神職) R 2 1 0 7  
 茂義(もぎ・佐瀬)→ 茂義(しげよし・佐瀬させ、神職/神道) O 2 1 5 2  
 茂吉(もきち・村田)→ 珠光(じゅこう・村田、禅僧/華道/茶人) Y 2 1 7 5  
 茂吉(もきち・蜂屋)→ 茂橋(もきつ・蜂屋はちや/源、幕臣/随筆) 4 4 6 2  
 茂吉(もきち・三井)→ 茂吉(しげきち・三井みつゐ、藩士/俳人) C 2 1 1 8  
 茂吉(もきち・小林)→ 忠良(ただよし・小林こばやし、農業/和算家) R 2 6 3 5  
 茂吉(もきち・沢渡)→ 広繁(ひろしげ・沢渡さわたり/紀、絵師) G 3 7 0 3  
 茂吉(もきち・柳屋)→ 露萩(ろしゅう、俳人) 5 2 1 1

- 茂吉(もきち・本橋) → 泉山(せんざん・澤田さわだ/本橋、漢学/教育) O 2 4 1 3
- 4462 茂橋(もきょう・蜂屋はちや、清賢男/本姓;源) 1795-1873 79 幕臣/江戸小石川小日向住、  
田安家に出仕;御小姓頭取・御目付・御広舗御用人を歴任、松平慶永の幼時期の訓育に携る、  
博識で文人・学者と交流、随筆家;「椎園すいゑん叢書」、1818「椎園漫筆」編、42「椎の実筆」、  
1843「しいのみ袋」47「みつのさち」58-65「清漪日記」、「縁起叢書」「落葉集」編、外編著多数、  
[茂橋(;通称)の名/別通称/号]名;惟清(これきよ/清漪きよなみ、別通称;茂吉、号;椎園すいゑん、  
法号;覚翁院、  
☆妹の奈美は山崎桜齋の妻
- 茂躬(もきゆう→しげみ・中島) → 孝昌(たかまさ・中島なかじま、里正/俳人) D 2 6 7 3
- 茂喬(もきょう)すべて → 茂喬(しげたか)
- 茂教(もきょう・吉田) → 茂陸(しげみち・吉田、藩士/弓術家) S 2 1 7 8
- 茂銀(もぎん・船橋/鈴木) → 鄰松(りんしょう・鈴木/藤原/船橋、幕臣/絵師) K 4 9 4 7
- 4463 木工(もく・恩田おんだ、名;民親、藩家老恩田民清男) 1717-62 46 信濃松代藩士;1735(19歳)家督嗣、  
藩の御勝手家老;財政改革・殖産興行・文化振興に功績、  
1761頃「日暮硯」著(;原作馬場杉羽さんう説あり)、  
[木工(;通称)の別通称]左吉/靱負ゆげい
- 杓(もく・深沢) → 君山(くんざん・深沢ふかざわ、家老/和漢学) B 1 7 2 1
- 杓(もく・神田) → 白龍子(はくりゅう・神田、兵学/談義本) E 3 6 0 8
- 杓(もく・松原) → 基(もとい・松原まつばら、藩士/儒者) C 4 4 1 0
- 杓(もく・保坂) → 正義(まさよし・保坂ほさか、藩家老/国学) S 4 0 4 0
- 黙(もく・松浦) → 交翠軒(こうすいけん・松浦、儒者/幕臣) F 1 9 1 6
- 黙(もく・不破/三上) → 藤川(とうせん・三上/不破、儒/医/尊攘) G 3 1 1 5
- 黙(もく・前羽/井上) → 不鳴(ふめい・井上いのうえ、医者/詩歌) E 3 8 1 3
- 黙(もく・河鱈) → 省斎(せいさい・河鱈かわはた、藩儒) B 2 4 6 4
- 木工(もく・小谷) → 時宜(ときよし・小谷おたに、歌人) U 3 1 4 1
- 木工(もく・香川) → 景平(かげひら・香川/景新男、歌人) L 1 5 2 7
- 木工(もく・高泉) → 景規(かげのり・高泉たかいづみ/源、藩士/和学) U 1 5 9 2
- 木工(もく・橋村) → 正甫(まさなみ・橋村はしむら/度会/村山、神職) R 4 0 7 1
- 茂矩(もく・近松) → 茂矩(しげのり・近松/松、藩士/兵法/俳人) C 2 1 8 2
- 茂矩(もく・関口/二渡) → 茂矩(しげのり・二渡ふたわたり/にわたり、国学/歌) E 2 1 8 4
- 茂矩(もく・黒木) → 茂矩(しげのり・黒木くろき、神職/国学) O 2 1 3 4
- 黙蛙(もくあ・久志本) → 常伴(つねとも・久志本くしもと/度会、神職/国学) F 2 9 6 4
- 4402 黙阿彌(もくあみ・河竹かわたけ、姓;吉村/名;新七、越前屋勘兵衛男) 1816-93 78 母;勘兵衛の後妻まち、  
江戸日本橋通二丁目式部小路の湯屋株の売買業の家の長男;遊蕩生活;1829(14歳)勘当、  
伯父の家で[芳々よしよし]と号し茶番狂言に興ず/1732(17歳)貸本屋手代;芝居部屋に出入、  
1834父没;家業を弟に譲渡、歌舞伎作者;1835五世鶴屋南北門/勝彦蔵名、  
1838河原崎座出勤/40弟金之助の死;引退し家業嗣、1841河原崎座に再出勤/柴晋輔名、  
1843立作者;二世河竹新七名、51市川海老蔵に「舛鯉のぼりこい滝白簾」著;好評、  
1854市川小団次(4世)のため「忍ぶの惣太」(都鳥廓白浪)を書き成功;以後小団次と提携、  
1871古河[河竹]黙阿彌名(藤沢遊行寺より阿彌号)/高弟竹柴金作に河竹新七を譲渡、  
以後も活動を続ける、作者生活50余年;約360作/江戸歌舞伎の集大成者、合巻も出版、  
[第一期]1852「児雷也豪傑譚話ごうけつものがたり」53「しらぬひ譚ものがたり」「怪談木幡小平次」等、  
[第二期]小団次(4世)と提携;最も活動期、1854「忍ぶの惣太」60「三人吉三廓初買」、  
1862「青砥稿花紅彩画あおとぞうしはなのにしきえ」「勸善懲惡視機関のぞきからくり」など多数、  
[第三期]維新後9世団十郎・5世菊五郎と提携期、「慶安太平記」「髪結新三」「河内山」など  
[第四期]黙阿彌名の期、1881「島衛しまちどり」、「高時」「夢物語」「四千両」「加賀鳶」など、  
[河竹黙阿彌(;引退後の号)の幼名/別号]幼名;芳三郎/由三郎よしさぶろう、  
別号;勝彦蔵(初世)/斯波[柴]晋輔/河竹新七(2世)/古河黙阿彌(引退後)/其水(俳号)、  
法号;釈黙阿居士
- 木網(もくあみ・元の) → 元木網(もとのもくあみ、国学・狂歌) D 4 4 7 5



- 木網(2世もくあみ・落栗庵)→ 春馬(初世しゅんば・三亭、戯作者/狂歌) 2 1 6 5
- H4402 **黙庵**(もくあん・黙菴もくあん;道号・周諭しゅうゆ;法諱、号:雲海) 1318-7356 武州臨濟僧:夢窓疎石・雪村友梅門、無極志玄門にも参禅、近江守護六角氏頼の招請で金剛寺開山、1358山城等持寺住持、夢窓疎石の嗣法、近江の葆光寺開創、1371等持寺に再任、嵯峨善入寺に没、「提耳訓」著
- 4464 **木庵**(もくあん;道号・性瑠しょうろう;法諱、吳博卿男) 1611-8474 母:黄氏、明福建泉州府晋江県黄檗僧、幼時に父母を喪い祖母に養育、1629(19歳)出家/隠元隆琦門;1650嗣法、1655師の命で渡来、肥前長崎崇福寺住持/師を助け万福寺造営/1664万福寺2世、1664「黄檗和尚太和集」編、「普照国師語録」編、「東来集」「隠元七十壽草」「老圃集」「黄檗禅警語」「露真風」「紫雲止草」、「木菴和尚詩偈」「木菴禅師語録」「木菴禅師瑞聖寺語録」「黄檗木庵禅師語録」外編著多数、[木庵性瑠の初法諱/諡号]初法諱;戒瑠、諡号;慧明国師
- 4403 **木庵**(もくあん・那波なば/祐、名;守之/守、活所[道円]男) 1614-8370 江前期播磨姫路の儒者;父門、1630江戸の林羅山門、紀州和歌山藩儒;藩主徳川光貞の侍講/晩年致仕;京の子弟教育、1668「中庸異見」、「老圃堂集」「辨駁朱子章句」「活所先生年譜」著、[木庵(;号)の字/別号]字;元成、別号;老圃堂
- 4465 **黙庵**(もくあん・牧野まきの/初姓;白杵うすき、名;古愚) 1796-184954 讃岐那珂郡苗田村の儒者/象頭山住、1810菅茶山門/14-15師に随い江戸へ;佐藤一斎門、菊池五山・尾藤水竹・門田朴斎と交流、讃岐高松藩に出仕;江戸藩邸学問所の文学兼侍講、「清人詠物詩鈔」編/「尚書抄説」著、「我為我軒遺稿」、松村(唯助)の父、[黙庵(;号)の字/通称/別号]字;直卿、通称;直右衛門、別号;我為我軒/信天翁、諡号;信懿
- 黙庵(もくあん;号) → 行謙(ぎょうけん;法諱・黙庵、天台僧) S 1 6 2 8
- 黙庵(もくあん・伊能) → 桐雨(とうう・伊能いぬ、俳人) U 3 1 1 2
- 木庵(もくあん) → 丈阿(じょうあ、観水堂、草双紙) Q 2 2 7 6
- 沐庵(もくあん;号) → 溪潭(けいたん;法諱、真宗僧/国学/歌) N 1 8 7 1
- 木一山人(もくいちさんじん) → 竜沢(りゅうたく・本山もとやま茂任、藩士/神職) M 4 9 3 0
- 4467 **黙隠**(もくいん;法諱・佚山いつざん;道号、俗名;森本時敏/字;脩来) 1702-7877 大阪書家、江戸で教授、1738母の死で曹洞僧;三空門、長崎で沈南蘋画法、「金剪府」「小篆千字文」「草書指南抄」[佚山黙隠の号] 正蔵/玄中/常足道人/泉石庵
- 木隠(もくいん・号) → 芳樹(ほうじゅ;法諱、真宗僧) B 3 9 3 0
- 柰允(もくいん・香川) → 景新(かげあき・香川、歌人) K 1 5 9 9
- 柰允(もくいん・菊地) → 専武(せんぶ;名・菊地さくち/藤原、神主) N 2 4 0 7
- 黙隠(もくいん;号) → 卍室(まんじつ;道号・祖价そかい;法諱、曹洞僧) K 4 0 6 2
- 木蔭庵(もくいんあん) → 車蓋(しゃがい・亭々坊、俳人) G 2 1 0 3
- 木卯(もくう;川柳名、木卯居)→ 種彦(たねひこ・柳亭、狂歌/合卷) 2 6 4 3
- 4468 **目云**(もくうん;法諱) 1784 - 184158 越中真宗蓮生寺の生;1814得度;孟遠門、27安居参事、1828大和真宗本願寺派滝上寺の恵吟門;法嗣/滝上寺22世住職;学寮華蔵閣を創設/38司教、「安楽集講録」「玄義分講録」「論註講録」「文類聚抄講録」「易行品後言録」「浄土和讃録」外多、[目云(;法諱)の別法諱/号/諡号]別法諱;恵眞、号;藤華/滝上ろうじょう、諡号;闡教院せんきょういん
- 黙雲(もくうん;号) → 龍沢(りゅうたく;法諱、天隠;道号、臨濟僧) 4 9 0 9
- 4469 **黙慧**(もくえ;法諱・諡号;瑞応院、俗姓;富樫)?-? 江後期加賀の真宗大谷派灯明寺住職/嗣講、1855「成唯識論掌中樞要講義」/67「内外二憂録」「安楽集随聞記」、「女人往生聞書」外著多数
- 4470 **柰右衛門**(もくえもん;通称・鈴木すずき、名;友仁)?-? 江戸期常陸土浦藩士/武術;関口氏記・森保周門、関口流武術(新心流)に長ず、「新心流柔伝書」、加島三郎右衛門・野崎原道げんどの師
- 柰右衛門(もくえもん・諏訪)→ 兼利(かねとし・諏訪すわ、藩家老/歌人) O 1 5 7 1
- 柰右衛門(もくえもん・佐藤)→ 照明(ひろあき・佐藤さとう、藩士/儒者) J 3 7 6 5
- 柰右衛門(もくえもん・近藤)→ 幸養(さちひさ・近藤こんどう、藩老/国学) O 2 0 4 6
- 柰右衛門(もくえもん・滝口)→ 房規(ふさのり・滝口たきぐち、国学/教官) I 3 8 4 6
- 黙右衛門(もくえもん・高井)→ 中斎(ちゅうさい・高井たかい、儒者/教育) G 2 8 0 6
- 木燕(もくえん) → 歌麿(うたまろ・喜多川、絵師/狂歌) 1 2 7 0
- 木園(もくえん・福羽) → 美静(みせい/よしず・福羽ふくば、藩士/国学) C 3 7 4 2
- 黙淵(もくえん・長崎) → 四郎右衛門(しろうえもん・船橋屋ふなばしや、商家/教育) V 2 2 4 3



- I4472 **木王**(もくおう) ? - ? 和泉堺の天神社西坊住、俳人；  
1676西鶴「古今誹諧師手鑑」入、  
[鶯や一声二節ふ園の竹](手鑑/諺；音曲には音声を第一とし曲節これに次ぐ)
- 4471 **黙翁**(もくおう・土肥どひ、名；政平、良繁男)1660-1726<sup>67</sup> 越後糸魚川の儒者；江戸の坂井漸軒門、  
江戸下谷に住し講説業；売講の創始者と称される；聴衆百人/終身仕官しない、書にも長ず、  
「須留毛余志するよし」「美奴余濃登毛」「狎草」、霞洲の父、  
[黙翁(；号)の字/通称/別号]字；政平、通称；左仲/太郎右衛門、別号；堪齋/自観居士
- L4468 **黙翁**(もくおう・毛利もうり、名；繁幹しげもと/通称；深造、)1797-1891<sup>長寿95</sup> 豊前筑城郡の国学者  
黙翁(もくおう；道号) → 妙誠(みょうかい；法諱・黙翁、臨濟僧) G 4 1 8 8  
黙翁(もくおう・山本) → 広足(ひろたり・山本、神道家/詩人) G 3 7 3 3  
黙翁(もくおう・平野) → 元良(元亮げんりょう・平野ひらの、医者) N 1 8 0 7  
黙翁(もくおう・岸田) → 茂篤(しげあつ・岸田/由良、医者/歌人) Q 2 1 5 5  
黙翁(もくおう・田口/石合)→江村(こうそん・石合いしあい/田口/古畑、儒者)G 1 9 3 9  
黙翁(もくおう・牧野) → 和月(わげつ・牧野まきの、藩士/俳人) 5 3 1 9  
黙翁(もくおう・鶴田) → 直好(なおよし・鶴田つた/藤原、藩士/国学)N 3 2 9 2  
黙翁(もくおう・丸岡) → 正孝(まさたか・丸岡まるおか/度会/秦、神職/書家)S 4 0 7 8  
嘿翁(もくおう・岡野) → 黄石(こうせき・岡野おかの、藩儒臣/詩人) K 1 9 0 8  
木王(もくおう・亀田) → 綾瀬(りょうらい・亀田かめだ、儒者) 4 9 2 5  
木翁(もくおう・江左) → 尚白(しょうはく・江左/塩川、医者/俳人)2 2 0 3  
木翁(もくおう・井村) → 木翁(ぼくおう・井村いむら、神風館12世) C3993  
木黄山人(もくおうさんじん) → 丸三(まるみつ・横山、幕臣/陶宮術) K 4 0 2 2
- 4472 **黙我**(もくが・安藤あんどう) ? - 1801? 尾張名古屋両替町の薬種商/俳人；木見もくじ門、  
1786「続秋の昔」・93「小田塚」・96「古稀集」編、  
[黙我(；号)の通称/別号]通称；鑑屋三右衛門/鍵屋三右衛門/卯兵衛、  
別号；木我/木峨/野亮/普羅庵/南路坊
- 4473 **木芽**(もくが・古市ふるいち、名；貞功)1788-1844<sup>57</sup> 三河の俳人；祖父木朶の俳統を継嗣、  
1812「ひしのはな」編/1856木海追善「雲律老人木海発句集」編(梅臣校訂)、  
[木芽(；号)の通称/別号]通称；長兵衛、別号；五東齋  
木海(もくかい・長谷川) → 木海(もっかい・長谷川、俳人) B 4 4 8 2  
木瓜翁(もくかおう、木瓜亭)→ 大庾(だいう・赤松あかまつ/大川、儒者) C 2 6 2 5  
木瓜子(もくかし・本多) → 思齋(しさい・本多ほんだ、藩儒官) T 2 1 4 9  
木下堂(もくかどう) → 吐屑(とせつ・木下堂、俳人) O 3 1 3 3
- 4474 **木雁**(もくがん) ? - ? 美濃樽井の俳人；1691江水「元禄百人一句」目録入
- 4475 **黙岩**(黙巖もくがん；道号・際契さいけい；法諱)1677-1752<sup>76</sup> 豊前の曹洞僧；1691大興寺快堂門；出家、  
快堂没後に黄檗僧；豊前小倉福聚寺の愚禅実智門；嗣法/福聚寺塔頭養徳院住持、  
1749福聚寺8世、「脱空漫語」「撃節三籟集」「黙岩禅師語録」著  
木雁(もくがん) → 晚得(ばんとく・佐藤さとう、藩士/俳人) I 3 6 4 4  
木雁子(もくがんし) → 庵文(そぶん・鶴川うかわ、俳人/季語研究)E 2 5 3 1  
黙居(もくきょ・小田) → 玄蛙(げんあ・小田、医/俳人) H 1 8 5 9  
木橋(もくきょう・澄円) → 木橋(もつきょう・澄円、曹洞僧)
- 4476 **木槿**(もくきん・藤野ふじの、名；氏春/字；東圃)?-? 江中期京の儒者；陽明学者、仏教・道教に通ず、  
1767刊「秋風録」、「学者本領」「疑孟統篇」「大和学的」著  
木鶏(もくけい) → 木鶏(もっけい、俳人) B 4 4 8 5  
木啓(もくけい) → 木啓(もっけい、俳人) B 4 4 8 6  
木鶏(もくけい) → 木鶏(もっけい・江幡えぼた、儒者) B 4 4 8 7  
木圭(もくけい・鳥飼/大塚)→ 毅齋(きさい・大塚おつか、藩士/儒者) I 1 6 5 4  
木圭(もくけい・木戸) → 孝允(たかよし・木戸/桂/和田、藩士/討幕)N 2 6 7 9  
黙兮(もくけい) → 梅老(ばいろう・中根なかね、俳人) C 3 6 3 8  
木鶏子(もくけいし) → 風悟(ふうご・松尾/松、藩士/俳人) 3 8 5 6
- 4477 **黙軒**(もくけん・前波/前場まえば、名；敬儀)1745-1818<sup>74</sup> 但馬豊岡藩士/致仕後医者；京の両替町住、

歌人：小沢蘆庵門；蘆庵四天王の筆頭、上田秋成・菅茶山と交流、1818家集「蕉雨園集」、  
「文台考」「万葉集名家墨痕摹写集鈔」著、上田秋成[藤篋冊子つづらぶみ]入、  
[曙の薄花ざくら忘れめや牡丹はにの色に匂はざりせば]（藤篋冊子/牡丹；白帯紅）、  
[黙軒（；号）の通称/別号]通称；矩輔のりすけ、別号；蕉雨亭/蕉雨園/蕉雨庵/嘸軒

黙軒（嘿軒もくけん・中江）→ 藤樹（とうじゅ・中江、儒；陽明学） 3 1 1 6  
木硯舎（もくけんしゃ） → 其道（きどう・木硯舎、俳人） L 1 6 6 4  
木原居（もくげんきよ） → 買明（ばいめい・高橋・交、俳人） C 3 6 0 8

4478 木吾（もくご・浅川あさかわ、本名；宇野治良助）?-? 越中井波の塩屋/俳人；1776樗良「月の夜」入  
[月の雲に厚きうすきの見ゆる哉]（誹諧月の夜；47）

木吾（もくご・堀田） → 知之（ともゆき・堀田、歌/俳人） Q 3 1 8 1  
木工（もくこう・伏田/香川）→ 景嗣（かげつぐ・香川、歌人） E 1 5 9 7  
木工（もくこう・菱沼/萱場）→ 傍齋（ぼうさい・萱場かやば/菱沼、藩士） 3 9 9 0  
木公（もくこう・稻垣） → 寒翠（かんすい・稻垣いながき、儒者） R 1 5 1 3  
目耕（もくこう・鈴木） → 良知（りょうち・鈴木、儒/医者/本草家） I 4 9 8 5  
木公庵（もくこうあん） → 公庵（こうあん・滝沢たきざわ、医/本草/歌） H 1 9 2 6  
木公園（もくこうえん） → 直胤（なおたね・正宗まさむね、国/俳） B 3 2 6 2  
目耕肘書齋（もくこうちゅうしよさい）→ 拙齋（ちゅうさい・洪江しぶえ、医者/考証学） G 2 8 0 9  
木公亭（もくこうてい） → 金水（きんすい・松亭、人情/読本） 1 6 6 3  
木工権助（もくごんのすけ・賀茂）→ 季通（すえみち・賀茂/岡本/西池、神職/歌） F 2 3 6 5

4479 黙齋（もくさい・桑名くわな）1662- 1731 70 京の儒者；山崎闇齋門；1704仙台藩儒（；大島半隠推薦）、  
禄3百石/藩主招聘の僧鉄牛・月畔げこうと合わず致仕/再禄仕、元春の父、元章もとあきの祖父、  
「十敬伝」「十二支訓伝」「神代小囊草」「中臣祓四神考」/1689「中臣祓諸葉草」外著多数、  
[黙齋（；号）の字/通称/別号]字；子石、通称；養順/十右衛門、別号；雲黙翁/松雲/六有堂

4466 黙齋（もくさい・楠くすのき） ? - ? 江中期泉州堺の書家、1758「書簡染鼎」

4480 黙齋（もくさい・宇佐美うさみ、名；昌英/昌益）1722-1814長寿93歳 石集流鎮信派茶道；野田酔翁門、  
上州安中藩主板倉勝意の茶頭、「茶道十三式」著、  
[黙齋（；号）の通称/別号]通称；三蔵、別号；止々齋

4481 黙齋（もくさい・宇井い/本姓；丸子、名；弘篤ひろあつ）1725-81 57 代々肥前唐津藩士/1743藩を放逐、  
上京し儒者；闇齋学修得/江戸の服部南郭門；李・王の学を修得、再び闇齋学に復す、  
唐津より旧主転封に伴い下総古河藩に出仕、事に連座し幽囚；赦免され京で講説、  
「警戒録」「読思録」「宇井兄近思録口義」「家礼抄略講義」「近思録筆記」「孟子筆記」外著多、  
[黙齋（；号）の字/通称]字；信卿、通称；小一郎

4482 黙齋（もくさい・稲葉いなば、名；正信、迂齋男）1732-99 68 江戸の儒者；父門/野田剛齋門、仕官せず、  
諸侯に講義/晩年は上総清名幸谷に隠棲；崎門きもん学継承に尽力、「燕閑録」「鬚鬚録」、  
佐藤直方「韞蔵録うんぞうく」編/「孤松全稿」「清名全書」「新泉草」「西遊瑣録」「雪梅草」、  
「女訓之心得」「為学筆記」「牛島随筆」「奇峯録」「若松夜話」「若松草」「西南録」「排積録」、  
「寸虎録」「黙齋草」「黙齋学話」「黙齋話録」「黙齋先生易本義口義」、「黙齋遺草」外著多数、  
[黙齋（；号）の通称/別号]通称；又三郎、別号；孤松庵、尾関当補とうほの師

4483 黙齋（もくさい・後藤ごとう、芝山男）1759-1815 57 讃岐高松藩儒/1779藩校講道館講釈、1780藩校総裁、  
天明1781-89頃弟と上京；柴野栗山門/1787父の遺著「五経集註」刊行、  
「芝山文集」編、1777注釈「宮詞一百首」著、  
[黙齋（；号）の名/字/通称]名；弥太郎/師周、字；元茂、通称；弥右衛門

4484 黙齋（もくさい・中山なかやま、名；昌礼、実房男/本姓；藤原）1762-1815 54 代々熊本藩国老有吉家家臣、  
1784藩校時習館に修学/89江戸で朱子学；岡田寒泉・古賀精里門/経史・故実・軍事に通ず、  
天文・暦算・医学も修学、時習館助教/塾長、「度支彙函」編、「井田衍義」「黙齋文集」著、  
「学政考」「国計之定則」「呈大夫中山表書」「治国之要」「東遊雜録」「肥後官員職領指掌図」著、  
[黙齋（；号）の字/通称/別号]字；公幹、通称；市之進、別号；緑川/益城まき山人

4485 黙齋（もくさい・桑原くわばら、山根慶進男）1767-1832 66 伊豆の生/駿河島田宿の素封家桑原家の養嗣、  
東海道十三駅の取締；為替御用を勤める、書画人/郷土史家として街道で有名、  
内山真竜門/駿河各地調査；1809「駿河記」著/13「安倍紀行」、「大井河源紀行」「有度紀行」著、

「駿河志料抄」「波摩都豆羅志太紀行」著、苾堂ひつどうの父、霜涯・桂叢の祖父、  
 [黙齋(；号)の名/字/通称/別号]名；藤泰ふじやす/宜之、字；涼松、通称；伊右衛門/正作、  
 別号；金溪山人、法号；澗底涼松居士

黙齋(もくさい・倉田)	→	葛三(かっさん・倉田、俳人)	C 1 5 4 4
黙齋(もくさい・石川)	→	大凡(たいぼん・石川/石河/石、儒者)	C 2 6 2 1
黙齋(もくさい・佐久間)	→	柳居(りゅうきよ・佐久間、麦阿、俳人)	D 4 9 3 3
黙齋(もくさい・人見)	→	雪江(せつこう・人見、幕臣/儒者/詩)	K 2 4 8 8
黙齋(もくさい・服部)	→	修蔵(しゅうぞう・服部はつとり、藩士/儒者)	H 2 1 9 8
黙齋(もくさい・村上)	→	恒庵(こうあん・村上むらかみ、医者/書)	E 1 9 8 4
黙齋(もくさい・津金)	→	胤臣(たねおみ・津金つがね、藩士/陶工/歌)	G 2 6 3 5
黙齋(もくさい・河鱒)	→	省齋(せいさい・河鱒かわばた、藩儒)	B 2 4 6 4
黙齋(もくさい・富山)	→	定豪(さだかつ・富山とみやま、商家/歌人)	O 2 0 8 9
黙齋(もくさい・佐藤)	→	誠実(のぶざね・佐藤さとう、古事類苑)	I 3 5 5 7
木齋(もくさい・遊佐)	→	木齋(ぼくさい・遊佐、儒者)	D 3 9 0 8
木齋(もくさい；号)	→	祖通(そつう；法諱・貫山；道号、曹洞僧)	K 2 5 1 2
目細園(もくさいえん)	→	知周(ともちか・高橋、藩士/薙刀/歌)	P 3 1 8 0
木犀居(もくさいきよ；号)	→	松兄(しょうけい；号、本願寺派僧/国学)	G 2 2 3 2

4486 **李左衛門**(もくざえもん；通称・坪部つばへ)？-？ 江前期肥前島原の町別当(；稲葉能登守が島原城番時)、  
 島原乱の顛末記「島原一揆之覚書」著

李左衛門(もくざえもん・本庄)	→	重政(しげまさ・本庄/本莊/泉、兵法/藩士)	S 2 1 5 7
李左衛門(もくざえもん・佐治)	→	成爲(なりため・佐治さじ、藩士/歌人)	M 3 2 1 8
李左衛門(もくざえもん・旗野)	→	古樹(ふるき・旗野はたの、農業/国学)	I 3 8 6 2
李三郎(もくざぶろう・牧原)	→	其彦(きりゆう・牧原まきはら、俳人)	Q 1 6 5 0

4487 **黙山**(もくざん；道号・元轟げんごう；法諱、林はやし吉麿男)1683-1763<sup>81</sup> 母；熊谷氏、羽後秋田の曹洞僧；  
 1696(14歳)羽後満福寺の孤室林峯門；出家、諸国行脚後に下総東昌寺の隠之道頭門；嗣法、  
 出羽渾蔵庵・美濃阿弥陀寺・下総東昌寺など住持/1735武州に迦葉院開創、伊勢長楽寺住持、  
 迦葉院に没、1749「鉗鎚かんづい集」、「鶏足開山黙山老人法語」「黙山和尚当念集」編著、  
 「黙山和尚年譜」(鼈山べつざん呑江の編)

木山(もくざん・磯崎)	→	種栄(たねひで・磯崎いそざき、本陣勤務/歌)	V 2 6 6 4
木山(もくざん・宇井)	→	可道(よしみち・宇井うい、庄屋/歌/民俗学)	L 4 7 7 0
黙山(もくざん・鈴木)	→	広川(こうせん・鈴木/廬、儒/詩文)	K 1 9 2 0
黙山(もくざん・四方)	→	春翠(しゅんすい・四方よも/源、書肆/絵師)	L 2 1 2 1
嘿山(もくざん・高志)	→	利貞(としさだ・高志たかし、惣年寄/儒/禅僧)	M 3 1 4 6

4488 **黙子**(もくし；道号・素淵そえん；法諱、俗姓；馬場)1673-1746<sup>74</sup> 肥前佐賀の曹洞僧；1687慶閨寺定水門、  
 出家/密山道頭・月舟宗胡門/加賀大乘寺徳翁良高門；嗣法/1714備中西来寺住持、  
 肥前慶閨寺・遠州少林寺住持；少林寺没、「黙子和尚語録」「金剛經分第頌」「十二時歌着語」著、  
 「松雲融禅師伝」「了然超禅師伝」「信心銘頌」「参同契着語並註」/1746「少林正統玄鑑」外著多

木子(もくし)	→	中孚(ちゅうふ・加藤、俳/詩人)	G 2 8 8 1
木之(もくし)	→	木之(ぼくし・斉藤、俳人)	F 3 9 8 9
木之(もくし)	→	木之(ぼくし・落合、藩士/俳人)	D 3 9 3 4
黙子(もくし・加藤)	→	章庵(しょうあん・加藤かとう、儒者)	G 2 2 5 5
黙之(もくし・津村)	→	淙庵(そうあん・津村/円、商家/随筆/歌)	2 5 4 7

4489 **木而**(もくじ/ぼくじ；号・通称；咸木而)1669-1751<sup>83</sup> 筑後久留米の浄土宗善導寺聖光院住職、  
 俳人；野坡門、1728「藪の井」共編(；師野坡の曳杖記念)

4490 **木児**(もくじ・伊藤いとう)1689 - 1763<sup>75</sup> 尾張名古屋御目見町の俳人；東鷲/支考門、  
 也有と親交、[朝顔の一夜は長き荅かな]の句により[朝顔の三逕]と称される、  
 1721「国ふたつ」(更科の旅；濃信二国で唱和)、「節句集」23「華のぬさ」24「松のあさひ」編、  
 1734「熱田宮烏あつたみやがらす」編、1725-61「歳旦」編、37「花とり」、43「秋農昔」編、外編著多数、  
 追善集「後生楽」、  
 [木児(；号)の通称/別号]通称；御糸屋彦六、別号；五条坊/三逕/三慶/不尽ふじ庵/不之庵



- 4491 **木耳**(もくじ) ? - ? 江中期俳人;1733超波「紙蚕かみかいこ」連衆参  
 木耳庵(もくじあん) → 烏明(うめい・東海坊、俳人) 1 2 9 0  
 黙二庵(もくじあん) → 岷雪(みんせつ・河村かわむら、絵師) G 4 1 8 3  
 木喰五行(もくじきごぎょう) → 行道(ぎょうどう・五行、遊行僧) O 1 6 3 5  
 木食上人(もくじきしょうにん) → 応其(おうご、真言僧/連歌) 1537-1608 1 4 0 1  
 木食上人(もくじきしょうにん) → 楚仙(そせん、浄土僧/連歌) ?-1593 J 2 5 9 9  
 木食上人(もくじきしょうにん) → 朝意(ちようい・順良房、真言僧) 1518-99 H 2 8 1 7  
 木食上人(もくじきしょうにん) → 快元(かいげん、真言/修験僧) ?-?1573-1624頃 I 1 5 2 9  
 木食上人(もくじきしょうにん) → 行道(ぎょうどう・五行・明満、真言遊行僧) 1718-1810 O 1 6 3 5  
 木耳山人(もくじさんじん) → 也柳(やりゅう・津村つむら、修験僧/俳人) B 4 5 9 2  
 木七(もくしち・旗野) → 古樹(ふるき・旗野はたの、農業/国学) I 3 8 6 2
- 4492 **黙室**(もくしつ;道号・焉智[焉知]えんち;法諱、俗姓;土橋) 1651-1712<sup>62</sup> 信州諏訪郡上原の曹洞僧、  
 諏訪頼岳寺で出家/鉄心道印・月舟宗胡門/肥前長崎の明僧道者超元・京の木庵性瑠門、  
 独庵玄光門、長崎幽閉の明僧心越興壽の救出を徳川光圀に願出;心越は水戸天徳寺住持、  
 心越のもとで第一座となる/のち武蔵諸山で法要開演/伊豆に結庵/晩年は江戸高林寺住、  
 「洞上雲月録」校訂、号;風外
- 4493 **黙室**(もくしつ;道号・良要りょうよう;法諱) 1775-1833<sup>59</sup> 肥後天草の曹洞僧;妙光院大機物外門;  
 出家得度、1804瑞岡珍牛門;嗣法/1811武蔵川越藩主招請で坂戸永源寺20世、  
 珍牛開創尾張慶雲軒住持、尾張西春村に普門寺開山、  
 「法衣格正」編、「黙室良要禅師録」「法服格正」著  
 黙獅洞(もくしどう) → 其馨(きけい・長屋ながや、俳人) K 1 6 6 4  
 木寺法印(もくじほういん) → 経範(けいはん・きょうはん;法諱、真言僧) G 1 8 5 4  
 木者庵(もくしやあん) → 湖十(こじゅう・曾/深川、俳人) 1 9 3 1  
 木者庵(もくしやあん) → 湖十(6世こじゅう・深川、俳人) C 1 9 8 7  
 木寿(もくじゆ・藤堂) → 巴陵(はりよう・藤堂とうどう、絵師/詩文別号;) F 3 6 8 9  
 黙守庵(もくしゅあん) → 宗朝(そうちょう・伊丹いたみ、茶人) I 2 5 4 8
- 4494 **黙洲**(もくしゅう;道号・素漸そぜん;法諱、初道号;東禅) 1744-88<sup>45</sup> 岩代会津の臨濟僧;幼時に家難、  
 世の夢幻を觀じ会津円蔵寺で出家/月船禅慧・桂洲道倫に参禅/良哉元明門;嗣法、  
 会津円蔵寺住持、1781紀伊興国寺住持;同寺に没、詩偈に長ず、「関南集」著(没後1815刊)  
 柰十郎(もくじゅうろう・嶋) → 計富(かざとみ・嶋・島/角鹿、神職/古典) M 1 5 3 1  
 木寿翁(もくじゅおう) → 宜堂(ぎどう・伊藤いとう、儒者/教育) I 1 6 6 7  
 黙所(もくしよ・和田) → 哲(てつ・和田わた/中村、医者) C 3 0 1 2
- 4495 **木昌**(もくしょう) ? - ? 俳人;1736紫花坊竹郎「茶話稿」俳文入  
 木鐘(もくしょう・緒方) → 黙堂(もくどう・緒方おがた、儒者) B 4 4 0 2  
 黙招(もくしょう;法諱) → 宝山(ほうざん;道号・黙招、曹洞僧) B 3 9 1 3  
 黙照(もくしょう;字) → 北天(ほくてん;法諱、真宗本願寺派僧) D 3 9 7 6
- 4496 **黙笑**(もくしょう;法諱、越中えちゅう) ?-? 高野山の真言僧、狂詩;雅仏「毒玉集」七言絶句入  
 木樵堂(もくしょうどう) → 黙堂(もくどう・緒方おがた、儒者) B 4 4 0 2  
 木耳老人(もくじろうじん) → 也柳(やりゅう・津村つむら、修験僧/俳人) B 4 5 9 2  
 柰助(もくすけ・葦田) → 友興(ともおき・葦田、武将/連歌) P 3 1 2 4  
 柰助(もくすけ・黒沢) → 定幸(さだゆき・黒沢/諏訪部、幕臣) K 2 0 1 0
- 4497 **木素貴子**(もくそきし) ? - ? 大和期・百濟よりの渡来人、詩人、大友皇子の師  
 黙生(もくせい・高杉) → 晋作(しんさく・高杉、藩士/勤王家) E 2 2 3 1  
 木樺庵(もくせいあん) → 楼川(ろうせん・谷口、俳人) 5 2 3 3  
 木樺庵(2世もくせいあん) → 鶏口(けいこう・谷口、楼川養子/俳人) 1 8 5 3  
 木樺庵(3世もくせいあん) → 一馬(いちば・貞松斎、米沢、華道/俳人;鶏口門) G 1 1 3 7  
 木樺舎(もくせいしゃ) → 白芹(はつきん・関根せきね、旅宿業/俳人) F 3 6 1 6  
 黙成先生(もくせいせんせい) → 損斎(そんさい・田辺たねべ、藩士/儒者) F 2 5 3 8



木犀堂(もくせいどう)	→ 玄東(げんとう・西にし、藩士/医者)	F 1 8 0 6
黙石(もくせき・養宇)	→ 徳称(とくしょう;法諱・養宇かや、僧/僧)	U 3 1 7 0
木屑(もくせつ)	→ 木屑(ぼくせつ、詩人)	D 3 9 5 6
木節(もくせつ・望月)	→ 木節(ぼくせつ・望月、医者/俳人)	D 3 9 5 7
黙仙(もくせん:法諱)	→ 萊翁(らいおう:道号・黙仙、曹洞僧)	4 8 2 2
黙仙(もくせん・服部)	→ 泰庵(たいあん・服部はつとり、医者)	J 2 6 0 3
木禅叟(もくぜんそう)	→ 大随(だいずい・道機どうき、臨濟/黄檗僧)	K 2 6 4 2
木僊堂(もくせんどう)	→ 観覚(かんかく・松山/阪巻、天台僧/歌)	Q 1 5 0 8
黙窓(もくそう・加藤)	→ 野逸(やいつ・加藤かとう、幕臣/俳人)	4 5 0 0
黙叟(もくそう)	→ 愛石(あいせき・松井まつい、黄檗僧/絵師)	I 1 0 2 8
黙叟(もくそう・飯田)	→ 忠彦(ただひこ・飯田/里見、史家)	F 2 6 6 7
黙蔵(もくそう・青山)	→ 拱斎(きょうさい・青山あおやま、儒者/幕臣)	N 1 6 8 3
木工蔵(もくそう・野村)	→ 西巒(せいらん・野村/丹治比、藩儒/香道)	D 2 4 0 8
木鼠翁(もくそおう)	→ 忠親(ただちか・上野、修史家)	F 2 6 2 7

4498 **木朶**(もくだ・古市ふるいち) 1727-1810<sup>84</sup> 三河吉田の生/1740(13歳)生計のため尾張犬山で奉公、20歳頃俳諧:名古屋五条の木見門、1762三河吉田魚町で旅宿を開業、蝶夢門;蕉風を修学、三河遠江に影響力を持つ、1793「松葉塚」1807「無量仏」編、「俳諧五東齋草稿集」「交友録」著、「月次撰句集」「木朶連句帖」著、富田桐茂とうもの師、追善集「ひしのはな」(孫の木芽編)、[木朶(;号)の名/通称/別号]名;深寧、通称;長兵衛、別号;楚笠/五東齋、屋号;現金屋、法号;英林木朶上座

木蛇(もくだ;号、臨濟僧)	→ 龍派(りゅうは;法諱・江西こうせい/こうぜい)	4 9 1 2
杵大夫(もくだゆう・中西)	→ 弘乗(ひろのり・中西/度会、神職)	G 3 7 8 7
杵太夫(もくだゆう・神代)	→ 鶴洞(かくどう・神代かみしろ、儒者)	K 1 5 2 8
杜太郎(もくたろう・河本)	→ 正安(まさやす・河本/川本、医者/詩文)	I 4 0 1 4
木反(もくたん・吉田)	→ 大蔵(おおくら・吉田よしだ、弓術家)	C 1 4 7 8
木旦子(もくたんし・西島)	→ 八兵衛(はちべえ・西島、藩士/土木事業)	E 3 6 9 4

B4400 **黙池**(もくち・中島なかじま/千葉ちば) ?-1881 京の木屋町松原北二丁目の俳人:蒼虬門、1845「名家発句一掬集」52「俳諧袖珍しゅうちん鈔」(11巻)/54「まくら瓜」61「俳諧つれづれ草」編、1866「村さめ」編、外撰編多数、[芒吹く風もやみけり秋の暮]、[黙池(;号)の通称/別号]通称;与兵衛/徳三郎、別号;古終舎/守株軒

黙痴(もくち・今掘)	→ 眞中(まなか・今掘いまぼり、禅僧/歌人)	N 4 0 8 1
木茶(もくちや・田中)	→ 如倫(じょりん・田中たなか、俳人)	M 2 2 9 1
黙仲(もくちゅう;号)	→ 勝算(しょうさん/-ざん;法諱、黄檗僧)	U 2 2 9 4
黙釣道人(もくちゅうどうじん)	→ 侗庵(とうあん・古賀、儒者/詩人)	3 1 0 2

B4401 **木鎮**(もくちん・法師) ? - ? 南北期僧/連歌:救済門、1355「文和ぶんな千句」参加(名;木/5句入)、菟玖波集19句入(うち発句1)、[夏草も花の秋にはなりにけり](菟玖波;発句2102、関白家文和千句)[雲霧の絶間に見えし日は入て](菟玖波;四秋319/前句;かはる空こそ月に成ぬれ)

門真周清とは別人	→ 周清(ちかきよ・門真かどま、幕臣/歌人)	2 8 7 7
木通館(もくつうかん)	→ 忠道(ただみち・前野まえの、藩士/歌人)	Z 2 6 4 7
木貞子(もくていし)	→ 磐里(ぼんり・大槻おおつき、医/蘭学者)	3 6 6 5
木天(もくてん・造化庵)	→ 木天(ぼくてん/もくてん・造化庵、俳人)	D 3 9 7 7
木奴(2世もくと・岡部)	→ 菊涯(きくがい・岡部おかべ、儒者/詩人)	E 1 6 2 5

B4402 **黙堂**(もくどう・緒方おがた、名;維文、維直男) 1645-1722<sup>78</sup> 備後の儒者/伊藤仁斎門/姉は仁斎の室、土佐藩に出仕(;2百石/のち3百50石);藩主侍読、詩人;1695伊藤東涯「当世詩林」入、「土佐州郡志」「儒家詩巻」著、[黙堂(;号)の字/別号]字;宗哲、別号;木鐘/木樵堂、諡号;謙光先生

B4403 **黙堂**(もくどう;道号・道轟/道轄どうごう;法諱、俗姓;九里) 1651-1735<sup>85</sup> 越前藩士の家の生/黄檗僧;慧林性機門/法嗣、1709撰津豊能郡麻田の仏日寺3世/10肥前平戸瑞巖寺住持、のち仏日寺再任/1715本山万福寺への中国僧招請につき同志らと寺社奉行へ直訴、

「黙堂禪師語録」著

- B4404 **木導**(もくどう/ぼくどう・奈越江[直江]なおえ/上松あげまつ、上松助左衛門男)1666-1723<sup>58</sup> 彦根藩士、  
俳人：芭蕉・許六門、1692許六「旅館日記」・1702許六「宇陀法師」・12許六「正風彦根躰」入、  
「出女説」「天狗弁」著、1723句集「水の音」(；外姪の勇水筆/発句349句・独吟歌仙1巻)、  
[春風や麦の中行く水の音](宇陀法師入；景曲第一と称讃される/「水の音」の題名とす)、  
[木導(；号)の名/通称/別号]名；光任、通称；作右衛門/十蔵、別号；許九/阿山人あさんじん
- B4405 **木全**(もくどう・沢木さわき) ? - ? 尾張の茶屋手代/俳人：木児もくじ門、  
1764木児追悼集「後生楽」編/66-77各種「歳旦」編、  
[木全(；号)の別号] 不之庵ふじあん/八百坊
- B4406 **黙堂**(もくどう・中里なかざと、名；德基)?-? 江後期江戸下谷御徒町の篆刻家、  
1852刊「前賢故実私訓」校訂、  
[黙堂(；号)の字/通称]字；温恭、通称；瀬兵衛
- 黙堂(もくどう；号) → 宣存(せんそん/せんぞん；法諱、天台僧) M 2 4 8 7  
黙堂(もくどう・中村) → 尚輔(ひさすけ/なおすけ・中村、藩士/国学) B 3 7 1 7  
黙堂(もくどう・服部) → 修蔵(しゅうぞう・服部はつとり、藩士/儒者) H 2 1 9 8  
黙堂(もくどう・中川) → 良俊(よしとし・中川なかがわ、商家/儒者) O 4 7 1 4  
黙桃軒(もくとうけん) → 立庵(りつあん・堀、正英、儒者) B 4 9 5 5  
黙二庵(もくにあん) → 岷雪(みんせつ・河村かわむら、絵師) G 4 1 8 3  
黙忍(もくにん・広川) → 幸旦(こうたん・広川ひろかわ、歌人) K 1 9 5 2  
木任陳(もくにんちん) → 広川(こうせん・鈴木/廬、儒/詩文) K 1 9 2 0
- B4407 **木然**(2世もくねん、別号；振鷺しんろ/雪暇舎せつていしゃ)?-? 江中期俳人；初世木然門、  
初世一周忌追善1769「苞のかたみ」編(；蓼太の助力)
- 木然(もくねん；号) → 音空(おんくう；法諱・観粹、浄土宗西山派僧) D 1 4 4 1  
木工蔵人(もくのくらひと) → 内匠(木工たくみ、平前期女蔵人/歌人) O 2 6 1 7  
奎之丞(もくのじょう・石井) → 長者園萩雄(ちやうじやえんはぎお；号、幕臣/狂歌) I 2 8 6 2  
奎之丞(もくのじょう・堀) → 流長軒(りゅうちやうけん・堀ほり、文筆家) F 4 9 2 2  
奎之丞(もくのじょう・林) → 直孝(なおたか・林はやし/伊丹、幕臣/国学) O 3 2 4 3  
黙之丞(もくのじょう・豊岡) → 荔墩(れいとん・豊岡/坂東、庄屋/儒) 5 1 5 6  
奎之進(もくのしん・辻/小宮山) → 謙亭(けんてい・小宮山、幕臣/儒者) E 1 8 9 6  
奎之進(もくのしん・櫻井) → 蕉雨(しょうう・櫻井さくらい、商家/俳人) F 2 2 3 0  
奎助(もくのすけ・葦田) → 友興(ともおき・葦田あしだ、武将/連歌) P 3 1 2 4  
奎之助(もくのすけ・堤) → 盛員(もりかず・堤/荒木田、神職/国学) F 4 4 2 8  
奎之助(もくのすけ・堤) → 盛章(もりあき・堤つみ/高田、神職/国学) K 4 4 6 2  
奎之助(もくのすけ・佐久目) → 晴勝(はるかつ・佐久目さくめ/度会、神職) G 3 6 1 8  
奎之助(もくのすけ・阿部) → 重旧(しげひさ・阿部あべ、幕臣/記録) S 2 1 3 6  
奎之助(もくのすけ・本保) → 以守(ゆきさね・本保ほんぼ、藩士/暦学者) E 4 6 4 9  
奎之助(奎之丞もくのすけ・石井) → 長者園萩雄(ちやうじやえんはぎお、幕臣/狂歌) I 2 8 6 2  
奎之助(黙之助もくのすけ・大久保) → 要(かなめ・大久保おおくぼ、藩士/兵学) O 1 5 3 3  
奎之助(黙之助もくのすけ・岡村) → 義理(よしさと・岡村おかむら/飯島、藩家老) D 4 7 4 3  
奎之助(もくのすけ・藤井) → 重直(しげなお・藤井ふじい、神職/国学) Z 2 1 8 3  
奎之助(もくのすけ・藤井) → 重実(しげさね・藤井ふじい、神職/国学) Z 2 1 8 4  
奎之助(もくのすけ・小林) → 源蔵(げんぞう・小林こばやし、工匠) K 1 8 8 5  
奎之助(木工助もくのすけ・枝吉) → 神陽(しんよう・枝吉えだよし、藩儒/勤王派) Q 2 2 0 2  
奎之允(もくのすけ・伊藤) → 盛永(もりなが・伊藤いとう、本陣宿経営) I 4 4 8 3  
木工允(もくのすけ・香川) → 宣阿(せんあ・香川かがわ/平、藩士/歌人) 2 4 2 2  
木工允(もくのすけ・萱生) → 由章(よりふみ・萱生かよう/紀、国学者/歌) J 4 7 7 2  
木工之助(もくのすけ・牧野) → 和高(かずたか・牧野まきの、藩士/記録) F 1 5 2 1  
木工助(もくのすけ・二宮) → 俊実(としさね・二宮にのみや、武将/記録) M 3 1 5 4  
木工助(もくのすけ・坂田) → 諸遠(もろとお・坂田さかた、藩士/故実家) H 4 4 4 8  
木工助(もくのすけ・平松) → 周家(ちかいえ・平松ひらまつ/大中臣/川端、神職) N 2 8 3 6

- 木工助(もくのすけ・高橋) → 正元(まさもと・高橋たかはし、幕臣/和学) Q 4 0 7 2  
 木梅鶯(もくばいおう) → 吉清(よしかよ・石原いしはら/越智、藩士/歌) L 4 7 5 3  
 木白(もくはく・岡本) → 苔蘇(たいそ・岡本おかもと、藩士/俳人) B 2 6 7 9  
 木髪(初世もくはつ) → 湖十(3世こじゅう・深川、俳人) C 1 9 8 4  
 木髪(2世もくはつ) → 湖十(6世こじゅう・深川、俳人) C 1 9 8 7  
 木髪(3世もくはつ) → 湖十(7世こじゅう・深川、俳人) C 1 9 8 8  
 木反(もくはん・吉田) → 大蔵(おおくら・吉田よしだ、大蔵派弓術祖) C 1 4 7 8  
 木夫(もくふ・原田) → 鵲斎(せきさい・原田はらだ、医者/詩歌) K 2 4 0 4  
 木布庵(もくふあん) → 芳純(芳順ほうじゅん;法名、連歌作者) B 3 9 6 5  
 4499 木風(もくふう) ? - ? 江前期俳人;1692不角「千代見草」入  
 木風(もくふう・野村) → 文紹(ぶんしょう・野村のむら、幕臣/絵師) F 3 8 7 7  
 木仏道人(もくぶつどうじん) → 文麟(ぶんりん・塩川、絵師) G 3 8 7 9  
 B4408 木兵(もくへい・岡島おかじま、重紀男) 1641-9858 攝津伊丹俳人;重頼門、寡欲で市中の隠者の評、  
 伊丹俳壇の重鎮、1678宗旦「当流籠抜かごぬけ」5吟5百韻参加、1673西鶴「生玉万句」入(;三紀)、  
 1684「かやうに候ものは青人・猿風・鬼貫にて候」(百韻三巻の内第二巻)入、  
 1692青人「伊丹生いたみき俳諧」参加(独吟歌仙;三紀号)、「野々宮奉納万句」参加、  
 「橋柱集」・1687鸞動「野梅集」・91江水「柏原集」・1702轍士「花見車」(;おさん名)入、  
 [虫の声ふとんをひとつかしてたも](柏原集/1676西鶴「俳諧師手鑑」)、  
 [木兵(;号)の名/別号]名;豊常、別号;三紀/猿風/木兵入道、  
 B4409 黙平(もくへい・前田まえだ/小西こにし) 1832-9059 江戸壺岸島の俳人;春湖門、  
 1863「くさくさ」編、[黙平(;号)の通称]藤兵衛/藤蔵、別号;春茗庵/春茗園  
 木平(もくへい・久城) → 春台(しゅんたい・久城くじょう/城、医者/詩) L 2 1 4 3  
 B4410 木米(もくべい・青木あおき、名;米、木屋佐兵衛男) 1767-183367 京祇園新地縄手町の茶亭の家、  
 京焼陶器;宝山文蔵門/磁器;奥田頼川門、栗田口に窯を開く、1804清人朱琰「陶説」翻刻、  
 「磁器叢」画、頼山陽と交流/南画・篆刻に長ず、  
 [木米(;通称)の幼名/字/号]幼名;八十八、字;佐平、  
 号;九々鱗/青来/百六散人/古器観/停雲楼/豊米、法号;祥雲院  
 空兵衛(もくべえ・疋田) → 慶明(景明けいめい・疋田ひきた、相法家) G 1 8 6 8  
 黙甫(もくほ・宿屋) → 空々(くうくう・宿屋やどや、琴法) B 1 7 2 4  
 木卯(もくぼう→もくう;川柳名、木卯居)→種彦(たねひこ・柳亭、狂歌/合巻) 2 6 4 3  
 木間庵(もくまあん) → 白人(わつじん・遠藤、俳人) 5 3 5 1  
 黙々翁(もくもくおう) → 昌俊(まさとし・佐河田さかわだ/高階、歌/連歌) 4 0 1 5  
 黙々漁隠(もくもくぎょいん) → 黙老(もくろう・木村、藩家老/芸能) B 4 4 1 4  
 黙々斎(もくもくさい) → 青峨(2世せいが・前田、春来、俳人) 2 4 8 3  
 黙々斎(もくもくさい) → 休叟(きゅうそう・稲垣いながき、茶人) M 1 6 7 5  
 木門の五先生(もくもんのごせんせい)→順庵(じゅんあん・木下、儒家) 2 1 5 4  
 木門の十哲(もくもんじゅうてつ)→順庵(じゅんあん・木下、儒家) 2 1 5 4  
 木門の四傑(もくもんしよく)→木斎(もくさい・遊佐ゆさ、儒家) D 3 9 0 8  
 B4411 黙要(もくよう;道号・地雷ちらい;法諱)?-? 江中期曹洞僧;円巖芳叔門;嗣法、  
 尾張愛知の延命寺2世、「満戒普説」著  
 黙養(もくよう・山宮) → 雪楼(せつろう・山宮やまみや/さんぐう、儒者) E 2 4 7 1  
 黙容(もくよう・渡辺) → 水哉(すいさい・渡辺わたなべ、藩士/儒者) 2 3 5 8  
 土龍(もぐら) → 土龍(どりゅう、俳人) R 3 1 8 9  
 B4412 黙雷(もくらい;法諱・島地しまじ、清水円随男) 1838-191174 周防佐波郡升谷村専照寺の生;真宗僧、  
 近隣各地の役僧をしながら勉学/錦園塾で修学/宗学;肥後の原口針水門、  
 1864幕府の火葬禁令に反駁;「送葬論」著、1866周防島地村妙誓寺の養子;島地姓を名乗る、  
 大洲鉄然と図り真宗僧を訓練;倒幕のため金剛隊を組織、維新後赤松連城と本山改革要求、  
 1870本山参政/95勸学職/1905奥羽布教総監、  
 [黙雷(;法諱)の俗名/号]俗名;繁丸/謙致、号;益溪/縮堂/雨田/無声/晚暢/北峰/六々道人、  
 法号;離言院



黙雷(もくらい・川上) → 不白(ふはく・川上かわかみ、茶人/俳人) D 3 8 6 3  
 黙雷庵宗雪(もくらいあんそうせつ) → 不白(ふはく・川上、茶人/俳人) D 3 8 6 3  
 木蘭居(もくらんきよ) → 宇喬(うきょう・佐々木、宇考男/俳人) C 1 2 1 1  
 黙了(もくりょう;号) → 北山(ほくざん・勸成院、真宗大谷派僧) D 3 9 2 2

B4413 木麟(もくりん) ? - ? 美濃岩手の俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入

J4400 黙霖(もくりん・宇都宮うつのみや、安藝賀茂郡檜原村西福寺住職の3男の峻嶺男) 1824-97 74歳

母;同郡広村字長浜の旧家下兼屋宇都宮作兵衛次女の琴、父峻嶺は石泉塾生の青年僧;結婚を認められず母琴は姉の嫁ぎ先の長浜の住蓮寺で黙霖を出産、西福寺で養育、1826(3歳)同郡正力村善正庵堂守の禮敬(らいぎょう)の養子、29禮敬没;後継一道の養子、1836(13歳)一道と離縁;実母の元に帰る、母の妹の嫁ぎ先の専徳寺住職常諦(じょうてい)門;修行、儒学・国学を修学、1844(21歳)頃罹病;耳と発声に障害、1845真宗本願寺派僧;諸国巡歴、1848尾道福善寺住職の寂円門;宗義を修学、50豊後日田の淡窓咸宜園に修学、尊王討幕運動に奔走、1856萩で吉田松陰の思想に刺激を受ける/頼三樹三郎と交流、1858安政の大獄捕縛;60赦免・66第1次長州戦争の際に投獄、1866(慶応2)還俗、維新後;大阪府貫属/湊川神社権宮司/男山八幡宮禰宜;罷免/1879故郷長浜「観海舎」隠棲、1843頃詩「菊花を詠ず」、「王覇の弁」「毛詩和韻」「幽後集」「耳順一賀」著、[黙霖(;号)の名/字]幼名;采女、僧名;覚了/鶴梁(かりょう)、還俗名;真名介まなのすけ雄綱(かつな、字;絢夫/雄文、別号;雪卿(ゆきさと)/雪溪/梅卿(うめさと)/梅溪/史狂/王民、法号;操心院

覚了(鶴梁かりょう;法諱) → 黙霖(もくりん・宇都宮うつのみや、真宗僧/勤王) J 4 4 0 0

B4414 黙老(もくろう・木村きむら、名;通明(みちあき)、明辰男) 1774-1856 83 叔父木村明矩の養嗣子;讃岐高松藩士、江戸・国家老として藩政の枢機に参画;財政再建に尽力、幼時より藩校講道館で修学、儒者;岡井赤城門、歌舞伎・浄瑠璃・戯作などに造詣、馬琴と交友;馬琴著書に批評を送る、「聞まゝの記」編、1839「稗史外題鑑批評」45「戯作者考補遺」49「国学小説通」、「劇場漫録」、「京撰戯作者考」「劇場思出草」「劇場一鑑頭鏡(げきじょういっかんむしめがね)」「不知火譚」「竜集説考」、「新玉藻前譚」/随筆「海防録」、「帰郷日記」「話宝女大学」「金瓶梅批評」外編著多数、[黙老(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;熊次郎、字;伯亮、通称;与総右衛門/亘/一楽、別号;桃蹊/黙々漁隱/訥言齋(ねつげんさい)/烏有山人/頼翁/痴斎/樟川

B4415 茂啓(もけい・田辺たなべ) 1688 - 1768 81 肥前長崎聖堂の書記役、儒;向井元成(げんせい)門、1760「長崎実録大成」著、60「長崎秘事記」編、「長崎年表挙要」編、[茂啓(;名)の通称/号]通称;八右衛門、号;功山、法号;憩齋院(けいさいいん)

B4416 茂兮(もけい、別号;楓館(ふうかん)) ?- ? 越後塩沢の俳人・1801「十評発句集」編

茂景(もけい・栗原) → 茂景(しげかげ・栗原くりはら/角井、神職/歌) O 2 1 3 2  
 茂卿(もけい・物/荻生) → 徂徠(そらい・荻生おぎゅう、儒;古文辞学) 2 5 3 1  
 茂見(もけん・木原) → 茂見(しげみ・木原きはら、陪臣/歌人) O 2 1 1 7

B4417 茂源(もげん:道号・紹柏(しょうはく)/宗柏:法諱) ?-1667 江前期臨濟僧:三江紹益・叔和宗永門/嗣法、1654京の建仁寺303世、「茂源和尚遺稿」

茂彦(もげん:道号・善叢) → 善叢(ぜんそう:法諱・茂彦、臨濟僧) G 2 4 2 9  
 茂彦(もげん・松木) → 茂彦(しげひこ・松木/度会、神職/記録) S 2 1 3 3  
 茂語(もご・小野) → 茂語(しげこと・小野、歌人) C 2 1 2 0  
 茂光(もこう・及川) → 茂光(しげみつ・及川おいかわ、藩士/馬術家) S 2 1 8 5  
 茂行(もこう・紀) → 茂行(もちゆき・紀き、廷臣/歌人) B 4 4 7 6  
 茂行(もこう・江間/宮田) → 円陵(えんりょう・宮田、儒者) F 1 3 5 0  
 茂功(もこう・坂根/桃) → 白鹿(はくろく・桃ももとう・桃井もものい、儒者) E 3 6 1 9  
 茂広(もこう・北畠) → 茂兵衛(もへえ・北畠/須原屋7世、書肆) E 4 4 9 3  
 茂弘(もこう・太田) → 道知(道智みちとも・太田/池上、藩士/歌) H 4 1 4 6  
 茂興(もこう・松波) → 茂興(しげおき・松波まつなみ、故実家) Q 2 1 7 3  
 茂興(もこう・大神) → 茂興(しげおき・大神おのが/大三輪、神職) N 2 1 7 3  
 茂国(もこく・樹下) → 茂国(しげくに・樹下じゅげ、神職/国学) O 2 1 8 3  
 茂済(もさい・井出) → 正本(まさもと・井出いで/藤原、幕臣/歌) L 4 0 7 0  
 茂済(もさい・殿村/米屋) → 茂済(しげまさ・殿村とのむら、米穀商/歌人) C 2 1 9 8



茂濟(もさい・小高) → 茂濟(しげなり・小高おだか) R 2 1 8 8  
 茂左衛門(もざえもん・大河内) → 秀元(ひでもと・大河内おおごうち、武将/記録) D 3 7 9 7  
 茂左衛門(もざえもん・楫取) → 魚彦(なひこ・楫取/伊能、名主/歌人) 3 2 2 4  
 茂左衛門(もざえもん・香西) → 隆清(たかきよ・香西こうざい/かさい、藩家老/僧) L 2 6 7 8  
 茂左衛門(もざえもん・伊藤) → 若冲(じゃくちゅう・伊藤、商家/絵師) G 2 1 3 3  
 茂左衛門(もざえもん・福島) → 松江(しょうこう・福島/福、儒者/詩文) S 2 2 1 4  
 茂左衛門(もざえもん・横田) → 柳也(りゅうや・横田、布袋庵2世/俳人) F 4 9 8 1  
 茂左衛門(もざえもん・池尻) → 始(はじめ・池尻いげじり、儒者/勤王) E 3 6 4 2  
 茂左衛門(もざえもん・堤屋/近藤) → 弘方(ひろかた・近藤こんどう、商家/歌) J 3 7 6 0  
 茂左衛門(もざえもん・都筑) → 道雄(みちお・都筑つづき、指物業/歌人) J 4 1 7 5  
 茂左衛門(もざえもん・木村) → 御綱(みつな・木村きむら、藩士/国学者) E 4 1 0 9  
 茂左衛門(もざえもん・河合) → 勝文(かつぶみ・河合かわい、藩士/国学者) U 1 5 3 6  
 茂左衛門(もざえもん・服部) → 安長(やすなが・服部はっとり、神職/国学) G 4 5 4 0

B4418 茂作(もさく・根本ねもと:号)? - ? 江中期京の歌舞伎作者、松屋来助らと共作、  
 1766「源氏五拾四帖卷」67「神勅寿鉄砧」共作

茂作(もさく・奈良屋) → 蘭庭(らんでい・後素軒こうそけん、嘶本作者) D 4 8 0 1  
 茂作(もさく・加藤) → 俊男(としお・加藤かとう、国学者) U 3 1 6 7  
 模作(もさく・梅谷) → 眞滋(まじげ・梅谷うめや、本陣/国学) O 4 0 0 2

B4419 茂佐彦(もさひこ・三条さんじょう、姓;長山ながやま) 1765-1849<sup>85</sup> 羽後仙北郡西明寺村小山田生、  
 秋田の呉服店奉公、藩校明道館来訪の村瀬栲亭に認められ絵師:京の松村月溪門、  
 大坂平野町中橋に住;四条派風の人物・花鳥画に長ず;森徹山らと並称、  
 狂歌;鶴廼屋乎佐丸門、狂歌の挿画執筆、  
 1812「東のつと」21「狂歌水面集」24「南畝帖」30「夷曲月次草」32「狂歌五百題集」画、  
 1841「狂歌土佐日記抄」47「貪着物語」画、「狂歌類題弄花集」画、「美都の咏め」外画多数、  
 [三条茂佐彦(;号)の字/通称/別号]字;子亮、通称;四方太郎/源七、  
 別号;孔寅こういん/紅園/五嶺/牧斎/晴々楼/是福庵、法号;孔誉岳寅居士、孔直の父

茂三郎(もさぶろう・前田屋) → 曲溪(きょくけい・菅原、書肆/詩歌俳文) O 1 6 8 7  
 茂三郎(もさぶろう・肥丹) → 眞守(まもり・肥丹ひたん/高橋、神職/国学) S 4 0 0 6  
 茂算(もさん・竹尾) → 茂算(しげかず/しげとも・竹尾、国学) C 2 1 0 1  
 茂山(もさん・河合) → 勝文(かつぶみ・河合かわい、藩士/国学者) U 1 5 3 6  
 茂之(もし/しげゆき・佐久間) → 東川(とうせん・佐久間、幕臣/書/儒家) G 3 1 1 4  
 茂之(もし・堀田) → 茂之(しげゆき・堀田ほった、神職/歌人) D 2 1 2 9  
 茂子(もし・小河) → 茂子(しげこ・小河おごう、歌人) Q 2 1 9 9  
 茂枝(もし・竹村) → 茂枝(しげえ・竹村たけむら、国学者/歌人) B 2 1 9 2

4404 文字大夫(初世もじだゆう・常盤津ときわづ) 1709-81 浄瑠璃常盤津節の祖

B4420 文字大夫(4世もじだゆう・常盤津ときわづ、初世市川男女蔵男) 1794/1804-62<sup>69-59?</sup> 江戸歌舞伎役者;  
 1827市川門之助4世襲名、常盤津節家元、1837文字大夫4世襲名、文字大夫3世の未亡人の養子、  
 1850豊後大掾藤原昶光を受領/5世岸沢式佐と演奏・作曲に功績;1857「三世相」で評判、  
 のち岸沢派は分派独立、「常盤種」、3世市川門之助の弟、  
 [常盤津文字大夫4世の別通称/号]別通称市川伝蔵/市川男熊/中村伝七8世/市川門之助4世、  
 常盤津小文字大夫3世/豊後大掾藤原昶光、号;松寿齋文中

B4421 茂七(もしち・中沢なかざわ、初名;林太郎) 1797-1855<sup>59</sup> 上州佐波郡境の名主/絹織物商;  
 伊勢崎藩御用達、豪商、1830「長崎道中記」40「中沢家年中行事」著、  
 [茂七(;名)の通称] 万右衛門

茂七(もしち・小河) → 立所(りっしょ・小河/小川おがわ、儒者) C 4 9 0 2  
 茂七(もしち・福田屋) → 稻坊(いなぼう・神田、戯作・狂歌作者) I 1 1 1 6  
 茂七(もしち・田中) → 道麿(みちまる・田中、国学/万葉研究) 4 1 1 7  
 茂七(もしち・梅沢) → 青海舎主人(せいかいしゃしゅじん、書肆/洒落本) 2 4 8 8  
 茂七(もしち・深川) → 水貫(みつら・深川ふかがわ、国学/詩歌) K 4 1 3 0  
 茂七郎(もしちろう・小河) → 立所(りっしょ・小河/小川おがわ、儒者) C 4 9 0 2

- 茂七郎(もちろう・久保田/中野)→ 銀岱(ぎんたい・久保田/中野、俳人) R 1 6 3 8  
茂質(もしつ・大槻) → 玄沢(げんたく・大槻おおつき、蘭医/洋学者) 1 8 2 4  
茂実(もじつ・小河) → 立所(りつしょ・小河/小川おがわ、儒者) C 4 9 0 2  
文字之助(もじのすけ・橋村)→ 正河(まさかわ・橋村はむら/度会、神職/歌) R 4 0 6 2  
文字平(もじひら・那須) → 嘉当(よしまさ・那須なす、国学者) O 4 7 0 8
- B4422 摸釈舎(もしゃくしゃ) ? - ? 洒落本作者;  
1804「駅客娼穿えききやくしやうせん」([易学小筌]のもじり)  
茂樹(もじゆ)すべて → 茂樹(しげき)  
茂周(もしゅう・吉川) → 茂周(しげちか・吉川よしかわ、藩士/地誌) C 2 1 4 2
- B4423 茂十郎(もじゅうろう・杉本すぎもと、農民次左衛門男) 1781?-1820? 40? 甲斐八代郡夏目原村の農業、  
江戸万町の定飛脚問屋杉本[大坂屋]茂兵衛の養嗣;1799大坂屋を継嗣/再建、  
1808妻の弟銀十郎に家業を譲渡/十組問屋を再建;[御国恩冥加]として三橋会所設立、  
その頭取として幕府の経済政策に協力;功により三人扶持・苗字御免・肩衣着用を許可、  
町方御用達として活動/のち会所経営失敗・問屋仲間対立により1819会所廃止;追放、  
「十組問屋取結書」著、別通称;茂兵衛  
茂十郎(もじゅうろう・池田)→ 継政(つぐまさ・池田いけだ、藩主/歌人) 2 9 8 5  
茂十郎(もじゅうろう・池田)→ 宗政(むねまさ・池田、継政男/藩主/日記) C 4 2 4 8  
茂十郎(もじゅうろう・福王)→ 盛充(もりみつ・福王ふくおう、能楽師) G 4 4 6 3  
茂十郎(もじゅうろう・井口)→ 方義(かたよし・井口いぐち、官吏、連歌) T 1 5 5 3  
茂十郎(もじゅうろう・香西)→ 一教(かずたね・香西かさい、藩士/国学者) U 1 5 1 3
- B4424 茂叔(もしゆく・道号・集樹しゅうじゆ・法諱、俗姓;一色) ?-1522 臨濟僧;幼時に出家、  
京の相国寺雲頂院の季瓊眞薬門;長年師事、1490山城西禅寺の公帖・92眞如寺公帖を受、  
1499建仁寺241世/南禅257世、「茂叔和尚建仁入寺法語」、  
[茂叔集樹の号] 櫟庵/楽木叟  
茂肅(もしゆく・毛内) → 宜応(ぎおう・毛内もうない、藩士/農政) V 1 6 4 6  
茂俊(もしゆん・北小路) → 俊包(としかね・北小路きたのこうじ、廷臣/日記) M 3 1 2 9  
茂俊(もしゆん・堀田) → 正高(まさたか・堀田/紀、藩主/本草家) D 4 0 1 8  
茂春(もしゆん・佐藤) → 茂春(しげはる・佐藤さとう、藩士/和算家) S 2 1 2 7  
茂純(もしゆん・中山) → 茂純(忠純しげずみ・中山、藩士/年表制作) R 2 1 1 6
- I4463 茂松(もしよう) ? - ? 俳人;1776樗良「月の夜」入;  
[衣がへけふの天氣の似合けり](月の夜)  
茂昌(もしよう・菅原/菅) → 茂昌(しげまさ・菅原すがわら、歌人) C 2 1 9 6  
茂昌(もしよう・糸永) → 茂昌(しげまさ・糸永いとなが、神職/国学) N 2 1 4 0  
茂承(もしよう・山崎) → 茂承(しげつぐ・山崎、藩士/連歌作者) R 2 1 5 3  
茂承(もしよう・徳川) → 茂承(もちつぐ・徳川/松平/源、藩主) I 4 4 6 2  
茂承(もしよう・平山) → 茂承(しげつぐ・平山ひらやま、歌人) Z 2 1 7 7  
茂松(もしよう・高島) → 清矣(きよなり・高島たかしま/一井、藩士) U 1 6 6 2  
茂昭(もしよう・松平) → 茂昭(もちあき・松平、藩主/歌人) B 4 4 2 8  
茂昭(もしよう/しげあき・長沢) → 赤城(せきじょう・長沢ながさわ、藩士/馬術) K 2 4 2 1  
茂韶(もしよう・蜂須賀) → 茂韶(もちあき・蜂須賀はちすか、藩主/政治) K 4 4 9 9  
茂松園(もしようえん) → 重暉(しげあき・薬袋みない、藩士/詩人) Q 2 1 5 2  
茂松琴士(もしようきんし) → 清矣(きよなり・高島たかしま/一井、藩士) U 1 6 6 2
- B4425 茂四郎(もしろう・徳見とくみ、名;尚栄、茂四郎尚芳男) 1789-1813 早世 25 肥前長崎の宿老;徳見家三代、  
1804父没で宿老・茂四郎を継嗣襲名、1805「長崎宿老勤方書」刊(父の遺著か)、  
[茂四郎(;通称)の別通称]猪代吉  
茂四郎(もしろう・池尻) → 懋(つとむ・池尻/井上、藩士/勤王家) 2 9 9 9  
茂四郎(もしろう・小俣) → 蟻庵(かくな・小俣こまた/おまた、商人/篆刻) J 1 5 4 3  
茂次郎(茂二郎もじろう・藪) → 孤山(こざん・藪やぶ、藩士/儒者/詩文) C 1 9 6 8  
茂次郎(もじろう・貫名) → 徹(とおる・貫名ぬきな/井伊、家老/歌) W 3 1 0 3

文字楼(もじろう) → 春馬(初世しゅんば・三亭、戯作者/狂歌) 2 1 6 5  
 茂信(もしん・狩野) → 永恕(えいじよ・狩野、絵師) C 1 3 9 7  
 茂信(もしん・木村) → 茂信(しげのぶ・木村きむら、藩士/国学) O 2 1 2 8  
 茂親(もしん・高橋) → 卦斎(かいさい・高橋たかはし、藩士/俳人) I 1 5 6 4  
 茂親(もしん・美馬) → 順三(順蔵じゅんぞう・美馬みま、医者/翻訳) L 2 1 3 9

4405 茂睡(茂妥もすい・戸田とだ、名;馮/恭光、渡邊忠男) 1629-1706 78 駿府城内で生/徳川家譜代旗本、母;高家大沢基宿女、主家徳川忠長が改易処分;父母と下野国(栃木県)黒羽に蟄居、父没後江戸の伯父戸田政次の養子/一時三河岡崎藩本多家に仕官、渡邊正まさの弟、妻;兵ひょう(1646-99/旧姓;宮部/貞林禅尼)、渡邊覚さとる・元周もとちかの父、出家し江戸浅草・本郷に住/従兄山名玉山門;歌学伝授を受、歌学革新を主唱:「情なき」論、1683名所記「紫の一本ひとと」(1691了然尼りょうねんに撰「若むらさき」を独立して編)1694「梨本書」97「僻言調ひがごとしらべ」98「梨本集」1700「鳥之迹」編、「歌学密受抄」「露寒集」「籬の霜」「歌学密受抄」「茂妥かひとり言」外著多数、[人しれぬ身にまかすればをのづからもとむともなきかくれがにして]、[是ぞわがおもひ出なれや起き臥しを身にまかせつゝやすき心は]、若むらさき;205/最忍法師名)、[茂睡(;通称)の別通称/号]初通称;茂右衛門、梨本茂睡/隠家かくれが茂睡法師とも称す、号;馮雲寺/露寒軒/遺佚軒/不忘庵/不求橋/梨本/隠家/最忍法師/老茂

茂遂(もすい→しげつぐ・窪田) → 梨溪(りけい・窪田くぼた、藩士/詩人) 4 9 9 1  
 茂穂(もすい・足立) → 茂穂(しげほ・足立あだち/鈴木、国学) N 2 1 0 5  
 茂穂(もすい・蔵田) → 茂穂(しげほ・蔵田くらた/藤原/小宮山、役人/歌人) O 2 1 3 0

B4426 茂介(もすけ;通称・丸山まるやま) ?- ? 江中期備前岡山藩士、1768中山道大宮駅で馬丁2人を斬殺;幕府の糾問を受く/のちその顛末記「丸山茂介記」著

茂助(もすけ・平沢) → 元愷(げんがい・平沢、旭山、儒者) B 1 8 3 9  
 茂助(もすけ・稲垣) → 東山(とうざん・稲垣/佐久間、儒者/詩) E 3 1 6 5  
 茂助(もすけ・丸屋/弭間) → 茂右衛門(もえもん・弭間はづま、芳風舎古梅/俳人) 4 4 6 1  
 茂助(もすけ・千葉) → 清胤(きよたね・千葉ちば、和学者) I 1 6 9 3  
 茂助(もすけ・清水/銭屋) → 五兵衛(ごへえ・銭屋ぜにや、海運業) N 1 9 6 0  
 茂助(もすけ・大坂屋) → 保寿(ほしゅ・河原/小河原、商家/書) B 3 9 2 9  
 茂助(もすけ・亙理) → 武邦(たけくに・亙理わたり/藤原、藩士/歌) 2 7 3 6  
 茂助(藻介もすけ・牛尾) → 以直(ゆきなお・牛尾うしお、藩士/国学/歌) G 4 6 6 2  
 茂助(もすけ・大隈) → 言朝(こととも・大隈おおくま、商家/国学) Q 1 9 5 0  
 茂助(もすけ・中里) → 楽友(よしとも・中里なかさと、商家/歌人) O 4 7 1 7  
 茂助(もすけ・北浦) → 定政(さだまさ・北浦、藩士/陵墓測量) J 2 0 7 3  
 茂甫(もすけ・大隈) → 言愛(ことちか・大隈おおくま、言朝男/国学) Q 1 9 4 9  
 茂輔(もすけ・宇野) → 輔崇(すけたか・宇野うの、藩士/国学) I 2 3 1 1  
 百舌鳥廼舎(鳴屋もずのや) → 排(はい・渡辺わたなべ、商家/歌人/狂歌) K 3 6 2 4  
 物集女(もずめ・玉川) → 義重(よししげ・築田/梁田、家老/測量) D 4 7 6 0  
 物集女(もずめ・矢野) → 夜潮(やしお・矢野やの、絵師) 4 5 6 4  
 物集女(もずめ・下田) → 栄隆(ながたか・下田しもだ、槍術/国学) N 3 2 3 5  
 茂正(もせい・三浦) → 浄心(じょうしん・三浦、武家/商人/天台僧/戯作) T 2 2 6 1  
 茂正(もせい/しげまさ・高橋) → 世南(せいなん・高橋たかはし、俳人) J 2 4 3 4  
 茂正(もせい・竹村) → 茂正(しげまさ・竹村たけむら、国学/歌/神職) Z 2 1 3 6  
 茂成(もせい・半井) → 明茂(あきしげ・半井/和氣、廷臣/医/歌) D 1 0 0 9  
 茂政(もせい・池田) → 茂政(もちまさ・池田/徳川/松平、藩主) B 4 4 6 9  
 茂世(もせい/しげよ・藤森/島屋) → 素槩(そぼく・藤森/島屋、商家/俳人) E 2 5 2 5  
 茂世(もせい・鈴木) → 茂世(しげよ・鈴木すずき、国学者・歌人) Z 2 1 0 4  
 茂世(もせい・佐藤) → 茂世(しげよ・佐藤さとう、国学者) O 2 1 5 4  
 茂世(もせい・末永) → 茂世(しげつぐ・末永すえなが、藩士/歌人) Z 2 1 0 0

- 茂清(もせい・村松) → 茂清(しげきよ・村松むらまつ、藩士/和算家) Q 2 1 9 5  
茂清(もせい・美濃部) → 茂清(しげきよ・美濃部みのべ、藩士/日記) Q 2 1 9 6  
茂清(もせい・殿村) → 茂清(しげきよ・殿村ともむら、商家/歌人) N 2 1 7 9
- L4423 茂世子(もせこ・堀ほり、飯田藩主堀親長[1739-1808]女) 1779-1829<sup>52</sup> 母;柳沢吉里女?/江戸の生、  
秋月種備たねとも(日向高鍋藩主秋月家分家の旗本寄合席)の正室/江戸住、  
1793(寛政5/15歳)夫が28歳で没;男子なく家督は養子が嗣、秋月家を離縁、  
のち越後椎谷いや藩主堀直起なおのり(堀家9代/1766-1807)と再婚;正室/江戸住、  
1807(文化4/29歳)夫42歳で没;男子なく養子直温が嗣、直起没後の号;章善院、  
歌人;多田千枝子・加藤本子・桜井知栄ちえい門、1829(文政12)没
- 茂先(もせん・斎田) → 茂先(しげゆき/しげとき・斎田さいだ、藩士/地誌家) T 2 1 0 5  
茂善(もぜん・小林/和田) → 天山(てんざん・和田/小林/林、詩人) D 3 0 5 9  
茂善(もぜん・小西) → 茂善(しげよし・小西こにし、町役/歌人) O 2 1 3 8  
茂宗(もそう/しげむね・阿部) → 雪麿(ゆきまろ・阿部あべ、俳人) F 4 6 6 5  
茂則(もそく・北村) → 茂則(しげのり・北村きたむら、和算家) S 2 1 0 5  
茂則(もそく・大野おの) → 茂則(しげのり・大野おの、庄屋/歌人) N 2 1 8 0  
茂村(もそん・伊達) → 茂村(しげむら・伊達だて、歌) S 2 1 8 8  
茂体(もたい・高根) → 敬筋(けいせつ・高根たかね、藩士/儒者) G 1 8 2 2  
茂体(もたい・鍋島) → 左雄(さゆう・鍋島なべしま、家老) N 2 0 4 3  
茂大(もだい・小林) → 茂大(しげひろ・小林こばやし、国学者/歌) O 2 1 3 9  
茂太夫(もだゆう・陸奥) → 茂太夫(しげだゆう・陸奥みちのく、浄瑠璃太夫) C 2 1 3 8  
茂太夫(もだゆう・真鍋) → 茂太夫(しげだゆう・真鍋まなべ、藩士/地誌) R 2 1 4 2
- L4434 以明(もちあき・増田ますだ、景明3男) 1701-28<sup>早世</sup>28 近江彦根藩老の家、  
儒学/詩歌;沢村琴所(維頭)門、歌;[彦根歌人伝・亀]入、  
[以明(;名)の通称] 三之助
- B4427 蔚明(もちあき・丸山まるやま) ? - 1816 羽前米沢藩士/上杉鷹山の下で活躍、  
竹俣当綱・荏戸善政らと藩を文運興隆に導く、1774「雑図」編、1803-16「米沢年表」、  
1812「太室先生答問」編、「久々斎雑記」「米沢事蹟考別本」著、  
[蔚明(;名)の通称/号]通称;平六、号;久々斎/石門
- K4453 含章(もちあき・辻つじ、) 1804 - 1874<sup>71</sup> 山城紀伊郡の歌人;香川景樹門、  
[含章(;名)の通称/号]通称;孫右衛門、号;頂笠
- B4428 茂昭(もちあき・松平まつだいら、初名;直廉なおきよ、直春男) 1836-90<sup>55</sup> 越後糸魚川藩主;1857父継嗣、  
従五下、日向守;(直廉名)、  
1858越前福井藩主;安政大獄で松平慶永隠居謹慎のため襲封(茂昭名)、  
従四上左近中将/越前守/1864正四下/慶永以下改革派重臣による藩政のため実権なし、  
1865第一次長州征討の福総督、維新後は福井藩知事、歌人;橘曙覧門、「巽嶽歌集」著、  
[茂昭(;名)の字/通称/号]字;公図、通称;鑽之助、号;巽嶽そんがく/春斎
- K4499 茂韶(もちあき・蜂須賀はちすか、13代藩主斉裕なりひろ男) 1846-1918<sup>73</sup> 母;山本家の娘たま、  
1868(慶応4)父急死;阿波徳島藩14代藩主継嗣(最後の藩主)、鳥羽伏見の最中の継承;  
藩内混乱/戊辰戦争に新政府側参加;藩内混乱で奥羽に少数派兵のため諸藩より冷評、  
維新後;オックスフォード大学留学/フランス公使/帰国後;東京府知事/文部大臣、  
正室;蜂須賀隆芳女の斐姫(1852-1929)  
継室;水戸藩主徳川慶篤女の随子よりこ(歌人/1854-1923)  
[茂韶(;名)の通称/号]通称;千松丸/氏太郎/淡路守、号;誠堂/霰笠/徳風/双樹園  
法号;大源院殿
- B4429 茂明(もちあきら・しげあきら・藤原ふじむら、初名;知明、敦基男) ?-? 母;中原季成[家成]女、平安後期廷臣;  
蔵人/文章得業生/式部少輔/1144従四上文章博士;年号の勘申・対策の問頭博士、  
願文・呪願文等を執筆、1154(久寿2)大嘗会和歌主基、  
傍ら藤原頼長の家司;頼長の子師長に史記を講ず、  
詩人:本朝無題詩57首入;「無名詩」など、中右記部類紙背漢詩集入、秋風集入集、



明衡の孫、令明の弟、敦経の父

- B4430 **庸**(裳地ももち・内田うぢだ、曾平男)1787-1835<sup>49</sup> 越前坂井郡三国町の商家6代目;豪商、  
福井藩財政を援助;秩禄三百石を賜い郷士、国学・歌人;京の富士谷御杖門、  
地域の実業界を支配/三国神社造営、文人の庇護に務める、  
「花月三十六首」「郭公百首」/1834「能登の海」著、  
[庸(;名)の幼名/通称/号]幼名;石松、通称;惣右衛門、号;耕斎/大夢庵
- B4431 **持氏**(もちじ・足利あしかが、満兼男)1398-1439<sup>自刃</sup>42 武将/第4代鎌倉公方;父継嗣(在位1409-39)、  
関東管領上杉禅秀(氏憲)や叔父足利満隆と対立;1416追放(上杉禅秀の乱)、  
1417越後の上杉房方の助力で鎮圧、足利義教と対立;1439永享乱で敗北;自刃  
持枝(持江もちえ・塩屋/浅野屋)→佐平(さへい・浅野屋/塩屋、国学/勤王) L 2 0 5 4
- B4432 **持男**(もちお・県犬養宿禰あがたのいぬかいのすくね)?-? 万葉四期歌人(八1586);738年橘奈良麻呂宴参加、  
同席の県犬養宿禰吉男よしの弟か?、  
[黄葉もみぢばを散らまく惜しみ手折り来て今夜こよひ挿頭かざしつ何を思はむ](万葉八1586)
- B4433 **以緒**(もちお・ゆきお・橘たちばな/家名;薄、文章博士菅原在数男)1494-1555<sup>62</sup> 橘[薄]以量もちかずの養子、  
廷臣;1549従三位/52正三位/55参議/没、法号;永秀、詩;「橘以緒日課詩」著
- E4492 **以量**(もちかず・橘たちばな/家名;薄、以盛男)1436-96<sup>61</sup> 室町戦国期廷臣;蔵人・左近少将・式部大丞、  
美濃守、1496従三位、以緒もちおの養父、「橘家神体勸請卷」著/「橘家神道秘伝目録」(伝)
- M4418 **以和**(もちかず・村田むらた、号;長庵)?-? 江前中期;江戸歌人、  
1690(元禄3)南部家桜田邸詩歌会参加、「正木かづら」7首/跡部良隆[近代和歌一人一首]入、  
植山梅之「詠林尾花末」(1693[元禄6]刊)2首入、  
[端居はしるしてむかふも涼し夕立の雲を離れて出づる月影](桜田邸詩歌会/雨後夏月)  
[別れ行ゆく思ひの煙けぶり立ちそふや塩焼く浦のあまつかりがね]、  
(同;浦帰雁/思ひに煙の火を掛る/煙・立つ・焼くは縁語/海士に天を掛ける)  
持和(もちかず・冷泉) → 持為(もちため・冷泉[下冷泉祖]、歌人) 4 4 0 8
- M4422 **以方**(もちかた・これかた・坂合部さかあひべ)?-? 平安前中期廷臣;史官、  
965(康保2)右少史;宮中花の宴に陣座以下の詠歌を収集し献上する役(袋草紙)、  
969(安和2)右大弁
- B4435 **持賢**(もちかた・細川ほそかわ、満元3男/本姓;源)1403-68<sup>66</sup> 室町期武将;細川典厩家の祖、  
従四下右馬頭、1432將軍義教暗殺後討伐軍に参加;功により摂津欠郡の守護、  
1443剃髪;道賢名、甥の勝元を後見;応仁乱には土佐の軍兵を率い東軍勝元側で活躍、  
歌人;幕府歌壇の重鎮、月次歌会・和漢連句会を主催/多くの歌会に参加、  
1458「満元三十三回忌品経和歌」催、連歌;1464?盛長催「熊野法楽千句」参加、  
細川正徹・堯孝・希世靈彦・景徐周麟と交流、新続古今2首;799/1617、  
[さほ姫の衣をたれにかすみがた浦波遠くたつかすみかな](新続古;雑1617)、  
[持賢(;名)の通称/法名/道号]通称;弥九郎、法名;道賢、道号;芳門、法号;崇福寺道賢  
持勝(もちかつ;名) → 讓仁親王(じょうにんしんのう、閑院宮) Q 2 2 9 8
- M4419 **茂棟**(もちかど・北角きたかど/旧姓;鈴木、通称;松之丞/法号;泰然)1732-96<sup>65</sup> 北角勝有の養嗣子、  
成島勝雄の実兄、幕臣;支配勘定/御勘定/のち小普請、歌人、  
1763磯野政武催「遊角筈つのはずの別荘記」入(14首)、  
[紅葉ばの錦を映す池水に綾織りそへてうかぶ鴛鴦鴨をしがも](遊角筈別荘記)
- B4436 **望城**(茂材もちき・坂上さかのうえ、是則これのり男)?-978/980? 廷臣;御書所預/949越前掾/969大外記、  
970従五下/975石見守/歌;951撰和歌所寄人;梨壺5人/「後撰和歌集」編纂・万葉集読解の任、  
960天徳内裏歌合参加、勅撰2首;拾遺100/後拾遺74、金葉三奏本1首入/後撰集にはなし、  
[髣髴ほのかにぞ鳴き渡るなる郭公ほととぎすみ山を出づる今朝けきの初声](拾遺;二夏100)
- B4437 **望城**(もちき・橘たちばな) ? - ? 平安前期;廷臣(経歴未詳)/歌人;  
972女四宮規子内親王前栽歌合(源順判)に参加、  
[萩の葉は[枝え]におく白露のたまりせば花のかたみはおもはざらまし](四宮合;6/大系8)
- L4443 **望樹**(もちき・満藤まんどう、通称;津田屋久次兵衛)1790-1837<sup>48</sup> 江後期;備前上道郡の商家/歌人、  
歌;香川景樹(1768-1843)門、歌;[類題吉備国歌集][桂花余香]に入  
茂竹(もちく・広瀬) → 春信(はるのぶ・広瀬ひろせ/本姓;勝部、百蘿、神職/歌学/俳人) J 3 6 2 8

- 茂竹庵(もちくあん) → 春信(はるのぶ・広瀬ひろせ、神職/歌/俳人) J 3 6 2 8  
茂竹庵(もちくあん) → 舎楽(しゃらく・茂竹庵、狂歌作者) G 2 1 6 0  
茂竹庵笹好(もちくあんささよし) → 麴麿(みかまろ・夏目、酒造業/国学者) 4 1 6 1  
以言(もちこと・大江) → 以言(もちとき・大江、廷臣/詩人) 4 4 0 6
- B4439 以貞(もちさだ・薄田すすきだ/本姓;橋、家名;常磐木、薄田信秀男)?-1705 江前期神道家;  
家学の橋家神道を修学、兵法家;[軍伝/墓目鳴弦の儀]など伝受、  
近江大津に浪居;親交のあった玉木正英まさひで[1670-1736]に伝授、  
1691「橋家鳴弦巻極秘」伝/92「橋家祈禱加持伝」伝、「橋家祈禱加持之秘伝」「巖戈伝」著、  
[以貞(;名)の別名/通称]別名;以貞(これさだ・これただ)/信成、通称;与惣兵衛/三郎兵衛
- B4440 持実(もちざね・花山院かざんいん、初名;持房/持重、定誠さだのぶ男/本姓;藤原)1670-1728<sup>59</sup> 江前中期廷臣、  
母;大炊御門経孝女、1684従三位、93権大納言/94従二位/95持実と改名、  
1687「持重卿記」、「改名款状」著、法号;靖恭院  
持実(もちざね・中村) → 忠亨(ちゅうてい・中村、藩士/儒者) G 2 8 6 4  
以実(もちざね・富田) → 省斎(せいさい・富田とみだ、藩士/書家) I 2 4 1 8
- B4441 茂重(もちしげ・大江おおえ/長井、大江泰重男/広元曾孫)?-? 鎌倉後期幕臣;従五下丹後守/修理亮、  
代々六波羅評定衆、号;長井入道、兄頼重と共に武家歌人として活躍、北野社歌合参加、  
「覚助法親王家五十首歌」を詠進、自撰家集「丹後前司和歌茂重集」;1293勅撰の議の撰述、  
勅撰11首;新後撰(1025/1284)玉葉(667/1546)新千(812/1859)新拾(839)新続古(4首)  
[かへるさのわすれがたみの袖の月それもとまらずあくる空かな](新後撰;恋1025)  
持重(もちしげ・花山院) → 持実(もちざね・花山院/藤原、廷臣/記録) B 4 4 4 0  
茂成(もちしげ・半井) → 明茂(あきしげ・半井/和気、廷臣/医/歌) D 1 0 0 9
- B4442 持季(もちすえ・正親町おごぎまち、実秀[1388-1432]男/本姓藤原)1415-? 1467存 室町期廷臣;右近中将、  
蔵人頭/1441参議;従三位/46正三位権中納言/48右衛門督・官慶兼任/49左衛門督、  
1450従二位・造外宮上卿/51権大納言/52大原野祭上卿/祈雨奉幣奉行/54正二位;致仕、  
1459従一位/67(53歳)十月出家;法名;空慶、歌;1450仙洞歌合(兼良・雅世の判)参、  
[唐錦からにいき秋見し水の鏡さへ落葉にくもる冬の山川](仙洞歌合;五番右/河落葉)
- 4407 持資(もちすけ・太田おおた/本姓;源、入道号;道灌、資清[道真]男)1432-86<sup>55</sup> 相模の武将;  
上杉定正重臣、左衛門大夫/備中守、1455家督継嗣/1456江戸築城に着手;1457完成、  
1476-86関東で合戦、主君から誤解され誘殺、  
歌人;1474江戸歌合主催、「花月百首」「桂林集」著、「慕景集」著?(異説あり)、  
「東行紀行」「碎玉類題」「武辺叢書」「道灌随筆」1480「都紀行」著、  
常山紀談に山吹の歌の逸話入、資忠の兄、  
[勝元(細川)朝臣 短慮不成功といふ正黎の作りし嗣など消息のはしに書付けて、  
此心ばへを問ひ給ひしかば、  
急がずば濡れざらましを旅人の跡より晴るる野路の村雨](慕景集)、  
[持資(;名)の幼名/別名/通称/号]幼名;鶴千代、別名;資雄/資長、通称;源六郎/左金吾、  
号;春苑/香月/静勝軒/慕景楼/泊舟亭/含雪斎、法号;洞昌院/静勝院  
持亮(もちすけ・岸大路) → 持之(もちゆき・岸大路・岸/橋、国学者) B 4 4 7 8
- B4443 持純(もちずみ・畠山はたけやま/本姓;源、法名;仙空/僊空)?-? 室町期廷臣;右馬頭/散位、歌人;  
1429-48頃歌壇活躍、歌会主催、1443一条兼良催「前摂政家歌合」参加・  
1448賢良「畠山匠作亭詩歌」に出詠、  
新続古今1首(;読人しらず)、「畠山阿波前司持純詠草」(実隆公記に名入)  
[山川や岩越す波のあさごほりまたくだけゆく春風ぞ吹く](前摂政家歌合;八番右16)  
[さもあらぬひばらをそむる音そへて色なる雨に山風ぞ吹く]、  
(匠作亭詩歌;20/檜頂落葉/対するは蟬聞龍惶の詩)
- B4444 持孝(もちたか・姓不詳) ? - ? 室町期武家/歌人;1457武家歌合参(正徹・心敬らと)  
[佐保山や露の心もあさはかにもろき柞はその色ぞしぐるる](武家歌合;十二番左16)  
(本歌;佐保山の柞の色はうすけれど秋は深くもなりにけるかな[古今集])  
茂胤(もちたね・土生) → 玄昌(げんしょう・土生はぶ、眼科医) J 1 8 9 8

- 4408 **持為**(もちため・冷泉[下冷泉]、初名;持和、為尹男)1401-5454 室町期廷臣、母;中山親通女、  
為之の弟、1429頃將軍義教の怒りを買って沈淪/41義教没後歌壇復帰、44頃持為に改名、  
1448従三位/左中將、1454権大納言/従二位、父より細川莊を受;下冷泉家の祖、  
歌学、1443前摂政家/46文安詩歌合/48賢良[畠山匠作亭詩歌](歌)/50仙洞歌合参加、  
1432「持和詠草」50「古今和歌集抄」/「古今集解」「持為卿詠草」著、「為富卿詠」も持為の家集、  
[たねとなる筆のすさびの松の葉をちらぬためしにかかる藤なみ]、  
(匠作亭詩歌;6/松藤/対するは竺雲等連の詩)、  
[流れあふ瀬々の紅葉ばせきとめて昔にかへる谷の埋れ木](仙洞歌合;七番右/侍従名)、  
[持為(;名)の法名];暁雲/暁空、政為・春芳院の父  
持為女(もちためのむすめ・冷泉)→ 春芳院(しゅんぼういん、歌人) K 2 1 4 8  
望月(もちづき・石橋) → 桃郷(とうきょう・石崎、旅籠主人/俳人) C 3 1 8 2
- B4445 **望月秋吉**(もちづきのあきよし・望月章甫もちづきのあきすけ)?-? 江中期江戸麹町の医者、狂歌作者;小石川連、  
1785徳和歌後万載集3首入;  
[月前駒迎 逢坂や月に名高き関角力けふの勝負は引きわけの駒](後万載;283)、  
(本歌;逢坂のせきの清水に影見えていまや引くらむ望月の駒 拾遺集;貫之)
- B4446 **望月真丸**(もちづきまゐまる) ? - ? 狂歌作者;葛飾連、1826文々舎「略画職人尽」入、  
1785徳和歌後万載集2首入;  
[鑓持のふるともよしや草枕髭にやどかせはなの下蔭](後万載;羈旅393/奴旅行)、  
(鑓持大男の奴髭を連想;振ると降る・鼻と花を掛る)
- I4462 **茂承**(もちつぐ・徳川とくがわ/家名;松平、伊予西条藩主松平頼学7男/本姓;源)1844-190663 母;近藤氏、  
1858紀伊徳川慶福(家茂)が將軍世子となり本家和歌山14代藩主継嗣;徳川茂承名、  
正三位/権中納言、幕府軍主戦派;維新後朝廷に忠誠/和歌山藩知事、  
「徳川茂承卿献言平達書」著、  
[茂承(;名)の幼名/初名/号]幼名;孝吉/賢吉、初名;頼久、号;誠堂、法号;慈承院
- K4490 **乗常**(もちつぐ・西にし、通称;丹治)1816-189277 肥前平戸藩の陪臣、歌人;橘冬照・東世子門、
- 4406 **以言**(もちとき/もちこと/ゆきとき/よしとき/よしこと・大江おおえ/弓削ゆげ、大江仲宣男)955-101056 廷臣;紀伝道修学、  
詩;藤原篤茂あつげ門、永延987-89頃対策及第/大内記・文章博士/従四下式部権大輔、  
中関白家に近仕;996藤原伊周失脚により飛驒権守に左遷/弓削ゆげ姓を名乗る、  
帰京後は一転;道長に接近、1003大江姓復帰、道長催作文会に頻繁に参加;題者・序となる、  
詩:「以言集」、本朝文粹・麗藻入集、歌;玄々集入、詞花集366、正言弟/嘉言兄、僧以円の父、  
同時期の大江匡衡・紀齊名ただなど並称/特に大江匡衡と対抗心;袋草紙に屏風の詩の逸話入、  
[網代あじろにはしづむ水屑みくずもなかりけり宇治のわたりに我や住ままし](詞花;雑366)  
(しづむ水屑;水底に流れる落葉など;うだつのあがらぬ我が身を暗示)  
→ 正言(まさとき・大江・弓削、後拾遺歌人) E 4 0 3 0  
→ 嘉言(よしとき/よしこと・大江・弓削、後拾遺歌人) 4 7 1 7
- B4448 **持言**(もちとき・山科やまなし、言行男/本姓;藤原)1657-173781 廷臣;1685従三位/1718参議、  
非難される;右大臣一条兼輝が左大臣近衛基熙を越えて関白就任を乱階例として反駁;  
致仕、1685「装束無名抄」、「山相公装束説」、法号;高寿院、堯言の父
- J4402 **以年**(もちとし) ? - ? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[白妙に見ゆるは浪の花ならで干潟につもるけさの雪かな](大江戸倭歌;冬1298/潟雪)
- B4449 **持知**(もちとも・茂木もてぎ/別姓;小田、茂木城主知行男/本姓;源)?-1518 下野茂木の武将/鎌倉奉公、  
佐竹義舜に属す/蔵人大輔/越中守/式部大輔/筑後守/上総介/豊前守、連歌;新菟玖波;5句、  
[持知(;名)の通称/法号]通称;三郎、法号;功国院忠岩祖君
- B4450 **持僚**(もちとも・蘆野あしの) ? - ? 陸中東磐井軍渋谷村細桑の大肝煎、  
儒者;志村石溪門、経史・詩文に通ず、1844「廉讓亭記」、  
[持僚(;名)の通称/号]通称;章右衛門、号;巨山/廉讓亭れんじょうてい
- 4409 **持豊**(もちとよ・芝山しばやま、重豊男/本姓;藤原)1742-181574 母;山井兼仍女、廷臣;  
父と共に勤王派、1766明和事件に連座;難を免れる、1775従三位/1809正二位/14権大納言、  
歌人;二条派歌学を本旨/本居宣長を私淑・澄月を庇護、「権大納言芝山持豊卿詠草」、



「芝山大納言持豊卿詠」「美玉之記」「水月君自歌合判」「百人一首芝釈」著、  
「二条家宗匠芝山持豊卿伝受歌会式」/1814「二条家懐紙詠草書法」「草庵和歌集聞書」著  
法号;徳馨院、養嗣子;国豊(歌人/非参議/正三位)、  
門人;糟谷磯丸・沢田名垂・深田正韶・足代弘訓・伊藤維恭これか・岡本貞永ら

[なかなか高きは君が名なりけり我は麓の雪の下草](松平春嶽[古今百人一首];30)

B4451 **以直**(もちなお・富岡とみおか) 1717-1787 71 江中期京の法衣商/心学;1740石田梅岩門/教育家、  
師の没後心学講釈;三条衣棚など講席転々、1761斎藤全門没後手島堵庵と教化活動、  
1770「駿州八助行状聞書」、「聞書自明和八年至天明七年」、「富岡以直消息集」、  
「富岡以直書」、「富岡先生語録」(門弟杉浦宗仲編)、  
[以直(;名)の通称/号]通称;伝兵衛/忠助、号;浄敬、屋号;十一屋

I4488 **以直**(もちなお・矢田部/谷田部やたべ) ? - ? 江後期;歌人、神職?、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[こよろぎの磯菜とりつつ遊ばなん浦風涼し月もさやけし]、

(大江戸倭歌;夏538/水辺夏月、小余綾こよろぎ;こゆるぎの磯;相模大磯付近の歌枕)

用九(もちなか・羽倉) → 簡堂(かんどう・羽倉はくら、幕臣/儒者) E 1 5 1 3

B4452 **持長**(もちなが・小笠原おがさわら、満長男) 1384-1458 75 武将;室町将軍家家臣、民部少輔、  
備前守/従五下、故実家、足利義持の諱字を受、義教の弓馬師範、  
幕府弓馬故実家小笠原家の基礎を築く、  
歌人、「小笠原伝書」「極要集」「笠懸之書」「騎射秘抄」「食礼書」「弓書」「持長軍歌」、  
「犬追物草根集」「犬追物日記」「小的伝記」「矢開日記」「流鏑馬日記」「箴之図」外著多数、  
[持長(;名)の幼名/号]幼名;又六、出家号;心源浄元

B4453 **以長**(もちなが・高辻たかつじ、俊長男/本姓;菅原) 1799-1859 61 廷臣;1829従三位/32正三位、文章博士、  
大学頭/1852式部大輔、1817「詞林聚葉」著、  
[以長(;名)の字/号]字;用、号;温厚

茂長(もちなが・浅野) → 長訓(ながみち・浅野あさの、藩主) K 3 2 8 0

B4454 **持信**(もちのぶ・一色いっしき、別名;持範、満範男/本姓;源) 1401-34 34歳 室町幕臣;  
五位式部少輔・兵部少輔、  
歌人;永享四年1432一月室町殿歌会始に参加、新続古集435、  
[秋深き小野の浅茅あさぢの露ながら末葉にあまる虫の声かな](新続古;秋435)、  
(野外虫;左大臣足利義教(6代将軍)家三首歌)

K4444 **以德**(もちのり・竹内たけうち) ? - ? 江後期;讃岐高松藩士/代官、国学者、  
1835(天保6)頃讃岐の砂糖販売のため大坂砂糖会所設立に尽力、  
[以德(;名)の別名/通称/号]別名;政徳、通称;万三郎/興(与)四郎、号;伴鷗

K4427 **荷徳**(もちのり・田中たなか、通称;長十郎) 1840-? 江後期;下野足利藩士、国学者、  
維新後;大教正/神職

以德(もちのり・荻戸) → 政以(まさもち・荻戸のぞき、藩士/実学) H 4 0 8 2

持範(もちのり・一色) → 持信(もちのぶ・一色いっしき/源、幕臣/歌) B 4 4 5 4

B4455 **餅花庵寸柳**(もちばなあんすんりゅう、姓;中村) ?-? 江後期大阪阿波町の狂歌作者;翠柳軒栗飯門、  
一連を興す/妻も[柳]と称し狂歌を嗜む、1814「易奴廼刀之いぬのとし」15「渭廼騰新のとし」、  
1816「禰乃東試ねのとし」17「禹士廼騰始うし」とし」「屠良能度之とらのとし」/20「他津廼屠新たつ」とし」著、  
[餅花庵寸柳(;号)の通称/別号]通称;丈介/丈助、別号;翠柳庵文台

B4456 **持春**(もちはる・細川ほそかわ、初名;持頼もちより、満国男/本姓;源) 1400-66 67 武将;民部少輔/下野守、  
歌人;幕府歌会などに参加;1421玉津島社頭法楽・41松尾社法楽続歌百首参加、  
新続古今集1738、教春・政国の父、  
[なきあかすおのが涙の時雨にやぬれて朝たつさを鹿の声](新続古;雑1738/朝鹿)  
[持春(;名)の通称/法名/法号]通称;六郎/下野入道、法名;常忻/常灯、  
法号;玉松庵常灯/玉林院

M4414 **持尚**(もちひさ・ ) ? - ? 鎌倉南北期;廷臣;左衛門少尉、  
歌人;1320「八月十五日夜月十首和歌」入、  
[まちむかふとやまの峰の木のみよりいざよふ月の影ぞほのめく](十五日夜月十首;1)

- B4457 **以久**(もちひさ/ゆきひさ・島津しまづ、垂水領主忠将男)1550-161061 母;佐多上野忠成女、1561合戦で父没、伯父島津貴久・義久に養育/大隅清水を領す/1587豊臣氏に敗北;種子島へ移封、1603関ヶ原で討死の義久領の日向佐土原を所領;藩主/島津肩衝を家康に献上、「以久公卿記」著、  
[以久(;名)の別名/通称/法号]初名;幸久/征久ゆきひさ、通称;又四郎/右馬頭/堯仁房、法号;高月院
- B4458 **用久**(もちひさ・森もり、別名;慶松よしまつ、神主の尚久男)1599-165557 京の神職;1609上賀茂神社禰宜、1610神主/正禰宜・神主を両度、1646息子理久に正禰宜を譲渡/正五下、「賀茂別雷皇太神社記」「賀茂社神殿舎屋堂塔以下目録」著、  
[用久(;名)の通称/法名]通称;治部大輔、法名;恵海
- K4467 **用英**(もちひで・寺山てらやま、通称;太次右衛門たじえもん)?-1760 江中期;薩摩鹿兒島藩士、和学・歌人、久保之英ゆきひでの歌の師
- B4459 **以仁王**(もちひとおう、三条宮/高倉宮、後白河天皇皇子)1151-8030 母;高倉三位/式子内親王兄、1180源頼政と平氏討伐謀/発覚;逃亡中戦死
- B4460 **持広**(もちひろ・小笠原おがさわら、初名;政広、杉浦さざうら政盛3男)1685-175975 小笠原持眞の養子、幕臣;1702小姓組番士/1709遺跡継嗣;將軍吉宗に出仕;射礼の師範、御徒頭/1745鎗奉行、小笠原家伝の故実家、「草鹿之次第」「式之的之次第」「射礼故実聞書」伝、  
[持広(;名)の通称/法号]通称;万五郎/頼母たのも/縫殿助ぬいのすけ、法号;了哲  
裳地不(もちふ・内田) → 庸(もちう・内田うぢだ、商家/歌人) B 4 4 3 0
- B4461 **持房**(もちふさ・北畠きたばたけ、初名;師国もろくに、師重男/本姓;源)1296-135156 母;花山院忠継女、廷臣;1314従三位/従二位参議/右衛門督、1331出家;吉野の奥に住、歌;新葉3首;243/489/1219、  
[いかばかり真木の下露みだるらん夕立すぐる風の名残に](新葉集;三夏243)  
[持房(;名)の号]号;冷泉、法号;華嚴寺覚空
- B4462 **持房**(もちふさ・大館おおだち、氏信男/本姓;源)?-? 室町期廷臣;治部大輔・刑部大輔/上総介、出家;上総入道常誉、歌;1443前撰政[一条兼良]家歌合参加(散位大館治部大輔源持房名)、息女が足利(源)義政の妻、  
[春の来るしるしに跡やつくば山このもかのもの雪の村消](前撰政家歌合;十番左19)  
持房(もちふさ・花山院) → 持実(もちざね・花山院/藤原、廷臣/記録) B 4 4 4 0
- M4415 **以藤**(もちふじ・藤原/疋田ひきた、掃部允以平男)?-? 鎌倉南北期廷臣;左衛門尉/左京進、以里の兄、歌;1330(元徳2)北野宝前和歌参加、  
[たれゆゑにわかるる時と有明の月になくらんやまほととぎす](北野宝前歌;14)  
[旅人の袖ほすほどのひまもなしゆききのをかの五月雨のころ](同;27)
- B4463 **以文**(もちぶみ/いぶん・山田やまだ、有則男、本姓藤原/修姓;藤)1761-183575 京の吉田家の家士、1814吉田神社禰宜;阿波介、吉田流神道/公家故実;藤貞幹さだもと門、歌;小川布淑門、「温故録」「錦所談」「京江問答」「伊勢物語考」編/「山田以文詠草」「以文随筆」著、「山田の落穂」著、妻;源子、有恒(以章)/有孝の父、有年(有孝男)の祖父、  
[以文(;名)の初名/通称/号]初名;民弥/栄郷、通称;伊豆/阿波介/大学、号;錦所/梨陰、神号;徳垂霊神  
持前気成(もちまえのきなり) → 月夜房(つきよぼう・路方、狂歌) 2 9 6 4
- B4464 **以政**(もちまさ・橘たちばな、以長男)?-? 1187存 平安後期廷臣;蔵人・摂津守・筑後守・中宮亮歴任、正四下氏長者、1181九条兼実の家司、1187造興福寺次官、1166「橘逸勢伝」
- B4465 **持政**(もちまさ・浜名、法号;法育?、浜名備中入道法育男or孫?)?-? 室町期の連歌作者;1417梵燈庵より「梵燈庵返答書」を受ける、1433「北野社法楽一万句」に將軍義教一座参加、1443以前に出家/44「御所老若勝負連歌」の合点/50「飢肥邸月次連歌」発句を詠(康富記)
- B4467 **以正**(もちまさ・藤井ふじい) ? - ? 江中期茶人;藪内流、墨蹟の研究者、1752「茶席墨宝相伝考」編
- B4468 **以正**(もちまさ・小野おの、周春男)1785-185861 備中浅口郡大谷村の里正;父を継嗣;治水鑿池に功、和算家;1809谷以燕(東平)門/1813(文化10)里見川開墾関連の訴訟問題解決のため江戸へ、訴訟の合間に江戸の天文方渋川景佑家入門;山本文之進より天文暦学を修学、

帰郷後;新田開発や検地に関与/子弟教育;藤田秀斎の師、俳諧・易占に通ず、  
「大極之旨意」「文化乙亥両食細艸」/1831「曆術秘伝書推歩」編、54「啓迪算法指南大成」著、  
1855「啓迪算法指南大成」著、岡山吉備津神社などに算額奉納、  
[以正(;)名)の字/通称/号]字;子物、通称;光右衛門みつえもん、号;啓鑑亭

- B4469 **茂政**(もちまさ・池田いけだ/松平、水戸藩主徳川斉昭9男)1839-99**61歳** 水戸藩江戸藩邸に生、  
1849忍藩主松平忠国の養子;忠矩ただのりに改名/1851従四位下民部大輔/侍従、56溜間詰、  
1859安政大獄で父が処罰されたため養父により廃嫡;徳川に復姓、  
1863(文久3)備前岡山藩主池田慶政の婿養子;池田修政のぶまさ・ながまさに改名、池田宗家11代、  
備前岡山藩9代藩主となる;襲封後に茂政に改名、64左近衛権少将、一橋慶喜の弟、  
微妙な立場ながら尊攘の考えを貫く、長州征伐には名目上出兵、  
正室;池田慶政女の萬寿子、勝吉・西尾勝順・堀川護麿室などの父、  
1868勅命で討幕軍参加の際は將軍と無縁の備中鴨方藩主政詮に家督譲渡;隠退、1869上京、  
桂宮警護/弾正大弼;1870致仕;従三位/71麝香間祇候/72西国巡幸留守中宮内省勤番、  
正三位/正二位/従一位、歌人、「茶味論」著、1858-63「松平昭休往復書簡留」、  
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(侍従忠矩朝臣名)、  
[惜みつる春はとまらでくれ竹の葉風涼しき夏は来にけり]、  
(大江戸倭歌;夏383/竹亭夏来)、  
[茂政(;)名)の別名/通称/号]幼名;九郎麿、初名;松平昭休あきやす・あきよし/松平忠矩/池田修政、  
号;楽山、神号;五十武彦茂政命

以正(もちまさ・匹田/疋田)→ 以正(これまさ)・匹田/疋田、神道) G 1 9 0 5

- B4470 **持麿**(もちまる/もちまる・在原ありわらの)?-? 洒落本作者;1780「大通人好記」(光由「塵劫記」のもじり)、  
朋誠堂喜三二の変名説あり?→ 岡持(おかもち)・手柄(てがら)の、狂歌) 1 4 0 9

持麿(もちまる・田畑) → 田畑持麿(たはたのもちまる)、狂歌) G 2 6 5 4

- B4471 **持通**(もちみち・二条にじょう/一字名;藤、二条持基男/本姓;藤原)1417-93**77** 廷臣;1430従三位、  
1433権大納言/46右大臣/53従一位/関白/氏長者/58太政大臣/89准三宮;出家、  
歌人;1451百番歌合参加/81歌会を催/82將軍家歌合参加、「月百首」「持通公記」著、  
連歌;1461「何船百韻」(後花園天皇・足利義政らと一座)/64將軍家百韻参加、新菟玖2句入  
[持通(;)名)の通称/号/法名]通称;入道前関白太政大臣、号;大染金剛院、法名;清空

- B4472 **茂道**(もちみち・武嶋たけしま/本姓;菅原、丸橋茂矩男)1767-? 武嶋茂編の養子/幕臣;1796遺跡継嗣、  
1796御勘定、1828「農業余話鈔」編、  
[茂道(;)名)の通称/号]通称;徳三郎/藤右衛門/菅右衛門/安右衛門、号;東雲/此君園主人  
持満(もちみつ・足利) → 義賢(ぎけん);法諱、真言僧/門跡/歌) B 1 6 0 7

- 4410 **持基**(もちもと・二条にじょう、師嗣男/本姓;藤原)1390-1445**56** 母;東坊城長綱女、兄満基の猶子、  
室町期廷臣;1410従三位/権大納言/左大将/内大臣/1420左大臣/21従一位/24関白、  
1428摂政/32太政大臣/33関白再任、歌人;1433將軍義教歌会参加、1434永享百首入、  
1438「禁裏御会和歌」参加、「後福照院殿御詠草」「詠百首和歌」著、連歌;1441何人百韻参加、  
勅撰3首;新続古今(482/681/1555)、

[関の戸のあくるはをしき月影になにぞは鳥のしひて鳴くらん]、  
(新続古今;秋482/閑月、永享百首462;四句いかなる鳥の)、

[持基(;)名)の別名/号]初名;基教、通称;関白前太政大臣、号;後福照院、

- B4473 **持元**(もちもと・細川ほそかわ、満元の長男/本姓;源)1398-1429**32** 武将/従四下右馬助、右京大夫、  
「細川持元書状」あり、歌人;14221新玉津島社頭法楽に参加(慕風愚吟集)、新続古今537、  
[幾夜までとふ人なしに故郷のあさぢが霜に衣うつらむ](新続古;秋537/擣寒衣)、  
[持元(;)名)の通称/法名/道号/法号]通称;五郎、法名;道秀、道号;玉峯/法号;性智院

- B4474 **持康**(もちやす・北畠きたばたけ/家名;木造、俊康男/本姓;源)?-1451 廷臣;1440参議/正四下、  
1448権大納言/50従二位/51出家、歌人;公武歌壇で活躍/1431内裏和歌御会参加、  
新続古今集1814(:太神宮に奉納歌/望遠帆)、  
[浦風のまほもかたほも見えわかず波路へだつるあまの釣り舟](新続古今;十八雑1814)

- B4475 **持易**(もちやす・小笠原おがさわら、持賢男)1740-76**37** 父早世のため1760祖父持広の遺跡継嗣、幕臣;  
將軍家重・家治に出仕/小普請/御徒頭/1768新番頭、家伝;故実家/射礼の指南、



1765「東叡山流鏑馬の記」「明和流鏑馬記」著、

[持易(；名)の通称/法号]通称；民部/縫殿助ぬいのすけ、法号；了活

茂仲(もちゅう・岩淵/蘆野)→ 東山(とうざん・蘆野あしの、儒者/詩文) E 3 1 5 3

茂仲(もちゅう/しげなか・林)→ 徳則(とくのり・林はやし、豪農/郷里に貢献) L 3 1 2 9

藻虫庵(もちゅうあん・打它)→ 光軌(みつなり・打它うつだ、磐城歌人)

- B4476 茂行(望行もちゆき・紀き、本道男、貫之の父)?-? 平安前期834-48頃の廷臣、有朋の兄弟、貫之の歌文には父の記録がないので貫之の幼時に没か、歌人；古今集850、  
[花よりも人こそあだになりにつれを先に恋ひんと見しか](古今集；哀傷850)、  
(桜がやっと咲きそうな時に植えた主人が亡くなったので詠む/かは反語)

望之(もちゆき・狩谷)→ 校斎(えきさい・狩谷かりや、国学/漢学者) 1 3 0 7

望之(もちゆき・小田村)→ 廓山(くわくざん/ふざん・小田村/山本、儒者) 5 2 8 4

茂仲(もちゅう・林はやし)→ 徳則(とくのり・林はやし、大庄屋/海防) L 3 1 2 9

- B4477 持之(もちゆき・細川ほそかわ、満元2男/本姓；源) 1400-42/43 武将；従四下中務少輔/右京大夫、  
1429兄持元没後家督継嗣；細川家九代、1432管領/1442出家、歌人；室町幕府歌会に参加、  
1415「頓証寺法楽百首」/34後花園「永享百首」/37「聖廟一万句御法楽」出詠、  
1438「細川満元十三回忌法楽和歌」/41「松尾社法楽続歌百首」参加、飛鳥井雅世と交流、  
新続古4首(306/534/1425/1540)、後葉ごよう集入、謡曲作者；「浮舟」著作説(熊本作者註文)、  
[秋近きまがきの草の露までもなほ数みえてゆく螢かな](新続古今；夏306/雅世邸にて)、  
[持之(；名)の通称/法名/法号]通称；聡明九郎、法名；常喜、法号；弘源寺、勝元の父

- B4478 持之(もちゆき・岸大路きしおおじ・岸/本姓；橋)?-? 1775存 江中期京の国学者；正親町公通門、神道、  
1720「天香山講義」/74「祇園社考」/75「源氏闕卷六帖」著、61「古語拾遺春三草」編、  
1769「辨神道論」「婚姻世継草」、「神社集成」「洗潮齋藻塩草抄」「美會加草」外著多数、  
[持之(；名)の別名/号]別名；持亮もちすけ/磐丸/昭之、号；洗齋/洗潮齋

持之(もちゆき・羽倉/荷田)→ 在満(あいまろ・荷田かだ、歌学/故実) 1 0 3 4

望之(もちゆき・狩谷)→ 校斎(えきさい・狩谷かりや/高橋、国学/漢学者) 1 3 0 7

- B4479 持世(もちよ・大内おおうち、義弘男/本姓；多々良) 1394-1441/48 武将；周防・長門・豊前・筑前の守護、  
従四下刑部少輔/修理大夫、大内盛見没後その惣領職継嗣/弟持盛と家督争；1433弟を殺害、  
大友・少弐氏と合戦；九州を平定、1441赤松満祐が將軍足利義教謀殺時に重傷を負い没、  
歌人；新続古3首(509/671/1303)、連歌；新菟玖波集；6句入、  
[持世(；名)の幼名/通称/法号]幼名；安幸丸/九郎、通称；大内介、法号；澄清寺道嚴正弘

- B4480 以義(もちよし・清水しみず、通称；小兵衛)?-? 江前期元禄1688-1704頃土佐朝倉山の神道家；  
山崎闇齋門、1697「中臣祓千別抄」、「勸請伝」著、「術水鎮火式」「橋家術水之法鎮火之式」伝

- I4479 用吉(もちよし・近藤こんどう/本姓；藤原、木下利愛男)?-? 江後期；旗本近藤用明の養嗣子、  
近藤縫殿助家の家督嗣、養嗣子；用虎、歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[陰深くみどりそはりて松たてるよさの湊は春くれにけり](大江戸倭歌；春374)

持頼(もちより・細川)→ 持春(もちはる・細川/源、武将/歌人) B 4 4 5 6

- B4481 茂稚(もつひ・藤井ふじい、名；正容、別号；菊壺) 1778-1847/70 讃岐丸亀の俳人；蒼虬門、  
京・若狭但馬城崎を行脚、1831「笠着集」著/1841-42讃岐象頭山に奉灯「月並高点集」編、  
「花摘集」「松尾文庫」編著

- B4482 木海(もつかい・長谷川はせがわ、名；去敬、別号；雲律居士) 1760-1823客死 64 江戸の俳人；  
行脚中備後尾道の酒造業岡田陶然宅に寄寓；没、「摩訶畚」編、  
追善「雲律老人木海発句集」陶然とうねん編(梅臣校訂)、  
[すさまじや明日なきやうに花の散る](尾道千光寺句碑)

- B4483 物外(もつがい・道号・可什かじゅう；法諱) 1286-1363/78 臨濟僧；建長寺の南浦紹明じょうみょう門/嗣法、  
1320寂室元光・天岸慧広と入元/1329明極楚俊に従い帰国、筑前崇福寺11世/建長寺37世、  
江戸品川清徳寺など開山、建長寺天源庵に没、「物外以下諸師雜録」著、  
[物外可什の号/諡号]号；豊城、諡号；眞照大定禪師

- I4459 物外(もつがい・道号・性応しょうおう；法諱)?-1458 室町期信濃出身の曹洞僧、  
遠江大洞院の如仲天閻てんざん門/嗣法、今川了俊に招聘され遠江の海蔵寺の開山、  
出羽高玉の瑞竜院を開く

- F4453 **物外**(ものがい:道号・不遷ふせん:法諱、名;寅雄、藩士武田信茂男) 1795-1867 73 伊予松山の曹洞僧、幼時より怪力、1806安藝広島伝福寺の観光門、広島国泰寺住/武術修行(;塩辛小僧の称)、山城興聖寺の関浪磨輒まん門/1810大阪住;托鉢修行/儒学修学、1812諸国遍歴、1821山口瑠璃光寺の東林門/立職・長老、1822伝福寺観光の許に帰る、1828備後尾道済法寺住持/34備中玉野浦で雨乞、1861本因坊秀策と中四国を同道、65隠居/勤王志士と交流;第一次長州征伐の調停役、武術家/柔術;高橋猪兵衛満政門;浪花一甫流修得;のち不遷流を創始、鎖鎌;山田流修得、尾道済法寺への帰途大阪で客死、俳諧;句集「壬子扁大」著、逸話多し、  
[花や華春を擔かひいで歩行あゆみけり](短冊)  
[物外不遷の号/通称]号;泥仏庵、  
通称(渾名);塩辛小僧/拳骨和尚げんこつおしょう(画の署名に拳骨を押したor豪腕の為)  
物外(ものがい・莊司) → 正暢(まさのぶ・莊司しょうじ、国学者) Q 4 0 2 2
- L4419 **物外尼**(ものがいに/ぶつがいに;法諱・花月庵かげつあん) 1722?-1803? 81? 石見の生/山城愛宕郡の禅尼、歌人;京の小沢蘆庵(1723~1801)門、  
[郭公鳴く一声に大そらのくものゆくへを見はてつるかな](短冊)  
木瓜翁(もつかおう、木瓜亭) → 大庾(だいう・赤松あかまつ/大川、儒者) C 2 6 2 5  
木瓜子(もっかし・本多) → 思斎(しさい・本多ほんだ、藩儒官) T 2 1 4 9  
木下堂(もっかどう) → 吐屑(とせつ・木下堂、俳人) O 3 1 3 3  
黙居(もつきよ・小田) → 玄蛙(げんあ・小田、医者/俳人) H 1 8 5 9
- B4484 **木橋**(もつきょう;道号・澄円ちやうえん;法諱、俗姓;大島) 1651-1731 81 肥前鍋島村の曹洞僧:  
1666肥前高伝寺湛然門:出家、加賀大乘寺の月舟宗胡門;嗣法、1693山城真成院住持、1728河内に徳寿庵開創;没、「参同契宝鏡三昧略解」「木橋澄円禅師語録」著
- B4485 **木鶏**(もっけい) ? - ? 江戸俳人:芭蕉門、1680「桃青門弟独吟廿歌仙」入  
B4486 **木啓**(もっけい) ? - ? 俳人、1752刊「江戸十余歌仙」独吟歌仙入  
B4487 **木鶏**(もっけい・江幡えはた) ? - 1862 羽後秋田大館の儒者:皆川淇園学派、易学に精通、天文・地理・数理に長ず、農耕を重視;荒蕪地開拓に尽力、平田篤胤と親交、「易学木鶏自解」「詩経私説」「天文術」「国語参考」「左伝国字解」「大学経文解」「数理学」著、  
[木鶏(;号)の通称] 愛之助  
木鶏(もっけい・正木) → 昌陽(まさはる・正木まさき、藩士/国学者) S 4 0 5 5  
木雞(もっけい・上村) → 正之(まさゆき・上村うゑむら/石黒、藩士) I 4 0 2 2  
黙兮(もっけい) → 梅老(ばいろう・中根なかね、俳人) C 3 6 3 8  
木鶏子(もっけいし) → 風悟(ふうご・松尾/松、藩士/俳人) 3 8 5 6  
黙軒(もっけん・前波まえば) → 黙軒(もくけん・前波まえば、歌人) 4 4 7 7
- B4488 **木公**(もっこう・丹羽にわ、名;喜之) 1780-1863 84 上州桐生の俳人:桐園詠帰門、桐生俳壇で活動、「ふき駄之」著、  
[木公(;号)の通称/別号]通称;長右衛門、別号;白山亭  
木工(もっこう/もく・小谷) → 時宜(ときよし・小谷おたに、歌人) U 3 1 4 1  
木公庵(もっこうあん) → 公庵(こうあん・滝沢たきざわ、医/本草/歌) H 1 9 2 6  
木公園(もっこうえん) → 直胤(なおたね・正宗まさむね、国/狂歌/俳) B 3 2 6 2  
木公園(もっこうえん) → 御牆(みかき・布施ふせ、藩士/典故) 4 1 5 4  
木公山人(もっこうさんじん) → 宣順(せんじゆん;法諱、天台僧) M 2 4 5 2  
目耕肘書斎(もっこうちゆうしよさい) → 拙斎(ちゆうさい・渋江しぶえ、医者/考証学) G 2 8 0 9  
木工蔵人(もっこうのくろうど→もくのくらひと) → 内匠(木工たくみ、女蔵人/歌人) O 2 6 1 7
- B4489 **木香屋らん**(もっこうやらん:仮託) ?-? 江前期戯作者;風俗記作者、  
1693「茶屋諸分調方記ちややしわけちやうほうき」夫の色本屋いろもとや九郎介と共編;本屋の匿名?  
勿斎(もっさい/ぶっさい・新井) → 白石(はくせき・新井、儒者/幕政参画) 3 6 1 0  
勿斎(もっさい/ぶっさい・近藤) → 篤山(とくざん・近藤、儒者) K 3 1 7 7  
勿斎(もっさい/ぶっさい・岡谷) → 義端(ぎたん・岡谷おかや、藩士/書家) L 1 6 1 5  
勿斎(もっさい/ぶっさい・高橋) → 道斎(どうさい・高橋、儒者/詩文) E 3 1 3 7  
勿斎(もっさい・井野) → 審卿(しんけい・井野/村瀬、藩士/儒/書) O 2 2 0 2

- B4490 **物先**(もつせん:道号・周格しゅうかく:法諱)1331-9767 日向の臨濟僧:夢窓疎石門;法嗣、建仁寺64世、1394相国寺7世、同寺内に含潤軒創設;退隱、西山に会雲院開創;没、「入寺法語並詩偈集」著
- B4491 **物先**(もつせん:道号・元機げんき:法諱)1655-171763 越中の曹洞僧;高岡の永安寺4世、「物先元機語録」著
- B4492 **物先**(もつせん:道号・海旭かいぎょく:法諱)1736-181782 岩代臨濟;月船門/1787江戸東輝庵住、1783「武溪集」編、「栗棘蓬」著
- 勿用齋(もつようさい) → 永理(えいり・武川・礪川亭、絵師) C 1 3 0 7
- 茂貞(もてい・吉田) → 茂貞(しげさだ・吉田よしだ、藩士/弓術家) R 2 1 0 0
- 茂貞(もてい・光岡/高須) → 松亭(しょうてい・高須たかす/光岡、蘭医) L 2 2 0 0
- 茂貞(もてい・西村) → 馬曹(ばそう・西村にしむら、歌人/俳人) E 3 6 7 6
- 茂楨(もてい・大槻) → 磐里(ばんり・大槻おおつき、医/蘭学者) 3 6 6 5
- 茂亭(もてい・村上) → 英俊(えいしゅん・村上、医者/語学者) C 1 3 9 4
- 茂庭(もてい・加茂) → 茂庭(しげにわ・加茂かも、神職/国学) N 2 1 8 9
- 茂泥子(もていし;号) → 浄寿(じょうじゅ;法諱、仙門せんもん;道号、黄檗僧/伝記) J 2 2 5 1
- 茂都(もと) → 望一(もち・杉本、俳人) 4 4 0 1
- 茂登(もと・岡谷) → 喜津(きつ・岡谷おかや、漢学/教育者) L 1 6 3 9
- もと(・浦野/野村) → 望東尼(ぼうとうに/もとに・野村、歌人/勤王派) 3 9 5 7
- B4493 **基頭**(もとあき・園その/本姓;藤原、初名;基世、基氏男)1238-131881 母;藤原隆忠女、基藤の父、鎌倉期廷臣;左近権中将/備前守/播磨守/蔵人頭/正四下/1281(弘安4)参議/82従三位、1284参議辞任;右衛門督/本座/正三位/88(正応元)従二位;督停止/91正二位、1294(永仁2)出家(法名;寂眞)、家伝の琵琶・生花に精通、歌人:1259後嵯峨院[正嘉三年北山行幸和歌]入、勅撰9首;新後撰(1297/1423/1485)玉葉(384/710/2133)続千(1879)風雅(1686)新千(538)、[今は世に誰かは我を招くべき情けありける花すすきかな](新後撰;雑1297/前右衛門督)
- J4419 **元暁**(もとあき・石居い、通称;半平/号;退翁)1672-174271 近江彦根藩士/歌人;沢村維頭門 仏教を信仰/儒学にも通ず
- B4494 **元章**(もとあき・桑名くわな、通称;文蔵、元春男)1715-4733 京の儒者;三宅尚斎門/仙台藩主に進講、藩命により神道;三木主殿門、「公辺雑録」著
- B4495 **基明**(もとあき/もとあきら・齋藤さいとう、基永[観意]男/本姓;藤原)?-? 鎌倉後期武家;従五下/大夫、左衛門尉、基有/基任/基世の弟、歌人:臨詠集・松花集入集、勅撰3首;続千載(1106)続後拾(1052)新千載(1800)、[我ばかりこがれて思ふかひもなし恋のけぶりのよそに見えねば](続千載;恋1106)
- B4496 **元章**(もとあき・中島なかじま) ? - 1818? 美作苦田郡一宮村の大庄屋(代々)、傍ら歌人・郷土史に精通、1785「美作古城記」著、[元章(;名)の通称]徳之助/徳助/篤助
- B4497 **元章**(もとあき・齋藤さいとう、羽田野九郎右衛門男)1765-181248 三河吉田の和算家;齋藤一握門、中立ちゅうりつ(一握)の女婿;齋藤家を継嗣、1805「算法諸約術」編/「算法招差法」序、「一周零約類」著、[元章(;名)の通称]九郎左衛門(;養父の称)
- B4498 **其章**(もとあき・谷たに) ? - ? 江後期江戸の医者、俳人谷素外[1734?-1823]の孫、漢学;松浦篤所門、1823「傷寒論辨眞」編/24「傷寒論筆得」、48「医則」、「売薬余言」外著多数、[其章(;名)の字/通称]字;司貞、通称;元圭  
祖父 → 素外(そがい・谷たに/池田、商家/俳人) D 2 5 4 0
- B4499 **基明**(もとあき・野津のづ、政屋まさい男)1803-7674 近江彦根藩士;1818家督嗣/53竹奉行/59隠居、1864藩校弘道館軍学世話方/68礼節御用掛、陰陽道;土御門晴親門/軍学・礼法・歌に通ず、1844「彦根歌人伝」編、「彦根纏記」「桑華銘彙」著、[基明(;名)の字/通称/号]字;龜舎、通称;藤次郎/文内/豊、号;龜齡
- C4400 **元昕**(もとあき/げんきん・多紀たき、元胤男/本姓;丹波)1806-5752 医者;父祖の学修得、幕府侍医;父を継嗣、法眼、弟元佑を嗣子とす、「暁湖ぎょう詩集」「日光大王扈從記」著、[元昕(;名)の字/通称/号]字;兆寿、通称;安良、号;暁湖



- L4435 **基明**(もとあき・増田ますだ、)1833-1887<sup>55</sup> 信濃伊那郡の国学者;平田鍊胤門、歌人、のち波合なみあい村戸長、  
[基明(;)名)の通称/号]通称;平八郎、号;竜山/槐廼舎かいのや/淳/榎莊生
- K4487 **元章**(もとあき・半井なからい、梧庵[忠見]長男)1841-63<sup>早世</sup>23 伊予今治の医者/国学・歌人、眞澄の兄
- C4401 **元章**(もとあき・箕浦みのうら、時方[居南]男)1844-68<sup>切腹</sup>25 高知城下潮江村の生/土佐藩士;  
1854江戸遊学/1860(17歳)藩主山内豊信の侍講/帰国後;藩校致道館助教、  
1867歩兵第六隊長として上京/68和泉堺で警備中隊員と仏船デュプレー号乗員と衝突、  
仏兵十数人殺傷[;堺事件]の責任者として堺妙国寺で切腹、「箕浦猪之吉日記」、  
[元章(;)名)の通称/号]通称;猪之吉、号;仏山
- 基頭(もとあき・小林) → 依兮(いけい・小林こばやし、商人/俳人) C 1 1 2 0
- J4452 **基明**(もとあき・大沢おおさわ、尚親男)1668-91<sup>早世</sup>24 江戸幕臣;高家旗本/1689(元禄2)遺領継嗣;  
侍従、播磨守従五下、歌人、妻;本庄宗資女、基隆の父、  
[梅の花立枝は余所に霞むとも袂にしるく匂ふ春かぜ](茂睡[鳥の迹]春33)、  
[基明(;)名)の通称]友之助/主水/播磨守
- C4402 **元朗**(もとあき・水野みずの、藩家老水野重寛男)1692-1748<sup>57</sup> 出羽庄内藩士;1730家督嗣/組頭、  
日光廟修理総奉行/1742家老;藩主酒井忠寄の信任厚い;千五百石、農政/儒者、  
儒;朱子学のち徂徠学に傾倒;太宰春台にい兄事;庄内徂徠学の基礎を築く、  
1743-48「台伸録」、「華陰大夫朋友論」、徂徠との書翰集;1727「徂徠先生答問書」入、  
[元朗(;)名)の字/通称/号]字;明卿、通称;嘉七郎/弥兵衛/勘解由/大膳、号;華陰
- C4403 **元章**(もとあき・観世かんぜ、初名;清温、観世織部清親男)1722-74<sup>53</sup> 能楽観世大夫15世、  
国学;能の考証、賀茂真淵・田安宗武の助力で謡詞章・記譜法の大改訂;  
1765「明和改正謡本」刊行、演出改訂、観世座の隆盛を不動のものとする、  
1764「小謡梁塵集」編/65「二百拾番謡目録」編、72「習道書」、「観世流謡作者一覧」編、  
[元章(;)名)の通称/法名]通称;三十郎/左近、法名;宗住
- C4404 **素淳**(もとあき・脇わき、脇蘭室の伯父の男)?-? 江後期儒者;蘭室の養子、有貴ありたかの義兄、  
1809「跋渉記」著、号;遠記?
- C4405 **職厚**(もとあき・平田ひらた/家名;出納、初名;職孝、職俊男/本姓;中原)1774-1820<sup>47</sup> 江後期廷臣/官人、  
代々蔵人所出納の職、1783正六上/右近将監/1805内蔵権頭/09従四下/11伯耆守兼任、  
故実家、1784-1820「平田職厚日記」1792「本陣一会日記」97-98「右近府本陣之義一会日記」著、  
1801「大神宮臨時奉幣記」07「亮深伝法灌頂之記」10-11「恵仁親王御元服一会日記」外記録多、
- C4406 **帰厚**(もとあき・松岡まつおか、初名;定直、定安男/本姓;越智)1791-1851<sup>61</sup> 京の神祇官吉田家の家司、  
古学・歌;香川景樹門、「書紀愚考」/「愚記」著、松岡雄淵(仲良)の孫、1851(嘉永4)没、  
[帰厚(;)名)の通称]左内
- C4407 **基有**(もとあき・齋藤さいとう、基永[観意]男/本姓;藤原)?-? 鎌倉後期武家;関東引付衆/左近将監、  
従五下、基任/基世/基明の兄、歌人/勅撰3首:玉葉(2010)続千載(1409/1968)、  
[長き夜になほあまりある思ひとや明けてもしばし虫の鳴くらん](玉葉;雑2010)
- C4408 **職在**(もとあき・平田ひらた/家名;出納、職忠男/本姓;中原)1601-86<sup>86</sup> 母;河越宗也女、廷臣/官人、  
代々蔵人所出納の職、1608従五下・左近将監/26豊後守/27明法博士/57従四上、故実家、  
「出納中原職忠職在日記」、1634-51「平田職忠職在日記」著、号;伴拙
- J4495 **元有**(もとあき・小林こばやし、旧姓;林)1760-95<sup>36</sup> 江中期;近江栗太郡の生、常陸信太郡の国学者、  
「常陸名勝志」「淡海紀行」著、  
[元有(;)名)の別名/字/通称/号]別名;明德、字;隣卿/文仲、通称;半七/平七郎、  
号;桜所/緑樹園  
☆緑樹園元有(?-1861/狂歌名;商元有あきないのもとあり)とは別人;同族/息子か?、  
→ 緑樹園(りよくじゅえん・小林元有、商家/狂歌) J 4 9 7 7
- C4410 **基**(もとい・松原まつばら、厚見男)?-1820 代々出雲松江藩士;父早世のため祖父定右衛門の遺知継嗣、  
1773家督嗣/79江戸表番方/81扈從番頭役兼書所勤務/90格式中老;仕置添役、  
1803当分奏者雇/1815致仕、儒(朱子学):桃白鹿・西河門/古文辞学に転;宇佐美瀧水しんか門、  
「国令」編/「銷暑漫筆」「続銷暑漫筆」著  
[基(;)名)の幼名/通称/号]幼名;万五郎、通称;杵もく、号;小翁

- C4409 **基**(もとい・田島たじま) ? - ? 江後期筑前の和算家:内田五観門、  
1848「乗除八線掌中対算表」著、「安島直内田観斎両氏綴術策」「帰一堂余算」編、外編著多
- C4411 **基**(もとい・五十川いそかわ/いかわ、福山藩医五十川義則[葦水]男) 1844-7330 備後福山の医者；  
漢学者五十川詔堂じんどうの甥、1860藩校誠之館の医学専念を命じられる、  
江戸の幕府洋書調所(開成所)・医学所で修学、1866誠之館洋学世話役、  
1869藩立病院同仁館設立に尽力、1870米国留学/72帰国、1866「林戦要録」訳、  
[基(；名)の通称/号]通称；基之丞/芳之丞、号；米里
- M4423 **基家**(もといえ・藤原ふじわら、参議兼経男)?-109370歳前後 母；藤原隆家女、藤原北家道綱流、  
平安後期廷臣；1040左近少将、正四下/左近中将/1062民部大輔/73三河守・87周防守、  
後三年役翌年源義家後任として1088(寛治2)陸奥守；在地勢力藤原清衡の動向を報告、  
1093(寛治7)任地にて没、贈正三位?、実保の父/顕仲(資仲男)の養父、  
1051(永承6)内裏根合；右方頭中将源資綱より1丈3尺の根を受け御前に置く役(袋草紙)
- 4411 **基家**(もといえ・藤原ふじわら、通基男) 1132-121483 母；源師隆女的一条(城西門院の乳母)、  
平安末鎌倉期廷臣；1172従三位/88権中納言/90正二位/1202出家、1191「基家卿記」著、  
女は内大臣実宗の室、[基家(；名)の号]号；持明院、法名；眞智
- C4412 **基家**(もといえ・九条くじょう、良経男/本姓；藤原) 1203-8078 母；摂政松殿藤原基房女の従二位寿子、  
鎌倉期廷臣；1217従三位/20権大納言/21正二位/37内大臣/38致仕、詩歌人；反御子左派、  
1225「基家家三十首」催/53-4「雲葉和歌集」撰/56「百首歌合」催、1261頃「弘長百首」共撰、  
1265「続古今集」撰者の1、72「和漢名所詩歌合」著(すべて自作自撰の詩歌/絶句35・歌70)、  
1268-71頃「新時代不同歌合」撰、「屏風詩歌」撰、「古来歌合集」撰(散佚)、  
1232洞院摂政家百首・36遠島御歌合・48宝治百首参加/万代集・秋風集・和漢兼作集入集、  
自撰の雲葉集には9首入(前内大臣名)、  
勅撰79首；続後撰(8首133/175以下)続古(21首155/389/460以下)続拾(20首22/63以下)、  
新後撰(6首249/254以下)玉葉(2首841/2009)続千(535)続後拾(3首)以下、  
[惜しまずはあだなることもつらからじなにか花におもひそめけん](続後撰；春133)、  
[基家(；名)の幼名/通称]幼名；鶴殿、通称；月輪つきのみ/後九条内大臣のちのくじょうのいだいじん、
- J4493 **元礼**(もといや・黒瀬くろせ、与三右衛良言男) 1764-184582 備中倉敷の商家；成羽屋、淳の弟；家督嗣、  
国学者、妻；熊越家の女、義路よみちの父、家伝の謡曲に精通、1788(天明8)敷義倉の世話役、  
[元礼(；名)の通称/号]通称；周助/与三右衛(代々の称)、号；敬甫/恭斎
- C4413 **茂東**(もとう・竹内たけうち) ? - ? 尾張の医者/俳人；兄塊翁門；大鶴庵を継嗣、  
1826「飛濃紀佳散」編/46「大塊集」編、  
[茂東(；号)の別号] 三日月庵/大鶴庵  
茂棟(もとう・北角) → 茂棟(もちかど・北角/鈴木、幕臣/歌人) M 4 4 1 9  
茂道(もとう・武嶋) → 茂道(もちみち・武嶋/菅原/丸橋、幕臣) B 4 4 7 2
- C4414 **基氏**(もとうじ・園その/本姓；藤原、初名；家教/法名；円空、藤原基家男) 1212-8271 母；舞女の阿古、  
鎌倉期廷臣；1231参議従三位/32右衛門督兼任/檢非違使別当/33正三位/34出家(；円空)、  
園その家の祖、妻；藤原隆忠女/基頭もとあき・基有・基重・西園寺公相室・一条実経室の父、  
歌人；雲葉集入、四条流包丁者；徒然草231段の[園の別当入道]に擬される、  
勅撰20首；続後撰(197/1048/1265)続古(1453/1600/1693)続拾(5首)以下、  
[今はまたさきみぬらしいその神ふるのあらたに早苗とるなり](続後撰；四夏197)
- C4415 **基氏**(もとうじ・足利あしかが、尊氏男/本姓；源) 1340-67早世28 母；北条久時女の登子、  
武将；父命で関東住、南朝方新田義興・畠山国清・宇都宮氏綱を討伐；  
関東支配体制を確立；1349初代鎌倉公方、1364従三位/左兵衛督、歌；冷泉為秀門、  
義堂周信と親交、室町幕府2代将軍義詮の同母弟、  
勅撰19首；新千載(5首163/403/788/1085/1158)新拾(9首180/277以下)新後拾(4首)以下、  
[滝つ瀬は霞のそこに音たえて雲より落つる花の白波](新千載；163/滝辺花)、  
[基氏(；名)の幼名/通称/法号]幼名；亀若丸/光王丸、通称；瑞泉寺殿、法号；玉巖道听
- L4422 **元氏**(もとうじ・北条ほうじょう、氏長うじなが2男) 1634or38-9865or61 江戸の幕臣/旗本、氏平の弟、  
父(1609-70/軍学者)の没後分知を受け別家を興す；従五下播磨守、持弓組頭、北条流兵法、  
国学者、妻；小堀政尹女；死没/後妻を娶る、家督は弟の氏如(常安/1666-1727/儒学者)が嗣、

- [元氏(；名)の初名/通称]初名；泰繁、通称；左近/新左衛門/播磨守  
元氏(もとうじ・細川) → 清氏(きよじ・細川/源、武将/歌人) C 1 6 5 3
- C4416 **元克**(もとえ・萩原はぎはら、元翼男/本姓；佐藤) 1749-1805 57 甲斐山梨郡田中村の国学者；  
初め加賀美光章門、1787本居宣長門、同郷の上野広陵・堀内憲時と上方を遊学；  
蒐集した歌学書を甲斐に持帰る/故郷で子弟教育、1772「西遊記行」著、  
1783地誌「甲斐名勝志」/1789(天明6)「駿河国庵原郡蒲原郷稚宮代明神奉納十二首」揮毫、  
1789「孝女久能伝」/96「熱海記行」/99「和歌道の枝折」/1801「正誤秋の寝覚」、「道之論」著、  
「万葉類語」「歌体約言」「萩舍翁殊音同帰」「萩の屋家集」「本居元克問答；問」著、  
歌；本居大平「八十浦の玉」中巻に5首入、  
[真玉なす柳のうれの白露をちらさず見せむ君も来ぬかも](八十浦；405/柳)、  
[元克(；名)の字/通称/号]字；士讓/思敬、通称；徳兵衛/源兵衛/平吉/平吾、  
号；静斎/萩屋はぎのや/萩廼家、法号；慧日院
- C4417 **基楨**(もとえだ・東園ひがしぞの、初名；基廉、基長男/本姓；藤原) 1706-44 39 母；藤谷為茂女、  
1733改名；基楨、廷臣；1735参議/37権中納言/40正三位/44致仕、  
1727-29「基楨卿記」、「放生会記」著、法号；清体院  
もと枝(もとえだ) → 香以(こうい・細木ほそき/さいき、商家/俳人) 1 9 7 0  
本右衛門(もとえもん・倉田) → 宗倫(むねみち・倉田くらた、剣術家) C 4 2 5 2  
本右衛門(もとえもん・池上) → 邦孝(邦考くにたか・池上いけがみ、商家/国学) E 1 7 0 0  
本右衛門(もとえもん・勝部) → 朝矩(ともり・勝部かつべ、大庄屋/歌人) U 3 1 7 7  
本右衛門(もとえもん・勝部) → 栄忠(しげただ・勝部かつべ、大庄屋/歌人) O 2 1 0 3  
本右衛門(もとえもん・勝部) → 景浜(かげはま・勝部かつべ、栄忠男/大庄屋/歌人/絵師) U 1 5 2 9  
本右衛門(もとえもん・平井) → 雪旭(せつきよく・平井ひらい、紺屋/絵師) O 2 4 2 4  
元右衛門(もとえもん・小林) → 義兄(よしえ・小林/藤原、歌/博物学) C 4 7 2 4  
元右衛門(もとえもん・廬) → 草拙(そうせつ・廬ろ、漢学/天文家) C 2 5 3 5  
元右衛門(もとえもん・熊谷) → 令徳(よしのり・熊谷くまがい/宮崎、藩士/歌) M 4 7 5 9
- C4418 **基雄**(もとお・後藤こう、基宗男/本姓；藤原) ?-? 鎌倉・南北期武家；六波羅評定衆/五位/老岐守、  
歌人；風雅集1614、基頼の孫、  
[山川のいはまに残る紅葉ばのしたにはすけるうすごほりかな](風雅集；十五雑1614)
- C4419 **基雄**(もとお・斎藤さいとう/本姓；藤原) ?-? 室町幕臣；1508奉行人/散位/美濃守、  
歌；1503-5「武家歌合」参加(10首)、  
[春来ても富士のねおろしさえかへりむらむら霞む浮島が原](武家歌合；三番左)
- K4479 **徴雄**(もとお・中野なかの、) 1729- 1815 87 近江彦根藩士、歌人；[彦根歌人伝・鶴]入、  
[徴雄(；名)の通称/号]通称；千次郎、号；讓翁
- K4486 **元緒**(もとお・長沢ながさわ、旧姓；井上) 1782-1839 58 上野前橋の商家；伊勢崎藩御用、桐生住、  
歌人；橘守部門、正緒・春江の父、  
[元緒(；名)の通称/号]通称；兵助/新助、号；翠斎/翠廼舎/一万堂朝市始丸(狂号)
- K4442 **元雄**(もとお・高宮たかみや、旧姓；柿原) 1819-70 52 筑後山門郡の医者/久留米藩医  
[元雄(；名)の別名/通称/号]別名；康臣、通称；勇三郎/玄純、号；桃廼舎/寒松堂鶏窓
- L4425 **本雄**(もとお・真川まがわ/本姓；藤原、) 1828-1902 75 伯耆の生/国学・歌；伊達千広・平田鏡胤門、  
国学；井上頼囿門、京住/神道；大坂の生国魂神社祠官/のち黒住教で活動、  
[本雄(；名)の初名/通称/号]初名；本典、通称；侍郎、号；富士廼舎/鉄所  
元雄(もとお・藤原、「ふたくさの道記序」) → 歌城(うたき・小林おぼやし、国学/歌) 1 2 6 6  
元雄(もとお・田村) → 藍水(らんすい・田村登、本草家) C 4 8 7 2  
元雄(もとお・小林) → 歌城(うたき・小林おぼやし、幕臣/国学者) 1 2 6 6  
元雄(もとお・下郷) → 亀世(きせい・下郷しもさと、造酒業/俳人) B 1 6 3 4  
基雄(もとお・持明院) → 基雄(もとかつ・持明院/藤原、書家) C 4 4 3 8
- L4413 **元興**(もとおき・平井ひらい、字；薰一/通称；文四郎/号；藍山) ?-1758 江中期伊勢の儒者；伊勢久居藩儒、  
歌人；烏丸光胤(1721-80)門
- L4426 **元興**(もとおき・真佐木まさき、通称；利右衛門/号；倭文舎しずのや) ?-? 江後期；大坂の国学者；  
国学・歌；加納諸平(1806-57)門



- 元起(もとおき・中村) → 黒水(こくすい・中村、儒者) G 1 9 4 9  
 元起(もとおき・海保かほ) → 竹逕(ちくけい・海保、儒者) C 2 8 9 0  
 元興(もとおき・浜武/本田) → 治兵衛(じへい・浜武はまたけ、宿老/洋砲) V 2 1 6 2
- C4420 **職修**(もとおき・平田ひらた/家名; 出納、職寅もとり男/本姓; 中原) 1817-? 1867存 母; 牧義謙女、  
 廷臣/官人; 代々蔵人所出納の職、1825正六上・右近将監/32伯耆守/51従四下、故実家、  
 1834-「平田職修日記」1858「伊勢両宮御神宝図」48「因幡堂開帳勅会一会之記」、  
 1863「大和国行幸一会記」65「例幣社頭次第」66「祇園臨時祭一会之記」外著多数
- C4421 **基香**(もとかげ・園その/本姓; 藤原、基勝男) 1691-1745 55 母; 雅喬王女、基衡の父、江前・中期廷臣;  
 1715参議/17従三位/24権大納言/34正二位、1715「白馬節会申沙汰雑誌」著、  
 1728「園大納言藤基香卿記」/29「園基香関東下向記」、「能御覧催雑誌」著
- C4422 **元景**(もとかげ・橋たちばな、浦うら左仲男) 1776-1847 72 阿波板野郡藍住町勝瑞しょうずいの農家、  
 1792(17歳)上京、医学: 小林順堂・橋南谿門、南谿女を娶り橋家の養嗣、  
 4年後帰郷; 勝瑞しょうずいで開業; 徳島藩侍医格、  
 「養生小語」著、[元景(;名)の字/通称/号]字; 子張、通称; 遊仙、号; 春庵、
- K4439 **本蔭**(もとかげ・高橋たかはし、通称; 武兵衛) 1779-1836 58 上野群馬郡北下の国学者/歌人; 長歌に長ず  
 元景(もとかげ・藤井) → 素月(そげつ・藤井ふじい、華道家/俳人) D 2 5 6 7
- C4423 **職員**(もとかげ・中原なかはら/家名; 平田、初名; 職成、職仲男?) ?-? 鎌倉期廷臣/官人; 伯耆守/東市正、  
 院主典代/正五下、応長311-12頃改名; 職員、1338「職員記」、「石清水賀茂臨時祭之記」著
- C4424 **基数**(もとかげ・持明院じみょういん/本姓; 藤原) ?-? 1495存 戦国期廷臣; 1490従四下/95従四上、  
 連歌; 新菟玖波集2句入
- C4425 **元数**(もとかげ・若槻わかつき/本姓; 源、通称; 七郎) ?-? 戦国期武将; 1495頃細川家家臣、  
 連歌; 新菟玖波集2句入
- C4426 **基量**(もとかげ・東園ひがしぞの、基賢男/本姓; 藤原) 1653-1710 58 廷臣; 1679参議/97権大納言、  
 1704正二位、故実家; 野宮定基・平松時方・滋野井公澄と有職四天王と称される、  
 「元服最要鈔」「詠歌大概御講釈聞書」「基量卿記」著、法号; 大円院、基長の父
- C4427 **幹員**(もとかげ・佐藤さとう) ?-? 江後期伊勢山田の富豪、詩人; 山田詩社同人、  
 1813菅茶山の廉塾門、北条霞亭・山口凹巷と交流、俳諧・茶道にも精通、  
 「守武社奉納俳諧独吟千句」、「杞菊園遺稿」、  
 [幹員(;名)の字/通称/号]字; 子文/士文、通称; 吉太夫、号; 不除軒/杞菊園/杞菊軒
- C4428 **東倭**(もとかげ・丸橋まるはし) 1782-1869 88 上州吾妻郡岩島村三島の農業、和算家; 小野栄重門、  
 1830関流七伝の免許; 門人多数、「算術点竄録」「関流算経」「町見測量算全」「弧度算全」著、  
 [東倭(;名)の通称] 雄次郎
- I4487 **元和**(もとかげ・板垣いたがき) ?-? 江後期; 歌人、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [更け行けばなほ涼しさもまし水に光りをうつす夏の夜の月]、  
 (大江戸倭歌; 夏537/夏月映泉)
- J4454 **元一**(もとかげ・大竹おたけ/本姓; 藤原、旧姓; 武藤) 1828-1903 76 陸奥(岩代)会津藩士、  
 歌人; 野矢常方・太田垣蓮月門、のち北海道色内住、  
 [元一(;名)の通称] 右衛門/作右衛門
- J4498 **元量**(もとかげ・後藤ごとう、通称; 佐内) 1836-95 60 出雲大社神職; 北島国造附/大社禰宜、  
 維新後; 大社教権中教正、国学・歌; 島重胤(重養しげかい)・佐々鶴城たづき門  
 源一(もとかげ・片桐) → 源一(げんいち/もとかげ・片桐かたざり、源栄男/歌人) H 1 8 7 0
- C4429 **躬風**(もとかげ・谷口たにぐち、金兵衛男) 1798?-1838 40歳余 出羽庄内鶴岡の国学者/歌人、  
 和漢学・歌; 池田玄斎門/歌; 白井固かたし門、歌文に長ず、  
 1820「かくも草」著、通称; 金兵衛(;父の称嗣)  
 元風(もとかげ・芥川) → 寸艸(すんそう・芥川/小野寺、幕臣/歌) 2 3 2 1
- C4430 **元方**(もとかげ・在原ありわら、棟梁男、業平孫) ?-? 913存 平安前期廷臣; 藤原国経の猶子、正五下、歌人、  
 家集「元方集」(断簡)、古今集巻頭歌人、二宮歌合・寛平御時后宮・定文家歌合・亭子院歌合入、  
 勅撰33首; 古今(14首1/103/130以下)後撰(8首109/368以下)拾遺(46/379)新古(1617)以下  
 [年の内に春はきにけりひとゝせを去年こそとやいはむ今年とやいはん](古今; 冒頭歌)、

大和物語の戒仙と同一? → 戒仙(かいせん、かいせう、後撰集歌人) B 1 5 1 0

- C4431 **元方**(もとかた・藤原ふじわら、菅根男) 888-953 66 母;藤原氏江女、平安前期廷臣;939参議、民部卿、942中納言/951大納言/正三位、致忠・陳忠・由忠・克忠・全忠・懷忠・村上天皇女御祐姫の父、娘の祐姫が広平親王を産み将来を期待したが藤原師輔女安子が憲平親王を出産、落胆の内に没;怨霊となり憲平親王(冷泉天皇)に祟る(栄花物語入)、歌人;921-22醍醐御時内裏菊合参加、  
[色深くをしみぞとむる菊の花世を経てみよと霜はおかなむ](醍醐菊合:17)
- C4432 **基賢**(もとかた・東園ひがしぞの/本姓;藤原、法名、権大納言園その基音男) 1626-1704 79 東園基教の養嗣、廷臣;1655左中将・蔵人頭正四上/56参議/57従三位/61正三位権中納言/69権大納言、1672従二位;致仕/73正二位/86出家、「幡枝山荘の記」「基賢卿記」「嵯峨道之記」著、歌;1679京極高門「隅田川十五番歌合」判詞、  
[基賢(;名)の号/法名/法号]号;醉眠、法名;常算、法号;了真院  
俳人駒角と同一説あり?→ 駒角(くかく、俳人) 1 7 4 0
- C4433 **太賢**(もとかた・ひろかた・ふとかた・浅利あさり) ?-? 江前期貞享元禄1684-1704頃京の神道家;白川雅光王門、1685「芋手巻」/86「六根清浄祓別勘」94「遠美衣」1700「神代和訓集成鈔」20「神道纂言上帯」、  
[太賢(;名)の通称/号]通称;甲斐守、号;日峯軒
- C4434 **幹方**(もとかた・下村しもむら) 1704-1772 69 加賀金沢の和算家;西永広林門/三池流算法を修学、金沢藩の御算用場に出勤/小頭に昇進;新知80石、1768「算法積物」「積物式解」、1770「段数明解口授」編、[幹方(;名)の通称] 与左衛門/九郎太夫
- C4435 **職方**(もとかた・平田ひらた/家名;出納/本姓;中原、小佐治光枝男) 1740-78 39 平田職甫もつねの養嗣子、平田家は代々蔵人所出納の職/廷臣/官人;1748正六上/左近将監/63大和守/76従四下、故実家、1749-69「平田職方日記」/1750「桜町院尊儀凶事方日次一会雑記」著、1775「仁和寺宮深仁親王御灌頂之記」、「桃園院聖忌懺法講一会之記」外記録多数、職俊の父
- C4436 **元堅**(もとかた/げんけん・多紀たき、元簡男/本姓;丹波) 1795-1857 63 医者;家学修得;兄とは別一家を興す、幕臣の奥医師/法印、医学館教授兼任、狩谷椽斎・吉田篁墩の漢籍古典研究会に参加;椽斎没後は元堅別宅を会場、「丹羽元堅集」「金匱要略広要」「時還読我書」「証治通義」著、1820-24「奚暇斎随筆」/27「傷寒論述義」46「素問紹識」56「雑病広要」「女科広要」、外編著多、喜多村香城こうじょう・小島学古と三名医と称さる、  
[元堅(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;鋼之進、字;亦柔、通称;安叔、  
号;楽真院/楽春院/菫庭しい/三松、法号;顕照院、元胤の弟、元琰げんえんの父
- J4424 **元固**(もとかた・石原いしはら、) 1840-1895 56 下総香取郡小御門村の村吏、国学/歌;鈴木雅之門、  
[元固(;名)の通称] 栄助/常右衛門  
元堅(もとかた・野田) → 白石(はくせき・野田、醸造業/詩/狂歌) D 3 6 4 7  
元方(もとかた・佐野) → 琴嶺(きんれい・佐野さの、藩士/漢学者) I 1 6 4 1  
元方(もとかた・山崎) → 宗徳(そうとく・山崎/多紀、幕府/鍼医) I 2 5 5 9
- L4477 **元勝**(もとかた・安見やすみ、勝之長男) ?-?寛永年間1638-42頃没 江前期加賀金沢の武将/加賀藩士、父(加賀前田家臣)を継嗣;6千石、安見流砲術;父門、田付景澄・稲富祐直と砲術3傑、大坂陣で主君前田利常に随い足軽頭で鉄砲隊を率る;戦功加増;1万4千石、歌・書に通ず、1625隠岐に改称、妻;佐久間信栄女、伊織の兄、隠岐(父の称を嗣)の父、1633(寛永10)頃能登鹿島郡能登島へ配流;病没(配流理由不詳)、息子隠岐も父同様に配流、元勝の孫与左衛門は主君綱紀に出仕;3百石/曾孫は2百石、  
[元勝(;名)の通称]右近/隠岐
- C4437 **基勝**(もとかた・園その/本姓;藤原、法名;義観、基福男) 1663-1738 76 母;中御門尚良女、江前・中期廷臣;1687参議/89従三位/1703権大納言/11正二位;13出家、1687「朝仁親王御元服記」「東宮御元服並尊号宣下記」「靈元天皇讓位記」「神宮奏事始記」著、「貞享四年大嘗会記」「貞享大嘗会雜留」
- C4438 **基雄**(もとかた・持明院じみょういん/本姓;藤原、基輔男) 1687-1740 54 廷臣;1718従三位/34権中納言、1735従二位、書家;家伝、「前字書法」、法号;真等院
- C4439 **元勝**(もとかた;通称・田中たなか、名;服ふく/字;士参) 1782-1849 68 肥後熊本の医者;熊本藩医、

医者田中道俊の弟、国史に通ず、「腹赤考」「錫紵考」「征西大將軍宮譜」「阿蘇家氏姓考」著、  
「島津氏姓考」「大塔宮字訓考」「ていちの字考」「松花僻案」「田中間答」著、  
1846「桃元問答」外著多数、

元克(もとかつ・三浦) → 樗良(ちよら・三浦みづら、俳人) 2 8 3 1

元旦(もとかつ・谷/島田) → 文啓(ぶんけい・谷たに/島田、絵師/藩士) F 3 8 1 0

基勝(もとかつ・前田) → 玄以(げんい・前田まえた、武将/歌/連歌) F 1 8 1 6

C4440 元門(もとかつ・三輪みわ/別姓;長尾、三輪元直男)1722-1802<sup>81</sup> 磐城白河藩士;白河藩老、  
家学;甲州流兵法及び、茶事故典に精通、致仕後旧姓長尾を称す、元成の父、  
「三和家覚書」「新三和録」/1784「松平定綱大坂進発記」著、

[元門(;名)の別名/通称/号]別名;元暁、通称;弥右衛門/権右衛門、号;仙鼠/竜門軒悶道隠

I4446 職周(もとかね・平田ひらた/家名;出納/本姓;中原、職直男)1698-1720<sup>早世</sup>23 廷臣/官人;  
代々蔵人所出納職、1709正六上右近衛将監/15従五下/19東市正、職辰もとき弟、  
1710-1720「平田職周もとかね日記」、「東山院尊儀倚廬諒闇之記」著

基兼(もとかね・斎藤) → 玄勝(げんしょう;法諱、廷臣/歌僧) C 1 8 1 3

元鼎(もとかね・頼) → 景讓(けいじょう・頼らい、儒者) N 1 8 3 0

C4441 基(もとき・菅つげ、菅善十郎実良男)1780-1819<sup>40</sup> 出羽庄内藩士の父が罪を得て1789切腹/家名断絶、  
父の生家町野家で養育/儒;白井東月門/1804家名再興、藩校致道館普請取締役/典学・助教、  
「南風館集」著、「南風館遺稿」、

[基(;名)の字/通称/号]字;孝伯、通称;伊織/宗蔵/孟幸、号;南風館/五老/五老山人

元吉(もとき・高宮/最上) → 徳内(とくない・最上もがみ、探検家/紀行) L 3 1 2 5

元吉(もとき・今井) → 鏡洲(きやうしゅう、今井いまい、儒者/詩人) N 1 6 9 2

元吉(もとき・東方) → 芝山(しざん・東方ひがしかた、藩士/儒者) D 2 1 8 0

元吉(もとき・平沢) → 適斎(てきさい・平沢/源、儒者/医者) B 3 0 9 1

元吉(もとき・栗田) → 恭徳(たかのり・栗田くりた、商家/歌人) M 2 6 8 6

元吉(もとき・玉木) → 勝良(かつら・玉木たまき/田巻、問屋/歌) V 1 5 0 6

元吉(もとき・吉田) → 東洋(とうよう・吉田よしだ、藩士/藩政改革) H 3 1 8 8

元吉(もとき・本木) → 昌造(しょうぞう・本木もとき、通事/近代印刷) K 2 2 6 2

元吉(もとき・高橋) → 草坪(そうへい・高橋たかはし、絵師) C 2 5 8 8

元吉(もとき・西郷) → 元純(もとずみ・西郷さいごう、藩士/歌人) K 4 4 0 3

L4440 基君(もとき・松本まつもと、)1814-1896<sup>83</sup> 下野都賀郡壬生宿の本陣経営、学問;久野芳胤門、

[基君(;名)の通称/号]通称;庄兵衛、号;棠軒/甘暁隠居/蓬萊神仙楼(:庭園建築)

葛良(かつりょう・珠城) → 葛良(くずよし・珠城たまき、陪臣/国学) E 1 7 3 3

本吉(もとき・伊藤) → 允讓(まさよし・伊藤いとう、陶工/里正) N 4 0 4 0

I4448 基清(もとき・高階たかしな) ? - ? 鎌倉幕府將軍側近武士/早歌作曲者;

1306明空「拾葉集;梅華/袖情」/14月江[明空]「拾葉抄;暁思留記念あかつきのおもひとむるかたみ」作曲、  
1319月江「玉林苑;鹿山」作曲

C4442 職清(もとき・平田ひらた/家名;出納/本姓;中原、職定もとき男)1550-1607<sup>58</sup> 母;森基時女、  
廷臣/官人;代々蔵人所出納の職、1560従五下/左近将監/83豊後守/90大蔵大輔、  
1601従四上、故実家、1593「朔旦冬至平座之帳」著、職忠もただの養父

元清(もとき・観世) → 世阿彌(ぜあみ・結崎ゆうさき、能楽) 2 4 0 1

元清(もとき・水田) → 西吟(さいぎん・水田みづた、俳人) 2 0 7 1

元清(もとき・春原) → 元彦(もとひこ・春原はるはら、歌人) D 4 4 9 4

茂篤(もとく・由良/岸田) → 茂篤(しげあつ・岸田/由良、医者/歌人) Q 2 1 5 5

茂篤(もとく・村上) → 松堂(しょうどう・村上むらかみ、絵師) R 2 2 6 2

M4407 基邦(もとくに・藤原ふじわら、基能[中納言藤原基家の養子・従三位]男or基行[春宮亮]男)?-? 廷臣、  
平安鎌倉期廷臣;従四下・皇后大進、歌人;1237刊素俊[檜葉集]入、邦綱の孫/兼邦の父、  
伯叔母に六条院乳母成子・高倉天皇乳母邦子・安徳天皇乳母輔子・建礼門院乳母綱子、  
[花は常よりもとく咲きて素俊法師おそくとひ侍りける年いひつかはしける、  
しらかはの里の名たての桜花ちりなで人のこころづくしに] (檜葉;雑774)

J4471 元邦(もとくに・神谷かみや、) ? - 1861 母;寿栄、尾張名古屋の味噌商;永楽屋、



国学;本居春庭門、母は宣長門、神谷永平ながひらの父、

[元邦(;名)の通称/屋号]通称;亀吉/専一/純一/伝右衛門、屋号;永楽屋

懐国(もとくに・藤原) → 懐国(かなくに・やすくに・藤原、廷臣/歌人) C 1 5 7 4

元国(もとくに・細川) → 政国(まさくに・細川/源、武将/詩歌人) C 4 0 3 6

元国(もとくに・円羽にわ) → 桃溪(とうけい・円羽、絵師) D 3 1 1 4

元国(もとくに・丹羽) → 桃溪(とうけい・丹羽にわ/修姓;丹、絵師) D 3 1 1 4

元邦(もとくに・鈴木/鱸) → 松塘(しょうとう・鈴木/鱸ずき、詩人) R 2 2 5 6

基邦(もとくに・藤井) → 柳所(りゅうしょ・藤井ふじい、藩儒者) E 4 9 6 0

J4461 **本子**(もとこ・加藤かとう、旧姓;都筑) 1732-1819<sup>88</sup> 武蔵川越の生/加藤千蔭の後妻/江戸住、歌人;賀茂季鷹門

J4437 **本子**(もとこ・内山うちやま、旧姓;桐山) 1763-1829<sup>67</sup> 飛騨高山の歌人;田中大秀門、内山知澄ともずみの母

L4488 **源子**(もとこ・吉田よしだ、旧姓;原) 1780-1848<sup>69</sup> 播磨姫路の生/国学/歌;本居内遠・飯田秀雄門、姫路藩主酒井忠学女の鉢いづ姫(のち九条幸経室)の侍講、歌;江戸の加藤千浪門、のち播磨加東郡に住

J4405 **茂登子**(もとこ・磯山いそやま)? - ? 江後期;美作英多郡香合村神主磯山出雲守久麿の母、歌人;平賀元義の楯之舎塾入門、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入;息子久麿と入集

L4437 **もと子**(もとこ・松沢まつざわ,) 1802-79<sup>78</sup> 信濃諏訪郡の松沢義章よしあきら(1791-1861)の妻、夫は金銀鼈甲商[丸屋]の主人で平田門国学者、国学;夫門、義任よしとう(1836-1918)の母

元子(もとこ・藤原) → 承香殿女御(じょうきやうでんのによご、顕光女) M 2 1 7 0

もと子(もとこ・村野) → 一貞尼(いつていに・村野/小沢、歌人) B 1 1 6 1

元越(もとこ・幽月庵) → 幽月庵元越(ゆうげつあんもとし、鍼医/合巻/狂歌) B 4 6 3 9

L4485 **基維**(もとこれ・六角ろっかく/本姓;藤原/元号;波多、葉川基起男) 1675-95<sup>早世</sup> 21 京の廷臣;

園基福の猶子、六角家の祖(養子益通が六角に改姓);書道・神楽の家、

右近権少将従五上、妻;家女房(東園基雅女)、基親(益通)の養父、

元五郎(もとごろう・原田) → 茂嘉(しげよし・原田はらだ、藩士/暦算家) T 2 1 1 2

C4443 **基前**(もとさき・近衛このえ/本姓;藤原、経熙つねひろ男) 1783-1820<sup>38</sup> 母;近衛董子、廷臣;1792従三位、1799内大臣/1801従一位/14右大臣/15左大臣、法号;証常楽院、忠熙の父、「基前公記」著、1800「寄柳懐旧」、1804-7「享和四年至文化四年勅点詠草写」/18「大祓次第」外記録多数、

C4444 **基貞**(もとさだ・荒木田あらかぎ、徳雄男) ?-923 平安期神職;906内宮禰宜/907従五下、「皇太神宮禰宜譜凶帳及禰宜補佐次第」著

M4410 **基貞**(もとさだ・藤原ふじわら、右大臣頼宗男) ?-? 母;源高雅女の公子/平安中後期廷臣;1035(長元9)?但馬守/45(寛徳2)美作守/従四下、46美濃守/正四下、

1060(康平3)近江守、刑部卿、

兼頼(中納言)・俊家(右大臣)・能長(内大臣)・納季(中納言)・頼観(権大僧都)の兄弟、

妾腹のため藤原道長孫ながら兄弟中唯一三位(公卿)に昇らず、歌人;続詞花集入、

妻2人;源章任女・藤原良頼女、

息子;敦基・基仲・兼実(太政大臣信長養子)・家俊・時実・貞禅・永基、

息女;藤原公実室(1058-1105/実行母)・藤原師実室(経実母)・藤原姿子(実仁親王宣旨)・

藤原基長室・高階為章室、

子孫は三条家・大炊御門家として繁栄

[美濃守みのかみにて神拝しけるに いつぬきがはを見はべりて、

鶴のすむいつぬきがはを来て見れば千年をふべき流れなりけり](続詞花;賀339)

C4445 **職定**(もとさだ・平田ひらた/家名;出納/本姓;中原、職長男) 1528-83<sup>56</sup> 廷臣/官人;代々蔵人所出納職、1532従五下/左近将監/62大蔵大輔/78従四上、故実家、「出納中原職定記」、

「後奈良正親町両天皇踐祚之事」著

C4446 **基定**(もとさだ・持明院じみょういん/本姓;藤原、藤原基宥男) 1607-67<sup>61</sup> 持明院基久の養嗣;

持明院家を嗣ぐ、江前期廷臣;1640従三位/61正二位/62権大納言、書家;家伝、

「詩歌色紙形」「入木道源底集」著、

[基定(;名)の一字名/法号]一字名;守、法号;善立院

C4447 **元貞**(もとさだ・熊谷くまがい、通称;二郎三郎、長州萩藩士元直の孫) ?-? 1605祖父一族が罪で討れる;

元貞のみ生母の縁で長府藩を頼り逃亡;1614長府藩士として大坂冬陣に功績;熊谷家再興、  
1617長州厚狭郡吉田に所領、「熊谷氏什書」編

- C4448 **元貞**(もとさだ・山脇やまわき、初名;本廩)1747-181670 尾張藩士/国学・歌;田中道廩・本居宣長門、  
磯村道彦編の鈴屋門歌集「春風はるかぜ集」入、狂言師、  
[元貞(;名)の通称]吉三郎/彦三郎/五郎三衛門/和泉/四郎
- C4449 **元貞**(もとさだ・中山なかやま、通称;茨木屋次郎兵衛/次兵衛)?-? 江後期大阪の酒造家、  
1789「地方精義」、「野人私草」著
- C4450 **元貞**(もとさだ・豊浦とよら) ? - 1812 信州伊那郡山吹村の医者/飯田で開業、  
歌人;福住清風と交流、俳諧も嗜む、「神教七気血縛秘伝拔萃」著/「豊浦遺珠」(1849刊)、  
[元貞(;名)の通称/号]通称;玄貞、号;来迎庵/愚翁、法号;来迎庵利生元貞居士
- K4483 **素定**(もとさだ・中山なかやま/本姓;阿刀あと、)1756-182772 紀伊有田郡の立神社神主、  
国学者;本居宣長門、長彦の父/俊彦の祖父、  
[素定(;名)の別号/通称]初名;千秋、通称;日向
- K4491 **元貞**(もとさだ・野阪のさか、)1769-184274 安藝巖島神社棚守職、和学者  
[元貞(;名)の字/号]字;子幹、号;鹿猿居(家に伝わる[猿鹿居歌集]から採った号か?)、
- C4451 **基定**(もとさだ・辻本つじもと/本姓;源、基次男)1778-185275 京三条通の書肆;図会類を刊行、  
狂歌を嗜む、双鉤に妙を得て和漢墨蹟を模刻、「平安人物志」版元(文政五1822版以後)、  
1833「観音経和談鈔図会」編/38-39「一休狂歌雀」/44「一休諸国物語図絵拾遺」外編著多数、  
[基定(;名)の通称/号]通称;仁兵衛/羽右衛門、号;文屋安宇理(:狂名)、屋号;堺屋/尚書屋
- K4470 **元定**(もとさだ・徳田とくさだ、通称;又左衛門)1795-187480 伊勢度会郡の国学者;  
国学;本居大平・足代弘訓門
- C4452 **元貞**(もとさだ・長谷川はせがわ)1796-185863 伊勢松坂の商家;豪商/国学者:本居春庭門、  
1806(文化3)江戸店が全焼;経営悪化;緊縮財政時に家督嗣、  
俳諧・茶・仏学修得、書法;市河米庵・巻菱湖門、頼山陽・大塩平八郎と親交、  
「丙戌年月次歌合」催、夜白やはく(秀経/俳人)の兄、  
[元貞(;名)の字/通称/号]字;禎卿、通称;二郎吉/源右衛門/治郎兵衛/次郎兵衛じろべえ、  
号;梅窓/六有(;剃髮号)
- C4453 **元貞**(もとさだ・高橋たかはし)1800-187273 上州吾妻郡の医者:高野長英門、「新暦百算表」著、  
[元貞(;名)の字/通称]字;敬敷、通称;宇志蔵うしぞう
- C4454 **元禎**(もとさだ・小平こだいら) ? - 1850 陸奥仙台藩士/詩歌:藩儒田辺樂齋門、  
「梅軒詩文集」著、  
[元禎(;名)の通称/号]通称;陽之助、号;梅軒
- L4478 **元貞**(もとさだ・山岡やまおか、号;新水、松軒2男)1844-190360 備中阿賀郡新見の医者;父を嗣、漢学者、  
新見藩に出仕、維新後;1871私塾開設、79岡山県会議員/議長
- |                  |   |                        |           |
|------------------|---|------------------------|-----------|
| 基定(もとさだ・源、廷臣)    | → | 知道(ちどう;法諱、真言僧)         | E 2 8 8 8 |
| 基定(もとさだ・園)       | → | 基藤(もとふじ・園その、廷臣/権中納言)   | M 4 4 2 1 |
| 基定(もとさだ・園)       | → | 基継(もつぐ・園その/藤原、廷臣/歌人)   | D 4 4 0 6 |
| 元貞(もとさだ・太田)      | → | 元貞(げんてい・太田、俳人)         | F 1 8 0 3 |
| 元貞(もとさだ・檜田/大田)   | → | 錦城(きんじょう・大田おた、儒者/詩文)   | 1 6 6 2   |
| 元貞(もとさだ・白井)      | → | 元貞(げんてい・白井、史家)         | L 1 8 5 7 |
| 元貞(もとさだ・小室)      | → | 元貞(げんてい・小室、医/俳人)       | L 1 8 6 0 |
| 元貞(もとさだ・松浦)      | → | 胡叟(こそう・松浦まつら、俳人)       | D 1 9 2 0 |
| 元貞(もとさだ・岸本)      | → | 和英(わえい・岸本きしもと、俳人)      | 5 3 0 7   |
| 元貞(もとさだ・富家)      | → | 松浦(しょうほ・富家ふけ/藤原、神職)    | L 2 2 6 3 |
| 元貞(もとさだ・岡田)      | → | 眞吾(しんご・岡田おかだ、藩士/儒者)    | O 2 2 2 7 |
| 元貞(もとさだ・小林)      | → | 又玄(祐玄ゆうげん・小林/高橋/深川、医者) | B 4 6 5 0 |
| 元禎(もとさだ・湯浅)      | → | 常山(じょうざん・湯浅/湯、藩士/儒詩)   | S 2 2 5 9 |
| 元定(もとかつ・吉田)      | → | 重勝(しげかつ・吉田よしだ、弓術家)     | Q 2 1 8 0 |
| 元定(もとさだ・立野)      | → | 桂山(けいざん・立野たての、儒者)      | E 1 8 7 2 |
| 基貞女(もとさだのむすめ・藤原) | → | 中納言(ちゅうなごん、歌人)         | G 2 8 7 0 |

- K4419 **基祥**(もとさち・園その/本姓;藤原ふじわら、基茂3男) 1833-1905<sup>73</sup> 京の廷臣;正二位左近権中将、右近衛権少将園基万の養子、睦仁親王(のち明治天皇/1852-1912)家の家司、雅楽・神楽を家職/歌人
- K4433 **元智**(もとさと・田辺たなべ/本姓;源、) 1787-1828<sup>42</sup> 近江彦根藩士、歌人;[彦根歌人伝・亀]入、[元智(;名)の通称] 忠治郎
- C4455 **元真**(もとまね・藤原ふじわら、清邦[or清国]男) ?-? 966存 平安前期廷臣;940玄蕃允/945大允、952修理少進/961従五下/966(康保3)丹波介、歌人:956宣耀殿女御瞿麦などに歌合参加、957安子催「師輔五十賀屏風歌」参加、959中宮女房歌合/960(天徳4)内裏和歌合参加、家集「元真集」、後葉集・雲葉集入、勅撰28首:後拾(7首76/107/773/807/808以下)詞(35)新古(8首188/337以下)続古(1052)、玉葉(478)続後拾(3首)風雅(4首)新千(1115)新拾(1601)新後拾(1055)、三十六歌仙の1、[あさみどり乱れてなびく青柳をやぎの色にぞ春の風も見えける](後拾遺集;春76)
- J4492 **元実**(もとまね・熊谷くまがい、宍戸広匡2男) 1613-1685<sup>73</sup> 母;穂井田元清女、藩命で空席熊谷家を継嗣、長門萩藩士/妻;杉重政女(熊谷元貞の従姉妹)、熊谷直実21代の嫡孫となる、歌人、兄;宍戸就尚、息子;宍戸就附・就実・宍戸就延・隆将(熊谷家故地安藝三入庄で帰農)、実家宍戸家に後継者なく長男就附(;早世)・就延に継がせる、元実没後に2男就実が家督嗣、[ききしより見るこそまさればはれ世の形見に残すうつし画のあと]([萩之歌人]入)、[元実(;名)の通称] 忠三郎/主計頭かづえのかみ
- L4406 **元実**(もとまね・原はら、) 1777-1872<sup>長寿96</sup> 信濃飯田の商家、歌人;桃沢夢宅門、国学・歌;服部菅雄門、のち江戸住、[元実(;名)の通称/号/屋号]通称;善八、号;養徳/用徳、屋号;藤屋  
元真(もとまね・林) → 出雲寺和泉掾(初世いづもいづみのじょう、書肆林はやし・松柏堂) C 1 1 3 7  
元三郎(もとさぶろう・近藤) → 瓶城(へいじょう・近藤こんどう/安藤、儒者) B 2 7 5 2  
本三郎(もとさぶろう・山本) → 亡羊(ぼうよう・山本やまと、医者/本草家) C 3 9 6 5
- C4457 **元重**(もとしげ・秋庭あきは) ? - 1509 戦国期武将;備中松山城主/備中守、將軍義尚の命で長享元・明応元1487・92再度佐々木高頼を征討;戦攻、「細川家自家礼式」著
- C4458 **元重**(もとしげ・平岩ひらいわ、元親男/本姓;弓削) 1534-1619<sup>86</sup> 三河の武将/松平義春の家臣;1556三河日近城めで初陣;戦死した義春の屍を背負い帰還/義春の子松平家忠の家臣、1560桶狭間合戦・63東条城攻撃・72三方原合戦・75長篠合戦で活躍/新坂八幡の寨の守備、功により新坂・常戒寺村を所領/のち松平忠吉・徳川義直に出仕、「合戦物語聞書上巻」「見義集」「太閤記之誤記」著、[元重(;名)の通称] 権太夫
- C4459 **元茂**(もとしげ・鍋島なべしま、初名;直元、佐賀藩主勝茂男) 1602-54<sup>53</sup> 肥前佐賀小城初代藩主;従五下、紀伊守/1617祖父直茂・父勝茂より所領・家臣を譲渡され小城藩創始、兵法;柳生宗矩門、1626・34將軍家光の入洛に供奉/37島原乱に出陣/徳川家光の剣術相手、「玉成集」「茶屋物語」著、[元茂(;名)の幼名/通称/法号]幼名;彦法師、通称;三平、法号;祥光院
- C4460 **元重**(もとしげ・黒沢くろさわ、上曾八右衛門治利男) 1622-1700<sup>79</sup> 黒沢正太夫(秋田藩足軽大将)の養子、秋田藩士;1638小姓/江戸留守居役・秋田仙北総山奉行・郡奉行・能代奉行を歴任、1664幕府の寛文印知には藩老を助け弁論/数学的知識に秀でる/歌人、「浮木覚書」著、「黒沢浮木往来物語」「検地伝習二巻」「水法伝授」「年代問答」/1691「鉾山至宝要録」著、[元重(;名)の幼名/通称/号]幼名;大介、通称;万五郎/采女/多左衛門、号;浮木、法号;依寒顕信
- C4461 **元稠**(もとしげ・桑山くわやま、貞寄さだより男) 1648-1728<sup>81</sup> 幕臣;1684家督嗣;2千石/肥前守・志摩守、従五下、御使番/御鎗奉行/寄合/1720致仕、1687「日光記」著(;目付代の際の日記)、[元稠(;名)の幼名/通称/号]幼名;貞代、通称;式部/猪兵衛/伊兵衛、号;紹恵(;致仕後)
- C4462 **元茂**(もとしげ・桜井さくらい) 1684-1750<sup>67</sup> 大和郡山藩士/国学者;北村季吟門、和漢学・歌人、服部南郭・柳沢淇園と交流、1729「草庵集難註」著、[元茂(;名)の字/通称/号]字;子栄、通称;佐右衛門、号;鹿門/細流
- C4463 **基茂**(もとしげ・園その/本姓;藤原、基理男) 1793-1840<sup>48</sup> 江後期廷臣;1824参議/25従三位、1831権中納言、1836正二位、



- 1823「石清水臨時祭申沙汰記草」、「内侍所臨時御神楽当日備忘」著
- C4464 **基重**(もとしげ・紺野この、通称:嘉右衛門)?-? 江後期磐城中村藩士、  
文筆家・1833「天明救荒録」編
- C4465 **元重**(もとしげ・河村かわむら) ? - ? 小寺清之[1770-1843;備中の神職・国学者]の友人、  
1837清之「老牛余喘」校訂
- L4452 **元茂**(もとしげ・三宅みやげ、旧姓:近藤) 1813-7361 武道家;三宅源八郎栄茂の養子;新影流奥義修得、  
筑前福岡藩士;黒田長知の剣術の師/1864(元治元)禄百石、1873(明治6)没、  
[元茂(;名)の通称]源六郎
- 基成(もとしげ・園その/藤原)→ 基成(もとなり・園その、歌人) D 4 4 6 0  
 基重(もとしげ・藤原) → 家通(いえみち・藤原、忠基男/歌人) 1 1 6 3  
 元重(もとしげ・観世) → 音阿彌(おんあみ、能役者) 1 4 4 3  
 元重(もとしげ・遠藤) → 由ト(ゆうぼく・遠藤えんどう、俳人) D 4 6 8 1  
 元茂(もとしげ・吉川/中村)→ 伯先(はくせん・中村、医者/俳人) D 3 6 5 4  
 元茂(もとしげ・蒔田) → 雁門(がんもん・蒔田また、儒者) R 1 5 6 8  
 元次郎(もとじろう・小林) → 美影(よしかげ・小林こばやし、国学者) M 4 7 7 8  
 本次郎(もとじろう・小宮山)→ 桂軒(けいけん・小宮山こみやま、儒者/詩) E 1 8 6 5  
 本次郎(もとじろう・安部) → 信樹(のぶき・安部あべ/安倍、歌人) G 3 5 9 5
- L4415 **元季**(もとすえ・平野ひらの、通称:甚十郎) 1782-1855 74 出羽庄内藩士;御弓師、和学、  
勘十郎愷彦やすひこの父
- 4412 **元輔**(もとすけ・清原きよはら、春光男or祖父深養父男) 908-9083 母:高階利生女、清少納言の父、歌人、  
廷臣;951河内権少掾、951和歌所寄人(梨壺の5人);「後撰和歌集」編纂と万葉集訓読に従事、  
中務省中監物/民部大丞、960(天徳4)「内裏和歌合」の念人ねんにん/974周防守;鑄銭長官、  
975一条大納言家歌合参加、977三条左大臣殿前裁歌合参加/978従五上、  
986(79歳)肥後守;任地没、今昔・袋草子に逸話、  
家集「元輔集」、小野宮家・九条家・源高明家に入入り;屏風歌を多数詠、36歌仙の1、  
勅撰106首;拾遺(48首42/51/70/152/174以下)後拾(29首22/24/54以下)詞花(6首)、  
新古(7首150/578以下)新勅(3首)続後撰(2首)続古(842)玉葉(3首)以下、続詞花集入、  
[春霞立ちな隔てそ花盛り見てだに飽かぬ山の桜を](拾遺;一春42)  
[契りきなかたみに袖をしぼりつつ末の松山波こさじとは](後拾遺;十四恋770)
- C4466 **元輔**(もとすけ・藤原ふじわら、顕忠男) 916or917-975 60? 母:藤原朝見女、平安前期廷臣;972参議、  
従四上/974正四下、歌人;後撰集1096、雲葉集入、  
[住吉の岸とも言はじ沖津波なほうちかけよ浦はなくとも](後撰集;一五雑1096)、  
(手を切りたい女から直垂衾[夜具]を返させようと遣はせた返事に「裏なんなき、  
それは着じとや いかが」[本心は共寝しないつもりでしょう]とあるのに返歌)、  
(住吉に住み良し/岸に着じ/波の打ちかけに夜具を打ち掛け/浦に裏 を掛る)
- C4467 **基輔**(もとすけ・藤原ふじわら;北家末茂流、頼輔男)?-1185 母:源盛経女、顕輔の孫、平安後期廷臣;  
正四下右馬権頭/安藝守、九条兼実に出仕、玉葉に逸話、清輔・重家・季経の甥、  
歌人:1175右大臣兼実家歌合/78右大臣家百首/79右大臣家歌合に参加、新古今1115、  
[いつとなく塩やく海人あまの苦廂とまびさし久しくなりぬあはぬ思ひは](新古今;恋1115)、  
(本歌;波間より見ゆる小島の浜びさし久しくなりぬ君にあひ見で[伊勢物語116段])
- C4468 **基輔**(もとすけ・坊門ぼうもん/本姓:藤原、初名:清基、清親男)?-1284 母:高階経仲女、鎌倉期廷臣/歌人、  
1217従五下/21侍従/38右少将/39近江介/40左少将/50正四下長門介/57左中将(基輔名)、  
1260従三位、1270(60歳前頃)出家、1251「当座三百六十首続歌」出詠、東撰和歌六帖入集、  
勅撰4首;新後撰(1374)玉葉(1925)風雅(922/1523)、  
[世をうしと思ひもいれぬ月だにもすみけるものを山のおくには](新後撰;雑1374)  
永福門院内侍・後伏見院兵衛督(進子内親王の母)の父、  
→ 永福門院内侍(えいふくもんいんのないし、京極派歌人) 1 3 4 5  
→ 進子内親王(しんしなしんのう、伏見天皇皇女) E 2 2 4 0
- C4469 **基祐**(もとすけ・齋藤さいとう、基茂男/本姓:藤原)?-? 鎌倉後期武家;五位/兵衛;新兵衛と称す、  
歌人:続現葉集・藤葉集(2首)入集、勅撰2首;続千載(1354)新千載(2122)、

基教(もとりの/藤葉集入)の父、

[後とだにたのめもおかば別路わかぢのいまのつらさはなぐさみなまし](続千載;恋1354)

[年年にめぐりあふべきならひと老にはしらでをしき秋かな](藤葉;秋292)

- 4413 **基佐**(元佐/元祐/元輔もとすけ・桜井さくらい)?-? 1509存 攝津の生/廷臣;中務丞、  
京の連歌師:心敬/宗祇門、1457「武家歌合」参(正徹・心敬らと)、  
1477正月22日宗祇と「何船百韻」、1482「大原十如院三吟」(宗祇・宗長と)、  
1491/92宗祇と百韻、93「清水寺の本式連歌百韻」参加、  
宗祇と確執を生じ新撰菟玖波には入集なし;次の落書を立てたと言われる;  
[足なくて登りかねぬるつくば山 和歌の道には達者なれども]、  
歌集「桜井基佐集」/「桜井基佐独吟」「基佐独吟初何百韻」「百番連歌合」「基佐連歌集」、  
肖柏/日泰らとも百韻、[奥山ずみの契りたがふな またもこん花の旅寝のあさばらけ]、  
[立田山下葉の露の初時雨染むるばかりの秋の一しほ](武家歌合;19)、「あら野」1句入、  
[基佐の通称/号]通称:弥三郎/弥次郎/中務丞、号;永仙[遷]
- C4470 **基輔**(もとすけ・持明院じみょういん/本姓;藤原、基時男) 1658-1714<sup>57</sup> 廷臣;1687従三位/1706従二位、  
1712権中納言、書家;家伝、1706「仮名遣」、「いせものかたり抄」著/「百体色紙形」書
- C4471 **職資**(もとすけ・平田ひらた/家名;出納/本姓;中原、職俊[1632-1711]男)?-? 江前期京の故実家;父門、  
1712父の遺知を継嗣;加賀金沢藩より2百俵を受、「本朝皇胤統緒運録」編纂に参加、  
「大内裏図」作成、「諸家官位次第」編、「当時諸官人職掌」「執柄以下家譜雑記」外編著多数、  
[職資(;名)の通称]中次郎/内匠
- L4400 **基祐**(もとすけ・畠山はたけやま、義玄男) 1678-1742<sup>65</sup> 江戸の幕臣;幕府奥高家の伯父基玄もたくろの養子、  
1707(宝永4)基玄が隠居;幕府奥高家を継嗣、和漢学修学、  
[基祐(;名)の通称]二郎四郎/民部大輔/紀伊守
- C4472 **職甫**(もとすけ・平田ひらた/家名;出納/本姓;中原、藤原政房男) 1709-48<sup>40</sup> 母;平田職直もとなお女、  
平田職周もとかね(おじ)の養嗣子;平田家は代々蔵人所出納の職、江中期官人;1720正六上、  
右近将監、1743豊後守/45従四下、歌人、養嗣子;職方もとかた(旧姓;小佐治)、  
1721-41「平田職甫日記」、「公事記」「諸社臨時奉幣調進勘例」「御幣物相伝秘記」外著多数、
- C4473 **元輔**(元助もとすけ・春木/春樹はるき)?-? 江中期安永天明1772-89頃上方の歌舞伎作者;並木永輔門、  
1774京の藤川座助作者、1778大坂山下亀之丞座の立作者;大当り/1782大坂合作後は不詳、  
1774「旭耀金丸山」78「時爾当代仙人鑑」79「侠飛脚花街往来」「傾城と書外題始」、  
1780「坊州苗打松」/82「図乗多万国渡海」「足利御免歌舞伎事始」/84「小野お通七段譜」、  
[春木元輔(;号)の別号]春樹元助/春木本助/春木元助
- C4474 **元輔**(元助もとすけ・山川やまかわ、雄駿男) 1789-1866<sup>78</sup> 大阪の儒者/和算家、易学に精通、教育者、  
讃岐高松大工町に私塾[明善館]を開塾(1827藩校分校として郷校となる)、「矩合適」著、  
[元輔(;通称)の字/号]字;子晋、号;孫水
- L4492 **基輔**(もとすけ・若菜わか/本姓;平、旧姓;野城) 1828-84<sup>57</sup> 上総市原郡の国学者;平田鍊胤門、  
[基輔(;名)の初名/通称]初名;広道、通称;広吉/良右衛門
- K4492 **素介**(もとすけ・野村のむら、藩士有地留之助2男) 1842-1927<sup>86</sup> 周防吉敷郡長野村の生/萩明倫館修学、  
1859江戸の長州藩上屋敷内の有備館に修学、儒・歴史;塩谷宕陰門/書;小島成斎門、  
帰国;明倫館舎長/1863(文久3)長州藩士野村正名の養子;66家督継嗣、攘夷主唱;奔走、  
四境戦争で藩主側近;小倉城陥落後は九州方面軍監;講和談判に当る、  
維新後;1868山口藩参政・公議人・軍政主事を兼任、69権大参事/71欧州視察/茨城県令、  
文部大丞・大督学・元老院大書記官など歴任/1881(明治14)元老院議官/90貴族院勅選議員、  
錦鶏間祇候/男爵、書家;素軒号で選書奨励会審査長など、杉聴雨・長三洲と[長州三筆]、  
[素介(;名)の初名/字/通称/号]初名;範輔、字;絢夫、通称;純輔/右仲、号;素軒
- 元襄(もとすけ・国司/浦) → 元襄(もつまさ・浦うら/国司くにし、家老/日記) E 4 4 3 2  
本助(もとすけ・吉田) → 愚谷(ぐこく・吉田よじだ、儒者) C 1 7 3 7  
元助(本助もとすけ・奈河) → 竜玉(2世りゅうぎょく・金沢、歌舞伎作者) D 4 9 3 9  
元助(もとすけ・遠藤) → 守寧(もりやす・遠藤えんどう、国学/歌/茶) J 4 4 4 3  
元介(もとすけ・岸田) → 月窓(げつそう・岸田きしだ、詩文) H 1 8 1 9  
元輔(もとすけ・飯田/橘) → 守部(もりべ・橘、国学者/歌人) 4 4 2 8

- 元輔(もとすけ・橘) → 冬照(ふゆてる・橘、国学) E 3 8 3 1  
 元輔(もとすけ・工藤) → 鞏卿(きょうけい・工藤くどう、医者/詩歌) G 1 6 6 8  
 元弼(もとすけ・長尾) → 遁翁(とんおう・長尾ながお、儒者/勤王論) S 3 1 0 6  
 元助(基助もとすけ・藤本/宝屋) → 治助(4世じすけ・桜田、歌舞伎作者) U 2 1 0 2  
 素助(もとすけ・小島) → 義勝(よしかつ・三田さんだ、藩儒/詩文) C 4 7 8 6  
 基甫(もとすけ・大沢) → 君山(くんざん・大沢おおさわ、儒者/詩文) D 1 7 6 4
- C4475 元隅(もとすみ・栗津あわづ) ? - ? 俳人;北村季吟門、1672「季吟十余会集」連衆  
 K4403 元純(もとすみ・西郷さいごう) ? - ? 江後期信濃松本藩士;年寄役、  
 国学・歌人;香川景樹(1768-1843)・桃沢夢宅(1738-1810)門、元命もとのぶ(1757-?/家老)の父、  
 [元純(;名)の通称]元吉/新兵衛
- L4464 原澄(もとすみ・向井むかい、通姓;八五郎)1766-1844<sup>79</sup> 伊勢度会郡の国学者;本居宣長門  
 L4444 元住(もとすみ・三浦みうら)1769-1839<sup>71</sup> 近江彦根藩士、国学・歌人;小原君雄門  
 歌:[彦根歌人伝・続寿]入  
 [元住(;名)の通称/号]通称;清左衛門/清右衛門、号;住斎
- I4489 本住(もとすみ・正木まさき/本姓;平、通称;与左衛門)?-? 江後期;歌人、狂歌師守川捨魚すなと交流、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [おろかなる学の窓につどひきていさめ顔にも飛ぶ螢かな](大江戸倭歌;夏576/窓螢)
- K4436 源澄(もとすみ・平たいら、旧姓;桜田/丹下)1790-1863<sup>63</sup> 陸奥仙台藩士;出入司、  
 [源澄(;名)の通称/号]通称;三左衛門/志津馬、号;春堂
- 元澄(もとすみ・青木) → 東庵(とうあん・青木、医/儒/詩歌) 3 1 7 6  
 元澄(もとすみ・芥川) → 思堂(しどう、芥川、儒/明楽) V 2 1 2 7  
 本住(もとすみ・井筒) → 井筒本住(いづつのもともすみ、狂歌) I 1 1 8 1  
 元蔵(もとぞう・竹村) → 広蔭(ひろかげ・竹村たけむら、庄屋/歌人) F 3 7 6 4  
 元蔵(もとぞう・村田) → 良穂(よしほ・村田むらた、国学者) G 4 7 9 1
- C4476 基隆(もとたか・後藤ごとう、基綱男/本姓;藤原)?-? 鎌倉期武家;六波羅評定衆/従五上/伊勢守、  
 兄元政と共に鎌倉歌壇形成に尽力:1261「宗尊親王家百五十番歌合」「宗尊親王家百首」参、  
 1263宗尊親王命で連歌に合点を付す/新和歌集・東撰和歌六帖入集、  
 勅撰8首;続古今(1155/1755/1796)続拾(1310)新後撰(937)続後拾(245)新拾(1368)新続古、  
 [あか月のゆふつけどりの同じねにいくたびつらき別れしつらむ](続古;1155/後朝恋)  
 [基隆(;名)の通称]佐渡五郎左衛門尉、基秀・娘(基隆女・歌人)の父、
- C4477 基隆(もとたか・園その/本姓;藤原、初名;基宣、基成男)1314-74<sup>61</sup> 母;小倉実教女、南北期廷臣;  
 1344参議/従三位/59権中納言/67正二位、蹴鞠に長ず、歌人、1367新玉津島社歌合参加、  
 1369応安二年九月十三夜内裏和歌/71九月十三夜会参加、  
 勅撰4首;新千(2257)新拾(1198)新続古、  
 [夢にだにまた見ることはかたをかのはれ親なき身とぞ成りぬる](新千載;哀傷2257)、  
 (父基成の死のころの詠)
- C4478 基孝(もとたか・持明院じみょういん/本姓;藤原、基規男)1520-1611<sup>長寿92</sup> 母;水無瀬季兼女、  
 廷臣;1552従三位、1577中納言/85正二位、家伝の書と神楽を継承、  
 「以呂波伝」「陪従神楽記」「持明院基孝懐紙詠草」著、  
 連歌;1602「慶長十三年九月二十八日何船百韻」、  
 [基孝(;名)の法名/法号]法名;如空、法号;永寿院松月
- C4479 元堯(もとたか・益田ますだ、広兼男)1595-1658<sup>64</sup> 長門萩藩士;父早世;1620祖父元祥より家督嗣;  
 家老、越中守/玄蕃頭、藩主命で検地実施;財政再建に尽力/1636江戸城大手目付修築、  
 1637島原出兵、44息子就宣に家督譲渡、「無庵一代御奉公之覚書」著、  
 [元堯(;名)の幼名/通称/号]幼名;道祖吉、通称;七兵衛、号;無庵(;剃髮号)、法号;慈徳院
- C4480 元敬(もとたか・瀧野たきの) ? - ? 江前期万治寛文1658-73頃上方の本草家、  
 1658大阪の和算家榎並和澄ともすみ「暦学正蒙」の序文、1662「修治纂要」著
- C4481 元隆(もとたか・細川ほそかわ/本姓;源、坂さか宗説男)?-? 母;細川全隆女/祖父全隆の養子;  
 1658家督嗣;幕臣/医師、1687致仕、1703「大乗禅師語録」編  
 [元隆(;名)の幼名/通称]幼名;千松、通称;宗仙



- M4401 **元孝**(もとたか・南江なんえ、) ? - ? 江前期;上方の歌人、  
1670下河辺長流[林葉累塵集]4首入、  
[み山ぢに尋ねくらしつ遅桜いまひと花のみまくほしさに](林葉累塵;春209)  
[我ならぬ人住の江の岸におふる草はまことにその名なりけり](同集;恋953)
- C4482 **元及**(もとたか・栗津あづ/本姓;藤原)1710-6758 江中期近衛家の侍/1767従六下左衛門大尉、  
出家;真宗僧、「乗如上人堺御下向之記」著、元招の父/元陳の曾祖父
- C4483 **元堯**(もとたか・大森おおもり)1713-176351 備中玉島の詩人/勸進元、伊予の大森盛長の裔、  
1761「帰厚集」編、[元堯(;名)の通称/法号]通称;伝右衛門、法号;普明院
- C4484 **本孝**(もとたか・磯野いその、通称;三右衛門)?-? 1740存 尾張藩士;  
1695藩主分家の大久保義昌・義真に出仕、主人没後は藩の御馬廻など歴任、「尾陽家譜」著
- C4485 **元孝**(もとたか・藤崎ふじさき、通称;勝助)?-? 江中期土佐の鷹匠:藩家老寺村家家臣、  
1750「試考録」/52「聞考録」著、52「鷹餌袋之事」伝
- C4486 **本孝**(もとたか・田中たなか、)1741-180363 武蔵多摩郡忠生村小山田の酒造業、  
歌:加藤千蔭門、詩歌誹諧を嗜む、「添水塵芹」「添水園随筆」著、  
小山田与清ともきよ(1783-1847)の父、  
[本孝(;名)の通称/号]通称;徳三郎/忠右衛門、号;笠父りゅうふ/添水園そぼつその
- K4438 **元隆**(もとたか・高木たかぎ、通称;五兵衛/号;宗清)1780-185273 大坂の商家;平野屋、歌人/国学
- L4483 **元孝**(もとたか・山本やまもと、通称;五郎右衛門/号;松廼屋)1808-8376 河内若江郡の国学者/歌人、  
国学・歌;岩崎美隆よしあ・伴林光平門、妻;下河原富野とみの(登見野1809-87/歌人)
- J4410 **本孝**(もとたか・飛鳥あすか、通称;愛次郎)1811-188575 肥前長崎の国学・歌人;中島広足門、  
広足中心の長崎伊勢宮連中による[十八番歌合]に入(連中は島重道・藤村光鎮ら12人)
- J4496 **基隆**(もとたか・児島こじま、)1819-188769 尾張愛知郡の絵師、神職/国学者/歌人、  
画;名古屋の森高雅・京の浮田一蕙いっけい門/南朝の武将を描く、勤王の士と交流、  
1875多屋村の海相うすぎ神社神職、愛知県絵画共進会審査員、稲武の古橋記念館に大作残る、  
[基隆(;名)の通称]親太郎/幸八/平太郎
- |                |                           |           |
|----------------|---------------------------|-----------|
| 元隆(もとたか・近藤)    | → 棠軒(とうけん・近藤、儒者/経史)       | D 3 1 3 5 |
| 元隆(もとたか・林)     | → 敬斎(けいさい・林はやし、医/儒/俳人)    | F 1 8 6 2 |
| 元高(もとたか)       | → 元高(げんこう、連歌師)            | B 1 8 7 9 |
| 元高(元喬もとたか)     | → 菊所(きくしょ・木下きのした、医者/詩人)   | K 1 6 1 2 |
| 元高(もとたか・田村/田西) | → 琴溪(きんけい・劉、儒者/詩)         | D 1 6 9 4 |
| 職孝(もとたか・平田)    | → 職厚(もとあつ・平田/出納/中原、廷臣/故実) | C 4 4 0 5 |
| 職孝(もとたか・安部/小野) | → 蕙畝(けいほ・小野おの、本草家)        | G 1 8 6 3 |
- M4406 **基隆女**(もとたかのむすめ・後藤ごとう、本姓;藤原)?-? 鎌倉幕府武家(六波羅評定衆)の娘、基秀の姉妹、  
歌人;1310冷泉為相撰?[柳風抄]入、  
[うきよとはいふべくもなき月影をいかにながめて涙おつらん](柳風抄;秋80)
- C4487 **元健**(もとたけ・菅野すがの) ? - ? 江後期武蔵大久保村の和算家;石井雅穎門、  
藤田貞資門、幕臣、1782「整数一条」90「綴術詳解」94「草術題抄」98「六斜術」99「綴術起源」、  
「開方整約続集」「下学算法演段」「天元」「分合」「習齋算叢」「菅野習齋著算法部式」外著多数、  
[元健(;名)の字/通称/号]字;伯強、通称;幸次郎/津太郎、号;習齋/昌敷
- C4488 **元僊**(もとたけ/もとひろ・福原ふくはら/ふくばら/佐世、徳山藩主毛利広鎮6男)1815-64自刃50 周防徳山の生、  
1826長門萩藩士佐世親長養子、萩藩士;1835大組頭/手廻頭/51老中;江戸留守居役、  
1858藩命で福原親俊を継嗣;家老、藩の公武合体論を推進/三大夫の1、尊攘派:  
1864兵を伏見に率い君冤を訴う/禁門変に敗北;負傷、帰国後徳山藩お預け;自刃、  
「緑浜詠草」「翠崖詞歌抄」著、  
[玉しきの都も鄙もおしなべて桜に匂ふ日の本の春]([萩の歌人]入)、  
[元僊(;名)の別号/字/通称/号]別名;元定/寿祉/勝定、字;敬夫、  
通称;徴之助/主殿とも/越後、号;頤堂/翠崖、法号;隆文院
- C4489 **元彊**(もとたけ・上田うへだ、元矩男)?-? 江後期文政・嘉永1818-54頃大阪の医者、香道家、  
歌人;加藤景範門、「国学六家手翰」著、  
[元彊(;名)の通称/号]通称;松齋/誓阿、号;誓齋/弄瓦軒、

- C4490 **基忠**(もとただ・藤原ふじから、忠家男)1056-9843 母;藤原経輔女、俊成の伯父、平安後期廷臣;右衛門督、1082参議/91権中納言/93従二位、弓に秀づ、俊忠の兄、歌人:1093「郁芳門院根合」方人で参、1094高陽院七番歌合;方人、勅撰2首;千載52(1096京極御堂十種供養翌日の詠)/新勅撰56、[咲き匂ふ花のあたりは春ながらたえせぬ宿のみゆきとぞ見る](千載;春52)(白河院の京極邸御幸/深雪と御幸を掛る/御幸の絶えない栄える宿と讃える)
- C4491 **基忠**(もとただ・鷹司たかつかさ、兼平男/本姓;藤原)1247-131367 母;藤原実有女、兼忠の兄、廷臣;1257従三位権中納言/68従一位関白/氏長者/85太政大臣/1312出家、歌人:「春日社歌合」主催/歌会をししばしば主催、中臣[千鳥]祐臣の詠歌に加点(自葉集)、「伏見上皇三十首」1303「嘉元百首」出詠、「夫木集」入/「藤葉集」(2首)入集、「春日権現験記」書、勅撰85首;続拾(238/541/654/911/1070)新後撰(56-下20首)玉(21首)続千(14首)以下[夕暮は我が身ひとつの秋にしもあらぬものゆゑぬるる袖かな](続拾遺;秋238)、[伏見院三十首歌ためしける時・惜花心を、春ごとになれて久しき花なれば老いてなごりのをしくも有るかな]、(藤葉集;春78/円光院入道前関白太政大臣名)、[基忠(;名)の号/法名]通称;前関白左大臣鷹司/前関白太政大臣、号;円光院、法名;理勝、息子;冬平/冬基/冬教/聖忠/良信/道珍など
- 4414 **元忠**(もとただ・鳥居とりい、通称;彦右衛門、忠吉男)1539-1600戦死62 武将;代々徳川家家臣、1551(13歳)家康に近侍;家康が今川家人質の際も随従/三河・遠江統一戦略に出陣、三方原合戦で負傷/その後も小田原・岩槻攻略に参戦/家康の関東入国で矢作4万石所領、関ヶ原戦で伏見城総大将;伏見城落城で戦死、「鳥居元忠遺書」
- C4492 **職忠**(もとただ・平田ひらた/家名;出納/本姓;中原、号;萃庵、平田職久男)1580-166081 母;平田職清女、職清もときよの継嗣;平田家は代々蔵人所出納の職、廷臣/官人;1586従五下/左近将監、1604豊後守/20大蔵大輔/28正四上/46致仕、故実家:舟橋秀賢門、歌;「職忠朝臣家集」、「童訓略頌類纂」補、「官職便覧」「役人職掌」「職掌録」「職忠職在日記」「魚魯愚鈔」外著多数、
- C4493 **職尹**(もとただ・榊原さきばら、職長男/本姓;源)1708-7467 幕臣;1727家督継嗣;西丸書院番/使番、1761幕命で奥羽・松前巡見、2千石所領/1767次男の不祥事で暫時出停;のち赦免、72致仕、1761「奥羽巡見記」著  
[職尹(;名)の通称/号]通称;千之助/左衛門/左兵衛、号;袋弓たいきゅう
- C4495 **元佶**(もとただ/げんきつ・多紀たき、元胤男/本姓;丹波)1825-6339 医者;兄元昕もときよ没後嗣子;家督嗣、幕臣;法印、「元佶雑考」「躋寿館学規」「疔痛きゅうつう切痛同」「掌記」/1863「多紀家学則」外著多、  
[元佶(;名)の号]棠辺/藻湖痴人/永春院、元昶の父
- 元允(もとただ・中山) → 弦斎(げんさい・中山なかやま、歌人/連歌) N 1 8 8 6  
元協(もとただ・頼) → 聿庵(いつあん・頼らい、儒者/書家) E 1 1 2 8  
元忠(もとただ・観世) → 宗筋(そうせつ;法名・観世大夫7世、能役者) C 2 5 3 4  
本立(もとたち・加藤) → 肩吾(けんご・加藤かとう、藩医者/魯語) I 1 8 5 9
- J4489 **初子**(もとたね・北村きたむら、通称;友右衛門)1702-5453 近江彦根藩士、国学者、歌人;[彦根歌人伝・寿]入
- C4496 **元苗**(もとたね・三浦みうら、家老三浦元福男)1774-180633 近江彦根藩士;1799藩校稽古館頭取、1799家督嗣;2千5百石領す/1800鉄砲足軽五十人物頭/1804中老、国学者・本居宣長門、「三浦元苗詠草」著、  
[元苗(;名)の幼名/通称]幼名;乙吉/於兔吉、通称;内膳
- L4456 **元胤**(もとたね・宮崎みやざき/本姓;安曇連、眞澄男)1832-190069 筑前志摩郡久家村の代々の神職、国学;1855江戸の平田鍊胤門;[元胤名を授与]、前原まへばるの高祖たかす神社/志登神社の神職、維新時;怡土いと・志摩両郡の祠官班頭職;筑前の平田国学の中心、権少教正、千家尊福と交流;別れ際尊福の歌[なみならぬ人の誠の玉も得つ心尽くしの島巡りして]、  
[元胤(;名)の初名/通称]初名;大辰、通称;主税ちから
- 元胤(もとたね・多紀) → 元胤(もとつぐ・多紀/丹波、幕臣/医者/詩) D 4 4 0 8  
基種(もとたね・斎藤) → 寂意(じゃくい、斎藤・藤原、歌人) V 2 1 8 9

- J4456 **基足**(もとたり・大藪おおやぶ、) 1817-1861 45 筑後三潯郡玉座神社祠官、国学;宮崎信敦門  
[基足(;)名)の通称/号]通称;三河、号;竹亭  
素太郎(もたらう・小田村)→ 素彦(もとひ・楫取/松島/小田村、藩士) D 4 4 9 5
- C4497 **基親**(もとか・平たいら、親範男)?- ? 1212存 母;高階泰重女、鎌倉期廷臣;出雲守・伯耆守、  
1190従三位兵部卿、1206出家/浄土僧:源空[法然]門、  
1212「選択本願念仏集」出版時に序文執筆、1200「基親鈔」、「往生要集勘文」「帝王広系図」著  
「往生要集外典鈔」「選択本願念仏集裏書」「善導和尚画讃」著、「官職秘密抄」編
- C4498 **元親**(もとか・伊丹いたみ、之親男)?-? 室町中期摂津伊丹の武家;細川家の家臣、  
連歌;宗祇・兼載と親交、新撰菟玖波集4句入  
[元親(;)名)の通称] 兵庫助
- M4403 **基親**(もとか・源みなもと、) ? - ? 鎌倉南北期;廷臣、歌人;1345刊[藤葉とうよう集]入、  
[いのるともかひやなからんおほぬさのひくてによらぬ人の心は](藤葉;恋429)
- C4499 **基親**(もとか・持明院じみょういん/本姓;藤原、基清男)?-1419 廷臣;1410従三位右兵衛督/12正三位、  
1414致仕/17出家、歌人、1407内裏九十番歌合・08北山殿歌会・14頓証寺法楽百首など参加、  
新続古今集1首1808、  
[難波渦入江の葦は潮越えて松のみなびく浦風ぞ吹く](新続古今;雑1808)
- D4400 **元親**(もとか・長宗我部/長曾我部ちようそかべ/-そかべ、国親男) 1538-99 62 土佐長岡郡岡豊城の武将、  
1560初陣;家督継嗣、本山・吉良・安芸・津野の諸氏を従え1575土佐を統一、  
阿波伊予讃岐を攻略/1585四国を制覇、秀吉軍に降伏;土佐一国領有、  
秀吉の命で九州島津・相模小田原に遠征/文禄慶長役に出陣、  
1587検地/96サン=フェリペ号漂着を処理/97掟書「長曾我部元親百ヶ条」制定、  
儒仏学;吸江寺忍性・宗安寺信西(如淵)門、歌/茶道を嗜む、土佐南学を奨励、  
1597「長曾我部元親式目」/97「泰元親武器并役人鑑」、「長曾我部元親書状」、  
[元親(;)名)の幼名/通称/法号]幼名;弥三郎、通称;宮内少輔/羽柴土佐侍従、  
法号;雪蹊怨三大禪定門
- D4401 **元親**(もとか・中山なかやま、慶親男/本姓;藤原) 1593-1639 47 廷臣;蔵人頭/1627参議/28従三位、  
権中納言/1639権大納言/従二位?、1634「中山元親卿記」著、法号;光林院
- D4402 **元親**(もとか・貴田きだ、通称;長太夫)?-1689 加藤清正の庶子貴田正勝の孫、江前期の兵学者、  
摂津尼崎藩主青山家の家老職を継嗣;のち浪人・江戸で軍学師藩北条氏長門:素行と同門、  
山鹿素行門;高弟/甲州兵学を修得、弘前藩主津軽信政に招聘;辞退し息子親邦を推薦、  
1682「駅路八達録」、「部教私手鏡」著
- D4403 **元周**(もとか・戸田とだ、茂睡[1629-1706]3男)?-1737 母;兵ひょう(1646-99;旧姓宮部/貞林禅尼)、  
江戸の国学者/信濃佐久郡北相木に隠栖、父茂睡の日記「御当代記」を秘蔵、  
[風を待つうたたねながら明けし夜の夢より涼し秋やきぬらん](茂睡[鳥の迹]秋冒頭)  
[元周(;)名)の通称] 薩太郎/茂右衛門/勘右衛門、
- D4404 **元周**(もとか・橋たちばな、吉田よしだ梅庵[郷美]男) 1728-? 1798存 幕府医官橋元孝の養嗣;1746家督、  
幕臣医者:寄合/1753法眼/69奥医/83法印、1783著書「脚気説」を将軍に献上、1798致仕、  
1778「診腹要覧」、「腹心伝」、「字母源流診解」著、元春の父、  
[元周(;)名)の通称/号]通称;鋏蔵てつぞう、隆庵(;)代々の称)、号;梅園/宗仙院
- L4418 **元慎**(もとか・藤崎ふじさき、) 1752-1802 51 出雲の生/医者;近江彦根で医業・歌人、  
歌;[彦根歌人伝・亀]入
- J4429 **元知**(もとか・稲次いなづ、) 1816-97 72 上総木更津の国学者、  
[元知(;)名)の通称/号]通称;作左衛門、号;東溪  
元親(もとか・小栗栖) → 景桃丸(けいとうまる・小栗栖おぐるす、神職/俳人) D 1 8 5 7  
元親(もとか・高瀬) → 梅盛(ばいせい・高瀬、俳人/狂歌) 3 6 0 6  
基親(もとか・小林/深川)→ 元儻(もとよし・深川/深河/小林、本草家) E 4 4 7 9  
親々(もとか・馬詰) → 親音(もとね・馬詰うまづめ、藩士/歌) D 4 4 6 6  
本千丈(もとちたけ・瀧廻たきの)→ 瀧廻本千丈(たきのもとちたけ、狂歌) N 2 6 8 9
- D4405 **基嗣**(もとつぐ・近衛このえ/本姓;藤原、号;後岡屋殿のちのおかのやどの、経平男) 1305-54 50 母;一条公頼女、



鎌倉南北期廷臣;1316従三位右中将/18正三位/19権中納言/20(16歳)権大納言/21従二位、  
1326内大臣/27正二位・左大将兼任/30右大臣/31左大臣/1333建武新政のため職停止、  
(;二条道平が左大臣)/1337復職;関白/氏長者/38従一位;致仕、道嗣の父、51「楞伽寺記」、  
歌人;1315京極為兼[法華経和歌]出詠/貞和百首参加、  
勅撰17首;続後拾(931)風雅(396/795/1934)新千(108/1430/2055)以下、  
[なみだにもくもらぬものはます鏡見し面影の名残なりけり](続後拾遺集;恋931)

- B4447 **元次**(もつぐ・岡田おかだ、初名;権平次、伊賀男)1521-? 1600存 武将;松平康親の家臣、  
駿河・遠江・三河の諸合戦に戦功/1538康親没後は嫡子康重に出仕、  
「岡田竹右衛門覚書」「松平周防守家臣岡田竹右衛門之記」著、  
[元次(;名)の通称] 竹右衛門、五味右衛門の兄
- D4406 **基継**(もつぐ・園その/本姓;藤原、初名;基定、基国男)1526-160277 戦国安桃期廷臣;1588左中将、  
1599蔵人頭(頭中将)/1600正四上、歌人;1591後陽成天皇主催「一夜百首」参加、  
「園基継和歌詠草五首」著
- L4466 **元次**(もつぐ・村田むらた、一念男)1655-173379 伊勢松坂の商家/幼時に父没;  
叔父の孫兵衛重次(本居宣長の母方の曾祖父)が兄嫁(元次の母)を娶り元次を実子とす、  
養育後;元次が重次の後を継嗣、神道;出口(度会)延経門、のち垂下流神道家、和学者、  
全次(またつぐ・たけつぐ)の父、  
[元次(;名)の通称]孫兵衛(父の称)/孫介、法号;温新院
- D4407 **元次**(もつぐ・毛利もうり、就隆男/本姓;大江)1667-171953 母;銀[性雲院]、  
庶出のため弟元賢が家督、1690元賢没;養嗣子として周防徳山藩主/従五下飛驒守、  
儒;宇都宮遯庵門/東涯に私淑、学問所棲息堂を創建、文武の士風を興し富国に尽力、  
1716宗藩萩藩と領民間で境界争議;幕府は徳山藩主の責とし改易;  
元次は羽前新庄藩戸沢家預け、1719隠居;息元堯が徳山藩を再興、1710「徳山雑吟」著、  
[元次(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;亀之助、字;善長、通称;主計かげえ、号;徳山愚人、  
法号;曹源院性海滴水
- D4408 **元胤**(もつぐ・もとなね/げいん・多紀たき、天簡もとやす男/本姓;丹波)1789-182739 医者;父門、  
儒;太田錦城門、幕臣;1811家督嗣;寄合医師、医学館督事、父の学風継嗣;古医書研究/法眼、  
「柳泚りゅうはん詩文稿」「医林撮要」「経史医事類抄」「济世余言」「疾雅」「菓雅」「百家一旨」、  
「金匱要略広要」「水腫加言」「柳泚日録」「柳泚日鈔」外著多数、  
[元胤(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;弥生之助、字;奕禧/紹翁、通称;安良/安長/安元、  
号;柳泚りゅうはん、法号;専学院
- I4455 **元紹**(もつぐ・古川ふるかわ、芦沢元直男)1811-7060 讃岐高松の医者/那珂郡三条の古川家を嗣ぐ、  
経史/砲術修得、医者;長崎で修学/帰郷して医を開業/1862高松藩に出仕、  
1860「万延元申年初冬日当国郷土連名録」著、  
[元紹(;名)の別名/字/号]別名;斎、字;士厚、号;橘園/睡園
- K4497 **本資**(もつぐ・橋本はしもと、通称;内匠たくみ)?-? 江後期;備中賀陽郡の吉備津宮祠官、  
神道/国学・歌人;藤井高雅(1819-63/吉備津宮社家頭)門、  
歌;類題鯁玉集・類題和歌鴨川集・類題吉備国歌集(14首)など入集  
元次(もつぐ) → 元次(げんじ、15ct連歌) J 1 8 3 8  
元次(もつぐ・観世) → 元雅(もとまさ・観世、観世3代目/能楽) 4 4 2 1  
元継(もつぐ・奥田) → 尚斎(松斎しょうさい・奥田、儒者) S 2 2 3 1
- D4409 **基綱**(もつぐ・平たいら、教成のりしげ男)?-? 1102存 平安期廷臣;従五下/1102伊勢守、家能の父、  
歌人;金葉1首・II606/III596、叔父棟仲・従兄弟の僧朝範・忠快・周防内侍も歌人、  
[桜ゆゑいとひしかぜの身にしみて花より先に散りぬべきかな](金葉;雑606)、  
(花見のあと風邪を引いて詠む)
- D4410 **基綱**(もつぐ・源みなもと;六条源家、経信男)1049-111769 母;源貞亮女、平安後期廷臣;  
1076正五下蔵人/81兼右少弁/97蔵人頭/98正四下参議;左大弁/99兼勘解由長官、  
1100従三位/04正三位、1106権中納言/09治部卿/従二位/16兼大宰権帥、琵琶の伝承家、  
通時の弟/俊頼の兄、時俊・信綱(琵琶伝承)・敦経の父、  
歌人;1078(承暦2)内裏歌合参加;音声おんじょう(笙)演奏を提案(;袋草紙)、

1094師実「高陽院かやのいん七番歌合」左講師/98四条宮寛子扇合：左講師、

1116「雲居寺結縁経後宴うんごじけちえんきょうごえん歌合」参加/施主か？、

[いづれをか思ひますらん七夕は逢ふうれしさと逢はぬつらさと](内裏歌合；九番左17)

D4411 **基綱**(もとな・後藤ごとう、基清男/本姓；藤原) 1181-1256 76 鎌倉幕府御家人；正五下/玄蕃頭、源実朝に近侍/1252引付衆、歌人；早くから実朝家歌会に参加/自邸で歌会催、鎌倉歌壇の基礎を築く、東撰和歌六帖・拾遺風体集・雲葉集入集、勅撰9首；新勅撰(238/1095)続後撰(353/1075/1271)続古(1219)続拾(414)新千(1830)続古、[白菅しらすげの真野まの萩原咲きしよりあさたつ鹿の鳴かぬ日はなし](新勅撰；秋238)

I4427 **元綱**(もとな・) ? - ? 南北室町期；細川家の武将；連歌作者、1466以前成立の盛長「熊野法楽千句」(熊野千句)入(実際の興行年は不詳)、[白玉椿花ぞひさしき](熊野千句；何船百韻脇句、発句道賢；のどかなる御代にやはらぐ光かな)

4415 **基綱**(もとな・姉小路あねがこうじ、昌家男/本姓；藤原) 1441-1504 64 代々飛弾国司/廷臣；1478従三位、1494従二位/1504権中納言、足利義政に重用される；1465歌所寄人、三条西実隆と親交、1484義尚歌合参加、「基綱百首集」「卑懐集」「逸無名」「基綱卿集」「基綱卿五首和歌」、「基綱卿三十首」「春日社参記」「基綱卿記」外著多数、連歌；新菟玖波16句入、法号；香林院

D4412 **元綱**(もとな・毛利もうり、弘元男/本姓；大江) ?-1523 討死 戦国期安藝の武将、大江流の兵法家、兄元就もとなりの家督相続に逆意ありとして討れる、「大江元綱家伝兵法」著、[元綱(；名)の幼名/通称]幼名；四郎、通称；相合

I4471 **元綱**(もとな・岡部おかべ) ? - ? 江前期和泉岸和田の俳人、1676西鶴「古今俳諧手鑑」入、[口あけて午むまの年みる暦こよみ哉](手鑑/馬の口に折本の暦の口を言い掛る)

D4413 **元綱**(もとな・松村まつむら) ? - 1780? 肥前長崎の阿蘭陀通詞/蘭学、古文辞学；高階暘谷門、詩文/地理に通ず/多くの地理・翻訳書を著す、1771「阿蘭陀地球図説」校訂、1778「和蘭航海略説」79「新增万国地名考」著、「和蘭地図略説」校/「蛮産諸士名訳稿」訳、[元綱(；名)の字/通称/号]字；君紀、通称；安之丞、号；翠崖

D4414 **元綱**(もとな・三輪田みわた/みわだ/本姓；大神、清敏3男) 1828-79 52 父は伊予久米村の日尾八幡社神官、母；荻山八左右衛門女、三輪田常貞(米山)・高房の弟、妻眞佐子は高等女学校創設者、神道・国学；伊予の田内董史ただふみ・常磐井巖いかしほに門/京の大国隆正門/江戸の平田鏡胤門、尊攘を主唱；1863師岡節斎らと京等持院に押入り足利3代木像を斬首、三条大橋詰に梟首；討幕気運を煽動；但馬豊岡に幽囚される/王政復古で放免；朝廷に登用、病気で辞任し帰郷；伊予大山祇神社宮司/のち筑前香椎宮宮司、神祇権少祐、歌集「葛農舎集」著(270首)、1859「蓬仙日記」、「星占」「正月廿三日より奉伺条々」著、「三輪田元綱要集」あり、[なき人の面影ばかり身にしみてこの水無月もこの世にて見し]、[元綱(；名)の通称/号]通称；綱磨/綱一郎、号；葛の舎くずのや  
☆1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入の歌人元綱と同一？、  
[咲き匂ふあふちに雨のそそくなりこやさみだるるはじめなるらん](大江戸倭歌；509)

元綱(もとな) → 元綱(げんこう、15ct連歌) I 1 8 7 1

元綱(もとな・湯川) → 東軒(とうけん・湯川/湯河、儒者/詩) D 3 1 3 3

元鎧(もとな・堀内) → 元鎧(げんがい/もとな・堀内、医者/儒者) I 1 8 1 6

4416 **基経**(もとな・藤原ふじわら、長良男) 836-891 56 母；藤原総継[経継]女の乙春、叔父良房の養嗣子、平安前期廷臣；864参議、866応天門変で伴善男を失脚させる/872良房没により右大臣、876陽成天皇即位で摂政、880関白大政大臣/881従一位/884乱行の天皇を退位させる、宇多天皇を擁立；887即位直後に関白；形式的勅書問題で[阿衡あこうの紛議]が起こる、准三宮・贈正一位、笙の祖、879「日本文徳天皇実録」共編(；良香らと)、「詠百首和歌」、[基経(；名)の幼名/通称]幼名；手古、通称；堀河太政大臣/堀河殿、諡号；昭宣公、基経の息子；時平・兼平・仲平・忠平ら  
息女；温子(宇多天皇女御)・穩子(醍醐天皇中宮)ら

D4415 **基恒**(もとな・齋藤さいとう/本姓；藤原、初名；基世) 1394-1471 78 武家；室町幕府奉行人/遠江守、

將軍義持頃;政所寄人・恩賞方、1447出家、のち政所執事代/神宮開闔/内談衆・式評定衆、  
1440-56「齋藤基恒日記」著、

[基恒(;名)の通称/法名]通称;民部丞、法名;玄良

D4416 **元常**(もとな・細川ほそかわ) 1482-1554 73 室町期武将;和泉守護/幽斎の養父、  
歌会・連歌会参加

D4417 **基庸**(もとな・山本やまもと、長重男?) 1657-1725 69 加賀金沢藩士;1677歩;書物役/94父の遺知百石嗣、  
組外/1713百石加増、書;京の持明院基時門;秘伝を受;基庸と改名、漢学;室鳩窓門/歌人、  
「いろは伝授」「都鄙古刹旧伝」「いろは伝授」「山本随筆」「山本基庸建言書」著、「法帖」書、  
1717「書体靈書」書/24「微妙公(前田利常)御夜話」、「女房文翰式」「山本源右衛門歌物」書、  
[基庸(;名)の幼名/初名/字/通称/号]幼名;源太郎、初名;惟明、字;子遠、  
通称;孫八郎/源右衛門、号;亀井庵/善淵堂/藩籬鷄はんりあん/樗斎/樗翁、法号;本解院  
基房の父

J4440 **元庸**(もとな・海老江えびえ) 1680-1775 長寿 96 近江彦根藩士/歌人/書を嗜む、沢琴所と交流、  
大塚清子の師、  
[元庸(;名)の通称/号]通称;庄右衛門、号;青丘

D4418 **元庸**(もとな・吉井よい) ? - 1776 安藝賀茂郡竹原の国学者、算術/天文推歩術に通ず、  
のち神道家、唐崎信通・吉井正伴と親交、1753「古語拾遺抄略」、「灰燼集」「神代紀鈔説」著、  
[元庸(;名)の通称/号]通称;正兵衛、号;底斎

K4482 **元常**(もとな・中山なきやま) 1826-1892 67 佐渡河原田の医者;1841(16歳)上京、  
医;中山摂津守(暁)門/経史;大沢鼎齋門/連歌;里村家入門;連歌に長ず、琴棋を嗜む、  
晩年は専ら歌を詠ず、1874(明治7)神道教職/少教正/没後;贈中教正  
元旦詠句[この心常にもかもな今朝の春]、  
[元常(;名)の字/号]字;久卿、号;松濤

元恒(もとな・中村) → 中侖(ちゅうろん・中村、藩士/医/儒者) G 2 8 5 6

元恒(もとな・鮎川) → 一雄(いちゆう・鮎川あゆかわ、絵/華道家) G 1 1 5 2

元恒(もとな・有馬/山本) → 亨斎(こうさい・山本やまもと、藩士/儒者) I 1 9 9 3

元常(もとな・一見) → 直樹(なおき・一見/市見いちみ、国学者) L 3 2 1 9

本常(もとな・内藤) → 丈草(じょうそう・内藤など、藩士/俳人) 2 2 2 5

D4419 **元連**(もたら・飯尾いのお/本姓;三善、法号;宗勝、貞連さだつら男) 1431-92 62 武将;室町幕府奉行人、  
奉行人在職30数年/恩賞奉行/公人奉行、左衛門尉/大和守、1485奉行衆と奉公衆との争議;  
奉行衆は將軍義尚の怒りに触れ剃髪/元連は赦免後も入道(;宗勝)、「何事記録」著、  
歌人;1473雅康歌会参加、75甘露寺親長「公武歌合」79親長歌会参加、  
[唐崎や松吹く風による浪のあとにはひとり月ぞくまなき](公武歌合;二番左)

D4420 **元貫**(もたら・津田つだ) 1734 - 1815 82 津田元顧もとの養嗣子;筑前福岡藩主の侍医、  
養父の著作に助力、狂歌;四方側の判者、1765元顧「石城志」編、「蒙古入寇記」編、  
[元貫(;名)の号]海原中道うなばらのなかみち(;狂歌号)/筑羅館

E4489 **基輝**(もてる・鷹司たかつかさ/本姓;藤原、一条いちじょう兼香男) 1727-1743 夭逝 17歳 鷹司房熙の養子、  
1736従三位/37権大納言/41従二位/43内大臣;5月15日没、  
「伊勢一社奉幣次第;寛保元年六月」著、法号;常住心院

D4421 **元任**(もとう・橘たちばな、永愷ながやす[能因法師]男) ?-? 平安中期廷臣/官人:文章生/1046叙爵、  
従五位/後冷泉院の少内記、和泉守、藤原兼房・日野資業と交流、忠元の父/能元よしとの祖父、  
歌人;後葉集入集(117)、勅撰5首;後拾遺(83/244)金葉(160/624)詞花(84)、  
[明けばまづたづねにゆかむ山桜こればかりだに人に遅れじ](後拾遺;一春83)

D4422 **基任**(もとう・齋藤さいとう、基永[観意]男/本姓;藤原) ?-? 鎌倉後期武家;六波羅沙汰人、従五下、  
大夫/左衛門尉、事件に連座;因幡で出家(草庵集入)、二条派歌人;頼阿と歌会主催、  
1315為世[花十首寄書]参/井蛙抄に逸話入、基有の弟、基世・基明の兄、基夏の父、藤葉集入、  
勅撰28首;新後撰(1096)玉葉(1947)続千(5首410/533/1414/1807/2084)続後拾(3首)以下、  
[ながめても昔にかはる心かな人のとふべきゆふべならねば](新後撰集;恋1096)

D4423 **基任**(もとう・園その/本姓;藤原、基継男) 1573-1613 41 安桃-江戸期廷臣;1589左少将/1611頭中将、  
1512正四上参議/13従三位;没、歌人;1598「瓊玉けいぎよく和歌集」(類従本奥書)入



元遠(もととお・長尾) → 名鳥(なとり・長尾ながお、国学者) G 3 2 7 8

- D4424 **基時**(もとき・堀川ほりかわ/本姓;源、具俊男)?-? 母;源雅相女、鎌倉後期廷臣;正四下右近中将、のち出家/法諱;千恵せんえ、詩歌人/詩;1314「詩歌合八十番」詩に参加、歌:新千載集1751(千恵名)/新後拾遺2首(695/1138;基時名)、[谷風に雲こそそのぼれ信濃路しのぢや木曾のみかきの夕立の空](新千載;雑1751)[立ちなれし花橘のうつり香もいまは残らぬ墨染の袖](新後拾;七雑春695)
- L4499 **元辰**(もとき・四宮しのみや、)?-? 江前期;上方の歌人、1670下河辺長流[林葉累塵集]22首入、[けさよりは谷の古巢を軒ちかき梅にうつりて鶯ぞ鳴く](林葉累塵;春27)、[たのみつつ何かわたりし世の中はかひもながらのはじめをはりを](同集;1237述懐/ながら;無くと存ながらへ渡るを掛る)
- D4425 **基時**(もとき・持明院じみょういん/本姓;藤原、基定男)1635-170470 母;持明院基久女、廷臣;1663従三位、1691正二位/99権大納言、書家;家伝を継嗣、「持明院基時書状」「持明院基時法帖」「形色色書法」「持明院基時筆十二月わか」、「三十六人歌合書法」「三十六人絵歌仙散形」書/「書法式」外書多数、法号;天楽院真月照空、基輔の父
- L4407 **元辰**(もとき・原はら、通称;惣右衛門、定辰男)1648-170356 母;和田将監女、播磨赤穂義士、赤穂藩士;足軽頭3百石/妻;同藩士長沢六郎右衛門女;出産後没/後妻;水野七郎右衛門女、1701(元禄14)主君の刃傷時に伝奏屋敷に詰めており退去の指揮をとる、家老大石の評定に開城恭順を主張/のち大坂住/大石良雄の御家再興運動を補佐、仇討主張派を説得のため江戸下向;江戸で逆に急進派の中心;大石に仇討決行を迫る、1702吉良家討入;表門隊に属す/邸内侵入時足を捻挫;泉岳寺引上に駕籠に乗る、細川綱利屋敷預;1703(元禄16)2月4日切腹;法名は刃峰毛劔信士、老母が自害して諫めたという話は後世の創作、[元辰(;名)の変名]和田元真/前田善蔵
- D4426 **職辰**(もとき・平田ひらた/家名;出納/本姓;中原、職直男)1681-? 廷臣/官人;代々蔵人所出納の職、1687正六下/右近将監/1700従五上/1705豊後守/07病のため致仕、故実家、職周もとかねの兄1699「朔旦冬至記」「朔旦冬至平座記」、「日光例幣使道中雑用請取帳」著
- 4417 **基俊**(もとし・藤原ふじわら、右大臣俊家男)1060?-114283 母;高階順業女、平安後期廷臣;左衛門佐、従五上;兄弟は昇進したが基俊のみ不遇;1138出家;法名覚舜、漢学・詩歌に秀で歌壇指導、院政期歌壇の保守派で源俊頼の改革派に対抗/その歌学は藤原俊成に継承される、1100「源宰相家歌合」04「俊忠家歌合」05「堀河百首」参加、1116「雲居寺結縁経後宴歌合」・18・21「内大臣忠通家歌合」など藤原忠通・家成家歌合判者、1122「無動寺歌合」判/33「相撲立詩歌合」編纂/37「経定家歌合」判、家集「基俊集」あり、「和歌無底抄」(仮託書)、詩;「新撰朗詠集」編、本朝無題詩;17首入/中右記紙背詩集;1首入、「悦目抄」?(基俊仮託の歌論書/日本最初の回文;小輪尼の歌入;成立は文保1317-19頃か)、後葉・続詞花10首・言葉・月詣・万代・秋風・雲葉・和漢兼作・閑月集入/万葉集次点者の一人、勅撰107首;金葉(3首154/345/604)詞(264)千載(26首32/34/86以下)新古(7首)続後撰以下、[契りおきしさせもが露を命にてあはれ今年の秋もいぬめり](千載;1026/百人一首75)、(藤原忠通が約束したにもかかわらず息子光覚が維摩会講師になれなかった恨みの歌)[基俊(;名)の通称/法名]通称;金吾入道、法名;覚舜、  
基俊の兄弟;宗俊・師兼・宗通、興福寺僧光覚・藤原基俊女(玉葉集歌人)の父
- D4427 **基俊**(もとし・堀川ほりかわ、号;亀谷、基具2男/本姓;源)1261-131959 母;平惟忠女、廷臣;左近中将、1283参議/従三位/86権中納言/90正二位/91権大納言、92致仕、関東住、1284「基俊卿記」著1283(弘安6)参議/従三位/85(弘安8)左兵衛督/檢非違使別当/86権中納言、1289征夷大將軍久明親王の関東下向に随従/90正二位/91(正応4)権大納言、92致仕、1319(文保3)没;頓死1284「基俊卿記」著、徒然草;99・162段入(;檢非違使時代の話)
- D4428 **職俊**(もとし・平田ひらた/家名;出納/本姓;中原、中原生職男)1632-171180 母;大野宗閑女、廷臣/官人;1638(8歳)権少外記/内匠大允/少内記/少外記歴任、1659従五下/78致仕、故実家;1681加賀金沢藩主前田綱紀より禄2百俵受、1687[東山天皇即位式の図]作成指導、

1686「職原家伝秘録」95「有職聞書」、「延喜式字註聞書」「職原抄口訣秘事」外編著多数  
[職俊(；名)の通称]通称；大匠

D4429 **元甫**(もとし/げんぼ・藤堂とうどう/本姓；源、初名；元英、元光6男)1677-1762<sup>86</sup> 藤堂采女家3代高稠の弟、  
伊勢津藩士、1713藤堂采女家二代の分家伊織家の嗣；津城下で騎将となる、  
1745采女家五代元福幼少のため伊賀上野城代家老職代行；采女を称す/57(元福18歳)致仕、  
城代職・采女の称を返上、地誌家；津藩領伊勢志摩伊賀の地誌「三国地志」編纂；  
富士林正直・萱生由章・川口維言らが協力(；元甫没後は元福が完成)、1743「思川記」著、  
「伊勢志河曲郡」編/「伊賀国式社考」著、家臣竹人に「芭蕉翁全伝」編纂を命ず(；序執筆)、  
[元甫(；名)の幼名/通称/号]幼名；千之助、通称；藤右衛門/藤助/伊織/采女(1745-57)/長門、  
号；白舌翁/好問齋/老馬人/再形さいぎょう庵、法号；三折院

D4430 **職俊**(もとし・平田ひらた/家名；出納/本姓；中原、職方もとかた男)1760-? 母；平田職甫女、廷臣/官人、  
代々蔵人所出納の職/1767(8歳)正六上/右近将監/75大蔵権少輔/77美濃守/79従五上、  
1783病により致仕、1769-83「平田職俊日記」1772「東寺弘法大師平遷座一会日記」、

J4462 **幹命**(もとし・鹿島かしま/本姓；平、初名；幹茂)1822-94<sup>73</sup> 常陸鹿島神宮神職；1835(天保6)惣大行事、  
1869(明治2)改補大行事、のち宮内省式部寮に出仕、国学者、「惣大行事日記」著、  
[幹命(；名)の通称]丹下

L4470 **元敏**(もとし・毛利もうり、元運6男)1849-1908<sup>60</sup> 母；欽麗院(土屋彦直女)、従兄元周の養子；  
1868元周隠居で長門長府藩14代藩主を継嗣、長州藩主毛利元徳正室安子の同母弟、  
和漢学/歌人、維新後；1869版籍奉還で知判事、豊浦藩と改称；1871免官/東京住；  
岩倉使節団同行；アメリカ留学、宮中御歌寄人、正室；保子(正親町三条実愛2女/)  
側室；美濃子、元雄・乃木元知(乃木希典養子)、邦樹・多栄子・式子たねの父、  
歌集「松の下葉」著、

[元敏(；名)の初名/通称]初名；元懋、通称；宗五郎/左京亮

元敏(もとし・廬) → 草拙(そうせつ・廬ろ、漢学/天文家) C 2 5 3 5

元敏(もとし・水野) → 廬朝(ろちよう・水野みずの/源/水、幕臣/絵師/俳人) C 5 2 1 3

元敏(もとし・松田) → 五松(ごしよう・松田まつだ、国学/俳人) M 1 9 7 9

元襄(もとし・浦) → 元襄(もとまさ・浦うら/国司くにし、家老/日記) E 4 4 3 2

元儁(もとし・深川) → 元儁(もとよし・深川、本草学/詩文)

D4431 **基俊女**(もとしのむすめ・藤原ふじわら)?-? 平安後期歌人；「基俊集」に詞書、

父基俊(1060?-1142)は詩歌人で歌壇の指導者、玉葉集268、

[春雨にぬれぬれをらむけふ過ぎばみでの山吹散りもこそすれ](玉葉；二春268)

D4432 **基富**(もとも・園その/本姓；藤原、基有男)1457-1533<sup>77</sup> 室町戦国期廷臣；1488参議/89従三位、  
1501権中納言/23正二位/19年間加賀に滞在；同地没、連歌；新撰菟玖波；3句入

I4475 **元福**(もとも・酒井さかい、通称；巳作)?-? 越後村上藩士；内藤紀伊守家に出仕、

歌；1798刊石野広通「霞関集」入、

[したひつる弥生は暮れて咲く花や青葉が中に春を見せぬる](霞関；夏209/遅ざくら)

L4445 **元福**(もとも・三浦みづら、元彦男)1752-1814<sup>63</sup> 近江彦根藩家老；2千5百石(三浦与右衛門家)、  
歌人；香川景樹門、元苗もとなえの父、歌；[彦根歌人伝・亀]入、

元彦-元福-元苗-元泰と続く

[元福(；名)の通称]与左衛門/内膳

K4405 **元宝**(もとも・齋藤さいとう、)? - 1881 出羽飽海郡庄内藩士、国学・歌人；鈴木重胤門、

[元宝(；名)の通称/号]通称；荣蔵/弥右衛門、号；此君亭しくんてい/怡竹/雪友庵/藤の舎

元富(もとも・山科) → 宗安(そうあん・山科やましの、侍医/墨竹) 2 5 4 6

M4413 **基具**(もとも・堀川ほりかわ/本姓；源、内大臣具実の長男)1232-97<sup>66</sup> 母；藤原公左女、鎌倉期廷臣；

1238侍従/41右近衛少将/44右近中将/48蔵人頭/左近中将/1250(建長2)従三位/参議、

1251讃岐権守/正三位/52権中納言/54従二位/55左衛門督/58正二位/61権大納言

1271(文永8)大納言/72淳和奨学院別当/84(弘安7)准大臣(儀同三司)・従一位、

1289(正応2)太政大臣；1290辞任/96(永仁4)出家/97(永仁5)没、妻；平惟忠女(1228-1312)、

堀川具守(1249-1316)・堀川基俊(1261-1319)・道源(僧正)・顕覚(興福寺別当僧正)・

道暁(法印)・道豪・定珍・尊顕(大僧都)・親助の父、美男・富裕・奢侈を好む(徒然草99段入)、

歌人;1259正嘉三年北山行幸和歌入、

[さくらばなけふをちとせのはじめにて思へば御代の春ぞひさしき](北山行幸歌;18)、

[基具(;名)の号]号;堀川太政大臣

- D4433 **元朝**(もともと・岡本おかもと、元弘男)1661-1712<sup>52</sup> 羽後秋田藩士;御文書改奉行;藩史編纂に尽力、1701家老、1695-1712「岡本元朝日記」、「川井伊勢誅伐之記」著、  
[元朝(;名)の通称/号]通称;又太郎、号;竹閑/梅江斎、
- D4434 **職朝**(もともと・花房はんぶさ、堀田正朝2男)1716-65<sup>50</sup> 幕臣花房職時の養子;1734継嗣、37中奥小姓、小姓組番頭・書院番頭・大番頭を歴任/1764駿府城代;当地没、近江守/従五下、  
「甲午紀行並扇序道之記」著、  
[職朝(;名)の通称/法号]通称;岩之助/数馬/大膳、法号;義勇
- J4472 **元等**(もともと・神谷かみや、)1722-1801<sup>80</sup> 尾張名古屋の商家;永楽屋、国学;本居春庭門、  
[元等(;名)の字/通称/号]字;齊卿、通称;伝右衛門、号;天遊、屋号;永楽屋
- D4435 **元知**(もともと・佐藤さとう) 1768-1839<sup>72</sup> 加賀藩士;今枝家の与力、兵学;有沢家入門、  
文化文政期1804-30頃村松吉右衛門らと心学を講ず、「和倉湯治夢物語」「江沼郡山代記」、  
「加陽公譜要略」「藩国武夫干城録」/1825「公譜要略」著、  
[元知(;名)の通称/号]通称;儀左衛門、号;克己庵/金廩堂きんりんどう
- L4457 **元知**(もともと・宮崎みやさき) ? - 1875 伊勢津の国学者;津の商家小西春村(1767-1836)門、  
国学・語学;富樫広蔭(1793-1873)門、歌;香川景樹(1768-1843)門、  
[元知(;名)の通称]半三郎/十右衛門
- K4413 **元知**(もともと・須藤すどう、旧姓;土岐沢)1825-? 上野碓氷郡安中の国学者、  
歌人;橋道守(1852-1902)門、  
[元知(;名)の通称/号]通称;治四郎、号;東陽堂/五葉庵/呉羊/杓屋  
基具(もともと・斎藤) → 寂意(じゃくい、斎藤/藤原、歌人) V 2 1 8 9  
親友(もともと・馬詰) → 親音(もとね・馬詰うまづめ、藩士/歌) D 4 4 6 6
- D4436 **基豊**(もともと・広幡ひろはた、前秀男/本姓;源)1800-57<sup>58</sup> 母;日野資矩女、兄経豊の嗣子、1811元服、  
廷臣;1813右中將・従三位/15正三位/18権中納言・従二位/21正二位/23清保親王家別当、  
1826新嘗祭大斎/31権大納言/35儲君親王宣下参仕/49右大將兼任/57内大臣/従一位;没、  
1835「立親王宣下之記」40「統仁親王立太子備忘」、「基豊公記」「天保度暇書」、  
「改元基豊卿備忘」「統仁親王立坊伝奏備忘草」外著多数  
元豊(もともと・山名) → 禪高(ぜんこう・山名/源、武将/連歌) 2 4 2 8
- D4437 **元虎**(もともと・河野こうの、初名;虎之助)?-1795 大阪の荒物商の生/幼時より碁を好む、  
棋士;江戸の本因坊家門/1783五段;御城碁に列す、「碁則変」編(寛政1781-89頃)
- D4438 **職寅**(もともと・平田ひらた/家名;出納/本姓;中原、法印巖順男)1787-? 母;牧義比女、故実家、  
平田職厚の養嗣子;平田家は代々蔵人所出納の職、1806正六上/34内蔵権頭、49正四下、  
1806-57「平田職寅日記」/15「三条公修本陣一会記」/17「仁孝天皇御即位式御休幕等図」、  
1842「光格天皇三回聖忌懺法講」/47-49「夙子御入内一会之記」外記録多数、職修の父
- D4439 **基名**(もとな・齋藤さいとう、通称;彦五郎、茂連男/本姓;藤原)?-? 南北期武家;室町幕府引付頭、  
五位/筑前/左衛門尉、歌人/勅撰3首:新千載(1323)新拾遺(1553)新後拾遺(677)、  
[偽いはりのなき世なりともうき人の心変はらばえやは頼まじ](新千載;十三恋1323)
- J4425 **基名**(もとな・石山いしやま/本姓;藤原、初名;公城、姉小路実武2男)1720-92<sup>73</sup> 石山師香もろかの養子、  
廷臣;1726従五下侍従/1748従四上丹波介/50正四下右近中將/54従三位/58正三位  
右兵衛督/62参議/68従二位/72権中納言/77正二位/89権大納言、歌、  
妻;石山師香女、息子基陳もとのぶが家督嗣  
[基名(;名)の初名]姉小路公城(きんむら?)
- L4446 **元苗**(もとな・三浦みづら、元福もともみ男)1774-1806<sup>33</sup> 近江彦根藩家老;2千5百石(三浦与右衛門家)、  
国学;本居宣長門、稽古館頭取、歌;[彦根歌人伝・亀]入  
元彦-元福-元苗-元泰と続く  
[元苗(;名)の通称]乙吉/於兔吉/内膳(代々の称)
- L4498 **元直**(もとな・水口みずぐち、)? - ? 江前期;京の歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]入、  
[かくてのみあはれいつまでつつむべき命ばかりもかぎりある世に](麓の塵;恋398)



- D4441 **職直**(もとなお・平田ひらた/家名;出納/本姓;中原、職央もとなか男)1649-1742長寿94 母;速水将益女、  
廷臣/官人;代々蔵人所出納の職、1682正六上/豊後守/99大蔵大輔/1738従四上、故実家、  
職正の弟、1679-1707「平田職直日記」/1685「白馬節会舞妓交名附坊家奏」著、  
1687「貞享四年御即位絵図」1720「承秋門院倚廬并本殿替物御調度絵図」著、  
1738「悠紀主基廻立殿御調度図」外記録・著多数、職辰もとき・職周もとかねの父
- D4442 **元直**(もとなお・島津しまづ、初名;貴澄、吉貴5男)1738-180770 薩摩藩士;兄貴儔の養子;薩摩垂水領主、  
学芸振興;郷校文行館を設立;乾徹猷・市川鶴鳴らを招聘、和漢学修学/詩文に長ず、  
「麁籠詩稿」著、貴品の父、  
[元直(;)名)の通称/号]通称;小源太/玄蕃/越後/備前/美作、号;予章、法号;景德院
- D4443 **元尚**(もとなお・高須たかす、) ? - ? 江中後期;遠江新居宿中町の油問屋;若林屋、  
高須家7代;酒造業、国学:本居宣長門、夏目甕磨と親交;山陵調査に協力;写生図を制作、  
「葉月の末つかた」著、葦根(尚道/1790-1860)の父、葛根つねの祖父、  
[元尚(;)名)の通称/屋号]嘉兵衛(代々の称)、屋号:若林屋
- D4440 **元直**(もとなお・勝木かつき) ? - ? 江後期加賀金沢藩士;能・謡曲研究者、  
加賀藩年寄の村井長道ながみち[1796-1836]の命で、  
1831佐久間寛台ひろもの謡曲注釈書「謡言粗志訂」の補訂作業(河合良温・渋谷重武と)
- L4438 **大直**(もとなお・松田まつだ、直兄なおえ長男)1806-4338 山城愛宕郡の上賀茂神社祠官の家の生、  
神道/歌;父門、早世のため弟が家督嗣、内直・直子の兄、  
[大直(;)名)の初名/通称]初名;直大、通称;竹若丸/鶴丸/靱負/弘雄
- J4426 **基正**(もとなお・石山いしやま、石山基文の長男)1843-9452 廷臣;1857右兵衛権佐、  
1864横浜鎖港督励の三八卿連署に参加/禁門変に父と長州側で参加;参朝停止/67赦免、  
1868三職書記御用掛/維新後;宮内省出仕;雅楽部副長兼掌典/東京住、  
妻:延子(のぶこ、澤為量女)/基則・正子・姉小路公政・晨子はやこの父、  
[基正(;)名)の通称]通称;亀麿
- 元尚(もとなお/もとひさ・波多野)→ 元尚(げんしょう・波多野、連歌) C 1 8 1 6  
元直(もとなお・山科) → 道庵(どうあん・山科やましな、医者) 3 1 9 2  
元直(もとなお・平井) → 復斎(ふくさい・平井ひらい、藩士/儒者) B 3 8 5 5  
司直(もとなお・成島) → 東岳(とうがく・成島なるしま、幕臣/儒者/歌) C 3 1 2 0
- M4413 **基仲**(もとなか・齋藤さいとう/本姓藤原、延基男)?-? 鎌倉南北期;廷臣;官人/帯刀兵衛、出家;玄心、  
従兄に基能(幕府評定衆/政所執事代/1371恩賞奉行/出家;玄観)がいる、基広の父、  
☆1315京極為兼[詠法華経和歌]参加の[玄心(01834)]とは別人か?
- D4444 **職央**(もとなか・平田ひらた/家名;出納/本姓;中原、職在男)1620-9879 廷臣/官人;1625従五下、  
1645豊後守、1657明法博士/63従四上/67大蔵大輔、故実家、  
1663-97「平田職央日記」著、職正・職直の父
- D4445 **資央**(もとなか・福原ふくはら、梅津敬忠男)1678-173154 羽後秋田藩士;1702福原資直の養子、  
1710家督嗣、兵法家;実父門/鉄砲の名手、秋田藩二番大小姓番頭兼右筆頭、  
大筒鉄砲侍25人預り、1717大番九番組頭兼寺社奉行、「陣取問答」著、  
[資央(;)名)の通称]藤蔵とうぞう/藤三/彦太夫、法号;正無庵善住
- D4446 **元仲**(もとなか・越こし) ? - ? 江中期河内の儒者:1765刊「千字文国字解」編
- D4447 **基仲**(もとなか・東園ひがしぞの/本姓;藤原、基辰男)1780-182142 母;花山院常雅女、江後期廷臣;  
1820参議、正四上/1821従三位;没(42歳)、歌・画を嗜む、  
「新嘗祭参役次第」著、法号;靈巖院
- 元仲(もとなか・五辻) → 之仲(ゆきなか・五辻いつづ/源、廷臣/連歌) F 4 6 1 1
- D4448 **基長**(もとなか・藤原ふじわら、能長男/母源濟政女)1043-1107?65?(尊卑分脈1095没は誤) 母;源濟政女、  
廷臣;1069従三位/72参議/73正二位/82権中納言:91辞し弾正尹/1098出家、頼宗の孫、  
歌人:基俊撰「新撰朗詠集」入、勅撰5首;後拾遺(988)金葉(264/531)千載(1055)新勅(213)、  
[破われ舟ぬの沈みぬる身のかなしきはなぎさに寄する波さへぞなき](後拾遺;雑988)、  
(司召の任官なく女に沈淪の身を嘆く/渚は女を暗示;あなたの許に行く手立てもない)
- D4449 **元長**(もとなか・山田大路ようだおおじ/本姓;度会たらい)1392-?長寿 1483存(92歳) 伊勢度会の神職、

山田大路氏の祖、五位/豊受大神宮別宮高宮の御炊物忌を謹仕、  
「詠太神宮二所神祇百首和歌」「元長記」「元長参詣記」「内宮御鎮座記」著、  
1472「御裳記」79「元長諸社記」93「元長修祓記」著

- D4450 **元長**(もとなが・小笠原おがさわら、持長男)1433-150371 武将;兵部少輔/播磨守/従五下、故実家、山城・近江・備前に数村を領す、「犬追物射鏡」「犬追物日記」「犬追物磨鏡」「流鏑馬日記」、「義澄犬追物日記」「丸物之記」「犬追物書」「御犬始御日記」「犬追物元長日記」外著多数、  
[元長(;)名)の幼名/号]幼名;六郎、号;久庵、入道号;宗長
- 4418 **元長**(もとなが・甘露寺かんろじ、親長2男/本姓;藤原)1457-152771歳 廷臣;甘露寺家を継嗣;  
兄氏長は万里小路冬房家の養子になる、1486参議、正四上右大弁、1504以降賀茂伝奏、  
1517権大納言/正二位/26従一位、後土御門・後柏原両天皇に出仕、故実家/笛・詩歌を嗜む、  
三条西実隆と禁中御会の中心、自邸で歌合・和漢聯句を主催、「元長卿記」「御教書案」著、  
1473親長家歌合/75親長催「」/85着到和歌/1503三六番歌合(後柏原院歌合)参加、  
「元長卿勸進和歌」著、  
連歌;1511「魚鳥百韻」1522「万葉集詞百韻」「伊勢詞百韻」参加/27和漢聯句催、  
[志賀の浦や松の煙はみえながら浪路さやけき月の影かな](公武歌合;七番湖上月左)、  
[元長(;)名)の法名/道号]法名;清空、道号;古月、法号;古日清空
- D4451 **元長**(もとなが・三好、長慶の父)1501-153232 和泉河内の武将;細川家家臣、連歌、  
1531細川常桓[高国]の自刃前の辞世句を受;宗碩「細川高国追善懐旧百韻」入
- I4449 **元長**(もとなが・吉川きつかわ)1548-158740 戦国期武将/歌人、  
[皆人は渡りはてたる世の中に我が身ぞもとのままの継ぎ橋]
- D4452 **基長**(もとなが・東園ひがしぞの/本姓;藤原、基量男)1675-172854 母;高倉永敦女、廷臣;1700参議、  
1719権大納言/21正二位/23致仕、26改名;基雅、「宣下案」編、「基長卿記」「条事定改元記」著、  
[基長(;)名)の別名/法号]初名;基茂/後名;基雅、法号;広観院、基楨もとの父
- D4453 **基長**(もとなが・小笠原おがさわら)?- ? 1741存 遠江浜松藩士/松平資俊に出仕;  
五島新田の水路開削に尽力;1726水路竣工、1723「南都賦」著/28「歴朝諫林」編、  
1741「三河八郡九百三拾九邑高控」編、  
[基長(;)名)の通称/号]通称;源太夫、号;松泓しょうおう/靈芝主人
- L4429 **元長**(もとなが・馬島まじま、善長の男)1750-182071 信濃長野の書家;父門/国学者、  
[元長(;)名)の初名/号]初名;貞幹さだもと、号;左文/獅石
- D4454 **元長**(もとなが・吉田よしだ/泉屋、屋号;吉田屋)1776-182449 京の書肆;禁裏御書物所、  
歌人;小沢蘆庵門、京の榎木町通・二条通富小路東入北・衣棚東入と移転、  
1808涌蓮「獅子巖歌集類題」編、  
[元長(;)名)の通称/号]通称;四郎右衛門、号;松寿亭/再昌軒/甘泉堂
- K4488 **元長**(もとなが・成田なりた、)1778-184871 出羽秋田郡の肝煎、和学、  
[元長(;)名)の通称]市松/兵左衛門
- D4455 **元永**(元栄もとなが・寺西てらにし、封元男)1782-184059 幕臣;兄早世のため家督嗣/1814代官見習、  
1827父没に岩代伊達郡桑折代官/豊後日田の西国郡代、国学;本居大平門陸奥社中に属す、  
安藤野雁を援助、日田では広瀬淡窓・旭荘兄弟と親交、「陸奥日記」著、  
[元永(;)名)の字/通称]字;士楨、通称;虎之助/隆三郎/蔵太、直次郎の父
- D4456 **基延**(もとなが・持明院じみょういん/本姓;藤原、基敦男)1792-185564 母;今城定興女、廷臣;1819従三位、  
1837従二位/54権中納言、書家、1827「文政十年諸家詠草留」「持明院前宰相基延卿詠草留」著
- D4457 **元長**(もとなが・長島ながしま)1793-187179 壱岐の生/肥前平戸藩士;1822家督嗣、軍法兵法家、  
中老嫡子格/物頭並格/壱岐全島押役歴任/1863御役兼武者目付、軍学師藩、公共事業尽力、  
兵法・神道・儒学・仏教・茶道を子弟に教育、「玩琴弾法」「雄備集口伝」「発機諺解私淑言」、  
「自得奥儀集聞書」「原源発機所之象数総図之考」「天保十二年丑春」著、  
[元長(;)名)の通称]加賀衛門
- I4493 **元長**(もとなが・福田ふくだ) ? - ? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
1860鋤柄助之「現存百人一首」入、  
[野に騒ぐ雁のしるべのなかりせば尾花が浪に袖はぬれなむ]、

(大江戸倭歌;雑1999/義家朝臣)、

[芳野山いざゆきて見む桜花待つ間を旅の日数にはして](現存百人一首;49)

- L4433 **元永**(もとなが・益ます、旧姓;二本杉)1806-7974 伊勢度会郡の三方さんぼう神役じんやくにん、  
神道・国学;足代弘訓門、  
[元永(;名)の通称]大膳/善太夫
- L4451 **元長**(もとなが・三間みま、)1815- 187662 播磨姫路藩士、国学;本居内遠門、  
藩の尊攘派長老として活動;1864(元治元)尊攘派弾圧で家禄没収;禁固/1868赦免、  
会計奉行;藩財政整理、  
[元長(;名)の通称/号]通称;魁平/半二、号;長城
- L4455 **基修**(もとなが・壬生みぶ、庭田重本3男)1835-190672 京の廷臣;藤原氏北家・園家の支流、  
壬生道吉の養子、修理権大夫/従四下、急進的尊皇攘夷派の政治家;  
和宮降嫁に尽力の[四奸二嬪]の追放運動/1863政変で三条実美らと長州へ七卿落ち、  
王政復古で新政府参画;戊辰戦で会津征討の越後口総督府参謀、1863越後府知事、  
東京府知事/元老院議員/貴族院議員を歴任、1895平安神宮初代宮司、1906(明治39)没、  
没後;息子の壬生基義が久邇宮朝彦女篤子と結婚
- |             |   |                         |           |
|-------------|---|-------------------------|-----------|
| 元永(もとなが・岡本) | → | 貞永(さだなが・岡本おかもと、藩士/国学)   | O 2 0 2 0 |
| 元長(もとなが・永島) | → | 審(しん・永島ながしま、医者/農政)      | N 2 2 2 2 |
| 元長(もとなが・松原) | → | 一鳳(いっぽう・松原まづら、藩医)       | H 1 1 9 1 |
| 元長(もとなが・田中) | → | 鶴翁(かくおう・花月庵、田中、茶人;煎茶)   | J 1 5 5 9 |
| 元長(もとなが・田村) | → | 西湖(せいこ・田村/坂上、幕吏/医/本草)   | B 2 4 3 3 |
| 元長(もとなが・鈴木) | → | 其一(きいつ・鈴木すずき、絵師)        | E 1 6 9 5 |
| 元命(もとなが・山野) | → | 佳政(よしまさ・田中/山野、藩士/和算/神道) | H 4 7 0 1 |
| 基永(もとなが・齋藤) | → | 観意(かんに・法諱、武家/僧/歌/連歌)    | D 1 5 3 9 |
| 基永(もとなが・伊達) | → | 大蔵(おおくら・伊達だて、領主)        | C 1 4 7 9 |
- E4413 **元長親王**(もとながしんのう、陽成天皇皇子)?-976 平安前期/母;姉子女王、元良親王の弟、  
二品式部卿、南院式部卿親王女なんいんしきぶきょうのみこのむすめと恋(後撰1054)/中務と同棲(後撰1104)  
→ 南院式部卿親王女(なんいんしきぶきょうのみこのむすめ) I 3 2 5 0  
→ 中務(なかつかさ、中務卿敦慶親王女) E 3 2 3 0
- 元良親王(もとながしんのう) → 元良親王(もとよししんのう、歌人) 4 4 1 9
- D4458 **元夏**(もとなが・三統みむね/姓かばね;宿禰、理平まさひら男)?-964 平安前期廷臣/官人;929文章生、  
932文章得業生/937対策/式部少丞/942従五下/957東宮学士/960文章博士/式部少輔、  
各種師宴に参加;詩題・韻字を献ず/歌;拾遺集1156(;東隣に住む紀貫之との贈答歌)、  
[梅の花匂ひの深く見えつるは春の隣の近きなりけり](拾遺;1156/東隣は春が早い)
- D4459 **基夏**(もとなが・齋藤さいとう、基任男/本姓;藤原)?-? 鎌倉後期武家;六位/左衛門尉、歌人:  
続現葉・臨詠・松花集入、勅撰3首;続千載(1607)続後拾遺(1165)新千載(1789)、  
[うき身にはつらさも知らでいまはただ人をうらみぬ心ともがな](続千載;恋1607)
- D4460 **基成**(もとなが・園その/本姓;藤原、基藤男)1297-134145 母;昭訓門院大夫、鎌倉後期・南北期廷臣;  
1315従三位/32従二位/39権中納言/41出家、歌人;藤葉集入、  
勅撰6首;風雅(1725)新千載(1930)新拾遺(275/1138)新後拾遺(393/1140)、  
[うらうらのくるる浪間に数見えて沖にいでそふあまの漁火](風雅集;雑1725)、  
[有馬山みねの朝霧晴れぬれどまだ露深きみなのささ原](藤葉;秋222)
- D4461 **元就**(もとなが・毛利もうり、弘元男/本姓;大江)1497-157175 戦国期安藝郡山の武将/  
1516安藝多治比城主、1523兄興元の息幸松丸没により宗家家督を継嗣/従四上/治部少輔、  
陸奥守、尼子・大内の間に逼塞後;1557陶晴賢・大内義長を討つ/戦国大名;  
中国地方10州を制覇、1568豊後の大友義鎮と交戦中に没、  
歌/連歌・1558「厳島奉納万句」著、家集「春霞しゅんか集」「大江集」、  
1557「毛利元就教誠状」(;息3人宛)、  
[鶯の春をわくてふ太山哉](春霞集下巻;1572元龜三年二月紹巴判連歌の発句)、  
[天つ空くもらず照らす春の日に霞たなびく風ののどけさ](;萩の歌人入)  
息子(毛利隆元/吉川元春/小早川隆景)への三本の矢の教えの逸話あり、



[元就(；名)の幼名/通称/法号]幼名；松寿丸、通称；少輔次郎/大膳太夫、  
法号；洞春院、神号；仰徳大明神

- D4462 **元業**(もとなり・林はやし) ? - ? 江中期大坂南紺屋町の医者、1762「口科秘囊」著
- D4463 **元成**(もとなり・浜嶋はまし、号；寧卿)?-? 1797存 江戸浜町の文筆家、  
1767自邸で病没した黄檗僧天年浄寿の遺稿を集め刊行；1770「介石終南禅師遺稿」編
- D4464 **元成**(初世もとなり・加保茶かぼぢやの、通称；村田市兵衛、岡本長兵衛男) 1754-1828 75  
初世村田市兵衛[文楼]の婿養子；新吉原妓楼大文字屋の2世主人、加保茶は先代の仇名、  
別宅逍遥楼で狂歌会を主催；吉原連の中心、蔦唐丸(蔦重)/筆綾丸(歌麿)らと交遊、  
古銭収集と鑑定に長ず、1808「上館集」/14-15「対泉譜」、徳和歌後万載集11首入、  
養母；相応内所、妻；秋風女房も狂歌を作る、  
[世を捨てて身は墨染の西行もお富士さんにはすこしのりきよ](後万載/義清と乗気よ)、  
[初世加保茶元成(；号)の別号] 村田文楼(2世)、  
養母 → 相応内所(そうおうのいしよ、狂歌) 2 5 7 9  
妻 → 秋風女房(あきかぜのによぼう、狂歌) C 1 0 5 0  
娘婿 → 南瓜宗園(なんかそうえん、元成2世/狂歌) I 3 2 5 8
- V2240 **白成**(もとなり・野城のしろ、通称；太郎吉/清太夫) 1808-66 59 上総市原郡の国学者；平田鍬胤門
- L4439 **本生**(もとなり・松田まつだ、) 1814- ? 因幡鳥取藩医、国学・歌；城戸千楯(1778-1845)門、  
勤王家/歌人、維新後；宮内省に出仕/東京住、  
[本生(；名)の初名/通称]初名；重生、通称；主善/礼造
- D4465 **元成**(もとなり・河島かわしま、服部与右衛門男) 1827-73 47 丹波福知山医者/福知山藩士河島家の養嗣、  
医；藩医有馬丹山門/上洛し新宮涼庭門/藩主朽木綱張に随従し江戸へ；蘭医緒方洪庵門、  
洪庵の種痘館開設に援助、1864飯田節らと藩政改革を企画；目付役角川彦右衛門を殺害、  
幽閉されたが赦免/1865中小姓/66惇明館素読世話役/70医業頭取/京で没、  
1856「洋学燕石記」著、幼名；良之輔、法号；仁敬院
- K4425 **固成**(もとなり・田沢たざわ、通称；惣太郎) 1845-1916 72 信濃埴科郡の国学者；豊城ときよ豊雄門、  
国学・歌；唐木善武・海上胤平門  
元成(もとなり・稲常) → 宗雄(そうゆう；法諱、稲常、武家/出家/連歌) J 2 5 0 1  
元成(もとなり・東花) → 東花元成(とうがのもとなり/かぼぢやの、戯作) C 3 1 2 6  
元成(2世もとなり・加保茶/村田) → 南瓜(なんか・宗園そうえん、狂歌) I 3 2 5 8  
元成(3世もとなり・加保茶) → 春馬(初世しゅんば・三亭、戯作/狂歌) 2 1 6 5  
元成(もとなり・河村) → 正和(まさかず・河村かわむら、医者/国学) P 4 0 0 8  
元済(もとなり・後藤) → 芝山(しざん・後藤ごとう、藩儒/詩人) 2 1 2 0  
本成(もとなり・南瓜/村田柳園) → 春馬(初世しゅんば・三亭) 2 1 6 5  
望東尼(もとに・野村) → 望東尼(ぼうとうに・野村/浦野、歌/勤王派) 3 9 5 2
- M4416 **基音**(もとね・園その/本姓；藤原、基任男) 1604-55 52 霊元天皇外祖父、廷臣；侍従/蔵人頭、  
1631(寛永8)正四上参議/32従三位、宣命使/38権中納言/39正三位/40辞任/41従二位、  
1648(慶安元)権大納言/49春日祭上卿参行/50正二位/辞任/55(明暦元)没；法名文明、  
歌；1638後鳥羽院四百年忌御会参加、  
[青柳のいと心をはひく舟の岸ねえならぬ山吹の花](後鳥羽院四百年忌；49)、  
[基音(；名)の通称/法号]通称；園中納言、法号；南崇院指月文明
- D4466 **親音**(もとね・馬詰うまづめ/まづめ、) 1748-1807 60 土佐高知藩士；山内豊雍・豊策に起用、  
教授方頭取/町奉行、経世家；藩政に功績/民政に尽力；精糖業開発・鑿井さくせいの創始・  
社倉設置・貸本業を町方直営とし開業など、  
歌人；冷泉為泰・鳥丸光胤(ト山)・萩原宗固門、歌会を主催、「南洋筆剩」著、  
[親音(；名)の別号/字/通称/号]別名；親友/親々みちか、字；延和、  
通称；善之丞/東四郎/権之助、号；南洋/松堂/馬親親  
本之丞(もとのじょう・黒沢) → 道形(みちかた・黒沢/二階堂、郷土史家) B 4 1 3 4  
基之丞(もとのじょう・五十川) → 基(もとい・五十川いそかわ/いかかわ、藩医者) C 4 4 1 1  
基之輔(もとのすけ・奥村) → 立山(りつざん・奥村おくむら、暦学/和算家) C 4 9 0 0  
元之助(もとのすけ・中村) → 岩州(がんしゅう・中村なかむら、儒者) Q 1 5 9 8

- 元之助(ものすけ・松木) → 栄彦(さかひに・松木/度会、神職) H 2 0 1 1  
 本之助(ものすけ・毛利) → 元美(もとよし・毛利もより、領主/勅子ときこの夫) L 4 4 6 9
- M4409 元延(ものぶ・荒木田あきだ、)? - ? 平安鎌倉期;伊勢神職、歌人、俊清・宗俊・祐覚・宗長の父、歌;1233刊[御裳濯集]3首入、[あさぢふの露になくなるきりぎりす声も夜さむに秋風ぞふく](御裳濯集;秋461)
- D4467 元信(ものぶ・武田たけだ、国信2男/本姓;源) 1472?-152150? 武将;1490若狭守護;兄早世のため家督嗣、1491伊豆守任官/大膳大夫/従三位、將軍足利義植・義澄に近侍/室町幕府相伴衆、1519得度、弓馬・騎射・歌・蹴鞠・書・武家故実<sup>に</sup>長ず;歌舞・申樂を好む、古典蒐集に尽力、三条西実隆・飛鳥井雅康・宗祇・宗長と交流、「翰林要録」編/1502「口伝日記」「犬日記」著、1505「空穂之次第」、「犬追物日記」「弓馬之日記」「歩射」「的場聞書」著、元光の父、[元信(;名)の通称/号]通称;彦次郎、号;透閑斎/若狭二樂、法名;紹壯、法号;仏国寺
- D4468 元信(ものぶ・狩野かろう、正信[祐勢]男) 1476-155984 山城の生/絵師狩野宗家;父門、小栗宗丹門、周文を敬慕、1485足利義政に近侍/義澄に出仕;幕府絵師宗家、義澄没後諸国行脚、帰京後土佐光茂の後見;絵所預/越前守/法眼、大徳寺大仙院・妙心寺靈雲院の襖絵を描く、1513「鞍馬蓋寺縁起」、「嵯峨釈尊縁起」「二尊院縁起」「清水寺縁起」「花鳥人物画帖」外面多、[元信(;名)の幼名/通称/号]幼名;四郎次郎、通称;大炊助(介)/越前守、古法眼、号;永仙/玉川、法号;善巧院、妻;土佐光信女の千代女、松栄(直信)の父/永徳[初世]の祖父
- D4469 元信(ものぶ・観世かんげ、初名;重俊、重次[道叱]男) 1606-6661 能楽小鼓方観世流宗家5世、江戸幕府抱え観世座付き小鼓方、1648甥の豊重に家督譲渡、1646「四座役者目録」著、[元信(;名)の通称/号/法名]通称;源太郎/勝右衛門/正右衛門、号;休斎、法名;宗与
- D4470 求宣(ものぶ・増山ますやま/本姓;秦、通称;治部) ?-? 江前期伊勢の歌人、「瓦礫百吟集」著、求包の父/治部じぶの祖父
- D4471 元寅(ものぶ・原はら) 1651 - 172878 加賀金沢藩士;1676家督嗣/880石/使番/馬廻頭/定番頭、1727致仕、儒;木下順庵門/書;山本基庸門、藩士の詩文を編纂、「淇園集」「詩林雜纂」著、[元寅(;名)の別名/字/通称/号]初名;元昭/元憲、字;正夫/伯成、通称;九左衛門/将監、号;淇園/弛休、元慶もとよし(1681-1754/藩士)の父
- J4406 元陳(ものぶ・芥川あくたがわ、通称;三左衛門/法名;宗雄) 1682-173150 幕臣;御書院番、元風(寸艸すんそう/小石川御薬園預)の弟
- K4493 徹信(ものぶ・馬場はば、字;士考/号;昌陽) ?-? 江中期;甲斐朝氣村の神道家、神道・国学;加賀美光章みつあき・(1711-82)門、1790(寛政2)賀茂季鷹が富士登山の帰途に宿泊([富士日記]入)、
- J4427 基陳(ものぶ・石山いしやま、基名男) 1744-182077 廷臣;1747従後下/右京大夫/近衛権少将、1773近衛権中将/77従三位/78正三位/90大蔵卿/96参議/従二位/1803権中納言/06正二位、1813権大納言、妻;難波宗城女
- B4438 意順(ものぶ・天野あまの、) 1750-182576 美濃岐阜の酒造業/屋号;万屋、歌人;冷泉為村門、[意順(;名)の通称/号]通称;勘蔵、号;宝陳/馬中坊/芝蘭堂
- K4404 元命(ものぶ・西郷さいごう、元純もとずみ男) 1757-? 信濃松本藩士;家老、国学者/歌人;桃沢夢宅門、
- D4472 元信(ものぶ・三宅みやげ、字;徳則) ?-?天逝 江中期京の商人/儒者、1789「故事成語考集註」注釈
- D4474 元陳(ものぶ・田井たい/初姓;朝比奈あさいな、田井義孝の養嗣子) ?-?80余歳 江後期白河藩士、松平定信(1758-1829)の側役、奥用人/藩主転封で伊勢桑名移住、横笛/古画・平曲、「温古楽記」「登毛患考」著、[元陳(;名)の字/通称/号]字;君奇、通称;仲/鯉鮒蔵/柳蔵/忠右衛門、号;剛叟けんそう/松窩
- D4473 元陳(ものぶ・栗津あわづ/本姓;藤原、元昭男?) 1776-182146 近衛家の侍/1801従六上/07出羽介、1821致仕;真宗本願寺坊官;法橋、1788「乗如蓮如上人大坂堺御下向之記」、1794「諸方御成御供覚」/1804「達如上人大坂堺御下向之記」、「乗如蓮如上人御参府之記」著
- J4442 元孚(ものぶ・遠藤えんどう、) 1778-183962 伯耆倉吉の国学者;衣川長秋門;古学修学、晩年;京住/歌・俳諧を嗜む、

[元孚(；名)の通称/号]通称；善兵衛/大助、号；六乗子(；俳号)

L4441 **株修**(ものぶ・丸山まるやま、)1793-1866 74 備中小田郡笠岡の宿老、歌人；香川景樹門、書家；上田蘭畹門・頼山陽・木下幸文・高橋正澄と交流、歌；3万余首、株徳ものりの父、[株修(；名)の初名/字/通称/号]初名；修、字；子行、通称；久右衛門、号；**琴里**

K4409 **元暢**(ものぶ・重浦しげうら、格兵衛長男)1831-1895 65 父は熊本藩の豊後大分郡鶴崎詰の船頭、大坂で漢学・医を修学、京で医を開業/勤王志士を匿い幕吏に3度捕縛、歌；冷泉為理門、鶴崎に帰郷し医者開業、熊本医学校入学；解剖学・伝染病の研究、鶴崎で内・外科医開業、衛生組合会を組織；衛生講話など病氣予防に尽力；仁医として評判、町会議員、病没、臨終の様子が[鶴崎市史人物編]入；

「6月7日未明息に命じて筆硯持ち来させ墨を磨らせた。既にして天漸く明るるや、南窓の下において元暢乃ち病床を下り、の毛氈の上に唐紙を展べさせ・・辞世の和歌、六十あまる五つの年をつみながらなかにひとつのいさほしなしとは」、

[元暢(；名)の通称/号]通称；惟義、号；依竹

K4408 **意舒**(ものぶ・信太じだ/しのだ、)1839- 1892 54 出羽(羽後)久保田(秋田)藩士、西洋式砲術；吉川忠行門、海岸警備の副役、軍事係、蝦夷値御用掛、戊辰戦争に豊間源之進らと藩論を勤王にまとめる、維新後；秋田県権大参事 [意舒(；名)の通称] 子之吉/房之助

元信(ものぶ・松平) → 家康(いえやす・徳川、将軍/武家法度) 1 1 0 4

元信(ものぶ・斎藤) → 徳元(とくげん・斎藤、武将/俳人) K 3 1 6 5

元信(ものぶ・山科) → 長安(ちやうあん・山科、医者) H 2 8 1 1

元信(ものぶ・篠田/土岐) → 霞亭(かいてい・土岐とき/武、医者/詩文) H 1 5 5 0

元陳(ものぶ・長崎/田中) → 元陳(げんちん・田中/長崎、幕臣/随筆) C 1 8 7 2

元宣(ものぶ・市川) → 東谿(とうけい・市川、商家/絵師) D 3 1 1 5

基信(ものぶ・葉川) → 師香(もろか・石山/藤原/葉川、廷臣/画) H 4 4 0 9

意誠(ものぶ・三宅) → 意誠(いせい・三宅、歌人) B 1 1 0 2

D4475 **元木網**(ものもくあみ、姓；渡辺/初姓；金子、屋号；大野屋)1724-1811 88 武州比企郡杉山の農業、手習素読を教授/家督を弟に譲渡；江戸京橋で湯屋経営、国学・歌を修学/画；高嵩谷門、1770唐衣橋洲宅の狂歌会に参加；以来狂歌に親しむ、1781剃髪し芝西久保土器町住；落栗庵を結ぶ；スヤ連/落栗連主宰、狂歌の指導、晩年は遊行上人に従い向島水神の森閑居、1783「落栗庵春興集」狂歌浜のまさご「落栗庵月並摺」編/88「落栗」/94「新古今狂歌集」著、1796「狂歌立春抄」編/98「言葉のもとすえ」著/1804「俳諧饒舌録」編外編著多数、1785「徳和歌後万載」12首入、橘洲・四方赤良(南畝)と並称、門人多数；蟹子丸・銭屋金圀ら、[またひとつ年はよるとも玉手箱あけてうれしき今朝のはつ春](後万載；春)、 [元木網(；号)の通称/別号]通称；大野屋喜三郎/正雄、

別号；元木阿弥(空網)/網破損針金あみのはそんはりがね/嵩松(画号)/珠阿弥、庵号；落栗おちぐり庵、妻のすめ[智恵内子]も狂歌師 → 智恵内子(ちえのないし) 2 8 0 2

D4476 **元規**(元矩/基範ものり・平たいら、中興なかき男) ?-908? 平安期廷臣；官人；897昇殿/906蔵人、左衛門大尉/908従五下、歌人；古今386、 [秋霧の共にたちいでて別れなばはれぬ思ひに恋ひやわたらむ](古今；八離別386) (はれは霧の消えと心の和みを掛る)

D4477 **基範**(ものり・藤原ふじわら、成俊しげとし、成範しげのり男/通憲の孫) ?-? 鎌倉期廷臣；右近中将/刑部卿、正四下歌人；1200石清水若宮歌合参加、成房・範行・通成・範兼・成賢・定範・縁成・高倉院小督局の兄弟、 [吉野山峰の桜のまがふまは散る雲さへにをしまるるかな](若宮歌合；十三番左)

M4404 **基教**(ものり・斎藤さいとう/本姓；藤原、基祐男) ?-? 南北期；廷臣/歌人；父門、藤葉とうよう集入、父は勅撰歌人/藤葉集にも入集、 [我がためにつらき夕の偽は誰に契れるまことなるらん](藤葉；恋472)、 [基教(；名)の通称/法名]通称；五郎、法名；教阿

D4478 **基教**(ものり・鷹司たかつかさ、兼忠男/本姓；藤原) ?-? 母；高頼泰女、鎌倉南北期廷臣；1316従三位、



- 1329従二位/30参議、1344出家(法名;理翁)、1347-9「沙彌理翁讓状」著
- D4479 **基規**(もとのり・持明院じみょういん/本姓;藤原、基春男) 1492-1551**殉死**60 戦国期廷臣;1523従三位、1533正三位/49権中納言/51出家;大内義隆の自害に殉ず、家伝の放鷹の技に精通/蹴鞠を嗜む、「持明院基規懷紙詠草」「基規朝臣記」「基規鷹書」著、1523「伏見宮家統百首和歌」参加、基孝の父、[基規(;名)の別名/号]初名;家親、号;一忍軒・宗栄(;出家法名)、法号;一貞紹忍
- L4411 **基教**(もとのり・東園ひがしどの、園その基任もとう2男) 1611-1636**早世**26 分家し東園家の祖、廷臣;左少将/従四下/従四上左近中将、神楽を家業とす、1636(寛永13)没;早世、養嗣子;甥の基賢(園基音もとなり2男/1626-1704;参議/権大納言正二位/法名常算)
- D4480 **元矩**(もとのり・服部はつとり、天野屋彦左衛門、服部南郭の父) ?-1695 京の町人、妻;蒔絵師山本春正女、歌・連歌;「文翰雑編」入
- D4481 **本教**(もとのり・谷たに、親徳男) 1689-1752**64** 江中期近江日野在の郷士/大津代官小野家の手代、1744江戸詰の普請役・勘定詰、田安家の家政紊乱の際に勘定役として功、1738「地方総論」、「田園秘説」「県令須知」「地方一様記辨解」著、「田園類説」編、[本教(;名)の別名/通称]別名;文治、通称;猶右衛門/伝右衛門
- D4482 **元勳**(もとのり・今大路いまおおじ、親頭2男/本姓;橘) 1710-59**50** 医者;典薬頭/民部大輔/従五下、1724徳川吉宗に出仕、1737父の遺跡嗣、のち剃髪、1748朝鮮通信使と筆談、1748「韓客筆譚」著、[元勳(;名)の幼名/法名/法号]幼名;乙之助、法名;道三(剃髪後)/法号;玄佐
- K4452 **元紀**(もとのり・津田つだ/板屋、) 1716- 1782**67** 若狭小浜石屋小路の材木商、学者/歌人、家業を弟に任せ自らは読書・著述に専念/吹田定敏と交流、1767(明和4)地誌「稚狭考」著(;10巻/国史・町屋寺院旧説・祭祀起源・産業・動植物・地勢)1780(安永9)「行余随筆」20巻/歌集「好衣集」著、[元紀(;名)の通称/号]通称;一助/徳右衛門、屋号;板屋
- D4483 **元徳**(もとのり/げんとく・多紀たき、初名;元恵もとのり/げんとく、元孝男/本姓;丹波) 1732-1801**70** 幕臣、医者;家督嗣、1776幕府奥医師/傍ら父創設の躋寿館の教授;二度火災・再興し1791幕府医学館となる、法印、1778「医学平言」89「広恵濟急方」94「養生歌」、「医家初訓」「百病歌括」外著多数、[元徳(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;金之助、字;仲明、通称;安長/安元、号;藍溪/広寿院、法号;永照院、元簡もとやすの父
- L4432 **元功**(もとのり・益ます、通称;宮内) ?-1834 伊勢度会郡の神道・国学者;足代弘訓門
- J4441 **元教**(もとのり・海老江えびえ、通称;将監) 1731-1783**53** 近江彦根藩士/歌人
- D4484 **基則**(もとのり・石川いしかわ/佐藤/本姓;源) 1773-1845**73** 仙台の儒者;田辺楽斎門/書家;藤塚知明門、刀法;横山元林門/軍礼;木名瀬直賢門/書[入木じゅうぼく道];1807京の寺明院基延門;秘伝を受、[万寿壱相三十二世入木相承奥陽書学進士]の印章使用を許可、割烹・插花・点茶に精通、蝦夷の役に参加、1830「古仮字考」、「久奈志利地図考要害」著
- D4485 **元簡**(もとのり・三浦みうら、乙幡おつた儀右衛門男) 1778-1838**61** 安房館山藩主の家士の家の生、1794信濃飯田藩士三浦元固の養子、飯田藩士;江戸詰/1814飯田で御用人元締方・吟味方、1838年寄役、歌人;加藤千蔭・村田春海門、国学;森広主・服部菅雄・植松茂岳門、「古々呂乃志羅倍ころのしらべ」著、[元簡(;名)の通称/号]通称;又治郎/官蔵、号;在藻/在庵、法号;経寿院
- I4495 **元徳**(もとのり・勝田かつた/本姓;藤原) ?-? 江後期;歌人、幕臣?、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[吹きはらふ夜半よはの嵐に空晴れてさえたる月の影の寒けさ](大江戸倭歌;冬1171寒月)
- L4449 **元規**(もとのり・三浦みうら、旧姓;館野) 1821-96**76** 信濃飯田藩士、歌人;高島式部門、[元規(;名)の初名/通称]初名;元季、通称;鍵助/宦蔵かんぞう
- L4442 **株徳**(もとのり・丸山まるやま、株修もとのぶ[琴里/1793-1866]長男) 1824-1909**76** 備中小田郡笠岡の旧家、父を嗣ぎ宿老、維新後;戸長/町長、歌人・書家;父門、語学・歌;関政方まさみち(梟翁きょうおう)門、[株徳(;名)の字/通称/号]字;子善、通称;久右衛門(父の称)、号;松石しょうせき
- J4438 **本教**(もとのり・馬田うまだ、通称;佐十郎) 1825-83**59** 肥前長崎の国学者

D4486 **元徳**(もとのり・毛利もうり、初名; 広封ひろあつ、徳山藩主広鎮10男/本姓; 大江) 1839-96<sup>58</sup> 母; 三宅才助女、母の名は多喜勢(滝瀬)、本藩長州藩主毛利敬親の養子(敬親の養女安子の入婿); 14代(最後)の長門藩主襲封、将軍拝謁後定広の改名、長門守/侍従/左近少将、1862尊王攘夷を藩是とす、1864禁門の変に敗北; 名を初名の広封に戻す、1866幕府の征長軍に勝利、1867島津忠義と会見; 討幕に出陣/68維新後参議/従一位、東京住; 元徳名、正室; 安子(毛利元運2女/敬親の養女/1843-1925/教育活動家)、歌人、「芳宜園はぎの集」「春月集」著、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(侍従定広名)、  
[庭ざくらわれみはやさん飛鳥山上野の花はさもあらばあれ]、  
(大江戸倭歌; 春265/翫庭花)、  
[元徳(;名)の別名/字/通称/号]定広さだひろ(将軍家定拝謁-1866返上)、字; 世敏、通称; 駱之尉りよくのじょう/長門守、  
号; 芳宜園はぎのや/菘舎/静斎/精斎/波支曾能はぎのの/躑躅園/油井我浜人/袖が浦人/椎園、  
漣能屋/菘廼花守/芝湾坊/緑園

J4409 **元徴**(もとのり・蘆沢あしざわ、通称; 平馬) ?-? 万延頃 江後期; 万延1860-61頃讃岐高松の国学者/歌人、軍学に通ず

D4487 **元意**(もとのり・倉次くらつぎ) ? - ? 江後期蘭学医者: 佐藤舜海門、舜海が長崎で得たオランダ医官ポンペの講義録を実験し自説を加え翻訳; 1866「眼科摘要」刊、

K4495 **元矩**(もとのり・間はさま、秀矩の長男) 1845-92<sup>48</sup> 美濃恵那郡中津川宿本陣宿問屋役の家、国学; 平田鍊胤門、父や市岡殷政しげまさらの尊攘運動に参加、  
[元矩(;名)の通称]一太郎/市太郎/半兵衛(父の称)

D4488 **職教**(もとのり・平田ひらた/家名; 出納/本姓; 中原、勢多章武男) 1847-? 平田職修もとおさの養子、官人; 平田家は代々蔵人所出納の職、兄職賀早世により出納で出仕/右近将監/河内守、1863「出納職教記」著

K4426 **基徳**(もとのり・田近たちか、号; 翠石斎) 1848-1907<sup>60</sup> 飛騨吉城郡の絵師/国学者

K4489 **元準**(もとのり・成宮なるみや、) 1848-1911<sup>64</sup> 近江愛知郡の歌人; 大泉歌寿彦かづひこ門、歌; [鳩のうみ]入、  
[元準(;名)の字/通称/号]字; 季繩すえつな、通称; 純三郎、号; 東州

- |               |   |                        |           |
|---------------|---|------------------------|-----------|
| 元教(もとのり)      | → | 元教(げんきょう、連歌)           | B 1 8 5 8 |
| 元紀(もとのり・藤林)   | → | 普山(ふざん・藤林、医者/蘭学)       | C 3 8 3 3 |
| 元軌(もとのり・岡崎)   | → | 鷓亭(こくてい・岡崎、詩人)         | F 1 9 5 7 |
| 元軌(もとのり・古野)   | → | 元軌(げんき/もとのり・古野、儒者)     | B 1 8 4 9 |
| 元儀(もとのり・横山)   | → | 義六郎(ぎろくろう・横山、藩士/記録)    | Q 1 6 5 9 |
| 元矩(もとのり・堀田)   | → | 梅園(ばいえん・堀田、商人/国学/歌)    | 3 6 6 3   |
| 元規(もとのり・小栗栖)  | → | 景桃(けいとう・小栗栖おぐす、神職/俳人)  | G 1 8 4 3 |
| 元規(もとのり・松井)   | → | 東庵(とうあん・松井まつい、製墨業/詩人)  | 3 1 7 9   |
| 元徳(もとのり・岸/中山) | → | 琴主(ことぬし・中山/岸、作曲家/八雲琴祖) | F 1 9 8 1 |
| 基範(もとのり・持明院)  | → | 基行(もとゆき・持明院/藤原、廷臣/歌)   | E 4 4 5 2 |
| 基教(もとのり・二条)   | → | 持基(もちもと・二条、撰関/歌/連歌)    | 4 4 1 0   |

D4489 **基春**(もとはる・持明院じみょういん/本姓; 藤原、藤原基信男) 1454-1535<sup>82</sup> 廷臣; 1497従三位、1503正二位参議/06左衛門督、書家; 世尊寺行高門; 世尊寺17世行季没後に朝廷書役を拝命、持明院流の祖; 以後朝廷書役職を継承、基規の父、「能書之事」「入木道之事」「入木管見抄」、1503「鷹経辨疑論」06「青鷹似鳩拙抄」08「永正五年八月廿日記」31「基春卿記」外編著多数、連歌; 「基春独吟何船連歌」「基春独吟何船百韻」、新菟玖波; 2句入

J4421 **元春**(もとはる・吉川きつかわ、毛利元就2男) 1530-86<sup>57</sup> 母; 妙玖(吉川国経女)/安桃期武将; 従兄吉川興経の養子、1550元就が興経を強制的に隠居; 元春の家督嗣/日野山城築城、弟小早川隆景と共に毛利の両川; 父元就・兄隆元・隆元男輝元を支え毛利家の基を固める、1555(弘治元)厳島の戦で周防の陶晴賢を撃破/56石見の尼子晴久と戦闘; 敗退、癩を罹病、1565第2次月山富田城の戦で武功; 66尼子義久に戦勝、1567尼子再興を謀る山中幸盛(鹿之助)に対し布部山の戦に勝利、周防の大内輝弘を攻撃、1571末石城を攻め尼子勝久を敗走させ山中幸盛を捕縛; のち脱走、

1575父没;甥輝元を隆景と共に補佐、尼子を保護する織田信長と対立;1577秀吉軍の侵攻、1578上月城を攻め勝久は降伏自刃/山中幸盛を処刑、1580織田軍により三木城落城、1582秀吉による高松城攻め;輝元・隆景の救援により戦線は膠着状態;本能寺の変で休戦、1582隠居;家督を長男元長が継嗣、隠居後も秀吉の九州平定に参加;豊後小倉城に没、従四下/治部少輔/駿河守、妻;新庄局(熊谷信直女);4男2女/元長・元氏・広家の父、尼子討伐の陣中で「太平記」40巻を書写(吉川本/1563-65)、  
[元春(;名)の通称/法号]通称;少輔次郎、法号;随浪院

- D4490 **元晴**(もとはる・桑山くわやま、和歌山城主桑山重晴2男)1563-1620<sup>58</sup> 尾張の武将/豊臣秀吉家臣、朝鮮出兵/関ヶ原では徳川方に属す;大和御所藩主/和泉にも所領/大坂陣にも活躍、「桑伊賀守書状」、甥;貞寄さだより、  
[元晴(;名)の通称/法号]通称;長兵衛、法号;三叔紹玄禅溪院
- D4491 **本春**(基春/最登波留もとはる・野田のだ)?? 京の寺町通二条下ルの書肆;出版業/俳人:梅盛門、1659「三十六俳仙」/60「儒仏物語」著、72「誹諧古鏡ふるかがみ」編(自序)/「女式目」著、1659梅盛「捨子集」入/63「落穂集」(134句入)/72梅盛「山水水」・76幸田昌舎?「下水智恵」入、  
[本春(;号)の通称]通称;弥兵衛、弥兵衛重春の弟
- D4492 **元春**(もとはる・井手い/本姓;藤原、)?? 江前期大阪?の武士/俳人/歌人;  
1673西鶴「生玉万句」;第八鶉発句入、78独長菴石斎「珍重集」(;宗因判独吟百韻入)、1678西鶴「物種集」入、1688浅井忠能[難波捨草]10数首入、  
[鳴くや鶉人々悦び引鳥じや](生玉万句;鶉発句/引鳥は渡鳥、  
謡曲「海士」;約束の縄を動かせば人々悦び引上げたりけり)、  
[一こゑは猶したはるるふる郷のならしの岡の山ほととぎす](難波捨草;夏126)
- D4493 **元春**(もとはる・佐藤さとう、通称;佐位)?? 江中期宝暦1751-64頃上州佐波郡の文筆家、「修身一助」著
- J4422 **基治**(もとはる・石王いおう/本姓;矢田部、安治男)1741-99<sup>59</sup> 近江甲賀郡の水口神社祠官、文丸ふみまろの兄、歌人
- J4420 **元春**(もとはる・石居い/本姓;菅原、)1760-1831<sup>72</sup> 近江彦根藩士/歌人;本居宣長門?  
[元春(;名)の通称/号]通称;市之丞、号;香樹
- J4413 **元春**(もとはる・井上いゆうえ、)1831-1891<sup>61</sup> 筑後三潁郡の国学者/陸奥安積郡の住国学/歌;真木保臣やすおみ門、  
[元春(;名)の通称/号]通称;志摩正/達也、号;足水
- J4446 **思温**(もとはる・小野お、旧姓;佐伯)1834-1908<sup>75</sup> 近江大津膳所藩士/歌人;服部春樹門、歌;鳩のうみ入、  
[思温(;名)の通称] 善伍
- L4471 **元温**(もとはる・森もり、志貴昌俊男)1837-1884<sup>48</sup> 駿河有度郡の草薙神社神主、国学/武芸に長ず、尊攘思想家、戊辰戦争で三保神社の太田健太郎らと駿州赤心隊を結成;東征軍に従軍、解散・帰郷後に旧幕臣に襲われ負傷;片腕を失う、のち江戸で兵部省・工部省に出仕、  
[元温(;名)の通称]真魚尾まなお/斎宮
- L4487 **思玄**(もとはる・吉田よしだ、通称;玄兵衛)1838-84<sup>47</sup> 河内河内郡吉田村の庄屋、国学者、歌人;荒木美蔭よしかげ門、自邸近くに書院[富景楼]を建設;所蔵書籍を学者・文人に開放、感銘を受けた大和小泉藩主片桐氏(吉田村は同藩の飛地)が書籍を寄贈、富景楼から望む四季の光景を選定した詩句[富景楼十景]あり、「示申録」著、
- K4496 **茂登治**(もとはる・橋本はしもと、)1843-1908<sup>66</sup> 遠江長上郡の秋葉神社宮司、皇学・歌・俳諧;有賀豊秋門
- |             |   |                       |           |
|-------------|---|-----------------------|-----------|
| 元春(もとはる・西村) | → | 元春(げんしゅん・西村にしむら、医者)   | J 1 8 7 2 |
| 元春(もとはる・中山) | → | 宗春(むねはる・中山なかやま、神道/歌人) | E 4 2 1 1 |
| 元春(もとはる・前田) | → | 道通(どうつう・前田、医者)        | G 3 1 5 5 |
| 元春(もとはる・細川) | → | 清斎(せいさい・細川ほそかわ、藩儒/詩文) | B 2 4 5 9 |
| 元晴(もとはる・高瀬) | → | 梅盛(ばいせい・高瀬、俳人/狂歌)     | 3 6 0 6   |
- L4497 **元春母**(もとはるのはは・山口やまぐち、)?? 江前期;京の歌人;河瀬菅雄[麓の塵]入、  
[年毎にかはらぬ梅の香をそへていく世なれ見ん花の色かな](麓の塵;37)



- L4447 **元彦**(もとひこ・三浦みづら、元旭男)1712-7362 近江彦根藩家老;2千5百石(三浦与右衛門家)、  
和学/歌人、元富もとの父、歌;[彦根歌人伝・鶴]入、  
元満-元親-元炫-元旭-元彦-元福-元苗-元泰-正猷と続く  
[元彦(;)名)の通称/内膳(代々の称)
- D4494 **元彦**(もとひこ・春原はるはら、初名;元清、元真男)1800-5556 春原五百枝の末裔、京新烏丸の歌人、  
出羽守/1800非蔵人、歌人:富士谷御杖門、書も嗜む、「あゆひ鈔手鑑」著、  
[元彦(;)名)の通称/号]通称;岩橋近江、号;播田室
- D4495 **素彦**(もとひこ・楫取かとり、初姓;松島/小田村、藩医松島瑞蟠2男)1829-191284 長門大津郡三隅村生、  
藩儒小田村石門の養子;1840家督嗣/長州萩藩士;藩校明倫館で修学、  
儒;安積良斎・佐藤一斎門、藩校助教、尊攘のため奔走/藩命で楫取素彦に改名、  
徴士参与、群馬県令/元老院議官、「筐秘録」著、1862「急務拙議」64「宇和島御使者之記」、  
1866「津和野藩使者応接書」、「熊本小倉両藩士応接書」など書類多数、「涙袖帖」編、  
[素彦(;)名)の初名/字/通称/号/変名]初名;希哲、字;士毅、  
通称;久米次郎/内蔵次郎くらじろう/孝太郎/金吾/伊之助/文助/素太郎、  
号;耕堂/不如帰/棋山/観月/晩稼/彝堂いどう/蔘浦しんぼ、変名;塩間鉄蔵、松島剛蔵の弟  
元彦(もとひこ・源;配流名)→ 源空(げんくう;法諱・法然、浄土宗開祖) 1 8 1 1
- D4496 **基久**(もとひさ・賀茂かも、号;森神主、経久男)?-? 鎌倉後期神職;上賀茂社神主/四位、歌人、  
勅撰4首:続千載(1984)続後拾(1015)新千載(2105)新拾遺(1868)、  
[かくて身のうきにつけてもいとはずはげに世を捨つるをりやなからん](続千;雑1984)
- D4497 **元久**(もとひさ・賀茂かも、初名;通久、規久男)1555-162369 神職;上賀茂神社神主/従四下、  
連歌;1591紹巴らと「天正十九年正月七日山何百韻」興行、  
[元久(;)名)の通称/号]通称;松千代/宮内卿、号;休意、
- D4498 **基久**(もとひさ・持明院じみょういん/本姓;藤原、正親町季秀男)1584-161532 持明院基孝の養嗣、廷臣、  
1613従四上/左中将/大坂で横死、法号;禅覚院寄空真観、養嗣;基定、  
連歌;「慶長十三年(1608)九月二十八日持明院基久何船百韻」
- D4499 **素久**(もとひさ・出目め、庸寿男)1843-190361 江末期能面師/面打の大野出目家12代、  
「出目由緒記」著、  
[素久(;)名)の通称/号]通称;兵作、号;是水、法号;義巖道光居士  
元尚(もとひさ・波多野) → 元尚(げんしょう・波多野、連歌) C 1 8 1 6  
元久(もとひさ・屋代) → 大軒(たいけん・屋代やしる、藩士/書家) J 2 6 8 1  
基久(もとひさ・竹内) → 明久(あきひさ・竹内たけうち、神職) C 1 0 2 6  
基久(もとひさ・後藤) → 夷臣(ひなおみ・後藤ごとう、別名;、国学者) E 3 7 2 7
- M4405 **基秀**(もとひで・後藤ごとう/本姓;藤原、基隆男)?-? 鎌倉期武家;六波羅評定衆/讃岐守/伊勢守、  
讃岐山田郷地頭、父や伯父基政の鎌倉歌壇参加、1310為相撰?[柳風抄]2首入、  
基秋・基直の父、  
[あけて吹けやみはあやなし散る花のゆくへもみせぬ夜半の春風(柳風;春36)]
- E4400 **元秀**(もとひで・高安たかやす/本姓;三善)?-? 室町前期武家;五位/細川家被官か?、  
歌人:1438「細川満元十三回忌詠法華経和歌」54「細川持之十三回忌詠法華経和歌」参加、  
「細川持賢の月次歌会」の講師、堯孝と親交(堯孝法印日記入)、新続古今1147、  
[月日のみうつりにけりなつれもなき心の花は色もかはらで](新続古;十二恋1147)
- E4401 **元苗**(もとひで・毛利もうり/本姓;大江、元卓男)1765-? 毛利元甫の養子;1781家督嗣/幕臣、  
1789小姓組に列す、「皇代系譜」編
- E4402 **元英**(もとひで・中嶋/中島なかじま)1796-185358 幕臣;江戸八丁堀の生/1817江戸町奉行与力見習、  
組与力/1841崑山自刃の検視、詩歌・画を嗜む、1841「三州日記」著  
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、  
[池水の玉ものところにすみなれて主しる鳥ぞ立ちも騒がぬ]、  
(大江戸倭歌;冬1232/水鳥知主)
- K4401 **素栄**(もとひで・佐藤さとう、)1826-188661 越後頸城郡の国学者、  
[素栄(;)名)の通称/号]通称;喜太郎、号;立川舎  
元英(もとひで・林) → 元英(げんえい・林はやし、歌人) N 1 8 5 2

- 元秀(もとひで・阿部) → 北溟(ほくめい・阿部あべ、医者/儒詩) D 3 9 9 1  
 元秀(もとひで・福田) → 太室(たいしつ・福田/田、儒者) K 2 6 1 3  
 源栄(もとひで片桐) → 源栄(げんえい/もとひで・片桐かたぎり、歌人) B 1 8 2 9  
 幹仁(もとひと) → 後小松天皇(ごこまつてんのう、南北合一/歌) C 1 9 5 5  
 職仁親王(もとひとしんのう) → 職仁親王(よりひとしんのう・有栖川宮、歌/書) J 4 7 5 8
- E4403 **基平**(もとひら・源みなもと、小一条院敦明親王男) 1026-6439 母:藤原頼宗女、1041源賜姓、廷臣;侍従、1046従三位/50参議/57従二位、梅壺女御[後三条院女御]基子・行宗・行尊ぎょうそんらの父、「基平卿記」著、号;御子宰相、敦定親王・源信宗・斎宮嘉子・斎院康子の兄弟
- E4404 **基平**(もとひら・近衛このえ/本姓;藤原、関白兼経男) 1246-68疫病早逝23 母;九条道家女の藤仁子、鎌倉期廷臣;1255従三位/52内大臣/61右大臣/63従一位/64左大臣/66(21歳)関白;氏長者、「深心院関白集」「深心院関白記」「朝覲行幸別記」著、歌人:1259北山行幸和歌参加、1266十五夜歌合/亀山五首参加、勅撰23首;続古今(6首87/140/437/522/1802)、続拾遺(4首919/1073/1137/1294)新後撰(4首)玉葉(2首)続千(1首)風(3首)新千(1首)以下、[あだならぬ色と思はば桜花待つも心はのどけからまし](続古今;春87/左大臣名)、[基平(;名)の号] 深心院しんじんいん関白/西谷殿、家基・兼教の父
- E4405 **基衡**(もとひら・園その/本姓;藤原、初名;基望、基香もとか男) 1721-9474 江中期廷臣;1744参議、1745従三位、1759権大納言/62正二位/86出家(法名;澄観)、歌人:「京極宮家和歌短冊帖」著
- E4406 **職平**(もとひら・中原なかはら/家名;平田、初名:職頭もとかき、職之男) 1790-183445 江後期廷臣/官人;1811少内記/少外記/26中務少丞/29正五下、1817「仁孝天皇御即位一会」著  
 元平(もとひら・神谷) → 永平(ながひら・神谷かみや、国学者) F 3 2 5 2  
 元平(もとひら・枝窪) → 邦直(くになお・枝窪えだくぼ、神職/国学) D 1 7 9 9  
 元平(もとひら・那須) → 嘉当(よしまさ・那須なす、国学者) O 4 7 0 8  
 元衡(もとひら・滝沢) → 有筋(ゆうせつ・滝沢たきざわ/沢、俳人) D 4 6 1 3  
 本平(もとひら・前野) → 眞門(まかど・前野まえの、歌人/書/藩士) 4 0 5 4
- E4407 **元平親王**(もとひらしんのう、陽成天皇皇子)?891以後-958 平安前期歌人;943「陽成院親王二人歌合」;同母兄の元良もとなが親王と合わせたもの
- E4408 **元平親王女**(もとひらしんのむすめ、陽成院の孫、是忠親王女説あり)?-? 堀河関白藤原兼通の室、頭光の母、平安前期歌人;後撰集783、[あらたまの年も越えぬる松山の浪の心はいかゞなるらん]、(後撰集:十一恋783/夫兼通が年を越してやっと来訪に詠む)
- E4409 **基熙**(もとひら・近衛このえ/本姓;藤原、関白尚嗣ひさつぐ男) 1648-172275 母;後水野尾天皇皇女、妻;常子、廷臣;1655従三位/65内大臣/71右大臣/86従一位/90関白;氏長者/1709太政大臣、22剃髮、歌人:後西天皇門;古今伝授を受/画・故実に通ず、黄檗:隠元・高泉門、家熙の父、「易然集」、源氏注釈「一簣いつき抄」、1663-1707自筆日記「基熙公記」、「基熙公百首」「函底記」「新近問答」外著多数、[基熙(;名)の幼名/一字名/号]幼名;多治丸、一字名;悠/菊、号;応円満院、黄檗道号;悠山、法名;証岳、法号;応円満院悠山証岳
- E4410 **元弘**(もとひら・藤門ふじかど、号;周斎/柳下居士) 1692-177685 大和平群郡の歌人;歌;森下宗範・烏丸光栄門、1775景範「蔵山集」入
- E4411 **元熙**(もとひら・伊藤いとう、坦庵たんあん[1623-1708]男)?-? 京の儒者;父門、母;曲直瀬玄理女、1721「坦庵詩文集」編
- E4412 **元浩**(もとひら・稲田いなだ、号;白燕斎) 1769-184274 飛騨吉城郡船津町村医者/国学・歌;田中大秀門、医業の傍ら門人に国学・歌を指導、「高原旧事」「白燕斎歌集」著
- E4414 **基広**(もとひら・並河/並川なみかわ、本姓;平) 1790-184152 京の国学者/歌学;富士谷御杖門、青蓮院宮の内人、広胖ひろなおの父、1831「通俗弁」「櫛樟家文集」著、歌集;1837「樟屋詠草」「並河基広詠草」、「樟屋基広翁家集」、[基広(;名)の通称/号]通称;式部/織部、号;定信院/樟屋くすのや
- E4415 **元啓**(もとひら・石松いしまつ、元茂男) 1797-188387 筑前福岡の儒者;父門、歌人:二川相近すけか門、「閑窓輯録」、私撰「山里和歌集」著、

- [元啓の通称/号]通称:甚右衛門/甚助、号;夢叟/楽山園/新泉荘
- E4416 **基弘**(もとひろ・後藤ごとう)1810-1850<sup>41</sup> 飛弾吉敷郡古川村の国学者:1827田中大秀門、のち本居内遠門、「古語拾遺解」著、  
[基弘(;名)の通称/号]通称;与左衛門/要次郎、号;梅舎うめのみや
- E4417 **元広**(もとひろ・富士谷ふじたに、御杖みつえ男/本姓;藤原)1821-1905<sup>85</sup> 筑後柳川藩京留守居役、国学:福田美楯門、「投壺礼肆儀」著、  
[元広(:名)の初名/通称/号]初名;成文、通称;仙右衛門、号;祥雲
- E4418 **元寛**(もとひろ・長谷川はせがわ、通称;金次郎、号不二山人/松裡紅)??-? 金座役人、戯作研究者、隨筆;1864-68頃「かくやいかこの記」(戯作研究書)著  
元広(もとひろ・観世;仮名)→秋扇翁(しゅうせんおう・真嶋まじま、能楽故実家)H 2 1 9 4  
元広(もとひろ・摩島) → 松南(しょうなん・摩島まじま/源、儒者/詩) B 2 2 0 4  
元弘(もとひろ・温井/江馬)→ 松斎(しょうさい・江馬えま、医者) J 2 2 0 3  
元裕(もとひろ・松本) → 古堂(こどう・松本まつもと、儒者/勤王) D 1 9 4 3  
元簡(もとひろ・多紀) → 桂山(けいざん・多紀、医師) 1 8 6 0  
元佃(もとひろ・福原) → 元佃(もとたけ・福原/佐世/毛利、家老/歌) C 4 4 8 8  
元博(元博もとひろ・篠原)→ 徴余(ていよ・篠原、儒者/書家) K 2 8 0 4  
元熙(もとひろ・佐善) → 松溪(しょうけい・佐善さぜん/源、藩儒) I 2 2 2 1  
職博(もとひろ・小野) → 蘭山(らんざん・小野おの、医者/本草家) C 4 8 3 0
- E4419 **基房**(もとふさ・藤原ふじわら、朝経男)??-1064 母;源(or藤原)奉職女、朝光の孫、平安中期廷臣;侍従、1016頃右兵衛左、少納言・1029阿波守/常陸守/阿波守再任;正四下、娘;藤原忠俊の妻、後妻;康資王の母(延信王と死別した後);常陸守の時に関東同行、孫の郁芳門院安藝(忠俊の女)を養女とする?、歌:後拾遺1130(阿波守再任寺の歌)、  
[古豆加美こつかみの浦に年経てよる波もおなじところに返るなりけり](後拾遺;雑1130)  
(古豆加美浦は阿波の歌枕/馴染みの任国の年経ても変わらない風景)  
参照 後妻 → 康資王母(やすすけおうのはは、高階成順女/歌人) 4 5 2 2  
養女 → 安藝①(あき・郁芳門、藤原忠俊女/歌人) 1 0 4 0
- E4420 **基房**(もとふさ・藤原ふじわら、忠通男)1145-1230<sup>86</sup> 母;源国信女、廷臣;1157従三位/60内大臣、1161右大臣/64左大臣/67従一位/70太政大臣/六条・高倉天皇の摂政・関白、1179平清盛奏請で関白停止;出家/備前配流/80召還/木曾義仲と結び息子師家を摂政、1184義仲没落で勢力失墜、歌人;1169「宇治別業和歌」催、1169藤原清輔に「和歌初学抄」著を命ず、「浅深秘抄」著、雲葉集・夫木抄入集、千載集628、基実・九条兼実・兼房・慈円の兄弟、家房・隆忠・師家・行意ぎょうい・承円・実尊の父、  
[千歳ふる尾上の古松うつし植ゑてよるづ世までの友とこそ見め](千載集;628)  
[基房(;名)の号]号;松殿/松殿関白/中山/菩提院入道前関白太政大臣、法名;善観
- J4451 **元房**(もとふさ・大岡おおおか、旧姓;杉本)1680-1738<sup>59</sup> 武蔵亀戸の国学者/向学心強く博覧強記、歌人/能書家、門人数千人、1736(元文元)大坂に移住、  
[元房(;名)の通称/号]通称;半右衛門、号;卜仙/幸得
- E4421 **基房**(もとふさ・山本やまもと、通称;新左衛門、基庸もつね男)??-1784 加賀金沢藩士、「微妙院(前田利常)様御意之趣」「御馬之名」著  
本房(もとふさ・岡田) → 鶴鳴(かくめい・岡田おかだ、神職/儒者) H 1 5 3 9  
基房(もとふさ・上野) → 久左衛門(きゅうざえもん・上野、狂歌/史家) M 1 6 6 3  
元総(もとふさ・毛利/大田)→ 秀包(ひでかね・毛利/小早川、武将/連歌) C 3 7 9 9  
元房(もとふさ・毛利) → 重就(しげたか/しげなり・毛利/大江、藩主/歌) R 2 1 1 9
- M4421 **基藤**(もとふじ・園その、初名;基定/法名寂玄、基頭男)1276-1316<sup>41</sup> 母;明清法印女、鎌倉期廷臣;藤原北家中御門流園家3代当主/兄弟;基兼・基藤・為中光仲・久我長通室、1294近江介/左中将/1303蔵人頭/05従三位右兵衛督/08参議/09檢非違使別当/但馬守、1309権中納言(園家で初例)/正三位/11従二位、1312出家(;寂玄)/16(正和5)没、妻;昭訓門院大夫局・橋本実俊の娘、基成・基春・基有・覚静・覚誉・六条有忠正室の父、☆徒然草231段の園別当入道に擬せられている(祖父の基氏説も有力)  
元藤(もとふじ・松田) → 宗岑(そうしん・松田まつだ、鷹匠) I 2 5 0 3



- E4422 **元文**(もとふみ・西山いしやま、初名;元/通称;寛兵衛)?-? 1801存 対馬藩士/儒者、1775「官中秘策」、  
「官中秘策摘要」「山堂会業」「韻函」「荀子合解」「尚書標注」著、「左伝会業」「万物志」編/外多
- J4428 **基文**(もとふみ・石山いしやま/石野、姉小路公遂2男)1828-9265 石山基逸の養嗣子、廷臣;左京権大夫、  
正五下/正四下左近少将/1867左近中将/68従三位左兵衛督/侍従、  
妻;甘露寺篤子(勝長女)、基正・掌侍輝子・文珉・菊子の父、  
[基文(:名)の通称]千代磨
- E4423 **幹文**(もとふみ・久米くめ、石河いしに幹忠3男)1828-9467 久米博慎の養子/常陸水戸藩士、  
国学:本居内遠・平田篤胤門、弘道館訓導/徳川斉昭に出仕;江戸小石川藩邸で国事に当る、  
斉昭没後;藩に幽閉、維新後教部省出仕/官司/大学で教鞭、詩歌文・書に長ず、  
1858「明倫歌集体裁論」、「手むけくさ」著、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[思ひしにたがはざりけり郭公一村雨のあとの夕暮れ](大江戸倭歌;夏463/雨後郭公)  
[幹文(:名)の字/通称/号]字;公斐、通称;幸三郎/孝三郎、号;水屋/桑園
- J4411 **素履**(もとふみ・荒木あき、初名;翹之、呉江[東水/書家]男)1754-181158 江戸の国学者/歌人、  
[素履(:名)の字/通称/号]字;公楚、通称;左治、号;青荔(せいり)/呉橋/適齋
- E4424 **基冬**(もとふみ・二条にじょう/家名;今小路、良冬男/本姓;藤原)1341-8242 従兄二条良基の猶子、  
廷臣;1356従三位/74権大納言/75致仕、1382従一位、歌人;1364頃「一万首作者」;入、  
1370宮中歌会参加、新続古集1675、  
[たかせさす鶴舟のかがりほのぼのと明け方ちかし短夜の空](新続古;雑1675/鴨川)
- E4425 **基冬母**(もとふみ・二条にじょう、良冬の室)?-? 南北期歌人、新拾遺集1572(左近中将基冬母)、  
[おのづからはるる雲間の月影もまたかきくらす五月雨の空](新拾遺;雑1572)  
本兵衛(もとべゑ・今田) → 量(はかる・今田いまだ、藩士/国学・歌) J 3 6 7 2
- E4426 **基政**(基正/元正/元政もとまさ・大神おおが・おおみわ/山井)1079-113860 はじめ石清水八幡の小童、  
父は石清水八幡所司か?、笛;戸部正清門、大神惟季の養子、堀河鳥羽両天皇の笛の師範、  
1128雅楽允/楽所別当/32従五下、1133「竜鳴抄」、「竜笛古譜」著、  
娘;夕霧 → 夕霧(ゆうぎり)・箏/笛の名手、建礼門院右京大夫の母) B 4 6 2 2
- 4420 **基政**(もとまさ・後藤ごとう、基綱男/本姓;藤原)1214-126754 母;大江能範女、鎌倉幕府御家人、  
1257引付衆/1263上京;六波羅評定衆、基隆の兄、基頼の父、歌人;藤原定家門、  
宗尊親王中心の鎌倉歌壇の有力歌人、「將軍藤原頼経家歌会」参加、宗尊親王家百首参加、  
1261「宗尊親王家百五十番歌合」参加、「東撰和歌六帖」撰者・編纂、連歌;菟玖波1句入、  
勅撰11首;続後撰(1273)続古(6首613/932以下)続拾(494)新後撰(1385)玉(1964)新千載、  
[あらざらんのちしのべともいはずりし言の葉のみぞかたみなりける](続後撰;雑1273)
- E4427 **基雅**(もとまさ・中山なかやま、忠定男/本姓;藤原)?-1266 鎌倉期廷臣;蔵人頭/1255従三位/58正三位、  
1258出家、家親の父、歌;1254仙洞五首歌会参、勅撰2首;続後撰518/続古今503、雲葉集入、  
[時知らぬ山とはいへど富士のねのみゆきも冬ぞふりまさりける](続後撰集;八冬518)
- E4428 **基政**(もとまさ・高階たかしな?)?-? 鎌倉期廷臣、歌人、[勅撰作者部類に高階氏説]、  
道玄[1304没]主催「二十一首歌」参加、新後撰1488、  
[いかなれば恋しと思ふいにしへの月日にそへて遠ざかるらむ](新後撰;雑1488/懐旧)
- 4421 **元雅**(もとまさ・観世かんぜ、観世大夫2世世阿弥男)1394?-143239? 観世大夫3代目、能役者・作者、  
世阿の代作?「歌占」「隅田川」「盛久」「弱法師よぼし」など、従兄弟観世元重[音阿弥]と対立、  
將軍義教が音阿弥を後援;世阿弥・元雅父子は圧迫受け不遇に没、  
のちの観世太夫は音阿弥の系統のため元雅は代数に数えられていない、  
[元雅(:名)の別名/通称/法名]初名;元次、通称;十郎、法名;善春
- E4429 **元政**(もとまさ・荒木あき、元満男)1599-167173 幕臣;1616徳川秀忠に出仕;駿河大納言忠長付き、  
1636徳川家光に出仕;御書院番;千五百石、61仙台伊達家・67上野安中藩に藩政監督に赴任、  
1670阿波徳島藩に藩政監督に赴任、71致仕、「荒木略記」「馬の伝書」著、  
[元政(:名)の通称/法号]通称;四兵衛/十左衛門、法号;源栄
- E4430 **元政**(もとまさ・孕石はらかいし、藩中老孕石正元男)1628-170174 土佐藩士;1654家督嗣/56近習家老、  
藩主山内忠豊側近;1663家老野中兼山失脚を生駒木工と謀り追放/[寛文改替]を断行、  
家老に就任し兼山の故地を管理、「元禄二年日記」「孕石家家記」著、  
[元政(:名)の通称]頼母/小右衛門

- I4447 **職正**(もとまさ・平田ひらた/家名;出納/本姓;中原、職央もとなか男)1639-8143 母;速水将益女、職直の兄、  
廷臣/官人;代々蔵人所出納の職、1645正六上/左近将監/1665豊後守/78従四下、  
1675-81「平田職正日記」著
- K4428 **基当**(もとまさ・田中たなか/本姓;藤原、通称;五介)1716-7762 近江彦根藩士、  
散木さんぼく(世誠・1749-1816/儒者)の父、歌人;[彦根歌人伝・寿]入
- E4431 **基理**(もとまさ・園その、基衡男)1758-181558 母;高倉永房女、江戸期廷臣;1789参議/従三位、  
1799権大納言/1800正二位、基茂の父、「花譜」、1787「内侍所仮殿木造始記」著、  
1787「南殿御階桜改植申沙汰雑誌」著
- 4422 **素当**(もとまさ・本間ほんま/旧姓;樋口)1786-184156 肥後熊本藩士本間軍記の養嗣/1798家督嗣、  
小姓役・番方・江戸留守居役を歴任、国学;本居宣長に私淑、歌;一柳千古門、  
「新学考にいまびこう加難」著(香川景樹[新学異見]を批判)、家集「本間素当家集」、  
中島広足・和田巖足・磯田克直と交流、  
[素当(;)名)の通称/法号]通称;忠助、法号;聞法院
- E4432 **元襄**(もとまさ/もとすけ/もととし・浦うら、国司くにし就孝2男)1795-187076 長門萩藩士国司親輔ちかすけ男、  
1811(文化8/7歳)阿月領主浦房伴の養子;1834(天保5)家督嗣;長門萩藩士;寄組士、  
秋良貞温を登用;家政改革/1842領内に学問所克己堂創設、萩藩の重臣;加判役等の要職、  
1847(弘化4)家老職に列す;当役として江戸へ/53(嘉永6)藩兵で江戸警備、  
1862(文久2)兵庫出兵の総奉行、世子毛利定広の奉勅東下に随う、藩命で上京;急進派説得、  
1863関門要地借用のため小倉藩との交渉;不調、一切の職を致仕;阿月に帰郷  
しかし以後も革新派黒幕として藩政活動、国司元善・熊谷直行の兄弟、妻;浦房伴女、  
1853-54「浦元襄日記」、「浦靱負公私日記」1870「浦靱負日記」著;全62巻、養子:浦親教、  
[元襄(;)名)の別名/通称/号]初名;義正/変名;元正、通称;亀槌/備後/靱負ゆきえ、  
号;慎斎、法号;洞雲院
- L4491 **基理**(もとまさ・米元よねもと、通称;判治)1802-7372 周防岩国の国学者  
元昌(もとまさ・江良) → 仲文(ちゆうぶん・江良えら、儒者) G 2 8 8 2  
元昌(もとまさ・木村) → 清蔭(せいいん・木村きむら、商家/詩歌) H 2 4 4 0  
元昌(もとまさ・木下) → 順斎(じゅんさい・木下/藤原、医者) K 2 1 7 4  
元政(もとまさ・石井) → 元政(げんせい、日政、日蓮僧/詩歌) 1 8 2 3  
元正(もとまさ・吉田) → 広典(ひろのり・吉田、武家/出家/語学) G 3 7 8 6  
元雅(もとまさ・佐善) → 礼耕(れいこう・佐善さぜん、藩儒臣) 5 1 2 7  
元雅(もとまさ・杉山) → 杉風(さんぷう・杉山、魚問屋/俳人) 2 0 5 6  
基正(もとまさ・→もとなお・石山) → 基正(もとなお・石山いしやま、廷臣) J 4 4 2 6  
基雅(もとまさ・斎藤) → 親基(ちかもと・斎藤、武家/幕臣/日記) C 2 8 0 3  
基雅(もとまさ・東園) → 基長(もとなが・東園ひがしぞの/藤原、廷臣/日記) D 4 4 5 2  
素丸(もとまる) → 素丸(そまる・2世溝口、俳人) E 2 5 3 6
- E4433 **元麿**(元丸もとまる・新清にすが、松平康紀5男)?-1739 石見浜田藩主松平康映の甥、浜田藩儒、  
国学を修学;古道の復興に尽力、藩士谷口源兵衛の養嗣子、致仕後新清に改姓、元文3  
1720「古語拾遺補闕鈔」21「石見国名所松葉集」、「旧事本紀元麿首書」著、1739(元文4)没、  
[元麿(;)名)の通称/号]通称;源兵衛、号;敬文
- J4491 **元麿**(もとまる・久里くり、)1845-188743 越中新川郡の僧/のち泊町郷社八幡宮祠官、  
国学/歌人;高橋富兄とみえ門、中講義、  
[元麿(;)名)の通称/号]通称;靱負、号;器斎  
元麿(もとまる・春木) → 煥光(あきみつ・春木はるき、神職/本草家) D 1 0 9 8  
元麿(もとまる・今出川) → 善超(ぜんちよう;法諱、真宗山元派僧/歌) M 2 4 9 7  
元満(もとまる・孫福) → 公好(きみよし・孫福ごぶく/足代、神職/国学) V 1 6 2 1  
本麿(もとまる・山脇) → 元貞(もとさだ・山脇、藩士/国学・歌人) C 4 4 4 8
- J4453 **基躬**(もとみ・大沢おおさわ、基哲男)1659-172870 江戸の幕臣;高家、出雲守/越中守、  
多摩・埼玉・相模国高座4郡2600石領す、  
[基躬(;)名)の別名/通称]別名;基教/基珍、通称;源三郎/出雲守/越中守
- E4434 **元願**(もとみ・津田つた) 1706 - 178479 筑前博多市小路の開業医;二宮柏山門、

老後は俳諧を嗜む:大椿社を興す、1765「石城志」(;養子元貫もとつら編)、「蒙古軍談」著、  
[元顧(;名)の号] 淡窩/雄山

- E4435 **元幹**(もともき・山科やまの/本姓;源)?-? 江後期京の医者;典薬寮官人/江戸住、  
歌人:香川景樹(1768-1843)門、  
1823「図画一覽」編/27「色目抄」47「本朝医蹟」、「延喜式物名類聚」、  
「冠帽部類」「装束尋常着用次第」著、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[足引きの山ほととぎす雲間よりさす夕月の影に鳴くなり](大江戸倭歌;夏451夕郭公)、  
[元幹(;名)の通称/号]通称;図書ずしよ、号;桐園
- K4469 **元通**(もともち・藤とう、) 1790 - 1841<sup>52</sup> 近江彦根の歌人;[彦根歌人伝・亀]入  
[元通(;名)の字/号]字;子慎、号;豹洞/万竹葉
- E4436 **職実**(もともち・小野おの、蕙畝けいほ男)?-1873 幕末期本草家;父門、1850「和漢日用方物略」編、  
[職実(;名)の通称/号]通称;彦安、号;2世蕙畝けいほ、 職愨もとしの兄、  
父 → 蕙畝(けいほ・小野?-1852、職孝、本草家)G 1 8 6 3
- K4480 **元道**(もともち・中村なかむら、) 1813-1905長寿93歳 大坂の商人;天満組の総年寄、  
☆天満組とは大坂町奉行から一部自治を公認された組織、国学・歌;中島広足門、  
[元道(;名)の通称] 左近右衛門/左源太
- K4415 **元道**(もともち・菅原すがわら、) 1833-1898<sup>66</sup> 出羽田川郡の代々修験者の家、白龍山梵林院祠官、  
絵師;長沼月峯・富取芳齋門;花鳥画修得、上京;奥原晴湖門;山水画修得、南画家、  
維新後;東京住、  
[元道(;名)の号] 白龍/梵林/泰岳/白橋隠士
- |             |   |                        |           |
|-------------|---|------------------------|-----------|
| 懐通(もともち・藤原) | → | 懐通(かねみち・藤原、業尹男、歌人)     | D 1 5 0 8 |
| 思道(もともち・青山) | → | 拱斎(きょうさい・青山あおやま、儒者/幕臣) | N 1 6 8 3 |
| 元道(もともち・安見) | → | 晩山(ばんざん・安見やすみ、幕府儒官)    | H 3 6 8 6 |
| 元道(もともち・高田) | → | 五棟(ごとう・高田たかた、医者/俳人)    | N 1 9 2 1 |
| 元通(もともち・八代) | → | 柳埏(りゅうた・八代やしる、儒者/教育)   | F 4 9 1 0 |
- E4437 **基光**(もともつ・藤原ふじわら、頼成男or清隆男or資憲男?)?-1100 平安後期廷臣;従五下画所預、  
1091工匠頭/99大和守、東大寺住の絵師:「相撲人図」「山水屏風」画、歌:金葉240/369  
[宇治川の川瀬も見えぬ夕霧に槇の島人しまと舟よばふなり](金葉集;三秋240)  
[基光(;名)の初名/号]初名;盛光、号;春日/土佐
- E4438 **元光**(もともつ・武田たけだ、元信もとのぶ男) 1404-1551<sup>48</sup> 武将;1521家督嗣;/若狭守護/大膳大夫/伊豆守、  
1522後瀬山に城館を構築/26細川道水に合力のため上洛;合戦大敗/領国も不穩;1538退隠、  
詩歌・書・騎射に長ず、猿樂保護・犬追物興行など伝統文化を擁護/武家故実を書写、  
1520「犬追物武田日記」「犬追物之記」、「武田家譜」著、信豊の父、  
[元光(;名)の通称/号]通称;彦二郎、号;宗勝/釣溪斎、法号;発心寺天源宗勝居士
- E4439 **紀光**(もともつ・のりみつ・柳原やなぎはら、初名;光房、光綱男/本姓;藤原) 1746-1800<sup>55</sup> 母;織田信休女郁子、  
廷臣;1771参議/75権大納言/81正二位/桃園・後桜町・後桃園・光格天皇に出仕、1788勅勘、  
自ら致仕し学問に専念;父の遺志継嗣し国史「続史愚抄」編纂、詩・歌学に通ず、1797出家、  
「柳原紀光詠草」「柳原詩集」「柳原卿記」「平緒繡文」「和歌語彙」「万葉集和歌部類鳥部」著、  
「御会部類」「口宣草」「喪服抄」編、1793-96「閑窓自語」、1796記録「砂巖記」編、外編著多数、  
収集史料の総称;「柳原家記録」、  
[紀光(;名)の幼名/字/法名]幼名;綱丸、字;藤蔓、法名;暁寂
- E4440 **元蕃**(もともつ・毛利もうり/本姓;大江、徳山藩主広鎮7男) 1816-84<sup>69</sup> 母;秋元永朝女の喜哉(本源院)、  
4人の兄は早世/さらに元元琦は堅田家・元間は福原家の養子、1837家督嗣;  
周防徳山藩主襲封、従三位/山城守/淡路守、桜田組火防役/神田橋門番役、  
西丸普請手伝役、文武奨励;蘭方医学・国学・西洋砲術稽古を奨励/民政安定に尽力、  
1850風水害;封内の諸村を巡視し民を慰勞・篤農家を賞す、  
幕末動乱に本家の毛利敬親を補佐/1864禁門の変で官位剥奪される、  
1866(慶応2)第2次長州戦争に小瀬川口に出陣、戊辰戦争に鳥羽伏見・奥羽箱館で軍功、  
1869永世賞典禄8000石受ける/廢藩置県で徳山県知事;1871所領を萩藩に返還/隠居、  
隨風堂と号し東京芝愛宕町に住;歌を詠む、1853詩文「省耕集」/「隨風集」「隨風堂遺訓」著、



1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、妻；毛利齊熙女の八重子、元徳(萩藩主の養嗣)の兄、  
[春毎の花に心のあくがれて咲ける山辺はたづね残さじ](大江戸倭歌；春236/尋山花)  
[元蕃(；名)の幼名/別名/字/号]幼名；徳太郎、別名；就軌/広篤、字；列卿、通称；淡路守、  
号；岐陽/恪庵かかん/随風堂/邁所

元光(もとみつ・小槻) → 于恒(ゆきつね・小槻/壬生、廷臣/記録) E 4 6 9 4

- E4441 **基邑**(もとむら・後藤ごとう、弥三右衛門男、屋号；柏屋) 1698-1776 79 播州加東郡河合郷粟生村の史家、  
垂加神道；広峰社祠官佐々木高成門、戦記・騒動記・敵討物語を讀破；講義、郷土史を著述、  
「播州諸家系図」「播州年歴記」「播陽事始経歴考」「播歩思出草」「名処考」「豪傑高名記」著、  
[基邑(；名)の通称/号]通称；林蔵/弥三左衛門、号；不及/扇慶/柏藤林人/草銘軒/守始翁、
- E4442 **求馬**(もとめ；通称・戸次べつき、名；親敷、求馬喜内男) ?-? 江中期筑後柳川藩士；1729父の遺跡継嗣、  
柳川藩近習、久留米の西以三「筑後地鑑」(1682刊)に南筑後の記述遺漏を惜しみ地誌編纂、  
1765「南筑明覽」編

- E4443 **基盛**(もともり・持明院じみょういん/本姓；藤原、藤原家定男) ?-? 鎌倉後期廷臣；正四下/左中將、  
故実家；「小弓肝要抄」「鷹狩故実」/1295「基盛朝臣鷹狩記」著、基行の父、歌；玉葉集858、  
[浮き雲を月に嵐の吹きかけて有明の空をゆく時雨かな](玉葉集；六冬858)

- E4444 **職盛**(もともり・平田ひらた/家名；出納/本姓；中原、職豊男) 1469-? 1527 存 廷臣/官人；  
代々蔵人所出納の職、1522正五下/24從四下大蔵大輔/27左兵衛佐、  
1527「後奈良天皇御即位調度注進」著

元盛(もともり・桂) → 岌円(岌園きゅうえん・桂、武將/記録) M 1 6 3 1

元盛(もともり・稻常) → 宗雄(そうゆう；法諱、稻常、武家/出家/連歌) J 2 5 0 1

元哉(もとや) → 元哉(げんさい、神官/連歌)

- E4445 **元康**(もとやす・藤原ふじわら/家名；内藤ないとう) ?-? 室町期細川家臣；五位、歌人；1421堯孝らと詠歌、  
1435赤松満政母三十三回忌詠法華経序品和歌・1438細川満基十三回忌詠法華経和歌出詠、  
1442藤原盛隆勸進亡父一回忌法華経追善和歌出詠、新統古1536、  
[契らずよせくも人めを思川あさきになして影たえんとは](新統古今；1536/忍絶恋)  
[元康(；名)の通称] 内藤又四郎/(出家後；)内藤入道

- 4423 **元安**(もとやす・金春こんばる、号；禪鳳/桐林禪鳳、元氏男/禪竹の孫) 1454-1520/32? 67-79 能役者、  
謡曲作者、1480金春大夫、粟田口勸進能、金春座の隆盛、茶の湯、「毛端私珍抄」「禪鳳雑談」、  
「反古裏の書」「五音之次第」著、  
能作品；「初雪」「生田敦盛」「黒川」「嵐山」「一角仙人」「東方朔」、  
[我を鈍なると思ふこそ利根りこん(利口)にて候へ 我が身を賢き者と思ふは鈍の内にて候]  
(禪鳳雑談)

- E4446 **元康**(もとやす・毛利もうり/末次、元就8男/本姓；大江) 1560-1601 42 母；三好家、武將；  
長門厚狭あき毛利家の祖、出雲末次城主(；末次を名告)/1585兄元秋没により出雲富田城主、  
関ヶ原戦後；厚狭に移動、從五下/兵部大輔/大蔵大輔、  
連歌を嗜む；1595(文禄4年)紹巴と「何人百韻」・玄仍と「何船百韻」/96乗臨と「何路百韻」、  
1598(慶長三年)紹巴と「何船百韻」「薄何百韻」「何路百韻」、  
[元康(；名)の通称/法号]通称；少輔七郎/七郎兵衛、法号；洞玄寺石心玄也禪定門

- E4447 **元泰**(もとやす・松井まつい、東庵男) 1689-1743 55 代々(松井道珍以来)大和奈良の製墨業；1713和泉掾、  
靈元院に秘蔵の古墨の四分の一を献上、1739長崎で清人に製墨法を修得；製法を一新、  
俳人・来山門、詩人、1711「名墨新詠」編/13「古梅園墨談略抄」15「むかしの水」著、  
1715「古梅園墨譜和方式」16「古梅園墨譜」著、34「大墨鴻壺詩集」編、「大墨図式」「略墨譚」著、  
1734来山遺稿「いまみや草」(古道・梅七と共編)、元彙の父、  
[元泰(；名)の字/通称/号]字；貞文、通称；五郎助、号；長江/玄々斎/古梅園、

- E4448 **基康**(もとやす・樋口ひぐち、康熙2男/本姓；藤原) 1706-80 75 廷臣；1736從三位/60參議/69正二位、  
1775権大納言、「京極宮家和歌短冊帖」著

- E4449 **元簡**(もとやす/げんかん・多紀たき、幼名；金松、元徳もとり男/本姓丹波) 1755-1810 56 幕臣/医；父門、  
儒；井上金峨門、1790幕府奥医師/法眼、父と医学館で子弟教育、白川侯侍医、  
狩谷椽齋らと考証医学を確立、書画に長ず、1803「日光駅程見聞雑記」04「医方類聚抄摘」編  
1807「薬性提要」09「櫟窓類鈔」、「櫟蔭艸堂文集」「医余偶筆」「蝦夷地異疾考」外著多数、

- 「桂林漫録」に聞書、元胤・元堅の父、  
 [元簡の字/通称/号]字;廉夫、通称;安清/安長、号;桂山/櫟窓れきそう/櫟陰、法号;本覚院
- E4450 **躬保**(もとやす・手塚てつか、吉右衛門男)1777-185276 常陸笠間藩士;1791家督継嗣、  
 目付・郡奉行・勝手掛、一貫して農政に携わる;1809以来藩政改革での農業施策・  
 天保飢饉時の危機回避など貢献、1848用人勤務、  
 「郡官日省録」「救民記」「十五年来眼目集」著、  
 [躬保(;名)の幼名/通称]幼名;久太郎、通称;吉兵衛/多助/保兵衛
- J4449 **素寧**(もとやす・小野田おのだ、雲井紀平の長男)1841-192585 伊勢度会とくえの医者、小野田市太夫の養嗣、  
 漢学;斎藤拙堂・土井贅牙門/国学・歌;大国(野々口)隆正・堤盛言門、医;京の新宮涼民門、  
 画;宮崎青谷門、医の余暇に詩歌や画を楽しむ、  
 [素寧(;名)の字/号]字;典礼/行甫、号;盤山/老素
- 元康(もとやす・松平) → 家康(いえやす・徳川、将軍/武家法度) 1 1 0 4  
 元愷(もとやす・平沢) → 元愷(げんがい・平沢ひらさわ/沢、儒者/国学) B 1 8 3 9  
 元泰(もとやす・守屋) → 東陽(とうよう・守屋もりや、医者/詩文) H 3 1 7 8  
 元泰(元康もとやす・服部) → 菅雄(すげお・服部/富田、国学/歌) B 2 3 6 1  
 元恭(もとやす・佐善) → 雪溪(せつがい・佐善さぜん/源/佐竹、儒者) E 2 4 1 6
- E4451 **本康親王**(もとやすしんのう、仁明天皇皇子)830?-90172? 母;滋野貞主女の繩子、  
 兵部卿/大宰帥/上総太守、  
 884陽成退位に際し固辞する異母兄時康親王(光孝天皇)に即位を奏請、889一品式部卿、  
 琴;高橋文室麻呂門、七十賀に紀貫之・素性らより屏風歌が献上/道眞と親交;菅家後集入、  
 「八条式部卿私記」、歌;続後撰集578、  
 [わたつうみの波かきわけてあらはれし武鸕たけう尊たけうのみこと幾夜へぬらん]  
 (続後撰;神祇578/元慶二年878日本紀竟宴和歌:兵部卿)
- G4497 **もとゆき**(・姓不詳) ? - ? 平安前期廷臣、歌人、898亭子院女郎花合参加、  
 [散る花をみなへし花は秋風の吹かむことをば苦しからじな](女郎花合38)
- E4452 **基行**(もとゆき・持明院じみょういん/本姓;藤原、初名;基範/法号;道運、基盛男)?-? 鎌倉後期廷臣;  
 1320右中将/29右衛門督/30従三位/33出家?、  
 歌人;1323北条貞時十三回忌歌供養に参加、続千載集831、  
 [あかつきの関の秋霧たちこめて都へだつるあふさかの山](続千載集;八羈旅831)、
- E4453 **基幸**(もとゆき・源みなもと、別名;基平)?-? 廷臣;五位、歌;1364成立「新拾遺」1271、  
 [今はただ思ひ絶えにし面影のはかなく通ふ夢の浮橋](新拾遺集;十四恋1271)
- E4454 **基之**(もとゆき・細川ほそかわ/本姓;源、細川満之男)?-1448 伯父管領細川頼久之の養嗣、武将;兵部大輔、  
 阿波守護、1414「頓証寺法楽百首」参加、1421兎孝家集「慕風愚吟集」入、新続古今集1705、  
 [秋萩の花ざり衣うちしをれゆくてにかかる野辺の夕露](新続古;雑1705/野径萩)  
 [基之(;名)の幼名/法号]幼名;源九郎、法号;常観院、頼久の父、頼重の兄
- E4455 **元行**(もとゆき・飯尾いお/本姓;三善、名;兼連)?-? 戦国期武家/室町幕臣;奉行人/大和守、  
 1503-5頃「武家歌合」参加(10首入)、  
 [行く雁の声をしるべに見し影もいや遠ざかる夕暮れの空](武家歌合;十二番右)
- E4456 **元行**(もとゆき・棚守/本姓;野坂、房頭ふさあき男)?-? 戦国期厳島神社神主家;棚守職、  
 16c末父と各種「宮島連歌」に参加
- E4457 **元行**(もとゆき・中島なかじま、輝行男/本姓;二階堂)?-1614 備中賀陽郡刑部郷の経山城主;毛利家家臣、  
 岡山宇喜多・出雲尼子・織田信長との合戦に活躍、従五下/大炊助、妻;高松城主清水宗治女、  
 小早川隆景の命で信長軍防禦のため高山城主、1582秀吉の高松城攻には二の丸に籠城、  
 晩年は周防毛利秀就の招聘で兵乱記録著;「中国兵乱記」、通称;新左衛門、法名;行秀
- E4458 **意行**(もとゆき・田沼たぬま、和歌山藩士田沼義房男/or菅沼半兵衛男)1688-173447 田沼意次おきつぐの父、  
 叔父田代七右衛門重章に養育/紀州藩主徳川吉宗に出仕;小姓/1716吉宗の将軍時に幕臣、  
 1724従五下主殿頭/34小納戸頭取、「意行詠草」著、  
 歌;冷泉家門/1739芥川寸艸[飛鳥山十二景詩歌]入(;筑波茂陰つばのもいん)、  
 [筑波やまこのもかのもに仰ぐなり君が恵みのしげきみ影を](十二景歌/君;将軍吉宗)、

[意行(；名)の別名/通称/法号]別名；重意、通称；重之助/専之助/専左衛門、法号；承隆院  
☆飛鳥山十二景 → 榴岡(りゅうこう・林はやし) D 4 9 7 8

- J4457 元之(もとゆき・太田おた、) 1726-1783 68 出羽久保田(秋田)藩士；江戸藩邸膳番、国学者、  
[元之(；名)の別名/通称]別名；乾運、通称；伊太夫
- I4476 元之(もとゆき・竹内たけうち) 1739-1806 68歳 伊勢松阪の商人、国学者；本居宣長門、直道の父、  
歌；本居大平「八十浦の玉」中巻；2首入、  
[庭草に置く白露を玉になす秋の月夜は見れどあかぬかも](八十浦；598/秋月)、  
[元之(；名)の別名/通称/屋号]別名；好正、通称；彦市/四郎兵衛、屋号；津島屋
- L4430 思之(もとゆき・馬目まめ、通称；玄鶴/高園) 1748-1808 61 遠江浜松浜松藩医/井上河内守に出仕、  
国学・歌；内山真竜(夏目甕暦と同門)・本居宣長・太平門、和漢学者/歌人、久保寿軒の師、  
2女の登波子は歌人(吉田藩士岩上九兵衛の妻)  
女 → 登波子(とわこ・岩上いわがみ、歌人) S 3 1 0 1
- E4459 元如(もとゆき・高木たかぎ) ? - ? 江戸の和文家/狂歌；大田南畝(おたなんぼ門)、  
1806南畝「ひととも草」入
- E4460 躬之(もとゆき) ? - ? 俳人、1810「俳諧所名集」編(；一漁編の増補版)
- E4461 基之(もとゆき・鈴木すずき、通称；眞) ?-? 江後期江戸の歌人；岸本由豆流門/小山田与清門、  
1820「松陰随筆」、「類題玉台歌撰」著、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[しきたへの枕につくるほほの木のみさめに妹を見るよしもがな]、  
(大江戸倭歌；恋1575/寄木恋)
- L4467 素行(もとゆき・村田むらた、本姓；大沢) 1812-89 78 山城紀伊郡の生/近江大津で商家；塩商、  
和漢学者；詩文に長ず/多くの文人と交流、  
鳥羽伏見戦争に薩摩藩京都藩邸詰の村山松根に軍資金2千両調達、  
[素行(；名)の通称/号]通称；七兵衛、号；湖上漁人/柳厓(りゅうがい)、屋号；塩屋
- L4412 基敬(もとゆき・東園ひがしぞの、基貞男) 1820-83 64 母；芝山国豊女、京の廷臣；1851左近権少将、歌人、  
1855孝明天皇行幸供奉/58(安政5)岩倉具視らと安政勤王八十八廷臣の1；日米条約反対、  
安政大獄に連座、維新後東京住；従三位参議、のち新政府の参与、基愛・桜井供義の父、  
基愛が家督が家督嗣
- J4486 誠之(もとゆき・菊地きくち、) 1827-1876 50 常陸河内郡の国学者；伊能穎則(ひでのり)門、  
[誠之(；名)の通称]与惣左衛門/操
- E4462 素行(もとゆき・川波かわなみ) 1829-1900 72 越中小杉の国学者/詩文・蘭学・天文曆術に通ず、  
画；山本梅逸門、「越中日記」「源氏物語詳解」「国史考按」著、  
[素行(；名)の字/通称/号]字；伯思、通称；友太郎、号；衆裁亭  
基行(もとゆき・齋藤/藤原) → 行生(ぎょうしゅう；法諱、僧/歌人) G 1 6 8 2  
基之(もとゆき・奥沢/中尾) → 猷祖(ゆうそ・中尾/藤原/奥沢、医官) D 4 6 2 9  
元行(もとゆき・土山) → 元行(げんこう/もとゆき？・土山、古今夷曲集入) B 1 8 4 6  
元幸(もとゆき・舎人/野村) → 立栄(初世りゅうえい・野村/舎人、医者) C 4 9 8 5  
元幸(もとゆき・野村) → 立栄(2世りゅうえい・野村/野、初世男/医者) C 4 9 8 7
- E4463 基世(もとよ・齋藤さいとう、基永[観意]男/本姓；藤原) ?-? 鎌倉後期廷臣；五位/大学允、  
基有/基任の弟、基明の兄、歌人；頓阿と交流(続草庵集入)、続現葉集入、  
勅撰2首；新千載(1537)新拾遺(756)、  
[妹背山へだつる雲の夕時雨たがうき中の涙なるらん](新千載集；十五恋1537)  
息女 → 基世女(もとよのむすめ・齋藤/藤原、勅撰歌人) E 4 4 8 2
- I4478 元世(もとよ・毛利もうり、下野佐野藩主堀田正敦6男) 1796-1845 50歳 江戸の生、毛利正明没後養子、  
1819長門清末4代藩主毛利匡邦の女の婿養子となり5代藩主正明の家督を嗣；6代清末藩主、  
従五下/讃岐守、1827駿府加番/37(天保8)大番頭；同年致仕、  
歌；蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、  
[花の香をとめつつ行けば初瀬山くもより雲に春風ぞ吹く](大江戸倭歌；春224)、  
[元世(；名)の初名/通称]初名；正名、通称；紀一郎/讃岐守、法号；善徳院



- 基世(もとよ・園) → 基頭(もとあき・園その/藤原、廷臣/歌人) B 4 4 9 3  
 基世(もとよ・斎藤) → 基恒(もとつね・斎藤/藤原、幕臣/日記) D 4 4 1 5  
 懐世(もとよ・藤原) → 懐世(かねよ・藤原、廷臣/歌人) D 1 5 1 6
- E4464 元善(もとよし・藤原ふじから、藤原諸藤男or藤原是法男)?-? 平安前期廷臣;從四下陸奥守;再任、  
 歌人;後撰262/1241、  
 [秋来れば野もせに虫の織り乱る声の綾をば誰か着るらん](後撰集;五秋262)
- E4465 基良(もとよし・栗田口あたらぐち/家名;近衛、忠良男/本姓;藤原) 1187-1276長寿90 母;藤原実国女、  
 良教の父、鎌倉期廷臣;1211從三位/左近中将/35正二位/38権大納言、  
 1251出家(;法号円空[縁空])、  
 歌人;藤原定家門、1214「月卿雲客妬歌合」/19「内裏百番歌合」参加、48宝治御百首出詠、  
 1253(建長5)定家13回忌追善詩歌(為家勸進)に歌入、  
 勅撰33首;新勅撰(262/805/1255)続後撰(7首)続古(6首)続拾(4首)新後撰(3首)玉葉以下、  
 [山の端のつらさばかりや残るらむ雲よりほかにあくる月影](新勅撰;四秋262)、  
 [基良(;名)の号]号;葉川、法号;円空/縁空  
 息女 → 基良女(もとよしのむすめ・栗田口/藤原、勅撰歌人) E 4 4 8 1
- E4466 元能(もとよし・観世かんぜ、通称;七郎、世阿弥男)?-? 室町前期能楽師・出家、  
 1430?「申楽談儀(世子せし六十以後申楽談儀;秦元能聞書)」編(;永享二年1430十一月奥書)
- E4467 元吉(もとよし・薬師寺やくしじ/本姓;橘たちばな、通称;四郎左衛門尉)?-? 室町期武家;五位/歌人:  
 1435「赤松満政母三十三回忌詠法華経和歌」参加、1446細川持賢家月次歌会の会衆、  
 1446「宗徳院法楽百首」勸進(免孝法院日記入)、新続古今集(1984)、  
 [明けゆくをつぐるのみかは遠方をわたの里まで鳥の音にぞしらるる](新続古;雑1984)
- E4468 元祥(もとよし・益田ますだ、城主益田藤兼2男) 1558-164083 石見益田の武将;1568元服、  
 毛利元就の偏諱を受、1582益田七尾城主;家督継嗣/從五下右衛門佐/越中守/玄蕃頭、  
 妻;吉川元春女、1600毛利家が防長2国に削封;よって益田城を去り長門須佐に移住;  
 1万2千石所領/萩藩国家老となる、  
 「八幡大菩薩御縁起」「益田牛庵覚書」「益田牛庵書付勤勞事」「益田牛庵茶湯覚書面之覚」著、  
 [元祥(;名)の幼名/号]幼名;次郎、号;牛庵(;剃髮号)、法号;桃林院
- E4469 基福(もとよし・園その/本姓;藤原、基音男) 1622-169978 江前期廷臣;1649参議/52從三位;59辞任、  
 妹国子(後水尾天皇妃新広義門院)の子が靈元天皇となり1686准大臣/從一位、  
 号;後南院光嚴融智、能書家、詩歌人:「栄玄院(中院通純)殿三十三回忌和歌」  
 「後十輪院(中院通村)殿三十三回忌和歌」、「住吉西湖詩歌」「聞書和歌」著、  
 1690基福七十賀「近代賀算詩歌さんだいがさんしいか」(清水谷実業ら参加し編纂)
- E4470 元善(もとよし・大串おおぐし、平野五郎兵衛男) 1658-9639 母;佐藤氏/祖母の大串家を継嗣、京の儒者、  
 1670(13歳)江戸で人見懋斎ぼうさい門、徳川光圀の招聘;水戸藩儒/彰考館入;修史事業参加、  
 1688彰考館総裁、1689「続南行雑録」91「彰考館総目」編/95「石和見聞志」96「雪蘭雜録」、  
 「記者小伝」「詩経講義」「書経講義」「全唐詩話互考」「富士山和詩」「張斐文筆語」「雪瀾集」著、  
 [元善(;名)の字/通称/号]字;子平、通称;平五郎、号;雪瀾/雪蘭
- E4471 尤最(もとよし・山崎やまさき、号;芥花堂)?-? 江中期京の語学者、音楽に通ず、  
 1732「世説愚案問答」、「日本歳時記拾遺」著
- L4408 元慶(もとよし・原はら、元寅もとのぶ男) 1681-175474 加賀金沢藩士;大小将番頭/馬廻頭;禄880石、  
 1746(延享3)致仕、儒者・詩;父門、歌人、  
 [元慶(;名)の通称/号]通称;助左衛門/九左衛門(;父の称)、号;貞桂/儲香亭ちよこうてい
- L4448 元宜(もとよし・三浦みづら/本姓;源、元炫男) 1689-176476 母;智光院(歌人)、元彦の父、  
 彦根藩家老;2千5百石(三浦与右衛門家)、和学/歌人、歌;[彦根歌人伝・鶴]入、  
 元満-元親-元炫-元旭(元宜)-元彦-元福-元苗-元泰-正猷と続く  
 [元宜(;名)別名/通称]別名;元旭、通称;内膳(代々の称)
- J4414 素良(もとよし・井上いづえ/本姓;藤原、梯かけはし左仲太三胤3男) 1753-182068 越前福井松岡町の生、  
 福井藩士井上満喬の養子、福井藩士/右筆頭取;藩の記録を校訂、国学/歌;本居宣長門、  
 史学者、1781「越藩史略」(13卷)/82「神政績」90「眞学立知」/1815「越前国名跡考」著、  
 「越藩拾遺」「萩之下葉」「眞学大意」「梅謡曲昔之香」「神風日記」「国語千枝之滴」著、

「越路百人一首松虫の音」「越前郷村帳」「弁瀑布物語」「大八洲皇輿指掌図」著、  
「一向宗門諸派小伝」外著多数、

[素良(；字)の幼名/名/字/通称/別号]幼名；初三郎、名；翼章つばさ、別字；思郷、  
通称；三郎/織之丞/衛士、号；帰橋、法号；能持院

- E4472 元良(もとよし・藤とう) ? - ? 江後期寛政1789-1801頃伊勢の鍼灸医、  
1796「和蘭物産図考」校訂/98「和蘭物産図考」著、「錦囊医療規矩」「諸家灸点図解」著
- E4473 元義(もとよし・毛利もうり、匡芳男/本姓；大江) 1785-1843 59 1792(8歳)長門府中11代藩主襲封、  
従四下、左京亮/甲斐守、母；西園寺賞季女の宝珠院多喜子、儒学奨励；藩校敬業館の充実、  
1841隠居、詩/画/狂歌/作陶を嗜む；「古今東名所」著、菊池五山「五山堂詩話」入、  
狂歌；鹿都部真顔門、狂歌名；梅廻戸真門うめのやまかど；清元「梅の春」作詞(師真顔が代作か?)、  
下関勝山の砂子多川河畔で曲水の宴を催す、菊舎尼と交流、  
[元義(；名)の幼名/別名/号]幼名；直次郎、別名；元敬、  
号；万年/蘭齋/梅趣/梅門/無底子/四睡庵/梅廻家真門、法号；顕門院
- E4474 元凱(もとよし・横川よしかわ) ? - ? 江中期安藝の儒者、詩人；「緑猗堂文集」著、  
[元凱(；名)の字/通称]字；濟美、通称；才蔵
- E4475 元義(もとよし・中津なかつ) ? - 1831 伊勢飯高郡垣鼻村の国学者；1705本居宣長門、  
1802「小倉の山ふみ」著、  
[元義(；名)の通称/号]通称；伴右衛門、号；松蔭の屋
- J4459 元善(もとよし・岡田おかだ/本姓；源、) 1763-1836 自刃 74歳 石見浜田藩家老、国学；本居宣長門、詩人、  
妻；鍵子がご(国学；宣長門)、1836(天保7)会津屋八右衛門の唐・朝鮮船と密貿易が発覚；  
家老元善が藩財政逼迫から黙認していたため切腹・会津屋は死罪(；竹島事件)、  
[元善(；名)の字/通称/号]字；長卿、通称；頼母、号；秋斎
- K4435 元良(もとよし・多久たく、初名；邦貞) 1768-1841 74 肥後山鹿郡の医者、国学；本居宣長門
- 4424 元義(もとよし・平賀ひらが、岡山藩士平尾新兵衛長治男) 1800-65 66 母実家備中下道郡徳北郷陶の生、  
武芸；馬場家門/藩校で和漢学修学、1820家督を弟に譲渡/母方の興津(犬丸)新吉直元を称、  
平尾に復す/1832備前岡山藩を脱藩；中国地方を放浪；平賀元義を名乗る、独学で古典研究、  
地歴を研究考証、古学を講ず、歌人；賀茂真淵に私淑；万葉調、1851上京し清水谷家訪問、  
1855美作勝田郡飯岡村に[楯之舎塾]創設；59閉鎖、以後諸国を歴訪；脱俗生活、  
妻；備前石淵鴨神社祠官長浜秀信女の富子、  
1865(慶応元)12月28日備前児島の門人前川清彦を訪う途中路傍の溝に落ち凍死、  
「山陽風土記考」/1852「山陽道名所考」「備前続風土記」「鴨方史」「神官めざまし草」著、  
「美作視聴録」外著多数、「平賀元義歌集」；  
[清滝をわが見にくれば足引の山の木ごとに蟬ぞ鳴くなる]、  
[元義(；名)の別名/通称/号]実名；直元/長元/直満/義元/直義、  
通称；猪之介/丹介/七蔵/喜左衛門/新吉郎/新吉/左衛門太郎、  
号；禰古彦/揖斐雄/備前処士/吉備雄/雄詰社/石楯/楯之舎主人/楯舎たてのや/源猫彦
- E4476 元好(もとよし・粟津あわづ/本姓；藤原、元陳もとのぶ男) 1801-? 1842 存 近衛家の侍/従六上/因幡介、  
1838剃髪、本願寺坊官/42(天保13)法橋、  
歌人；1834香川景樹門、1843「諸事覚帳」、「御移徙法要次第」著
- E4477 元兆(もとよし・松田まつだ、別名；兆、上部豊前2男) 1801-84 84 伊勢下の久保の国学者；足代弘訓門、  
詩文；山口凹巷・東夢亭・富樫広蔭門/書を嗜む、「遠関日の考」著、雪柯せつかの父、  
[元兆(；名)の字/通称/号]字；兆新、通称；縫殿ぬい/将曹、号；適齋/適翁/古雅堂、
- E4478 始芳(始方もよし・北沢きたざわ) ? - ? 江後期信州の養蚕家/江戸住/本草；岩崎灌園門、  
1827「山繭養法秘伝抄」、[始芳(；名)の通称] 卯右衛門
- L4436 元珍(もとよし・松尾まつお、) 1806-1880 75 信濃伊那郡伴部村の豪農・酒造業、国学者・歌人、  
1829山本村の竹村多勢子(1811-94/国学者/歌人)と結婚；誠まこと・為誠ためまことなど7人の父、  
病弱；妻多勢子が子供たちを献身的に養育、  
[元珍(；名)の初名/通称/号]初名；土直、通称；菊江/岩太郎/佐治(次)右衛門、  
号；淳齋/三水淳翁
- E4479 元備(もとよし・深川/深河ふかがわ、医者小林又玄の長男) 1810-56 47 上総望陀郡飲富村の本草家/詩文、

国学;1829平田篤胤門、蘭学;幡崎鼎門、漢学・詩文・物産・本草・博物に通ず、  
「金剛談」「西学論」「薬王水略説」「房総三州漫録」「地誌料房総三国漫録」「聞見漫録」、  
1835「百川朝宗」45「埴生郡聞見漫録」著、  
[元儒(;)名)の別名/通称/号]初名;基親、通称;銑次郎/仙次郎/千次郎/潜蔵/大学、  
号;霽宇/霽雨/柴の戸の誰也良たれやら/馬來田国造、法号;放光院

L4469 **元美**(もとよし・毛利もうり、房晁[房衆]男)1811-8575 長門厚狭領主;1812父逼塞隠居処分;家督嗣、  
幼時のため叔父毛利房謙・司房長の後見、1843(天保14)波賀台の軍次演習に一番備頭、  
1862(文久3)赤間関海防総奉行;外国船砲撃を躊躇した咎で解任、  
1864(元治元)藩内俗論派が政権;加判役(家老)に就任/1865革新派政権誕生し罷免、  
知行地の厚狭で謹慎、正室;毛利広鎮女の勅子ときこ(1819-79/教育者/毛利元徳の姉)、  
[元美(;)名)の別名/通称]別名;元教、通称;本之助/能登

L4454 **元好**(もとよし・三好みよし)1821-1913長寿93 讃岐高松藩士、歌人;桂園派の渡忠秋門、  
[元好(;)名)の通称/号]通称;元八郎、号;かず竹のや/白桜/撫松

E4480 **職愨**(もとよし・小野おの、蕙畝男)1838-9053 本草家;父門、1862幕命で小笠原島採集、  
維新後は博物局勤務;植物学普及に尽力、1862「小笠原草木腊集」、「動植物目録」著、  
「新訂草木図説・草部」「毒品便覧」著、  
[職愨(;)名)の通称/号]通称;芩庵きんあん、号;薫山くんざん、

父 → 蕙畝(けいは・小野?-1852、職孝、本草家) G 1 8 6 3

兄 → 職実(もとみち・小野おの、本草家) E 4 4 3 6

元喜(もとよし・波多野) → 通郷(みちさと・波多野、幕臣/連歌) B 4 1 5 5

元喜(もとよし・三谷みたに) → 元喜(げんき・三谷みたに、歌人) O 1 8 3 7

元善(もとよし・原) → 喜鶴(きかく・原はら、将棋士) J 1 6 8 1

元善(もとよし・棚谷) → 桂陰(けいん・棚谷たなや、医者) F 1 8 2 5

元善(もとよし・島津/末川) → 久救(ひさひら・末川/島津、歌人) B 3 7 7 2

元善(もとよし・川村) → 壽庵(じゅあん・川村/河村/川、医者) W 2 1 4 8

元善(もとよし・/宮内) → 嘉長(よしなが・宮内/清原/永井、神職/和漢学) F 4 7 3 1

元良(もとよし・近藤) → 名洲(めいしゅう・近藤、心学者/詩歌) 4 3 2 0

元良(もとよし・田山) → 敬儀(たかのり・田山たやま、歌人) D 2 6 4 7

元良(もとよし・垣本) → 正良(まさよし・垣本かきもと/源、代官/国学) O 4 0 7 6

元義(もとよし・赤田) → 臥牛(がぎゅう・赤田、儒/詩人) B 1 5 3 0

元義(もとよし・渡辺) → 蘭翠(らんすい・渡辺貞庵、医者) C 4 8 7 4

元義(もとよし・名村) → 貞五郎(さだごろう・名村なむら、通事) I 2 0 1 6

元義(もとよし・江馬) → 笋荘(じゅんそう・江馬えま、蘭学/藩医) L 2 1 3 7

元吉(もとよし・藤塚) → 知能(ともよし・藤塚ふじつか/源、神職) Q 3 1 9 4

元嘉(もとよし・佐世) → 宗孚(そうふ・佐世させ、武将/連歌) I 2 5 7 8

元敬(元慶もとよし・三神) → 土麿(ひじまる・三神みかみ、医者) C 3 7 3 5

本了(もとよし・寺村) → 泰壽(やすひさ・寺村てらむら、医者/歌人) G 4 5 2 9

基好(もとよし・吉村/中条) → 右京(うきょう・中条ちゅうじょう/吉村、尊攘派) C 1 2 1 2

基義(もとよし・津田) → 吳逸(ごいつ・津田、俳人) 1 9 5 9

4419 **元良親王**(もとよししんのう、通称;兵部卿官、陽成天皇第1皇子)890-94354 母;藤原遠長女、  
三品兵部卿、色好みで有名:大和物語に逸話、殊勝の声(徒然草132段入)、  
妻;宇多皇女誨子内親王・醍醐皇女修子内親王・神祇伯藤原邦隆女、  
愛人;京極御息所褒子・平中興女・藤原兼茂女・源昇女・承香殿中納言など多数、  
歌;家集「元良親王集」、943弟元平親王と「陽成院親王二人歌合」、  
勅撰20首;後撰(6首102/510/629/679/960/1143)拾遺(29/766)新勅(875)続古(1061)以下、  
[わびぬれば今はた同じ難波なるみをつくしても逢はむとぞ思ふ]

(後撰960;宇多天皇の愛人京極御息所との恋が発覚後の贈歌)

→ 京極御息所(きょうごくのみやすどころ) C 1 6 4 7

元宜母(もとよしのは・三浦) → 智光尼(ちこうに・三浦みうら、歌人) N 2 8 5 8

E4481 **基良女**(もとよしのむすめ・粟田口あわたぐち/本姓;藤原)?-? 鎌倉期歌人、権大納言基良[1187-1276]の娘、



- 勅撰2首;新後撰1475/玉葉1349、  
[思ひいでもなきいにしへを忍ぶこそうきを忘るる心なるらめ](新後撰;十九雑1475)
- E4482 **基世女**(もとよむすめ・齋藤さいとう/本姓;藤原)?-? 鎌倉後期歌人;勅撰3首;  
新千載873/新拾遺1178/新後拾遺885、  
[ひとりすむ心の月を尋ぬれば世のうき雲は目にもかからず](新千載集;釈教873)
- G4497 **もとより**(・姓不詳) ? - ? 平安前期廷臣、歌人、898亭子院女郎花合参加、  
[龍田山秋をみなへし過ぐさねばおくる幣ぬきこそ紅葉なりけり](二句に隠し題)
- E4483 **基頼**(もとより・後藤ごとう、基政男/本姓;藤原) 1238-1301<sup>64</sup> 母;葛西清親女、鎌倉幕臣;1269引付衆、  
1270上洛/檢非違使/左衛門尉/従五下/筑後守、將軍家近習、1284出家、  
歌人;勅撰3首;続拾遺(878)新後撰(1408)玉葉(1900)、  
[逢ふまでのいのちとだにも頼まれず人のつらさのはてを知らねば](続拾遺;恋878)、  
[基頼(;名)の法名]舜基/寂基
- E4484 **元頼**(もとより・観世かんぜ、長俊男) 1519-74<sup>56</sup> 戦国期能楽師;観世座ワキ師;シテも勤める、  
父祖の伝書/章句を蒐集、多数の章句本を著作、  
1570「学謡集付音曲集」「観世小次郎元頼伝書」、「音曲口伝巻謡心得花実巻」著、  
観世大夫8世元尚(宗金)の岳父、  
[元頼(;名)の通称/法名]通称;小次郎、法名;紹活、
- J4447 **職登**(もとより・小野おの、旧姓;佐伯) 1761-1801<sup>41</sup> 京の官人/歌人、  
[職登(;名)の通称]主殿大允/主殿助とのものすけ
- 茂敦(もんとん・武嶋) → 茂敦(しげあつ・武嶋/菅原、幕臣) Q 2 1 5 4  
茂敦(もんとん・高島) → 秋帆(しゅうはん・高島たかしま、砲術家) I 2 1 2 2
- L4461 **茂任**(もにもん・しげとう・宮本みやもと、) 1821-1894<sup>74</sup> 筑前福岡藩士、漢学者、儒・歌;石松元啓もとひろ門  
詩人/維新後;教育者  
[茂任(;名)の字/通称/号]字;子任、通称;権八、号;竹墩陳人
- 茂仁(もにもん/ゆたひと) → 後堀河天皇(ごほりかわてんのう、歌人) D 1 9 7 7  
茂稔(もねん/しげとし・田内) → 衛吉(ゑきちえきち・田内たのうち、剣術家) D 1 3 6 7  
ものかく宰相(ものかくさいしょう) → 通俊(みちとし・藤原、廷臣/故実家) 4 1 1 1  
物加者の蔵人(ものかはのくらうど) → 経尹(つねまさ/つねただ・藤原、歌人) D 2 9 6 4  
物事明輔(ものごとのあけすけ) → 金塚(きんらち・馬場/銭屋、両替商/狂歌) E 1 6 9 0  
物事のうとき(ものごとのうとき) → 物部疎(ものべのうとき) E 4 4 8 6  
物毎夫成(ものごとのそれなり) → 面徳斎夫成(めんとくさいそれなり、戯作者) 4 3 4 9  
物毎早秋(物毎早稲ものごとのはやあき) → 正宣(まさのぶ・山川、商家/国学者) F 4 0 7 9  
物次郎(ものじろう・山本) → 重智(しげとも・山本やまもと、地役人/歌人) a 2 1 0 4
- I4442 **物為久**(ものためひさ) ? - ? 江戸狂歌;1787「才蔵集」入:304  
[一とせをゆりおさめたる地震より万歳楽の春や迎へん](年末の地震で厄落とし)
- E4485 **武士八十氏**(ものふのやそじ、姓;安部あべ、字;左内)?-? 江中期幕臣;勘定奉行勤仕/牛込住の狂歌、  
1784「閏月歳旦」編、85菅江「故混馬鹿集」校合/85「後万載集」4首入、  
[もののふも人をこい口つかのまも忘れがたなの身ぞすがれぬる](後万載集;八恋上)、  
(恋/鯉口・束の間/柄・忘れ難い身/刀身の掛詞)  
梅下武士と同一? → 梅下武士(ばいかのぶし、才蔵集入) 3 6 8 7
- E4486 **物部疎**(ものべのうとし、物事ものごとのうとき)?-? 江戸天明1781-89期の狂歌作者;唐衣橘州門、  
1782黒人「初笑不琢玉」/82「若葉集」19首入、  
物延於古足(ものべのおこたり;狂歌) → 赤城山人(あかぎさんじん・本屋忠五郎、戯作者) D 1 0 2 7  
物部刀自売(ものべのとじめ) → 刀自売(とじめ・物部、万葉歌人) N 3 1 9 0  
物梁(ものやな・川井) → 川井物梁(かわいものやな、河合かわい、狂歌) G 1 5 0 3  
茂伯(もはく・佐々木) → 長秀(ながひで・佐々木/吉田、幕臣天文) F 3 2 4 9
- E4488 **茂八**(もはち・玉置たまき、名;栄長) 1694-1768<sup>75</sup> 淡路の書家;玉置喬直門/江戸橘町一丁目住、書家業、  
「玉置朗詠集」「万要書札集」書、1729「初学消息集」書/30「仮名文章」著/31「童学字訓」書、  
[茂八(;通称)の別通称/号]別通称;茂八郎、号;筆華堂、法号;指月蹄円居士  
茂八(もはち・正亀) → 慶次(よしつぐ・正亀しょうがめ、神職/俳人) E 4 7 6 5

茂八郎(もはちろう・松野) → 清邦(きよくに・松野まつ、藩士/詩) P 1 6 3 0  
 茂八郎(もはちろう・玉置) → 茂八(もはち・玉置たまき、書家) E 4 4 8 8  
 茂八郎(もはちろう・青木) → 猛比古(たけひこ・青木あおき、尊皇運動) V 2 6 0 4  
 茂八郎(もはちろう・柏江;変名) → 猛比古(たけひこ・青木あおき、尊皇運動) V 2 6 0 4  
 茂範(もはん・高階) → 茂範(しげのり・高階たかしな、廷臣) C 2 1 7 6  
 茂範(もはん・藤原) → 茂範(しげのり・藤原ふじわら、漢学者/詩) S 2 1 0 2  
 茂蕃(もばん・戸板) → 保佑(やすすけ・戸板/多々良/多、和算/改暦) B 4 5 7 2  
 茂美(もび→しげよし・伊勢) → 茂興(しげおき・伊勢/沢、農業/和漢学) B 2 1 9 8  
 茂美(もび・五島) → 茂美(しげよし・五島ごとう、商家/国学) O 2 1 4 4  
 茂弥(もび・藤井) → 茂弥(しげや・藤井ふじい、旧姓;中西、歌) Z 2 1 8 0  
 茂標(もひょう・高木) → 茂標(しげたか・高木たかぎ、歌人) V 2 1 7 4  
 水主内親王(もひとりのひめみこ) → 水主内親王(みぬしのひめみこ、天智皇女) F 4 1 4 3  
 茂敏(もびん・高田) → 茂敏(しげとし・高田たかた、商家/歌人) Z 2 1 2 8  
 茂富(もふ・太田) → 茂富(しげとみ・太田おた、歌人) R 2 1 6 9  
 茂武(もぶ・宮下) → 尚綱(しょうけい・宮下みやした、藩士/儒家) I 2 2 2 4  
 茂平(もへい・佐藤茂兵衛) → 等亀(とうき・佐藤/遊雀亭、俳人) C 3 1 4 8  
 茂平(もへい・長崎) → 奇山(きざん・長崎、藩士/詩歌/俳) K 1 6 6 4  
 茂平(もへい・阿野) → 蒼崖(そうがい・阿野/松野、儒者) 2 5 8 5  
 茂平(もへい・世並屋) → 雪頂(せつちよう・世並屋、俳人) N 2 4 4 9  
 茂平(もへい・須賀屋) → 牛鳴(ぎゅうめい・菅すが/田中、儒者;詩) M 1 6 9 3  
 茂平(茂萃もへい・平野屋/翠松園) → 春翠(しゅんすい・四方よも/源、書肆/絵師) L 2 1 2 1  
 茂平(もへい・安田) → 雷洲(らいしゅう・安田/中村、幕臣/絵師) 4 8 5 8  
 茂平(もへい・今田) → 氏篤(うじあつ・今田こんだ、大庄屋/和漢学) E 1 2 7 0  
 茂平(もへい・田島) → 知平(ともひら・田島たじま、国学者/詩歌) V 3 2 4 7  
 茂平次(もへいじ・中島) → 魚坊(ぎよぼう・中島、歌人/俳人) Q 1 6 3 0  
 茂平次(もへいじ・桑そう/桑山) → 玉洲(ぎよくしゅう・桑山/桑、絵師) D 1 6 0 2  
 茂平次(もへいじ・内田) → 正美(まさよし・内田うちだ、藩士/歌人) N 4 0 9 8

E4490 茂兵衛(もへえ・北畠きたばたけ、完元、須原屋初世) ?-? 紀州栖原の出身/江戸の書肆

E4491 茂兵衛(もへえ・辰巳屋たつみや) ?- ? 江中期享保1716-36頃大阪南横堀の文筆家、  
1724「中土宮殿記」著、1727明の高濂「高氏名硯図彙」に訓点

I4482 茂兵衛(もへえ・岡田おかだ) ? - ? 江中後期;大阪書肆;群玉堂河内屋の雕工ちようこう、  
1805(文化2)「絵本桂川恋仇浪」「鐸緋擢川恋仇浪」著

E4493 茂兵衛(もへえ・北畠きたばたけ、茂広、須原屋7世) 1776-183863 江戸の書肆;日本一の本店;武鑑類刊行

E4494 茂兵衛(もへえ・村井むらい、名;京助、快助長男) 1821-7353 陸中盛岡の豪商;盛岡藩御用達鍵屋主人、  
尾去沢銅山を経営/幕末期の藩財政に参画、維新の際藩役人の巨額負債を負い没落、  
大阪で没、「村井研意録」著、

[茂兵衛(;通称)の屋号/法号]屋号;鍵屋、法号;建寿院

茂兵衛(もへえ・北畠、須原屋4世) → 恪斎(かくさい・北圃きたばたけ/北畠、書肆) J 1 5 8 2

茂兵衛(もへえ・秋元) → 泰朝(やすとも・秋元、藩主/日光造営) C 4 5 3 1

茂兵衛(もへえ・朝陽館) → 五晴(ごせい・石原いしはら、書肆/俳人) D 1 9 0 6

茂兵衛(もへえ・勃海) → 保(たもつ・渤海ふかみ、商家/能楽) S 2 6 9 2

茂兵衛(もへえ・大久保) → 仙杖(せんじょう・大久保おおくほ、俳人) F 2 4 9 7

茂兵衛(もへえ・市川) → 東谿(とうけい・市川いちかわ、商家/絵師) D 3 1 1 5

茂兵衛(茂平もへえ・竹田) → 梅廬(ばいろ・竹田/高島、藩儒) C 3 6 3 7

茂兵衛(もへえ・桃沢) → 夢宅(むたく・桃沢ももさわ、名主/歌人) 4 2 8 6

茂兵衛(もへえ・塩田) → 冥々(めいめい・塩田/佐々木、商家/俳人) 4 3 3 8

茂兵衛(もへえ・河内屋) → 梅左(ばいさ・松井、俳人) B 3 6 2 5

茂兵衛(もへえ・加納屋) → 巴笑(はしやう・望橋舎、俳人) E 3 6 4 9

茂兵衛(もへえ・大坂屋) → 茂十郎(もじゅうろう・杉本すぎもと、商家) B 4 4 2 3

茂兵衛(もへえ・大坂屋) → 保寿(ほうじゅ・河原/小河原、商家/書) B 3 9 2 9

茂兵衛(もへえ・菱屋) → 子雲(しうん・勝かつ、商家/文人支援) B 2 1 1 2  
 茂兵衛(もへえ・野間) → 坡仄(はそく・野間のま、商家/俳人) E 3 6 7 7  
 茂兵衛(もへえ・平尾) → 白亀(はつき・平尾ひらお、商業/俳人) F 3 6 1 0  
 茂兵衛(もへえ・岩本) → 一僊(いっせん・岩本いわもと、絵師) H 1 1 5 1  
 茂兵衛(もへえ・北田) → 重固(しげかた・北田きただ、国学者/歌) O 2 1 2 3  
 茂兵衛(もへえ・桜井) → 道考(みちか・桜井さくらい、代官/歌人) I 4 1 8 2  
 茂兵衛(もへえ・星川) → 正甫(まさとし・星川/鴨沢、藩士/地誌家) E 4 0 4 9  
 茂兵衛(もへえ・平野屋) → 春翠(しゅんすい・四方よも/源、書肆/絵師) L 2 1 2 1  
 茂豊(もほう・三井) → 茂豊(しげとよ・三井みつゐ、藩士/俳) C 2 1 5 4  
 茂房(もほう・青木) → 茂房(しげふさ・青木/源/向井、国学者) S 2 1 5 2  
 茂本(もほん・吉田) → 茂木(茂樹/茂本しげき・吉田よしだ/大林、国学) a 2 1 0 8

E4495 紅子(もみこ・小曾根こそね、紀州藩士片野孫兵衛女)?-? 紀州徳川家大奥富宮徳子の侍女、  
 1761頃伊予西条藩士小曾根新八郎と結婚、江戸住/歌人: 県居賀茂真淵門、  
 同門の鶴殿余野子よのこと親交、1778「もみ子家集」(自筆; 短歌351首/長歌7首/文2篇)、  
 [紅子(;名)の別名] やしほの子/菅子

I4457 もみぢ(もみぢ; 組連) ? - ? 江戸赤坂の川柳の組連/取次;  
 取次; 1779「川柳評万句合」入、  
 取次例; [今日は是これ切り赤いさをぬひ](前句; あんまりな事々々)、  
 (お屠蘇を盛る赤い袋/今年の仕事納めのあと正月の用意; 忙しくてたまらない)

G4468 もみぢ(もみぢ; 組連) ? - ? 江戸日本橋の組連/取次;  
 取次; 1784「川柳評万句合」入、  
 取次例; [肴には謡ひがいつちのみにくい](1785万句合/大そうな事々々)、  
 (酒宴余興の肴で長々の謡は酒が一番まずい)

紅葉園(もみじえん/こうようえん) → 輝文(てるふみ・星野、郷土/商家/勤王) C 3 0 9 1

桃園中納言(ももそののちゆうなごん) → 保光(やすみつ/やすてる・源、中納言/歌人) D 4 5 1 0

E4496 靱の屋(もみのや、姓; 鎮西ちんぜい、名; 清宣(きよのぶ/清房、清凭(きよたか)よる長男) 1792-1874<sup>83</sup> 母; 銀、神職、  
 信濃伊那郡鎮西野村の大山田神社祠官; 父を継嗣、1829上京; 神道の吉田家入門、  
 1838江戸で国学; 横田袋翁門/茶道; 桜井財十郎門、平田篤胤門、尊王敬神思想主唱、  
 1867「老能櫓火物語」、「育良山松のおち葉」著、桜井光章・盈叙・井伊いとらと交流、  
 [靱の屋(;号)の幼名/通称/別号] 幼名; 唯一郎、通称; 主税(ちから/五郎大介/豊前、  
 別号; 師古/樵翁、清浜の孫/清行の曾孫

茂明(もめい・藤原) → 茂明(もちあきら・藤原、文章博士/詩人) B 4 4 2 9

茂明(もめい/しげあき・青柳) → 文蔵(ぶんぞう・青柳あおやぎ、医者/貿易) G 3 8 0 5

木綿(もめん) → 可有(あるべし・呉陵軒、川柳作者) 1 0 3 6

木綿園(もめんえん→ゆうぞの) → 教子(のりこ・安斎(あんざい)/北野、歌人) H 3 5 1 9

木綿園千緑(もめんえんせんりよく) → 広海(ひろみ・益岡(ますおか)、国学者) K 3 7 9 9

木綿垣(もめんがき→ゆうがき) → 内遠(うちとお・本居、国学者) 1 2 7 4

木綿屋毛助(もめんやもうすけ) → 兆如(ちやうじよ・中島、庄屋/俳人) I 2 8 8 9

I4477 百枝(ももえ・山田やまだ/本姓; 橘、通称; 八右衛門)?-1853 紀伊和歌山藩士、国学; 本居大平門、  
 大平撰「八十浦の玉」下巻; [ある人の新室祝いの宴にての詠]・長歌[若浦秋月]入、  
 [咲く梅のゑみさかえつつかくしまに千代にあそばなこれの新室]、

I4490 百枝(ももえ・稲葉いなば) ? - ? 江後期; 歌人、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [玉川や玉とみるまで行く水に光うつして螢飛ぶなり](大江戸倭歌; 夏581/川螢)  
 [百草は霜にたわめる庭の面に菊こそ千代と咲き残りけれ](大江戸倭歌; 冬1114)

百枝(ももえ・高橋) → 清義(すがよし・高橋(たかはし)、国学/神学) F 2 3 9 0

百枝(ももえ・朝原) → 宗乗(むねのり・朝原(あさはら)、神職/歌人) D 4 2 6 3

百枝(ももえ・長坂) → 知雄(ともお・長坂(ながさか)、国学者) U 3 1 8 0

百会(ももえ・竹矢) → 信昌(のぶまさ・竹矢(たけや/田辺)、神職/歌) J 3 5 0 3

百重(ももえ・松木) → 俊章(としあき・松木(まつき/大神)、神職/国学) W 3 1 0 7



- 茂々枝(ももえ・佐野) → 正修(まさなが・佐野さの、藩士/歌人) P 4 0 9 0
- E4497 百樹(ももき・上田うえだ/本姓;波伯部ははかべ)?-1826 京錦小路の町人/国学者:1797本居宣長門、伴信友と親交、古写本に精通;書紀・新撰姓氏録等の書写校合/地名考証、「倭名抄私考」、「佐渡国略風土記」「百樹の摘葉」「上田百樹答書」「大神宮旧蹟考」、1810「奇原靈統図考」著、1811「平曲雑記」編、「大祓詞遺考」「大祓詞後積余考」「和名類聚抄国郡部集覽並考異」著歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;2首入、  
[やたがらすみことかしこみ天がけりみさきにたちてしるべをぞせし]、  
(八十浦;544/八咫鳥神)、  
[百樹(;名)の別名/通称/屋号]別名;桃樹/百木ももき、通称;藤介[助]/平左衛門、屋号;鍵屋、  
桃樹(ももき・吉/吉田/塚原)→ 鰲岐(ごうき・吉田/修姓;吉、儒者/歌) I 1 9 2 3  
百吉(ももきち・中村) → 直斎(ちよくさい・中村、藩士/儒者) K 2 8 2 7  
桃吉(ももきち・武藤) → 積信(かずのぶ・武藤むとう、藩士/歌人) V 1 5 8 8
- F4403 桃栗散人(ももくりさんじん) ? - ? 江後期江戸本所住/狂歌;初世烏亭焉馬門/四方側判者、戯作者、1852「蜀紅錦七宝續初編」、「江之嶋詣之記」画、  
[桃栗散人の別号]桃栗山人/桃亭柿人ももていかきんど/桃栗散人柿発斎  
桃栗散人柿発斎(ももくりさんじんかきはっさい)→ 焉馬(えんば・烏亭、狂歌/浄/嘶家) B 1 3 3 3  
桃栗散人柿発斎(ももくりさんじんかきはっさい)→ 桃栗散人(ももくりさんじん、焉馬門/狂歌) F 4 4 0 3  
桃三郎(ももざぶろう・長坂/中根)→ 正長(まさつね・中根/長坂、幕臣) E 4 0 1 0  
百三郎(ももざぶろう・藤井)→ 宗雄(むねお・藤井ふじい、商家/神道家) B 4 2 1 0  
百道(ももぢ・唐崎) → 常陸介(ひたちのすけ・唐崎、神職/尊王) C 3 7 6 1
- E4498 桃女(ももじよ) ? - ? 江戸雑俳前句付点者  
桃尻散人(ももしりさんじん) → 金太楼(きんたろう・桃尻散人、戯作者) I 1 6 1 4  
百次郎(ももじろう・高野) → 貞一(さだかず・高野たかの/新貝、藩士/歌) Q 2 0 8 4  
百助(ももすけ・伊達/桑折)→ 宗臣(むねしげ・桑折こおり、藩家老/歌/俳人) B 4 2 4 2  
百助(ももすけ・菅波/菅) → 茶山(ちやざん・菅/菅波、儒/詩/教育者) 2 8 4 0  
百助(百亮ももすけ・新井)→ 宣卿(のぶり・新井、儒者) C 3 5 7 3  
百助(ももすけ・津軽) → 朝喬(ともたか・津軽つがる、藩士/俳人) P 3 1 6 4  
百助(ももすけ・林) → 確軒(かくけん・林はやし、幕臣/儒者) E 1 5 6 6  
百助(ももすけ・山岡) → 景熙(かげひろ・山岡やまおか、幕臣/歌人) W 1 5 0 8  
百助(ももすけ・大幸) → 岱畎(たいけん・大幸おおさか/児玉、漢学) T 2 6 9 4  
百助(ももすけ・三浦) → 明喬(あきたか・三浦みうら、藩主) I 1 0 4 9  
百助(ももすけ・宝田) → 蘭陵(らんりょう・宝田たからだ、藩儒/詩人) D 4 8 2 6  
百助(ももすけ・板倉) → 勝清(かつきよ・板倉いたくら、藩主/記録) N 1 5 2 6  
百助(ももすけ・金森) → 桂五(けいご・金森、藩士/俳/狂歌) 1 8 5 0  
百助(ももすけ・苗木;変名)→ 年治(としはる・敷田/吉松/宮本、神職/国学) N 3 1 4 3  
百助(ももすけ・佐々木) → 文山(ぶんざん・佐々木/佐/源、書家) F 3 8 4 0  
百助(ももすけ・近藤) → 幸養(さちひさ・近藤こんどう、藩老/国学) O 2 0 4 6  
百助(ももすけ・近藤) → 幸止(さちもと・近藤、幸養弟/官僚/国学) O 2 0 4 7  
百助(ももすけ・増島) → 高実(たかさね・増島ますじま、藩士/歌人) Z 2 6 5 1  
百園(ももぞの) → 年治(としはる・敷田きた、神職) N 3 1 4 3  
桃園親王(ももぞのしんのう) → 貞純親王(さだずみしんのう、記録) I 2 0 3 2
- E4499 桃園天皇(ももぞのてんのう、名;遐仁とおひと、桜町天皇皇子)1741-62早世22歳、母;陽明門院定子(姉小路実武女)、1746親王宣下/47立太子;即位、1757垂加神道の竹内式部[日本書紀]進講に傾倒;反対する関白一条道香らと軋轢;宝暦事件の原因となる、蹴鞠を嗜む、歌書;烏丸光胤門、歌道:職仁親王門、1741-51内裏御会和歌、60古今御伝受竟宴御会和歌、1761公宴御着到百首和歌/62禁裏御会和歌など多数催、1758-62「桃園院御日記」著、  
[桃園天皇の幼名/追号]幼名;八穂宮/茶地宮、追号;桃園院  
桃園右大臣(ももぞのうだいじん)→ 継縄(つぐただ・藤原、史書編纂) 2 9 7 2  
桃園大納言(ももぞのだいごん)→ 師氏(もろうじ・藤原、廷臣/歌人) 4 4 3 1

- 桃園宮 (ももぞのみや) → 後西天皇(ごさいてんのう、詩歌人) C 1 9 6 0  
 桃園宮恵子女王(ももぞのみやけいしによおう) → 恵子女王(けいしによおう/けいしよおう・歌) 1 8 6 6  
 百太夫(ももだゆう・貝原) → 和軒(わけん・貝原かいばら、儒者/詩文) 5 3 2 0  
 百太郎(ももたろう?・坂井) → 虎山(こざん・坂井さかい、藩士/儒者) C 1 9 6 5  
 K4414 百千(ももち・末田すえだ、丹下男) 1844-1921 78 周防吉敷郡の生/萩藩士、末田眞穂の弟、  
 文武に長ず;槍術・馬術に秀づ、歌人、のち大神・石上神社などの禰宜/赤間神社社司、  
 [百千(;名)の通称] 雁九郎/生駒之進  
 L4472 百親(ももちか・森川もりかわ、) 1598-1667 70 近江彦根の医者/和学/歌人;[彦根歌人伝・亀]入、  
 [百親(;名)の字/通称/号]字;太竹、通称;春平、号;大量館/佐草亭  
 I4456 百千鳥(ももちどり:組連) ? - ? 下総稲毛の雑俳の組連/取次;1746「湖丸評万句合」入、  
 取次例;[指抜きを男が当あててをかしがり](前句;ほそい事々々)  
 百千舎(ももちのや) → 秀貫(ひでつら・夏田なつだ、商家/国学) K 3 7 4 6  
 桃亭(ももてい) → 呉山(ござん・神野、俳人) M 1 9 6 5  
 桃亭柿人(ももていかきんど) → 桃栗散人(ももくりさんじん、狂歌/戯作者) F 4 4 0 3  
 百仲(ももなか・森川) → 許六(きよろく/きよろく・森川、藩士/俳人) 1 6 5 5  
 百之進(もものしん・福羽) → 美静(びせい/よしず・福羽ふくば、藩士/国学) C 3 7 4 2  
 百之助(もものすけ・中嶋) → 信敬(のぶり・中嶋、幕臣/文筆) C 3 5 7 6  
 百之助(もものすけ・吉本) → 氏斐(うじあき・吉本よしもと、藩士/国学者) E 1 2 9 5  
 桃之助(もものすけ・梅津) → 金忠(かねただ・梅津うめづ、藩士/軍学) O 1 5 6 0  
 桃之助(もものすけ・前田) → 利啓(としか・前田まえた、藩主/歌人) W 3 1 4 0  
 桃の林紫石(もものはやしせき) → 蝶麿(ちようまる・桃林堂、浮世草子作者)  
 I4444 桃光就(もものみつぐ) ? - ? 江戸の狂歌作者;1787「才蔵集」入;579  
 [思ひたつ旅は伊勢路のかたづぶり笠の上より津のみゆるかな]  
 桃の本(もものもと) → 鼎左(ていさ・藤井、奇淵門/俳人) 3 0 7 9  
 桃の本鶴盧(もものもとかくろ) → 仙塙(せんう・細木ほそぎ/源、商家/狂歌) L 2 4 6 7  
 桃の本雛丸(もものもとひなまる) → 雛丸(ひなまる・初世弥生庵、狂歌) E 3 7 3 0  
 桃廼舎(桃屋もものや) → 寿(ひさし・渡辺わたなべ、国学者/歌) B 3 7 0 7  
 桃廼舎(もものや) → 義言(よしこと/-とき/-ゆき・長野、藩士/国学者) 4 7 1 1  
 桃廼舎(もものや) → 良寿(よしひさ・及川おいかわ、医者/国学) G 4 7 3 3  
 桃廼舎(もものや) → 信敦(のぶあつ・宮崎みやざき、神職/国学者) H 3 5 1 6  
 桃廼舎(もものや) → 瑞枝(みずえ・石坂いしざか、神職/歌) L 4 1 2 2  
 桃廼舎(もものや) → 元雄(もとお・高宮たかみや/柿原、藩医) K 4 4 4 2  
 桃廼舎(もものや) → 頼之(よりゆき・伏島ふせじま、藩士/歌人) O 4 7 9 1  
 桃廼舎(もものや) → 良遠(よしとお・松本まつもと/浜野、藩儒/歌/狂歌) P 4 7 2 6  
 桃乃舎(もものや) → 明(阿支羅あきら・寺沢、国学) E 1 0 2 0  
 桃乃舎(もものや) → 成道(なりみち・馬場ばば、藩士/神職) O 3 2 3 1  
 桃乃舎(もものや) → 正靱(まさとも・春田はるた、藩士/国学者) S 4 0 0 1  
 桃の舎(もものや) → 種彦(2世たねひこ・柳亭、高橋、初世笠亭仙果、戯作者) 2 6 4 4  
 桃の舎(もものや) → 多須久(たすく・齋藤さいとう、神職/国学) X 2 6 3 2  
 桃舎(もものや) → 経彦(つねひこ・佐野、神道家/国学) D 2 9 3 4  
 桃舎(もものや) → 真種(みたね・今村いまむら、藩士/歌人) I 4 1 1 3  
 桃舎(もものや) → 直満(なおみつ・後藤ごとう、商家/国学/歌) M 3 2 1 4  
 桃舎(もものや) → 依古(よりひさ・岡野おかの、藩家老/国学) M 4 7 0 5  
 桃舎(もものや) → 敏彦(としひこ・矢島やじま、和算家/歌人) W 3 1 7 5  
 桃屋(もものや) → 直好(なおよし・熊谷、歌人) 3 2 0 4  
 桃屋(もものや) → 敏平(としひら・矢島やじま、和算/国学者) W 3 1 7 7  
 桃廼舎花頼(てものやはなより) → 花頼(はなより・榎沢くるみざわ/源、国学者) K 3 6 1 3  
 J4464 百春(ももはる・笠原かさらは、) 1814-96 83 大坂船場の産科医/赤穂藩士、国学者/歌人、  
 弾だん琴緒ことお(歌人)の義父、

- [百春(；通称)の名/号]名；隣、号；小笠の舎  
 百平(ももい・外山) → 直徳(なおり・外山とやま、歌人) C 3 2 0 9  
 百まなこ可上(もまなこかじょう) → 可上(かじょう・百まなこ、嘯家) F 1 5 1 3
- F4400 桃丸(桃麿ももまる・丹羽にわ、号；無名彦)？-？ 江中期近江甲賀の国学者；多田南嶺門、江戸住、  
 1777「雑々集」、81「蜻蛉の道艸」編、「我家の草紙」
- I4492 百々丸(ももまる・権藤ごんどう、別府べつぶ権兵衛の4男)1807-8175 筑前矢竹村の旧家別府家の生、  
 儒；広瀬淡窓門、医；熊本養什(権藤延陵門人)門、顔色柔和・心温和；病人は病苦を忘れる、  
 淡窓の仲介で筑後久留米の権藤延陵の養子となる、国学・歌；大隈言道・井上文雄門、  
 1860鋤柄助之「現存百人一首」入、妻；幸子ゆきこ(旧姓；水間/国学/歌人)  
 [市人のさわぐ方より夕立のおひくるばかり降りかかりけり](現存百人一首；46)、  
 [いくほどにことしも冬になりにけるゆきとけぬべき身をしらずして](墓碑石)  
 [百々丸(；名)の初名/字/通称/号]初名；止、字；伯止、通称；可善、号；松窓
- F4401 百村(ももむら・土氏とし、土師はし?)？-？ 廷臣；730太宰少監・旅人の梅花宴参加、  
 万葉三期；825、土師宿禰百村[721憶良らと東宮に侍]と同一か？、  
 [梅の花咲きたる園の青柳を縵がらにしつつ遊び暮らさな](万葉；五825)  
 桃屋(ももや) → 直好(なおよし・熊谷、歌人) 3 2 0 4  
 桃屋(ももや・中島) → 豊足(とよたり・中島なかじま、医/国学者) R 3 1 2 5  
 桃屋(ももや・菊池) → 和久(にぎひさ・菊池/菊地きくち/藤原、国学/神職) H 3 3 0 1
- K4407 百之(ももゆき・桜井さくらい)1770-183869 信濃飯田の商家(屋号；伊勢屋)、  
 国学・歌；服部菅雄・植松茂岳しげおか門、歌人、  
 [百之(；名)の通称/号]通称；文之助/正吉、号；表徳
- 4425 百代(百世ももよ・大伴宿禰おとものすくね)？-？ 747存 奈良中期廷臣；鎮西副将軍、  
 万葉三四期歌人7首；392/559-562/566/823/567左注、拾遺集685、  
 730旅人の梅花宴に参加(大監だいがん伴氏ばんしの百代名)、  
 [梅の花散らくはいづくしかすがにこの城きの山に雪は降りつつ](万葉；五823)、  
 (天平二年正月十三日梅花宴の歌32首中で唯一現実を詠む；文学的虚構の宴を暗示)
- J4459 百世(ももよ・太田おた)1832- 190473 出羽の国学者；平田鉄胤門、  
 のち陸奥白河郡都々古別つこけ神社禰宜
- F4402 茂門(ももん) ? - ? 備中岡山の俳人；定直門、1689晩翠「せみの小川」入  
 茂野(もや・勝間田) → 茂野(しげの・勝間田かつまた、国学者) R 2 1 9 0  
 茂世(もよ/しげよ・橘) → 崑崙(こんろん・橘たちばな、詩人/書画) P 1 9 3 2  
 茂世子(もよこ→もせこ・堀) → 茂世子(もせこ・堀ほり/秋月、藩主室/歌) L 4 4 2 3  
 茂代治(もよじ・貫名) → 徹(とおる・貫名ぬきな/井伊、家老/歌) W 3 1 0 3  
 茂来(もらい・石橋) → 日藻(にっそう・報寿院、日蓮僧/俳人) E 3 3 9 1  
 茂蘭(初世もらん・啄木庵) → 日従(にちじゅう、下総日蓮僧/俳人) C 3 3 2 0  
 茂蘭(2世もらん・啄木庵2世) → 既醉(きすい；号・寛海；法諱、真言僧/俳人) B 1 6 3 1  
 茂利(もり・大藪) → 茂利(しげとし・大藪おおやぶ、和算家) R 2 1 6 6  
 守(森もり・田安) → 森姫(守姫もりひめ・田安/近衛、宗武室/歌) K 4 4 3 4
- J4481 守明(もりあき・木俣きたた/本姓；橘、守安もりやす男)1608-9983 近江彦根藩筆頭家老家の生、  
 1650(慶安3)彦根藩家老；2千石/61(寛文元)父隠居；家畜嗣；木俣清左衛門家3代当主、  
 彦根藩筆頭家老；7千石/1663(寛文3)執権職(大老)に就任；1676知行8千石となる、  
 藩主直興家督相続の御礼言上時に将軍家綱に拝謁、1680守閑(3男)が4千石で分家、  
 1681(天和元)隠居；嫡男守長が家督嗣、  
 息子；守長・守閑(；その2男守嘉は1714藩主直興女と結婚/その子守次は井伊直陽の養子；  
 与板藩主井伊直員となる)、  
 [守明(；名)の通称/号]通称；半弥/清三郎/清左衛門(代々の称)、号；常閑  
 参照 → 守勝(もりかつ・木俣きたた、初代) F 4 4 3 2
- I4461 盛明(もりあき・姓不詳) ? - ? 備後の俳人；立圃門/1670種寛「俳諧詞友集」入  
 L4402 盛章(もりあき・服部はつとり、号；亀淵)1657-171862 近江甲賀郡の歌人；[鳩のうみ]入  
 F4404 敬明(もりあき・足羽あすは/本姓；馬来田、福井藩士渥美あつみ友信男)1672-175988 馬来田尚家の養子、



越前福井足羽あは神社社司;養父を継嗣/従四上/内蔵権頭、足羽神社社家の足羽家を再興、古文書涉獵、武家伝奏中院通躬・中山兼親と交流、1717「足羽社略記」、「日本逸史故事考」著、「続日本紀故事考」「続日本後紀故事考」「文徳実録故事考」、1742「日本三代実録故事考」著、「越前国式社地名考」著、住夏すみなの父、

[引き結ぶ尾花が袖の手まくらに月も仮寝の野辺の旅人]、

(松平春嶽[古今百人一首]入;86/牧田敬明名)、

[敬明(;名)の幼名/通称/号]幼名;右京、通称;内蔵権頭、号;雉山人、法号;大光院

K4462 **盛章**(もりあき・堤つみ、旧姓;高田)1688-1756 伊勢度会郡内宮禰宜の堤盛尹もりただの養嗣子、神職/国学者、

[盛章(;名)の通称]源助・刑部(代々の称)、杵之助/長門

F4405 **盛彬**(もりあき・中原なかはら/修姓;中、通称;左大夫)?-? 江後期和泉火根郡熊取の国学者/天文暦学、1821「加李素免艸紙かりそめぞうし」39「裳登美波志羅」41「眞天窮理運旋正儀傍観」外著多数

F4406 **盛晃**(もりあき・長山ながやま、号;千齡)?-? 江後期羽後秋田藩士、見聞記録編纂;1845「耳の垢」著

L4414 **盛章**(もりあき・平久間ひらくま、)1809-1893 江戸の狂歌師、国学・歌;鈴木重嶺しげね門、

[盛章(;名)の通称/号]通称;佐兵衛、号;2世八景園花芳/梅樹園榎翁/文耕堂/薫山/魁

L4404 **守秋**(もりあき・林田はやしだ、)1812-1873 筑後竹野郡の国学者/久留米藩士、

国学;久留米藩校の矢野一貞・長崎の中島広足門/国学・歌;小倉の西田直養なおかい門、久留米藩校明善堂の国学引立方助、のち神事局権大属、歌人、1872家督を守隆が嗣、妻;貞子さだこ(歌人)、守隆(1848-1931/藩士/戊辰戦争従軍)の父、

[守秋(;名)の初名/通称/号]初名;寛正、通称;源治/勇助/九八郎、号;梅廼舎

L4401 **盛章**(もりあき・畠山はたけやま、)1843-1909 越後蒲原郡の神職/神道・国学;平田鏡胤門、

吉田神道;鈴鹿石見守長存(連胤つらたね男)門/歌;野矢常方門、新発田諏訪神社宮司、

[盛章(;名)の通称/号]通称;中務/上総介、号;後尾花舎のちのおばなのや

F4407 **盛明親王**(もりあきらしんのう、一時源盛明、醍醐天皇皇子)928-986 母;源唱女の周子、賜姓;源、正四下/大蔵卿、967親王宣下を受;四品/上総太守/上野太守、986出家、

源高明・朱雀・村上院の兄弟、

詩歌人;953村上御時内裏菊合参加、960天徳四年内裏歌合参加、家集「盛明親王御集」、勅撰6首;拾遺(82)新古(1383/1988)玉葉(1591/1729)続千載(1248)、

[花散ると厭いとひしものを夏衣たつや遅きと風を待つかな](拾遺;夏82/風への好悪感)、養女の明子(高明女)・孫の源道成も歌人

F4408 **盛章**(もりあきら・猿渡さわたり、盛房男)1790-1863 武州府中の大国魂神社祠官/歌;小山田与清門、与清「松屋棟梁集」編、家集「椋園集」、「暗灯漫筆」「猿渡氏府中考」、1828「新撰総社伝記」、

1828「新撰総社伝記考証」/29「武蔵総社略記」53「神代俚談」著、容盛(ひろもり/かたもり)の父、

歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[こぞ散りし庭のもみちを山里の春の雪げにみるもめづらし](大江戸倭歌;361山家春)、

[盛章(;名)の通称/号]通称;近江守、号;椋園しやうえん

盛見(もりあきら・大内) → 盛見(もりはる・大内/多々良、守護/歌) G 4 4 2 7

守晨(もりあき・藺田) → 守晨(もりとき・藺田/荒木田、神職/連歌) F 4 4 8 8

護明(もりあきら・細川) → 承昭(つぐあきら・津軽つがる/細川、藩主/歌) F 2 9 0 2

F4409 **守厚**(もりあつ;姓不詳) ? - ? 伊勢神宮神官/連歌;1679「延宝千句」参;氏富らと

F4410 **守篤**(もりあつ・林はやし、号;魯軒)?-? 江前期筑前直方の絵師;尾形友元門、

直方藩主黒田家の侍臣か?、1712「画筌」編、「画典画筌」「画論伝受秘事口訣」著

I4494 **盛厚**(もりあつ・韋名いな) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[おのづから流るる水もかれ果ててさざれまじりに紅葉ちりしく](大江戸倭歌;冬1097)

K4484 **守篤**(もりあつ・永木ながき、) ? - 1860 伊予松山の国学者/歌人、

[守篤(;名)の通称/号]通称;甚五兵衛、号;自牧

F4411 **守有**(もりあり・大隅おおすみ、兼清男)?-? 大永1521-28頃の料理方、廷臣;供御所預、

御厨子所小預、従五下/大隅守、1521「公方様御元服二重調進」著

F4412 **盛有**(もりあり・福王ふくおう、旧姓;長束、通称;茂右衛門)1663-1738 能楽脇方宗家7世福王盛信の嗣、福王家8世襲名、観世座脇方を勤める、福王家は播磨三木郡出身福王盛忠が流祖、

記録:1728(享保13)「江戸洪水記」「江戸満水之記」著

- J4412 **守居**(もりい・有馬ありま、)1735- 181480 筑後久留米藩家老、陳次のぶつぐの養父、国学者、  
[守居(;)名)の通称/号]通称;(初め)純次/主膳、号;阪低窩/是誰ぢい/即似庵
- L4482 **衛居**(もりい・山田やまだ、旧姓;石田)1849-190759 武蔵足立郡の神道家/国学者;平田延胤門、  
川越の氷川神社祠官、明治天皇の氷川神社行幸;「氷川神社行幸絵巻」著、  
[衛居(;)名)の初名/号]初名;致隆、号;鷹備/旭舎  
守稻(もりい・藺田) → 守良(もりよし・藺田そだ、神職/故実) G 4 4 8 8
- F4413 **盛家**(もりいえ・源みなもと、盛長男)1070-112556 母;入道貞舒女、平安後期廷臣;主殿頭/摂津守、  
従四上/1112藤原忠通家の職事、家時(上野介/詞花集歌人)の兄/盛定・盛邦・盛信の父、  
歌;1118内大臣忠通家歌合(元永元年十月十三日催)参加;3首入、続詞花集入  
[有明の月のでしほやみとぬらんみるかたもなき千鳥鳴くなり](忠通家歌合;五番右)  
[あづまぢをおもひ立ちしは遠けれど尋ねきにけり白川の関](続詞花;旅699)
- F4414 **盛家**(もりいえ・紀き、之泰男)?- ? 南北期永和1375-79頃廷臣;五位左衛門督、  
歌人;1377[熱田本日本書紀紙背和歌]に歌会参加の記事あり、新後拾遺834/新続古今916、  
[夜こめてこゆる関路の鳥の音やいそぐにつけて遠ざかるらん](新続古今;羈旅916)、  
[盛家(;)名)の通称/号]通称;安富、号;安富左衛門督
- F4415 **盛家**(もりいえ) ? - ? 室町期連歌作者;  
1445垂水入道日晟にちせい亭「文安月ふんあつき千句」参加;第六山何発句
- F4416 **衛奮**(もりいさむ・根岸ねざし、衛恭男)1821-7656 幕臣根岸鎮衛しづみの曾孫/幕臣;肥前守/備前守、  
1831西丸書院番士/小納戸/55新潟奉行/奈良・外国・勘定奉行/62道中奉行;不束の義あり、  
小普請組支配/1863小普請組番頭/徳川慶喜上洛時の京都御所警衛/南町奉行/講武所奉行、  
関東郡代など歴任/1868一橋家家老、1858「柳営補任」編纂、  
[衛奮(;)名)の通称/法号]通称;栄太郎/九郎兵衛、法号;清浄院
- K4463 **盛受**(もりうけ・堤つみ、通称;長門、旧姓;福島)1784-182845 伊勢度会郡内宮権禰宜、  
国学;本居春庭門、盛夏の父
- F4417 **守氏**(もりうじ・荒木田あらかぎ、守秀男)?-? 母;藤波氏経女、戦国期1452-92頃の神職、  
1453内宮十禰宜/のち二禰宜/89辞職、連歌;1479氏経千句連歌に参加、「荒木田集」著
- L4494 **守恵**(もりえ・もりしげ・三枝さえぐさ、)1595?-1651殉死57 幕臣;1616(元和2)徳川家光に出仕、18小姓、  
1623小十人組400石/1625(寛永2)千石/26小姓組頭/従五下土佐守/28(寛永5)3千石、  
1633(寛永10)書院番頭;6千石/42致仕、歌人、1651(慶安4)家光に殉死、  
娘の子の堀通周みちちか(1650-94)は常陸玉取藩主、  
[をしむぞよただ一ときの過ぐるだに思ひし春のくるる名残を](茂睡[鳥の迹]春184)  
[守恵(;)名)の初名/通称]初名;守重、通称;十兵衛
- E4487 **盛愛**(もりえ・猿渡さわたり、容盛ひろもり2男)1844-190562 武州府中の神職;1885武蔵大国魂神社宮司、  
国学・歌人;井上頼圀よりくに門、妻;鳥見子とみこ(三橋/小林/1852-1901/国学/歌人)、  
1863「将軍家御上洛御祈禱太諄辞案文」筆  
守衛(もりえ・奈良原) → 守得(もりり・奈良原ならはら、国学者) K 4 4 7 6
- G4485 **守枝**(もりえだ・兵頭ひょうどう、通称;神庫、守敬もりよし男)1738-8750 伊予大洲の八幡社祠官、  
橋家神道・国学;父門/神道・国学;谷川土清門  
守右衛門(もりえもん・有沢) → 師貞(もろさだ・有沢ありさわ、藩士/軍学) H 4 4 2 1
- F4418 **守雄**(もりお・大堀おおほり、通称;弥十郎)1793-? 1848存 近江彦根藩士;御馬取小頭、  
鈴屋派国学者/歌人、村田泰足・北山白術軒門、  
1842「級長戸風廻辨しなとかぜのべん」44「国意考辯妄辯」48「伽倍志廻風辨妄辨」著
- K4498 **守雄**(もりお・橋本はしもと、林宣義のふよし[淇園]2男)1796-188388 因幡鳥取藩士の生、歌;父門、  
同じく鳥取藩士橋本家の養嗣子/国学・歌;中島宜門門、書;住山龍斎・松野神谷門、  
画;鳥取の息吹惟広門/江戸の藩務中に鍛冶橋の狩野探淵門、野馬図を得意とす、  
1846(弘化3)鳥取城二ノ丸新築にあたり屏風を描く、大岸探海(藩御用絵師)の師、  
1869(明治2)隠居;因幡気多郡住;風月を友とす、  
[守雄(;)名)の初名/通称/号]初名;成章、通称;斧蔵、号;秀峰
- I4484 **守緒**(もりお・富永とみなが/本姓;源、通称;啓太郎)?-? 江後期;歌人、

- 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [隠れ住むわが山里の梅の花風にかをりて人に知らすな](大江戸倭歌;春134/山居梅)
- J4434 **盛雄**(もりお・岩手いわて、通称;半左衛門)?-1859 石見津和野藩士、歌;牧村光清・村田春海門、  
 国学:大国隆正門
- F4419 **守雄**(もりお・関せき) 1816 - 1883 68歳 越後柏崎の商家、国学者;  
 国典;天保1830-44頃江戸の前田夏蔭門、帰郷後家業に精励;財を成し窮民救済活動、  
 新潟県調達金御用掛/1870学校教官、「万葉集類題」「日本書紀訓考」著、甲子楼の父、  
 [守雄(;名)の通称]武左衛門/四郎太
- F4420 **守雄**(もりお・村山むらやま/本姓;三井、別名;遠長)1818-90 73 紀州支藩の伊勢田丸藩士、  
 維新後;1871大阪住、歌人、「露園長歌集」著、龍平の父、  
 [守雄(;名)の通称/号]通称;与一郎/八百左衛門、号;露園
- I4499 **守雄**(もりお・高木たかぎ) ? - ? 江後期;歌人、幕臣?、伊勢守、  
 1858蜂屋光世「大江戸和歌集」入、  
 [曇りなき鏡の山にうつしみる君が千年ちとせのかげぞさやけき](大江戸和歌;雑209)
- J4463 **守雄**(もりお・書上かきあげ/旧姓;南条、号;花垣亭)1827-97 71 上野桐生の八阪神社祠官/中講義、  
 歌人
- K4418 **守夫**(もりお・仙田せんた、)1837- 1909 73 出雲松江藩士、国学・歌;森為泰ためひろ門  
 守雄(もりお・中川) → 濁子(じよくし・中川ながわ、藩士/俳人) C 2 2 3 3  
 守雄(もりお・滝野) → 知雄(ともお・滝野たきの/物部、国学) T 3 1 3 1  
 守雄(もりお・佐伯) → 祐之(すけゆき・佐伯さえき、国学者) I 2 3 5 4  
 守雄(もりお・藤塚) → 知雄(ともお・藤塚ふじつか、神職/国学) W 3 1 2 6  
 盛雄(もりお・畑中) → 荷澤(かたく・畑中はたなか/はたけなか、藩儒/詩歌) C 1 5 3 2
- K4473 **盛岡**(もりおか・友安ともやす、盛員もりかづ男)1637-1668 32 讃岐石清尾八幡宮祠官;父継嗣、治部少輔、  
 国学者・歌人;父門
- K4471 **盛阜**(もりおか・富沢とみざわ、旧姓;木村)?-1792 出羽久保田(秋田)藩士、国学者/歌人、  
 [盛阜(;名)の通称]久之丞/市之丞
- F4421 **守脩**(もりおさ・多羅尾たらお)? - ? 国学/神道:南嶺[義俊]門、  
 1753多田義俊[南嶺秋斎]の「秋斎問語」校訂
- F4422 **守脩親王**(もりおさしんのう、昌仁しょうにん法親王、伏見宮貞敬親王男)1819-81 63 母;梅操(合田愛子)、  
 1832円満院門室を継嗣/33親王宣下(名;守脩);円満院入;得度(法諱;覚諱)、  
 1856梶井門跡を継嗣(改名;昌仁)、天台座主、1868還俗;元服(守脩に復す)、  
 1870(明治3)梨本宮家を創立(初代)/二品、1864「天覧勸進帳」著、  
 [守脩親王(;名)の幼名/通称]幼名;万代宮まよのみや、通称;梨本宮
- F4423 **守臣**(もりおみ・中村なかむら)1779-1854 76 出雲神門郡杵築の国学者;千家俊信・香川景樹門、  
 出雲大社の千家・北畠両家に侍講/出雲大社学官(;以後世襲)、江戸藩邸で藩主に講義、  
 尾張美濃信濃で大社御神徳を普及、「万葉難歌解」「万葉言葉林」「万葉集儀訓考」「花をり」、  
 「出雲琴の記」「蛭子淡島考」「やにはの花」「韻鏡正訓」「韻鏡六花伝」「短歌反歌辨」、  
 「琵琶記」「花くらべ」「花といは」「ちり塚」「中村守臣語学雑著」「中村守臣雑記」外編著多数、  
 [守臣(;名)の幼名/通称/号]幼名;猪之助、通称;文太夫/白玄翁、号;燕斎/亀岡/朱桜岡  
 守手の養父  
 守臣(もりおみ・藤原) → 鎮衛(やすもり・根岸/安生、幕臣/随筆) D 4 5 3 2
- F4424 **守景**(もりかげ・久隅くすみ) ? - ? 江前期京の絵師:狩野探幽門、探幽四天王の1、  
 1642師と大津聖衆来迎寺の障壁画制作、雪舟を慕い水墨画に長ず、風俗画も能くす、  
 粉本主義を逸脱/破門、茶;藤村庸軒門、明暦1655-58頃金沢前田家に出仕?、  
 晩年帰京、「納涼図」「四季耕作図」「武者絵屏風図」「賀茂競馬屏風」「琴棋書画士農工商図」、  
 「十二ヶ月人物図」「祖師像」外画多数、妻;神足常庵女の国(狩野探幽の外姪)、  
 元禄1688-1704頃没、  
 [守景(;名)の通称/号]通称;半兵衛、号;一陳翁/無礙斎むがいさい/無下斎/棒印/重山  
 息女雪(ゆき)・子息彦十郎も探幽門絵師  
 → 雪信(ゆきのぶ・清原、久隅雪) F 4 6 2 2



- F4425 **守景**(もりかげ・北河原きたがわら) 1802-1866<sup>65</sup> 常陸水戸藩士/1842進士、「碎船秘録」著、  
[守景(;名)の通称] 甚五右衛門
- F4426 **守蔭**(もりかげ・目賀田めがた、通称;帯刀たてわき、弥左衛門男) 1807-? 1867存 幕臣;1831奥詰/近習番、  
新番を歴任、1854蝦夷地区取調出役;主任前田夏蔭の下で蝦夷関係資料収集、  
1859蝦夷地実地検分、62富士見宝蔵番頭/64開成所頭取並、  
1859「北海道歴検真図」、「火山温泉記」「諸国温泉眞景」/1869「官位百敷草」著
- F4427 **盛員**(もりかづ・友安ともやす、別名;森安、号;松林亭、盛政男) 1594-1659<sup>66</sup> 讃岐石清尾八幡宮祠官、  
従五下刑部少輔、祖先は佐料氏(香西家家臣/香川郡佐料城主);のち佐料盛邦が八幡祠官、  
盛員はその子孫/1627上京/神道;吉田兼英門;神道裁許状を受/国学を修学、歌人、  
帰郷;神社再興に尽力、盛岡(神職;国学者/歌人)の父、  
1652「讃岐国大日記」59「神道一滴書」、「白鳥神社記」「辛卯紀行」著
- F4428 **盛員**(もりかづ・堤つみ、盛徴もりずみ2男/本姓;荒木田) 1632-87<sup>56</sup> 伊勢内宮権禰宜/従四上、国学者、  
1685「鸚鵡抄」「神祇正源集」著、盛尹もりただの父  
[盛員(;名)の幼名/通称]幼名;猪之助、通称;猪之助/源助/刑部/奎之助
- F4429 **守和**(もりかづ・井面いのも/本姓;荒木田、守正男) 1705-73<sup>69</sup> 伊勢宇治の神職;内宮禰宜、  
1763従三位/72正三位内宮一禰宜/内宮長官、「神略記」「守和記」「斎宮次第伝」、  
「神宮系譜下書」「宮中図解」「服忌条々」/1765「井面守和答辨書」著、  
[守和(;名)の幼名/通称]幼名;楠丸、通称;主水もんど/伯耆
- K4437 **守一**(もりかづ・高井たかい、通称;仁右衛門) 1758-1829<sup>72</sup> 上野群馬郡中大類村の名主、  
和学者;権大納言庭田重嗣門
- F4430 **守一**(もりかづ・関せき、神主関正峰男) 1830-82<sup>53</sup> 越中砺波郡高岡の神職;1856関野神社祠官、  
漢学;西坂成庵門/国学;1857京の六人部是香門/神道も修学、神社祭式改訂;吉田流を批判、  
帰郷後;神仏分離を主唱;神道興隆に尽力、のち越中射水神社権宮司兼大講義、  
1858「順考察奠式」、「神祭式徴証」著、  
[守一(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;敬之輔、字;時敏、通称;新一/下総守、号;靱舎、
- L4462 **守壽**(もりかづ・宮本みやもと、守親もりちか男) 1844-1922<sup>79</sup> 山城綴喜郡井出村の大庄屋、  
歌人;荒川重郷しげさと門  
[守壽(;名)の通称]通称;三四郎(;父の称)
- 守一(もりかづ・小川/入交) → 省斎(せいさい・入交いりまじり/小川、藩士/国学) I 2 4 2 9  
守数(もりかづ・栗田) → 知周(ともかね・栗田あわた、神職/歌人) P 3 1 3 6  
盛和(もりかづ・原) → 武太夫(ぶだゆう・原、幕臣/音曲/狂歌) D 3 8 1 7
- M4408 **守方**(もりかた・荒木田あらかた、俊平男/佐麻呂系) ?-? 平安鎌倉期;伊勢神職、歌人、  
俊清・宗俊・祐覚・宗長の父、歌;1233刊[御裳濯集]入、  
[霧中女郎花と云う心を、  
さきしよりめかれぬものををみなへしいかなるきりのたち隔つらん](御裳濯集;316)
- 4426 **盛方**(もりかた・藤原ふじわら、別名;成方、顕時男) 1137-78<sup>42</sup> 母;平忠盛女、平安後期廷臣;中宮大進、  
出羽守/従四下民部少輔、晩年九条兼家の家司、行隆らの弟、顕縁(律師)・顕仙・盛玄の父、  
歌人;1170住吉社歌合参加、1170建春門院北面歌合参加/72広田社・78別雷社の各歌合参、  
1178右大臣家百首出詠、「歌仙伝」注釈/「万葉集抄」著、  
言葉・月詣・玄玉・万代・和漢兼作集・夫木抄入集、勅撰9首;  
千載(4首222/257/778/1082)新古(1508)新勅(600/697)続後撰(988)新続古(1415)  
[岩間より落ちくる滝の白糸は掬むばで見ると涼しかりけり](千載集;三夏222)
- F4431 **盛賢**(もりかた・岡部おかべ、盛重男) 1679-1769<sup>長寿91</sup> 武蔵八王子住/江戸の生、和算家/暦に精通、  
「勾股錦囊」「算法尽善抄」著、  
(父盛重は一時備後福山藩に出仕;のち浪人し八王子に帰郷)、  
[盛賢(;名)の通称/号]通称;左大/左太、号;稠朶ちゅうだ/千仞/振衣斎、法号;稠林秀朶居士
- J4415 **守堅**(もりかた・井面いのも/旧姓;沢田) 1829-71<sup>43</sup> 井面守訓もりのりの養嗣子/伊勢度会の神職;  
内宮禰宜  
盛方(もりかた・柴村) → 盛方(もりみち・柴村しばむら、幕臣) G 4 4 5 8

守方(もりかた・栗阪) → 守熙(もりひろ・栗阪あわさか、藩士/地誌) G 4 4 4 0

守堅(もりかた・中川) → 守民(もりたみ・菌田そのだ/中川、神職/国学) K 4 4 2 2

F4432 守勝(もりかつ・木俣きまた、通称;清左衛門尉、守時男)?-?1614前没(56歳) 武将;土佐守、楠木正成の孫正勝の末裔という、徳川家康の家臣、家康の命で井伊直政に与力として出仕、小田原・小牧長久手・関原の合戦で戦功、井伊直勝に出仕;彦根藩筆頭家老となる;禄4千石、木俣清左衛門家の初代、家紋は三つ盛鱗、妻の甥狩野守安を養子とす、没後守安が家督嗣、のち3代守明・5代守盈・10代守彝は執権職に就く、

「木俣土佐紀年自記」著、守安の父

【木俣清左衛門家】彦根藩筆頭家老

(知行;守勝4千石・守安5千石・守明8千石・守長9千石・守盈1万石)

初代守勝 -2守安 -3守明 -4守長 -5守盈もりみつ -6守貞 -7守将もりまさ -8守前もりさき -

(養子)

9守易もりやす -10守彝もりつね(清閑) -11守盟もりちか(幹) -12守迪(畏三)

(兄)

(弟)

(弟)

F4433 守勝(もりかつ・戸田とだ)1703 - 177977 加賀金沢藩士;1724家督嗣/定番頭兼御近習頭、1774人持組に列す、76致仕、1766「飛騨国高山廃城一卷」著、

[守勝(;名)の通称/号]通称;与一郎、号;柔同

盛勝(もりかつ・坂口平三)→ 坂阿(はんあ、坂口/早歌伝承者) I 3 6 8 3

守勝(もりかつ・林) → 読耕斎(もりかつ・林、儒者) O 3 1 4 8

I4443 森門(もりかど・浅倉あさくら) ? - ? 狂歌/1787「狂歌才蔵集」入;366、

[老の字にはじめて出合がしらよりまんまろく千代万代よろづも経ん](才蔵集;366)、

(今年四十になりけるに頭を丸くし侍りて/近世では四十を老年の初めと意識)

M4420 盛兼(もりかね・藤原ふじわら、盛能男)1191-124555 母;宮内大輔藤原季佐女、廷臣;1218左少将、1222左中将/24蔵人頭//25参議従三位/播磨守、26宣陽門院の院司、妻;滋野井実宣女、1227権中納言兼中宮権大夫/宣陽門院の六条御所を造進、33盛兼殺害計画が露見、1237(嘉禎3)正二位/44(寛元2)出家/晩年;明恵(高弁)に帰依、歌人;明恵上人歌集入;[忘れじよ八やつのことの葉おのづから六むの道にはなほ帰るとも](明恵歌集;69、上人から受戒の八斎戒の文はたとえ業により六道に帰すとも忘れはしません)、[明恵の返歌、

八の誓六のちまたに忘れずは末は仏の道へ出でなむ](同;70)

K4420 守約(もりかね・菌田そのだ、旧姓;中川)1803-3735 伊勢度会郡の伊勢内宮禰宜、国学者、

[守約(;名)の初名/通称/号]初名;蔭和、通称;幾久若/城之助/伯耆、号;極春園

K4454 守瓶(もりかめ・辻つじ、旧姓;三枝/志村)?-1810 甲斐八代郡国府村の郷土辻家を継嗣、医者;1773(安永2)中郡筋の高室家に入門、独立し国府で医業;保順(初代)を称す、国学;加賀美光章・本居宣長門、

[守瓶(;名)の字/通称]字;子訥、通称;保順

森神主(もりかぬし) → 基久(もとひさ・賀茂かも、神職/歌人) D 4 4 9 6

F4434 守城(もりき・樽井たるい)1813-187765 播磨姫路の兵法家/宍粟郡山崎藩の兵法師範、

歌人;香川景樹門、山崎の和歌三秀(前野真門・稲岡秋平と)の1、「詠草四百十七首」著、

[守城(;名)の別号/通称/号]別号;鶴村/貞虎、通称;宗右衛門/九右衛門、

号;箕谷きこく/九翁/蔡園さいえん

J4469 守樹(もりき・春日かすが、通称;金作)1825-190682 信濃埴科郡の国学者、

国学;石黒守稲もりとし(同郡屋代町)・滝沢正樹(守稲門)・唐木善武門

L4459 森城(もりき・宮地みやじ、通称;熊太郎)1839-191577 土佐高知藩士/儒者(家学)、水溪(仲枝)の孫、土佐藩儒、「土佐国古城略史」著

K4481 守城(もりき・中村なかむら/本姓;神門臣かんだのおみ、守手男)1852-1871早世20 出雲松江藩士、歌人;父門、国学;平田鍊胤門、1871(明治4)千家尊福の東京旅邸開催の歌会に参加

守城(もりき・井面) → 守雅(もりつね・井面いのも/荒木田、神職/国学) F 4 4 8 2

F4435 盛清(もりきよ・源みなもと、号;柏原、右兵衛尉盛実男)?-? 平安後期の廷臣;従五下山城守/右兵衛尉、

頼経・盛房・家盛・盛光・盛平・家仲の父、  
歌人；1127刊「金葉集」(671)/1165清輔「続詞花集」に同歌入(102)、  
[卯の花を音無し河の波かとしてねたくも折らで過ぎにけるかな](金葉集；補遺歌671)

- L4465 **守静**(もりきよ・向井むかい、号；宗哲) 1613-1701<sup>89</sup> 丹波福知山藩士；浪人、伊勢松坂住、  
国学者/歌学；木瀬三之さん(1606-95)門；万葉集を修学
- J4467 **守清**(もりきよ・梶谷かじたに、旧姓；菊池、名；貞安) 1772-1800<sup>早世29</sup> 伊予八幡浜の医者、  
医者梶谷守典もりのの養嗣子、国学；清家せいけ堅庭かじたにわ門、歌人
- F4436 **守静**(もりきよ・辻つじ/本姓；源、初姓；三枝) ?-1873 江戸の幕臣；1850甲府勤番大草能登守高聴支配、  
浦賀奉行支配組頭/1854林奉行、歌；大石千引・海野遊翁門/仏学；荻野梅塢門、  
書；中村仏庵門、「恋百人一首」「閑譏規則」編、「紐鏡図解」著、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、  
[おもしろし花のふぶきの風流れ桜狩りする袖にかかりて](大江戸倭歌；春297、  
藤原資礼[すけひろ・那須/1795-1861]が家に春秋の花合に桜の造枝に狩衣をかけて)、  
[おもしろく霞ながるる大空にしづく玉江の春の夜の月](現存百人一首；99)、  
[守静(；名)の通称/号]通称；六郎左衛門/茂右衛門/半五郎、  
号；野廬屋のや/葎廬屋むぐらのや/東園/葎園/六牙庵/耽花、法号；六牙院
- L4476 **守清**(もりきよ・薬師神やくしん、) 1841-1867<sup>早世27</sup> 伊予宇和郡の穴井浦天神社祠官、  
神道・国学・歌；清家堅庭門/国学；柴田守典・小野並枝門、  
(宇和郡の飯之山城主井上家が天正年間に長宗我部勢に討滅され穴井浦の薬師社に逃れ、  
[薬師神]と改姓し穴井天満宮の初代神主となったとの伝承あり)、  
[守清(；名)の初名/通称]初名；清徴、通称；此面/伊勢守
- 守清(もりきよ・河井) → 幽閑(ゆうかん・河井かわい、茶人/画工) B 4 6 0 8  
守清(もりきよ・緑園) → 緑園守清(りよくえんもりきよ、高橋豊八/狂歌) J 4 9 7 3  
守清(もりきよ・木下) → 順斎(じゆんさい・木下/藤原、医者) K 2 1 7 4  
盛清(もりきよ・菊地) → 良仙(りょうせん・菊地さくち、医者) I 4 9 5 6  
茂陸(もりくう・吉田) → 茂陸(しばみち・吉田、藩士/弓術家) S 2 1 7 8  
森口花丸(もりぐちのはなまる) → 花丸(はなまる・森口、狂歌) I 3 6 7 9
- F4437 **守国**(もりくに・橘たちばな、姓；檜村ならむら、名；有税/守国) 1679-1748<sup>70</sup> 大阪の絵師；狩野探山門、  
土佐・狩野両派の古図を模写；粉本を出版、唐本を翻訳；中国画法を伝える、絵本多数出版、  
「絵本和歌の種」「絵本玉の壺」「絵本画志」「有馬勝景図」「運筆僊画」「本朝画苑」画、  
1720「絵本写宝袋」29「絵本通宝志」32「謡曲画誌」40「絵本鶯宿梅」48「南都名所図」外画多数、  
[橘守国(；号)の通称/別号]通称；惣兵衛/宗兵衛/大助/弁次、別号；後素軒
- I4474 **盛州**(もりくに・森もり/本姓；源、通称；宮内/与五左衛門) 1685-1741<sup>57歳</sup> 江戸の幕臣；御小姓組、  
歌；1798刊広通「霞関集」入、  
[山里も春の光に雪消えて長閑に匂ふ軒の梅が枝え](霞関；春62/山家梅)
- K4472 **守国**(もりくに・富永とみなが) 1742-1876<sup>自刃35</sup> 肥後熊本の神職、国学；林有通・木原楯臣門、  
文久年間親兵として京で尊攘活動、維新後；熊本県鹿本郡の正院しょういん厳島神社祠官、  
1876(明治9)年敬神党(神風連)の乱に参加；参謀格/敗北し自刃、  
[守国(；名)の別名/通称]別名；御楯、通称；万吉/万喜
- F4438 **守国**(もりくに・上垣かみがき) 1753-1808<sup>56</sup> 但馬養父郡蔵垣村の庄屋/養蚕業、  
1770以来蚕種改良のため奥州より蚕種を仕入；山陰山陽に販売、気多郡納屋村に蚕室建設、  
開発生産に尽力、晩年は子弟に読み書きを教授、1803「養蚕秘録」著、  
[守国(；名)の通称/号]通称；伊兵衛、号；仙栄堂
- 守邦(もりくに・藪田) → 守浮(もりちか・藪田そのだ/荒木田、神職) F 4 4 7 2
- L4484 **容子**(もりこ・山本やまと、) 1797-1883<sup>87</sup> 山城愛宕郡の国学者/歌人、賀茂季鷹の孫
- L4421 **守子**(もりこ・保坂はさか、旧姓；須田) 1806-85<sup>80</sup> 上野安中の生/七日市藩家老保坂庄兵衛の妻、  
国学・歌；新居守村門、正義(1834-91/家老)の母
- F4439 **盛子内親王**(もりこないしんのう、村上天皇皇女) ?-998 左大臣藤原頭光の室、  
承香殿女御元子/堀河女御ほりかわのによご延子の母  
守子内親王(もりこないしんのう) → 守子内親王(しゅしないしんのう、歌人) I 2 1 6 8



- K4477 **守先**(もりさき・中川ながわ/本姓;荒木田、)1740-? 伊勢度会郡の内宮神職;権禰宜、  
 国学;本居宣長門、  
 [守先(;)名)の初名/通称]初名;経先、通称;大炊/和泉
- F4440 **盛貞**(もりさだ・有沢ありさわ、有沢貞庸男)?-1759 有沢致貞むねさだの養子、加賀藩士/1739新番、  
 前田宗辰の御次番;1744指除き遠慮を命じられる;45御免/47武具奉行/54養父の2百石嗣、  
 組外に列す、1738「軍法之巻聞書」59「甲陽軍鑑私考」、「匹夫之抄聞書」、  
 [盛貞(;)名)の通称]平次右衛門
- J4483 **守貞**(もりさだ・木俣きまた、守盈もりみつ男)1705-4844 近江彦根藩筆頭家老家の生、  
 1722(享保7)部屋住で彦根藩家老;藩主井伊直惟なおのぶに出仕、儒者;服部南郭門;高弟、  
 1734(享保19)父没;家督嗣;木俣清左衛門家6代当主/近江彦根藩筆頭家老;知行1万石、  
 井伊・木俣家資料を多数収集/龍潭寺住職祖山法忍に「井伊家伝記」編纂を依頼(1730刊)、  
 守将の父、没後;守将が家督嗣、  
 [守貞(;)名)の幼名/通称]幼名;亀之丞、通称;清太郎/半弥/清左衛門(代々の称)  
 参照 → 守勝(もりかつ・木俣きまた、初代) F 4 4 3 2
- F4441 **守貞**(守定もりさだ・木立きだち、藤右衛門長男)1726-180176 弘前藩士;父の跡継嗣;馬術師範、  
 1793長柄奉行格寄合/98御城付足軽頭、馬術・文才に長ず/読書家・蔵書家、  
 藩史「津軽徧覧日記」編纂に参画、1776「乗馬大意」、「元禄亥子歳」「津軽飢饉記」、  
 「馬乗原始考」著、[守貞(;)名)の通称]要左衛門
- L4428 **守貞**(もりさだ・真野まの、弥次郎久胤男)1756-183681 備中賀陽郡宮内村の酒造業;糶屋こうじや、  
 国学・歌;藤井高尚門、漢学詩歌;官茶山門、詩歌;子弟教育、類題吉備国歌集に15首入、  
 2男4女の父;息守成・守業共に早世/娘琴の婿の富山守正が嗣、守約もりちかの養祖父、  
 [守貞(;)名)の字/通称/号]字;子幹、通称;弥左衛門、号;竹堂/椋園ひえん/すぎその、屋号;糶屋
- J4470 **森貞**(もりさだ・桂かつら、通称;源五右衛門)1781-184969 陸奥盛岡南部藩士、国学;三輪家入門
- K4443 **盛定**(もりさだ・高山たかやま、通称;伴六)1809-9486 上野勢多郡の歌人;尾高高雅門
- F4442 **守貞**(もりさだ・喜田川/喜多川/北川きたがわ、初姓;石原)1810-67?58? 大阪生/1840江戸に下る、  
 深川の砂糖商北川家を継嗣、執筆活動;風俗考証家/1851問屋復興に伴い商売に復す、  
 1837-53「守貞謾稿」編、  
 [守貞(;)名)の通称/号]通称;喜蔵/庄兵衛、号;舎山/月光庵/季荘  
 守定(もりさだ・狩野) → 探雪(たんせつ・狩野かのう、絵師) T 2 6 9 3  
 盛貞(もりさだ・皆川) → 梅翁(ばいおう・皆川みながわ、藩士/儒者) 3 6 7 0  
 盛貞(もりさだ・織田/伊東) → 貫斎(かんさい・伊東いとう、蘭医/幕府医) Q 1 5 6 9
- F4443 **盛郷**(もりさと・波々伯部ははかべ/ほおかべ、本姓;源)?-1507 丹波波々伯部保の武将;細川政元家臣、  
 1507細川澄之が家督争奪で高国に討たれたため切腹殉死、歌/連歌、  
 1487安養寺三十首歌参加/88宗祇花下百韻・1485-1506細川千句などに参加、  
 1485宗伊と何路百韻、1495宗祇種玉庵の「新撰菟玖波祈念百韻」(1句入)、新菟入  
 [盛郷の通称/号/法名]通称;兵庫助/伯耆守、号;伯庵、法名;宗寅そういん
- K4400 **守郷**(もりさと・輿石こいし、山本甚五左衛門2男)1837-191175 甲斐巨摩郡長坂町の生、  
 建岡神社神官の輿石森吉の養嗣子;祠官/国学・歌;堀秀成・落合直澄門、古典を研究、  
 1875一の宮浅間神社主典/禰宜、甲府市大田町の稲積神社の神官/山梨神道分局長、  
 山梨皇典講究所分所長、大教正、1893山梨裁縫学校校長、国文雑誌「えびかつら」刊行、  
 歌;歌集「岡廼舎集」(塚原等編纂)、  
 [不尽の山嶺の高嶺のみ雪霞むなりあまつみ空に春やたつらむ](岡廼舎集/立春霞)、  
 [守郷(;)名)の通称/号]通称;亀之助、号;岡廼舎おかのや/馬太
- F4444 **盛実**(もりさね・源みなもと) ? - ? 南北期廷臣;五位/従四下、  
 歌人;1374-76頃「崇徳院御影堂同詠二首和歌」参加、1359成立「新千載集」1372、  
 [待ちわびぬ身を浮草のうきながら逢瀬にさそふ水の便を](新千載;十三恋1372)
- L4481 **盛実**(もりさね・山田やまだ)1840- 190768 長門豊浦郡の住吉神社大官司、  
 歌人;有栖川幟仁親王(たかひとしのう門)  
 [盛実(;)名)の初名/通称]初名;隆実、通称;猪作/式部/撰津守  
 守眞(もりさね・長谷川) → 延年(えんねん・長谷川、剣術/篆刻家) B 1 3 3 1

- 守真(もりざね・近藤) → 富蔵(とみぞう・近藤、地誌家/遠島) O 3 1 8 6
- K4402 守繁(もりしげ・三枝さいぐさ、) 1659-1711 53 江戸の幕臣;御普請奉行、国学者、  
[守繁(;)名)の別名/通称]別名;守詮/守宣、通称;権十郎/権之助/十兵衛/左兵衛/伊予守
- K4458 守綱(もりしげ・辻つ、通称:六郎右衛門、守継男) 1678-1725 48 佐渡相川の地役人の家、守遊の孫、  
歌/連歌・散学の鼓を能くす、☆家系→守潤 もりひろ参照
- L4486 盛重(もりしげ・吉田よしだ、通称:孫左衛門) 1773-1840 68 讃岐丸亀の商家;笠島屋、歌学;芝山持豊門、  
笠島の年寄の廻船業吉田彦右衛門家出身?、  
恒重(高松の国学者)の父、満勢(1781-1850/笠島屋/歌;同門)の一族
- F4446 守重(もりしげ・井面いのも/本姓;荒木田、中川経勢男) 1826-70 45 井面守雅(もりつね)の養嗣/伊勢宇治神職、  
1857従三位/36伊勢内宮禰宜、歌人、「氏朝日記草稿」編
- F4447 森重(もりしげ・山田よまだ、通称;勇右衛門)?-? 江後期越中富山の砲術家;坂本天山・俊貞門、  
天山流砲術修得/大江流軍学;飯田憲章門、森重流砲術を興す、「火硝製造論」著
- 守恵(守重もりしげ・三枝) → 守恵(もりえ・もりしげ・三枝さいぐさ、幕臣/歌) L 4 4 9 4
- 守重(もりしげ・近藤) → 正斎(せいさい・近藤、幕臣/儒/千島探検/歌) B 2 4 5 8
- 盛達(もりしげ・武藤) → 知足斎(ちそくさい・武藤むとう、儒/国学者) E 2 8 6 7
- F4448 守静(もりしげ・高久たかく) 1821- 1883 63 和算家:馬場錦江門、1866「三角内隔斜容八円術」編、  
1867「慥斎集算法新論」著、「算法浅問抄解義」「算題仮綴表紙」「続算学小筭解義」著  
遺著「極数大成術」、門人;小島太平次則正・加藤徳次郎・一場初太郎正義ら、  
[守静(;)名)の字/通称/号]字;子秀、通称;鎌次郎、号;慥斎ぞうさい/不及斎
- 守四郎(もりしろう・篠山) → 景德(かげり・篠山/笹山/木村、幕臣/奉行) L 1 5 1 9
- 守治郎(守次郎もりじろう・筑紫・原) → 義門(よしかど・筑紫、藩士/国事奔走) C 4 7 9 7
- 守次郎(もりしろう・原田) → 信実(のぶざね・原田はらだ、歌人) G 3 5 8 2
- F4449 盛標(もりすえ・木崎きざき) 1712-? 1789 存 三河岡崎藩士;軍師、藩主水野忠任転封に随従、  
1762肥前唐津藩に移る、巡見の際スケッチをする、出家?、1773「獲鯨図説」「鯨一件之巻」著、  
スケッチをもとに領内を記録:1784「唐津産業絵巻」「唐津石炭採掘之図」、「紙漉大概」著、  
「江猪漁事」「小児の弄鯨一件の巻」「肥前州産物図考」著、  
[盛標(;)名)の号] 攸軒ゆうけん/悠軒/悠々軒
- K4412 盛輔(もりすけ・須田すだ、) 1632-1717 86 江戸の旗本/幕臣;小十人番頭、国学者、  
1687-96禁裏付武家;1694(元禄7)町人地に居住の公家の届出を指示、  
[盛輔(;)名)の通称/号]通称;市兵衛/大隅守、号;一空
- F4450 守相(もりすけ・菌田そのだ/本姓;荒木田、守隆男) 1652-1718 67 伊勢の神職;1704従三位/内宮二禰宜、  
1705内宮一禰宜/15従二位、1705-18「守相日記」/1706「内宮神宮交名」、「改元神宮勘文」編、  
「両機殿勘例」編、歌;「詠三十首和歌」/連歌;1679「延宝千句」参加(;)氏富らと)  
[守相(;)名)の通称] 万作、荒木田守則の甥
- F4451 守典(もりすけ・篠本しのもと、号;南溟)?-? 江中期和算家:入江東阿門、1739「探玄算法」校訂
- J4460 森輔(もりすけ・岡本おかもと、左馬之助男) 1808-68 61 美作大庭郡古見村の神官/神道・歌;小神富春門
- 守輔(もりすけ・西田) → 秋実(あきざね・西田、国学者) D 1 0 4 3
- 保右(もりすけ・徳川) → 義和(よしより・松平/徳川、藩主/日記) I 4 7 0 5
- 盛助(もりすけ・宮沢) → 清房(きよぶさ・宮沢みやざわ、神職/国学) T 1 6 4 6
- J4497 守黒(もりすみ・後藤ごとう、) 1787-1827 41 佐渡加茂郡舟下の国学者/歌;中山千鶴ちづ門、  
歌人;小川布淑のぶよし(萍流へいりゅう)門、宗蔵ぞうぞう/文中ふみなかの父、  
[いひ残す言の葉もなしなきあとの笑ひ草ともならんと思へば](辞世)  
[守黒(;)名)の字/通称]字;士式、通称;五郎右衛門
- F4452 盛徴(もりすけ・堤つみ/本姓;荒木田、盛政男) 1596-1663 68 伊勢内宮権禰宜/従五下、国学者、  
地歴に通ず、「昌琢点百韻連歌」、1649「神風小名寄」66「類字仮名遣」、「類字仮名遣取要」著、  
「内宮遷宮記」「伊勢神領内名所目録」「伊勢神領内名所之註」著、  
[盛徴(;)名)の通称] 通称;七郎/刑部/源助/次郎太夫
- J4468 守濟(もりすけ・梶谷かじたに、通称;承慶[守典の称]) 1804-89 86 伊予八幡浜の医者;梶谷守久の養子、  
国学・歌;梶谷守典(養父守久の養父/万亀女の父)門/清家堅庭門、

- 盛純(もりずみ・佐原) → 豊山(ほうざん・佐原さわら、儒者/欧州視察) B 3 9 1 6  
 守蔵(もりぞう・松川) → 庸興(つねおき・松川まつかわ、神職/国学) G 2 9 3 7  
 盛田小塩(もりたおしお;号) → 小塩(おしお・盛田もりた、戯作者) D 1 4 1 0
- F4454 盛隆(もりたか・藤原ふじわら、時光、頭時男)?-? 母;藤原信輔女、鎌倉期廷臣;左右衛門佐、修理大夫、盛方の弟/時長の父  
 参考 → 盛方(もりかた・藤原、歌人) 4 4 2 6  
 → 時長(ときなが・藤原、平家作者説) J 3 1 5 6
- F4455 盛孝(もりたか・宮原みやはら、通称;七郎兵衛尉)?-? 室町後期伊勢の武将;北畠晴具の家臣、連歌;1522伊勢訪問の宗碩・宗長を案内送迎(佐野のわたり・宗長手記入)、1544伊勢訪問の宗牧を迎え「何人百韻」参加
- F4456 守隆(もりたか・水野みずの/本姓;源、常滑城主水野忠綱の孫)?-1598 尾張常滑城主;織田家配下、1582本能寺変に明智方に属したため城を去る/山城嵯峨に隠棲、風雅に入る;茶の湯;津田宗及日記に名が入、連歌;1574紹巴と「何人百韻」「山何百韻」、[守隆(;名)の別名/通称/法名]別名;守尚(;初名)/守次/直盛、通称;監物丞、法名;全慶
- F4457 守隆(もりたか・九鬼きき、初名;友隆/光隆、嘉隆男/本姓;藤原) 1573-1632 志摩鳥羽藩主;長門守、従五下、豊臣秀吉に出仕/1597家督継嗣;鳥羽藩主、家康に出仕;関ヶ原では父と敵対;戦功、5万5千石/夏の陣で戦功;千石加増、「九鬼長門守記」著、幼名;孫次郎/法号;松岳院
- L4409 守孝(もりたか・原はら、) 1686 - 1765 肥前佐賀藩家老多久家家臣、国学者、[守孝(;名)の別名/字/通称]別名;浄忠、字;忠重、通称;弥一右衛門
- F4458 盛隆(もりたか・白土しらつち) ? - ? 江中期宝暦1751-64頃磐城守山藩士、1755藩主松平頼寛の著書に略解を付す;「菊経国字略解」注釈、「蘭経国字解」著、[盛隆(;名)の号] 稔齋/治齋
- I4481 守孝(もりたか・中神なかがみ) 1732-1788 江戸の国学者;坂光淳・内山淳時門、守節もりとき父、[守孝(;名)の別名/字/通称/号]別名;守珉、字;仲順、通称;兵右衛門/九左衛門、号;蓋峯室
- F4459 盛隆(もりたか・黒川くろかわ) 1768-1829 盛岡藩士/歌人;三輪表秀あきひで門、滝津たきつ(歌人)の父、江戸で国学;加藤千蔭・村田春海・塙保己一門、帰国後;用人/仁明即位に使者をして上京、1821藩主南部利敬没後讒を受け罷免、1806「旧蹟遺聞」(藩命で藩内の古蹟を調査編纂)、1807「松の下草」、「凹齋浸筆」、「谷の下水」松廼はな「門田の落穂」「松屋歌集」「柳園草稿」、「源氏厚氷」「黒川盛隆歌集」「黒川盛隆考説」「黒川盛隆自筆歌集」「黒川盛隆自筆筆筆」、[盛隆(;名)の通称/号]通称;専左衛門/司/玄蕃、号;凹齋/松廼屋まつのお、法号;功山玄成居士、江刺恒久・漆戸茂喬いげからの師
- I4480 守泰(もりたか・井村いむら) 1830- 1874 信濃飯田の国学者;岩崎長世門、歌人、桜井光章・桜井盈叙・井伊いと・井原周祐かねづから同門歌人と交流、[守泰(;名)の通称]通称;半次郎/万之助
- L4405 守隆(もりたか・林田はやしだ、守秋長男) 1848-1929 母;貞子、久留米藩士;藩校明善堂に修学/武芸、歌;父門、1868(慶応4)小河吉右衛門(真文)ら勤王派同志と親幕派不破美作暗殺に参加、久留米藩の久留米藩の応変隊小隊長として戊辰戦争に従軍;箱館戦争で軍功、東京で安井息軒門、1871久留米藩難に水野正名・小河真文らと交渉し事態の收拾、1872家督嗣;竹野郡田主丸村に移住;養蚕製糸業/商品作物栽培/荒地開墾事業、1893旧久留米藩士族授産企業の赤松社の社長/久留米銀行頭取・久留米商業会議所会頭、
- 守敬(もりたか・兵頭) → 守敬(もりよし/もりたか・兵頭/常磐井、神職) G 4 4 8 5  
 守敬(もりたか・菌田) → 守敬(もりよし・菌田そのだ/荒木田、神職) G 4 4 8 3  
 守高(もりたか・永野/富田) → 春山(しゅんざん・富田、医者/詩人) K 2 1 8 2  
 盛孝(もりたか・岡野井) → 正純(しょうじゅん・曲直瀬まなせ、医者) J 2 2 6 7  
 盛隆(もりたか・堤) → 盛夏(もりなつ・堤つみ、盛受男/神職) K 4 4 6 4
- 4427 守武(もりたけ・荒木田あらかぎ/家名;菌田、守秀男) 1473-1549 母;藤波氏経女、伊勢内宮一禰宜/長官、歌人;「法楽若千首」、連歌から俳諧の独立機運をつくる、連歌;1532「宗長追善千句」、俳諧;1508「法楽発句集」25「世中百首」30「俳諧独吟百韻」40「守武千句」46「秋津洲千句」、



「俳諧詠草」「何袋四吟百韻」「俳諧人間世」「世中百首絵鈔」「源氏物語抄」外著多、新菟入、  
[とび梅やかろがるしくも神の春]（「守武千句」（飛梅千句）冒頭発句）、  
守晨の弟、守綱らの父

- F4460 **盛武**（もりたけ・撰待せつたい、号；宗碩）1640-? 陸奥八戸藩士・故実家、信仰厚い；仏像造営・写経、  
1716「久慈家譜」著、  
[盛武（；名）の別名/通称/号]別名；一治、通称；丹後/久五郎/久左衛門/忠兵衛、  
号；宗碩そうせき、法号；関叟宗碩
- K4465 **盛雄**（もりたけ・堤つみ/本姓；荒木田、盛夏男）1834-82<sup>49</sup> 伊勢度会郡の内宮権禰宜、  
国学；足代弘訓門、  
[盛雄（；名）の通称/号]通称；長門、号；淡軒/溪廼舎
- F4461 **守正**（もりただ・藤原ふじわら、中納言兼輔男）?-946 平安前期廷臣；蔵人/従五下修理亮、  
大鏡に童殿上の頃の逸話あり、雅正・清正の弟、善理・連理・明豪大僧正（天台座主）の父、  
歌；後撰集747、  
[荒かりし浪の心はつらけれどす越ごしに寄せし声ぞ恋しき]（後撰；747/清正集）、  
（州越しと簾越しを掛る/女の許で簾を上げると女が騒いだので帰りその翌朝の贈歌）
- K4461 **盛尹**（もりただ・堤つみ、盛員もりかず男）1655-1705<sup>51</sup> 伊勢内宮権禰宜、国学者、  
養嗣子；高田盛章もりあき、  
[盛尹（；名）の通称]刑部ぎょうぶ（代々の称）/七部/源助（；父の称）
- F4462 **盛品**（もりただ・淀川よどがわ）1760-1818<sup>59</sup> 羽後秋田藩士/民俗調査、  
1814那珂通博と藩領調査「風俗問状答」を幕府に提出、「陸奥羽街」「秋田風土記」著、  
[盛品（；名）の通称/号]通称；頼母、号；是非庵/雪斎/風斎
- K4440 **盛的**（もりただ・高橋たかはし）1814-1886<sup>73</sup> 上野新田郡の絵師、国学・歌；橋守部門、  
[盛的（；名）の通称/号]通称；友太郎、号；梅岳
- F4463 **盛忠**（もりただ・沢田さわだ/本姓；小川）1820-66<sup>47</sup> 初め美濃高須藩士；  
1849高須松平家世子慶勝の尾張徳川家継嗣に随従；名古屋藩小納戸役/1852慶勝隠居；免職、  
高須藩に戻される/1862名古屋藩に復帰；使番/側物頭/小納戸頭、慶勝に随い国事を周旋、  
「平要録講義」編、  
[盛忠（；名）の通称/号]通称；庫之進くものしん、号；錦園、法号；義高院
- F4464 **守忠**（もりただ・横地よこち、通称；玄常/号；三省、楚山2男）?-? 江中期江戸茅場町の医者、  
1764「傷寒雑病論集広義」著
- |             |   |                       |           |
|-------------|---|-----------------------|-----------|
| 盛忠（もりただ・藤原） | → | 寂超（じやくちよう・日想坊、大原三寂/歌） | G 2 1 3 4 |
| 盛唯（もりただ・池辺） | → | 鶴林（かくりん・池辺いけべ、藩士/儒者）  | K 1 5 6 1 |
| 盛達（もりたつ・武藤） | → | 知足斎（ちそくさい・武藤、儒者）      | E 2 8 6 7 |
- L4490 **盛種**（もりたね・吉見きよしみ、通称；対馬守）?-1752 讃岐山田郡の宮処八幡神社祠官、和学者
- F4465 **盛胤**（もりたね・関せき、太郎兵衛男）?-1769 信濃伊那郡木下の薬種業小松屋；父を継嗣；繁盛、  
資を公共に投ず、郷土史家/俳人；今岡在桂門、1740「伊那温知集」「伊那郡実録」、  
1768「野口在色居士五拾年追善」、「伊那旧事記」「信濃名所記」「関氏系図」著、  
[盛胤（；名）の通称/号]通称；平七郎/小松屋平七、号；小松軒/一透、法号；関山一透信士
- F4466 **盛胤**（もりたね・大陽寺だいうじ/修姓；陽）?-?宝暦1751-64<sup>頃没</sup> 江中期武州川越藩士、国学者、  
1753「多濃武の雁」著  
[盛胤（；名）の通称] 豊吉/趙子
- F4467 **守胤**（盛胤もりたね・青山あおやま）1777-1872<sup>長寿96</sup> 尾張愛知郡牛毛荒井村牛毛神社神職、  
外山光実門、1823「神道岩つゝじ」著、39「県居歌集」編、直虎の父、  
[守胤（；名）の別名/通称]別名；直政なおまさ、通称；左太夫/美濃守/周防守/相模守
- F4468 **守胤**（もりたね・山下やました、通称；長平/昇）1786-1869<sup>84</sup> 越中富山藩御用達の染物紺屋業/廃業、  
絵師；森探玉斎門/江戸で狩野派画法修得、帰郷後；富山藩士；徒組/新番組、  
藩主前田利保の画の師範、前田利保「本草通串証図」の挿画、花鳥写生に長ず、  
「歳時図絵」「越中八景図」「若松鶏十二ヶ月図屏風」、長男勝胤・孫正胤も絵師、
- K4421 **守胤**（もりたね・菌田そのだ/本姓；荒木田、守良男）1819-93<sup>75</sup> 伊勢度会郡の内宮禰宜、  
国学；足代広訓門、

- [守胤(；名)の初名/通称]初名；守経、通称；大弐(代々の称)/隼人/周防  
 K4422 **守民**(もりたみ・菌田そだ、中川経高男)1788-1842<sup>55</sup> 伊勢度会郡の菌田家の養子、内宮禰宜、  
 国学/歌；本居春庭門、養嗣子；中川[菌田]守拙もりみ、  
 [守民(；名)の初名/通称]初名；守堅、通称；左近  
 守太郎(もりたろう・村上) → 量弘(かぎひろ・村上むらかみ、藩士/儒者) M 1 5 4 6  
 杜太郎(もりたろう・河本) → 正安(まさやす・河本/川本、医者詩文) I 4 0 1 4  
 森太郎(もりたろう・太田) → 稻主(いなぬし・太田おた/源、神職/国学) K 1 1 0 6
- F4469 **盛親**(もりちか・楊梅やまも/本姓；藤原、兼行3男)?-? 1271以後生-1343存 廷臣；持明院統近臣、  
 1333従三位/後醍醐天皇還幸により正四下/1335従三位に復す/36後伏見上皇没；出家、  
 京極派歌人；1314持明院殿三首歌合/19探題三十首続歌合/42両度の持明院殿歌合参加、  
 1343五十四番詩歌合・院六首歌合参加、風雅集6首(384/482/732/839/1362/1954)、  
 法名；兼覚、俊兼の兄弟、親行・宣光門院新右衛門督の父、  
 [端ちかみうたたねながらふくる夜の月の影しく床ぞすずしき](風雅；四夏歌384)
- F4470 **守親**(もりちか・北畠きたばたけ、頼信男/本姓；源)?-? 南朝廷臣；1387内大臣/88従一位、陸奥国に住、  
 歌人；新葉集3首(211/811/1233)、  
 [まこも刈る人こそ見えね山城の淀のわたりの五月雨の比ころ](新葉；夏211/前大納言)
- F4471 **盛親**(もりちか・長宗[曾]我部ちようそかべ/ちようそかべ、元親4男)1575-1615<sup>41</sup> 母；齋藤伊豆守女、  
 土佐の武将；長岡郡岡豊城に生/1586長兄信親没；後嗣に決定、父元親と小田原攻め出陣、  
 文禄慶長の役に出陣/97父と連盟で捷書「長曾我部元親百ヶ条」発布/99家督嗣、  
 関ヶ原では西軍；戦わず帰国；家康に詫げる/兄津野親忠との領地争で家康の怒りを買う、  
 領国没収され山内一豊が領主となる/京上立売の柳ヶ厨子に隠居、  
 1614秀頼の招きで大坂入城/15夏の陣で敗走中山城の八幡付近の橋本で捕縛；  
 六条河原で斬殺される、信親・親和・津野親忠の弟、妻；信親女、  
 [盛親(；名)の幼名/通称/号]幼名；千熊丸、通称；右衛門太郎/新右衛門/宮内大輔/土佐守、  
 号；大岩祐夢、法号；源翁宗本
- F4472 **守浮**(もりちか・菌田そだ/本姓；荒木田あきだ、初名；守邦、守夏男)1718-81<sup>64</sup> 伊勢神職；  
 1731内宮十禰宜、1773正三位・内宮一禰宜、  
 「寛延内宮遷宮記」「守浮長官日次記」著/「年中出仕献立」編
- J4480 **守前**(もりちか・木俣きまた/本姓；橘、守将男)1765-1826<sup>64</sup> 近江彦根藩筆頭家老家の生、  
 1782(天明2)部屋住みながら家老に就任/1794藩主直中の口宣御礼使者を務める、  
 1797(寛政6)父隠居；家督嗣；木俣清左衛門家8代当主/彦根藩筆頭家老；知行1万石、  
 1799(寛政11)藩主直中の近江・山城の御鷹場巡見に随行/藩命で藩校稽古館開設、  
 守易もりやすの父、1820(文政3)隠居；守易が家督嗣、  
 [守前(；名)の初名/通称]初名；半弥、通称；土佐(代々の称)  
 参照 → 守勝(もりかつ・木俣きまた、初代) F 4 4 3 2
- L4473 **盛隣**(もりちか・矢田部やたべ、盛肥男?)1766-1829<sup>64</sup> 伊豆三島の65代三島神社宮司；64代盛肥を継嗣、  
 国学者、  
 [盛隣(；名)の通称/号]通称；長門、号；籟翁/松籟庵/松屋
- J4488 **森親**(もりちか・菊池きくち/本姓；藤原、)1803-1857<sup>55</sup> 伊予の神職/国学者/歌人；二宮正禎まさただ門  
 [四拾番歌合(八幡浜歌人の歌合)](判者；近田八束)に3首入、「ひなのてぶり」3首入、  
 [森親(；名)の通称] 出雲
- L4463 **守親**(もりちか・宮本みやもと/旧姓安宅、)1811-1891<sup>81</sup> 山城綴喜郡の国学者、守壽もりかず(大庄屋)の父、  
 [守親(；名)の通称]三四郎
- L4427 **守約**(もりちか・真野まの、旧姓；佐藤)1817-66<sup>50</sup> 備中賀陽郡宮内村の真野守正の養子；酒造業、  
 詩歌人；先々代真野守貞(竹堂/養祖父)門、茶華道にも精通、類題吉備国歌集に8首入、  
 [守約(；名)の初名/字/通称/号]初名；守道、字；希曾、通称；順蔵、  
 号；梅坪/看山眠処/竹外書窓/春風浴西村舎/主誰園
- J4485 **守盟**(もりちか・木俣きまた/本姓；橘、別名；幹みき、守易男)1842-1903<sup>62</sup> 守彝の弟/守迪(畏三)の兄、  
 近江彦根藩筆頭家老家の生/1862(文久2)彦根藩執政の兄守彝もりつねが失脚隠居、  
 家督継嗣；木俣清左衛門家11代当主/彦根藩筆頭家老；知行1万石、

1864(元治元)禁門変・水戸天狗党討伐に出陣/66第2次長州征で幕府軍芸州口先鋒;敗北、  
維新後;1872彦根藩権大参事、75隠居;弟畏三(守迪)が嗣、  
[守盟(;名)の通称]繁之進/清左衛門・土佐(代々の称)

参照 → 守勝(もりかつ・木俣きた、初代) F 4 4 3 2

守近(もりちか・中島) → 梅香園守近(ばいこうえんもりちか・狂歌) B 3 6 2 0

守親(もりちか・中川) → 経豊(つねとよ・中川/荒木田、神職/記録) C 2 9 7 5

守親(もりちか・殿村) → 琴魚(きんぎょ・櫛亭れきてい、読本作者) D 1 6 9 2

茂立(もりつ→もりゅう) → 杜哉(とさい・大貫、俳人) L 3 1 7 8

F4473 盛継(もりつぐ・伊豆いづ、号;東大夫)?-? 鎌倉後期伊豆三島社の神主、五位、  
歌人:新後撰872/玉葉2255、

[ぬるがうちをいかに頼みてはかなくも契らぬ中の夢を待つらん](新後撰;恋872)

F4474 盛次(もりつぐ・丸田まるた、通称;九左衛門)?-1628 安桃江戸前期羽前米沢藩士;霞流砲術の祖、  
砲術;大阪の片桐左近少輔門;種子島流砲術の奥義を伝受/帰国後直江兼続門、  
1604鉄砲総支配/26鉄砲足軽五十人組頭、藩の鉄砲組の整備に尽力、関文信ら門人多数、  
「鉄砲口伝書」「筒積り」「砲術口伝」「目中之書」著、与次郎・九左衛門盛時の父

K4457 守継(もりつぐ・辻つじ、守遊もりゆき・しゅう男)1655-1728<sup>74</sup> 佐渡相川の地役人の家、歌・連歌を能くす、  
[守継(;名)の通称]八郎左衛門、☆家系→守潤 もりひろ参照

J4416 守世(もりつぐ・井面いのも/本姓;荒木田)1670-1726<sup>57</sup> 伊勢度会郡の神職;内宮禰宜、  
[守世(;名)の通称]長作/左近

F4475 盛従(もりつぐ・荒井あらい) ? - ? 江戸中期仙台藩士、1778「漂海録」著、  
荒井(川島)盛典の養父、[盛従(;名)の通称]加右衛門

K4423 守紹(もりつぐ・菌田そのだ、旧姓;藤波)1761-1810<sup>50</sup> 伊勢度会郡の菌田家の養子/内宮権禰宜、  
国学;本居宣長門、  
[守紹(;名)の通称]内蔵允/勘解由

J4401 護次(もりつぐ・) ? - ? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[野も山もなべて木の葉は散りはててひとり寒けき峰の松が枝](大江戸倭歌;冬1147)

K4446 盛次(もりつぐ・竹村たけむら、正雄男)1812-1887<sup>76</sup> 伊豆君沢郡熊坂村の国学者;祖父茂雄門、  
竹村茂枝じげお(1810-64)の弟、盛行もりゆきの父、  
[盛次(;名)の通称/号]通称;源助/森次郎、号;西田屋

L4475 盛次(もりつぐ・矢田部やたべ、盛治もりはる男)1848-1924<sup>77</sup> 1899(明治32)伊豆三島の67代三島神社宮司、  
1915休職、国学者、父が私費で用水路を建設したため父没後もその借財をすべて返済、  
[盛次(;名)の通称/号]通称;長門、号;雲城、盛穂(68代三島社宮司)の父

守次(もりつぐ・水野) → 守隆(もりたか・水野みずの/源、武将/連歌) F 4 4 5 6

守次(もりつぐ・森) → 雪翁(せつおう・森もり、藩士/文筆家) K 2 4 7 3

守嗣(もりつぐ・山野) → 峻峯斎(しゅんぼうさい、山野やまの、絵師) K 2 1 4 7

盛次(もりつぐ・大野) → 猶穂(ゆうきく・大野おおの、俳人) B 4 6 1 4

F4476 守綱(もりつな・渡辺わたなべ、高綱男/本姓源)1542-1620<sup>79</sup> 母;渡辺義綱女、三河額田郡浦部村の武将、  
1557父同様に徳川家康家臣;1558以後武将として各地転戦:軍功/[槍半蔵]と称される、  
1564父の遺知を嗣/84足軽頭/92家康の肥前名護屋出陣に随従/のち伏見・大坂に供奉、  
4千石足軽百人組頭、1610名古屋藩主徳川義直に出仕;1万4千石領主;加茂郡寺部村に陣屋、  
大坂両度の陣に義直を補佐、「守綱記」「渡辺忠右衛門覚書」、  
[守綱(;名)の通称/法号]通称;半蔵/忠右衛門、法号;守綱院、渡辺綱の末裔

F4477 盛経(もりつね・藤原ふじわら、詞花集歌人)?-? 季正男?or成経[重経]男で伯父公経の養子説もある?、  
平安後期廷臣;季正男なら従五上上総介、成経男なら従五上、歌人:続詞花集入、  
詞花11、金葉解(公夏筆本)22(金葉初撰本1首入集も再選本で削除・詞花採録も後削除)  
[とり繋ぐ人もなき野の春駒は霞にのみやたな引びかるらむ](詞花集;春11/続詞花22)  
☆袋草紙;式部省五位盛経の異名に[臂突ひびつきあるじ]とある

F4478 盛経(もりつね・藤原ふじわら、俊経男)1161-1235<sup>75</sup> 母;有盛女、鎌倉前期廷臣;1204右少弁/11非参議、  
伊予・薩摩守/勘解由長官/左大弁、正三位、1228出家、1205元久詩歌合参;詩3首、信盛の父、



[霞光爛爛江村夕 草色青青湖水春](元久詩歌合;廿二番左42)

- F4479 **盛経**(もりのね・藤原ふじわら、盛継男)?-? 鎌倉後期南北期廷臣;五位、  
歌:1359完成「新千載集」1165、  
[いかにせんぬるがうちにも関すゑてゆるさぬ夜半の夢の通ひ路](新千載;恋1165)
- M4400 **盛庸**(もりのね・矢野やの) ? - ? 江前期;上方の武士/歌人、  
1670下河辺長流[林葉累塵集]2首入、  
[立ちこめて花にうかりし霞さへきえなむ春のをしきくれかな](林葉累塵;春205)
- F4480 **盛庸**(もりのね・牛島うじま)1756-184085 肥後の和算家、儒;藪孤山門;朱子学、  
和算;井上矩慶・和田寧門、1779熊本藩算学師範、藤田貞資・藤田嘉言・白石長忠らと算問答、  
1789「湯嶋天満宮額題術」91「牛島問答」95「算学小筈」、1823「統算学小筈」編/外著多数、  
[盛庸(;名)の別名/字/通称/号]別名;頼房/頼庸、字;仲賛、通称;宇平太、号;鶴溪/鶴谿  
天円子と同一か? → 天円子(てんえんし、肥後和算家) D 3 0 1 6
- L4431 **守常**(もりのね・前田おかだ、通称;良蔵)1757-? 駿河府中の代官手代、国学・歌;本居春庭門
- F4484 **守恒**(もりのね・二宮ののみや) ? - ? 江後期尾張瀬戸村の深川神社祠官/国学者、  
1793「陶器窯伝記」、「瀬戸山の記」「八景和歌集」「記紀玉石辨」「三大考破邪論」「玉銚道訓」、  
「神代紀古義」「染付焼起源」「都城弁々弁」「和歌愚妹集」「瀬戸山の記」「桃山の記」外著多数、  
[守恒(;名)の通称/号]通称;右門/尚磨/為斎、号;真人/丹後/治部太夫
- F4481 **守常**(もりのね・岡田おかだ/旧姓;遠山、岡田新川の養嗣子)1774-183865 尾張藩士;1799養家継嗣、  
勘定吟味役/金奉行/寄合組与頭、詩人;1796「先友詩抄」編/1816「世説音釈」校訂、  
「暢園詠物詩」著、  
[守常(;名)の別名/字/通称/法号]別名;健治、字;子平、通称;蔵六郎/法号;淡水芳庭居士
- F4482 **守雅**(もりのね・井面いのも/本姓;荒木田、井面守訓のり男)1796-185863 伊勢宇治の神職、  
井面守典のりみちの養嗣子、1810内宮禰宜/31従三位/41正三位/42内宮長官、守重の養父、  
国学;1814本居春庭門、歌人、1811「皇太神宮年中行事記」著、  
1811「京都御年礼勤記」編・「内神宮使皇都御年頭御祝詞勤記」著(守城名)、  
[守雅(;名)の別名/通称]別名;守常、通称;綱次郎/雅楽うた/守城もりき
- F4483 **守常**(もりのね・磯部いそべ)1807- 187468 羽前鶴岡五日町の染物屋/目明しを勤める、  
国学・歌;1844鈴木重胤門、尊王思想、1859「神風融和」62「稗考」著、  
[守常(;名)の通称] 三右衛門
- J4403 **盛常**(もりのね・赤木あかぎ、通称;若狭守、俊経男)?-1873 美作英多郡川会郷上山村神社神主、  
国学・神道;平賀元義門、1868吉田三位の召きで中川寛と上京;内侍所を守衛、  
1868比叡山日吉神社の神仏分離に参加、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入、  
[比叡の山散りはながれて夕立の跡す がすがし神の広前](日吉社除物を終ひて詠)
- J4484 **守彝**(もりのね・木俣きた、守易もりやす男)1829-8658 近江彦根藩筆頭家老家の生、守盟・守迪の兄  
1845(弘化2)部屋住で彦根藩筆頭家老/1851(嘉永4)藩主直弼により父が処罰;隠居、  
家督継嗣;木俣清左衛門家10代当主;知行1万石/彦根藩筆頭家老;相模警衛の指揮、  
1860(安政7)直弼の桜田門外で没;水戸藩報復主張の藩士を抑え若年藩主直憲を支える、  
1860(万延元)彦根藩執権職/62(文久2)藩政掌握した尊攘論者岡本半介により処罰;隠居、  
弟守盟(繁之進)が家督嗣、1863不埒を理由に永蟄居、  
[守彝(;名)の初名/通称]初名;懿次郎、通称;半弥/清左衛門(代々の称)/清閑
- 守経(もりのね・安東) → 仕学斎(しがくさい・安東、儒者) B 2 1 3 3  
守経(もりのね・菌田) → 守胤(もりたね・菌田/荒木田、神職/国学) K 4 4 2 1  
守常(もりのね・長坂) → 守常(しゅじょう・長坂、俳人) I 2 1 7 0  
守常(もりのね・永田) → 格庵(かくあん・永田ながた、儒者/詩人) J 1 5 4 2  
守常(もりのね・井面) → 守雅(もりのね・井面いのも/荒木田、神職/国学) F 4 4 8 2  
守常(もりのね・井東) → 弦斎(げんさい・井東いとう、儒者) J 1 8 0 7  
守常(もりのね・三宅) → 樅園(しょうえん・三宅みやげ、儒家/詩歌) H 2 2 3 0  
守常(もりのね・山口) → 黒露(こくろ・山口やまぐち、俳人) C 1 9 4 0  
守典(もりのね;名) → 深仁親王(しんじんしんのう;法諱、真言仁和寺僧) P 2 2 5 4  
盛庸(もりのね・太田) → 万里(ばんり・太田おた、採茶庵4世俳人) I 3 6 6 3

- 守彝(もりつね/しゆい・藺田)→一斎(いっさい・藺田そのだ、禰宜/儒詩) E 1 1 1 8
- F4485 盛経母(もりつねのはは・藤原ふじわらor源みなもと)?-? 平安後期歌人;金葉2首;455/670、  
金葉集二度本では源盛経母、三奏本では藤原盛経母とある、  
詞花集歌人藤原盛経の母か→盛経(もりつね・藤原ふじわら、詞花集歌人) F 4 4 7 7  
or藤原(初め源)仲家男の皇后宮少進藤原盛経の母か
- L4496 盛貫(もりつら・藤原ふじわら、)?-? 江前期;武士/歌人;浅井忠能[難波捨草]入、  
[花ゆゑに憂身を捨てしいにしへもおもふよしのの山のおくかな](難波捨草:春36)
- K4429 守貫(もりつら・田中たなか、)1742-181473 備中浅口郡鴨方の狩野派絵師;京の鶴沢探索門、法橋、  
円山応挙・土屋素進齋と同門、仙洞御所の屏風・杉戸など制作、  
同郷の西山拙齋と親交;索我描けば拙齋賛す、  
[守貫(;名)の通称/号]通称;秀輔、号;索我、
- K4450 守貫(もりつら・常磐井ときわ、兵頭守敬2男)1751-181767 伊予大洲の神道家/家学;橋家神道、  
伊予喜多郡阿蔵村の大洲藩総鎮守阿蔵八幡宮社家常磐井家を継嗣、家塾経営、  
歌人;有栖川職仁門/神道・国学;谷川士清門/歌;賀茂季鷹・蘆庵門、近田永潔ながきよの師、  
歌;加藤泰周(大関増業ますなり)編[大洲和歌集]14首入、1817(文化14)没、  
没後;1834斎藤正直男の巖戈いしかほが家督嗣、  
[ながめつゝ思へば須摩の浦浪も今宵の月に面影ぞたつ](大洲和歌集)  
[守貫(;名)の通称/号]通称;監物/八百会/式部/伊右衛門、号;御影大人
- F4486 守諸(もりつら・藺田そのだ/本姓;荒木田、守香男/守浮もちかの養嗣)1758-181255 伊勢宇治の神職、  
1773内宮十禰宜/従四上、1802従三位/10内宮二禰宜、国学;1789本居宣長門/歌人、  
「藺田守諸権禰宜職願日記」「守諸日次」、1770「衣服刀之記」77「順年加級之扣」著、  
息子;守良・一斎(双生児)/氏朝(・藤波)、妻;磯部親門女の三津代子  
[守諸(;名)の通称] 通称;大式、  
参考 息子 → 一斎(いっさい・藺田、禰宜/儒詩) E 1 1 1 8  
→ 守良(もりよし・藺田そのだ、神職/故実) G 4 4 8 8  
→ 氏朝(うじあさ/とも・藤波ふじなみ、内宮禰宜) E 1 2 8 7
- 守諸(もりつら・鷺津/大沼)→竹溪(ちくけい・大沼/鷺津、幕臣/詩) C 2 8 8 5
- F4487 守手(もりて・中村なかむら/本姓;神門臣かんどのおみ、永井茂助2男)1820-8263 出雲飯石郡三刀屋の農家生、  
出雲大社学官中村守臣の養子、国学・歌・音韻;養父の守臣門、儒;尾張藩士秦松洲門、  
易学・軍学・茶道・本草・生花に通ず、出雲大社禰宜兼学官(;世襲)、  
1869松江藩招聘;修道館教授兼藩主指南役/73熊野大社宮司、守城もりきの父  
1854「志のふ艸」編、「多備の舎集」「一夜百首」「歌之心得」「さらしなの山つと」外編著多数、  
[守手(;名)の幼名/通称/号]幼名;磐二郎/富得、通称;文太夫/三千雄/守正、  
号;西涯/甲文丘かめおか/鼎山、諡号;亀岡延幸大人
- 守人(もりと・山田) → 千疇(ちゆう・山田、国学者) 2 8 3 9
- 守人(もりと・飯田) → 蓬室(ほうしつ・飯田、藩士/国学者) B 3 9 2 6
- 護人(もりと・大藪) → 延親(のぶちか・大藪おおやぶ/香川、神職/国学) H 3 5 7 5
- J4499 守任(もりとう・越野こしの、旧姓;吉田)?-1871 筑前遠賀郡芦屋の回船問屋、  
国学/歌;伊藤常足つねたる門、1860(万延元)麻生次郎三百回忌法要追悼歌会を主催;  
その奉納詩歌集「蓬華よもぎぐさ」の序文執筆、  
[守任(;名)の通称/屋号]通称;三郎兵衛/与七、屋号;かけや
- 守任(主任もりとう・五井)→持軒(じけん・五井ごい、儒者/歌人) D 2 1 5 3
- L4458 守遠(もりとお・宮地みやぢ、通称;大和守)1822-5837 土佐土佐郡の潮江天満宮祠官、常磐の一族、  
国学・歌;鹿持雅澄門
- 盛遠(もりとお・遠藤) → 文覚(もんがく;法諱、真言僧/平家追討進言) I 4 4 1 6
- I4467 守節(もりとき・永原) ?-? 平安期廷臣;伊予掾、歌人、  
957(天曆十一/二月)「村上天皇蔵人所歌合(蔵人所衆歌合)」参加、  
[夕暮もたのまれぬかな行く春のよるはやどりもとらじと思へば](蔵人所歌;右2)
- F4488 守晨(もりとき・もりあさ・藺田そのだ/本姓;荒木田、荒木田守秀5男)1466-1516切腹51 母;藤枝氏経女、  
伊勢宇治の神職;1478従五下内宮十禰宜/神道;氏経より奥義伝授を受/1514従四上、

- 1516一禰宜;6日後切腹自殺、荒木田守武の兄、連歌:宗長と「何人百韻」、新菟玖波1句入、  
「永正記」「内宮臨時仮殿遷宮記」「両大神宮雑事勘文」「内宮引付」「菌田守晨申状案」著
- F4489 **盛時**(もりとき・門崎かざき、通称;運太夫)1721-79 仙台藩士;藩主伊達宗村の奥小姓/公子村景の傅、  
罪を得て罷免、兵学者;武田・楠・草薙氏の兵書を涉獵/林子平と兵策問答;「兵策」問を遺す、  
馬・劍・拳・長刀・射・儀礼法の秘を伝える、歌・散楽・画・挿花に長ず、1772「大意録」伝
- F4490 **守節**(もりとき・中神ながみ、守孝男)1766-1824<sup>59</sup> 幕臣;1784家督嗣;徒士、1794湯島聖堂(昌平鬢)入、  
1798幕府の[寛政重修諸家譜]([寛永諸家系図伝]の続編)編纂に参加(;1812完成)、  
国学者/[新編武蔵風土記稿]編纂に参加/1803徒目付/1806学問所勤番組頭、  
狂歌;大田南畝門、1806南畝「ひともと草」狂文2編入、「天寛日記」「歌林一枝」著、  
「隴頭一枝春」「江戸古地図考」「江城考」「武蔵国隅田川考」著、1815「慶長年間江戸図考」著、  
[守節(;名)の字/通称/号]字;君度、通称;順次/順治/順次郎、号;梅竜園
- F4491 **盛時**(もりとき・石井い、広昌男)1778-1859<sup>82</sup> 武州大蔵村の生/長坂蘭柯門、1809御家人/幕臣、  
1825徒目付/31富士見宝蔵番/51書物奉行、「梅実余事」編/「武州越城合戦年月異同考」、  
1824「日光駅路掌故志」著、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[老が身になるとの若めかり得ぬをうらみてのみも恋ひわたるかな]、  
(大江戸倭歌;恋1487/老恨恋)、  
[盛時(;名)の別名/字/通称/法号]別名;兼傍/兼知/至穀、字;万、  
通称;万之助/市右衛門/内蔵允くらのすけ、法号;梅樹院
- K4416 **盛辰**(もりとき・関せき、) ? - ? 江後期;紀伊和歌山藩士、国学者・歌人、  
国学・歌;本居大平(1756-1833)門  
[盛辰(;名)の通称] 平兵衛/甚之助/甚五兵衛
- F4492 **守時女**(もりときのみすめ・北条ほうじょう/本姓;平、父は鎌倉幕府16代執権守時[1333没])?-? 南北朝歌人、  
叔父の鎮西探題北条英時と筑前博多に下向、足利尊氏室の登子の姪、  
勅撰2首;新拾遺(1877)新後拾(1056)、  
[知らざりき心づくしのいにしへを身の思出と忍ぶべしとは](新拾;雑1877/西国で詠)
- F4493 **守俊**(もりとし・水野みずの)1754 - ? 1818<sup>存</sup> 美濃の人/三河鳳来寺の僧:還俗し名古屋藩士、  
水野金兵衛家を興す、好事家;宇治橋断碑の復元に参加、「群集記」「水野守俊見聞録」著、  
[守俊(;名)の通称/号]通称;金兵衛/民部、  
号;白鷗/白応/伯応/梅樹軒/丹陽斎/善古軒/玉芝園
- K4459 **守壽**(もりとし・辻つじ、通称;八郎左衛門)1764-1836<sup>73</sup> 佐渡相川の地役人の家、守潤もりひろの裔、  
歌・連歌・俳諧を能くす/砲術に通ず、守富の父、☆家系→守潤もりひろ参照
- F4494 **守祀**(もりとし・菌田そのだ/本姓;荒木田、通称;内蔵之允)1794-? 1844<sup>存</sup> 伊勢の神職/正四上権禰宜、  
1839「御神領五ヶ村蔭弘木見分日記」著、
- F4495 **盛稔**(もりとし・勝間田かつまた)1801-80<sup>80</sup> 長門萩藩士;藩の諸職歴任/郡代官、  
国典を修学/歌文に長ず;恥川島太鼓湾に住;家を夜雨青嵐楼と号す、  
天保初頃萩の六百番歌合で弘正方と激論、隠居後吉城郡大内村山口住、  
「草分衣」「詩歌読方其他ニ就キ百太郎ニ与フル書」、  
[雨わたす田面にくろをあらそひて秋をゆずらぬ菊の一むら]([萩の歌人]入)、  
[盛稔(;名)の通称/号]通称;権右衛門、号;湾翁
- F4496 **杜俊**(杜駿もりとし・金子かねこ/本姓;橘たちばな)1802-77<sup>76</sup> 石見邑智郡矢上郷の国学者;  
長門萩明倫館に修学、藩主の特遇で萩椿八幡宮祠官/帰郷;自適生活;俳人、  
「石見海曾古廻伊久里」著、  
[杜俊(;名)の通称/号]通称;六郎、号;独醒園/独醒/頼圃
- J4423 **守稻**(もりとし・石黒いづる、)1811-1897<sup>87</sup> 信濃埴科郡屋代町の国学者、知雄ともおの兄、  
国学;武田識正としまさ(碓氷神主)・水沢清敏・阿波の岩雲花香はなか門、滝沢正樹の師、  
[守稻(;名)の通称/号]通称;文七、号;薄本
- F4497 **守年**(もりとし・飯田いだ、月出ひたち長右衛門2男)1815-96<sup>82</sup> 伊豆田方郡狩野村月が瀬の豪農家の生、  
田方郡牧之郷の飯田蕃恭の養子;その長女登母子と結婚/国学者・歌;竹村茂雄門、  
三島神社主典/禰宜兼中講義、俳諧を嗜む、伊豆歌壇の指導者、恭雄たかおの養父、  
「万葉集類語」「俳諧紀元論」著、家集「小田の落穂」撰、



[守年(；名)の通称] 儀助

- I4498 **盛年**(もりとし・森山もりやま、孝盛[1738-1815]男)?-? 旗本/幕臣;豊後守、漢学;父門/幼時より修学、歌;1858蜂屋光世[大江戸倭歌集]入、  
[深緑色そふ竹を老らくの友とや契る千代のためしに](大江戸倭歌;雑1759/竹為友)
- K4474 **盛敏**(もりとし・友安ともやす、三冬みふゆ男)1833-8654 讃岐高松藩士、国学者・神道;父門、1866(慶応2)藩の歴史書編修所考信閣総裁/維新後;1869藩校講道館皇学寮助教、1883皇典講究所の分所長、  
[盛敏(；名)の字/通称/号]字;士行、通称;亀吉/将曹/良介、号;象岳  
盛俊(もりとし・遠藤) → 黄赤子(おうせきし、遠藤、藩士/天文家) C 1 4 5 6
- F4498 **守富**(もりとみ・藺田そのだ/本姓;荒木田、守俊男)?-? 江中期享保1716-36頃の伊勢神宮祠官/歌人、1711「御朱印日次」、「詠十五首和歌」「詠十八首和歌」「詠二十首和歌」「歌仙連歌」、1720「文殿月次奉納詠和歌」参加、  
[守富(；名)の通称] 宮内/主計かづえ
- F4499 **守富**(もりとみ・庵原いおはら)1726?-180075? 尾張藩士;書物奉行、1749「友千鳥」著、1757-1800「庵原いおはら守富日記」、「尾陽侯記」著、  
[守富(；名)の通称/号] 通称;新九郎、号;確斎/文蘆
- K4460 **守富**(もりとみ・辻つじ、通称;八郎兵衛はちろべえ、守寿もりとし男)1800-7879 佐渡相川の地役人の家、明治初年(1868頃)学問所で教鞭を執る、歌・連歌・俳諧を能くす/珠算に通ず、  
[山たづの音もきこへずさびしきはましばの庵の五月雨の頃]  
☆家系→守潤もりひろ参照  
守富(もりとみ・荒木田) → 氏秀(うじひで/うじつら・藤波、神職/連歌) C 1 2 6 6
- G4400 **守朝**(もりとも・藺田そのだ/本姓;荒木田、守繁男)1437-150569 伊勢宇治の神職、1451従五下内宮十禰宜、87内宮一禰宜/89従四下、  
「神宮日記」「太神宮引付」「守朝長官引付」「守朝守則記」著
- G4401 **衛友**(もりとも・谷たに、谷大膳衛好男/本姓;源)1563-162765 美濃の武将;父と共に豊臣秀吉の家臣、1600西軍ながら細川幽斎の助力で丹波何鹿郡1万5千石領有;丹波山家藩初代藩主、出羽守/従五下、大坂兩陣に従軍;1626家光の上洛に列す、剣術家;根津流の祖、歌人;幽斎門、「両段集」著(；1706刊)、  
[衛友(；名)の幼名/法号]幼名;甚太郎、法号;常照院心翁荒鉄  
☆1691了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入集の[常照院]と同一か?、  
[ゆくかたをながめん空の名残だにむなしき雲に帰るかりがね](若むらさき;31)
- J4408 **盛倫**(もりとも・葦名あしな、盛寿[豊前]男)?-1803 陸奥登米郡石越邑主、国学者、盛寿[飛驒]の父、江戸総奉行職に就く、  
[盛倫(；名)の通称] 三郎/多宮/小太郎/刑部ぎょうぶ/主水もんど/豊前/大膳  
保友(もりとも・徳川) → 義和(よしより・松平/徳川、藩主/日記) I 4 7 0 5  
水主内親王(もひとりのひめみこ)→ 水主内親王(みぬしのひめみこ)
- J4430 **盛苗**(もりなえ・稲次いなづか/有馬、通称;右近)1765-182460 筑後久留米藩士;家老、国学/歌;白蓉軒桂谿けいけい・野宮定業門
- G4402 **守直**(もりなお・荒木田/家名;藺田、守則[1446-1516]男)?-? 戦国期伊勢内宮神職/連歌作者;永正二1505「賦何路連歌」(守武・尚興ひさおき・氏秀うじひでらと)
- I4450 **盛直**(もりなお・佐々木ささき)? - ? 江前期備後の俳人;立圃門、1659岡本胤及「匏屑かんなくず集」入/76常辰「枉木葛」入
- G4403 **司直**(もりなお・藤木ふじき、生直なりなお男/本姓;賀茂)1684-173855 書家;1726靈元院下北面/書博士、1731従五下/32致仕、靈元院の恩顧に与り稲葉正員より入木道七箇大事を受、子楽院近衛家熙より大事を受、1720「入木道」、「筆道本源」著、  
[司直(；名)の通称] 甲斐守
- G4404 **守尚**(もりなお・吉田よしだ、通称;勘右衛門)?-? 江中期加賀金沢藩士/藩士伴八矢方穀与力、1772本組与力;180石、武事奇談集「混見摘写」編(35年かけて編纂)
- L4417 **守直**(もりなお・不破ふわ、)1712-178170 筑後久留米藩士、和漢学;岸正和・岸静知門、神道・国学;谷川士清門、

[守直(；名)の初名/通称]初名；祐直、通称；与三兵衛

- G4405 **守直**(もりなお・生田いくた、通称；直吉、屋号；柳屋) ?-1836 備後沼隈郡の国学者/歌；香川景樹門  
守直(もりなお・安東) → 侗庵(とうあん・安東、儒者) 3 1 7 7  
守直(もりなお・木下) → 菊所(きくしょ・木下きのした、医者/詩人) K 1 6 1 2  
守直(もりなお・八木) → 宗直(むねなお・八木/日下部、幕臣/山田奉行) B 4 2 9 4  
盛直(もりなお・奥田) → 勾堆(こうたい・奥田おくた、藩士、詩文) K 1 9 4 7
- L4424 **護中**(もりなか・堀部ほりべ、) ? - 1814 美濃加茂郡加茂郡下蜂屋村の旧家/医者、  
国学・神道；吉田家入門
- G4406 **守中**(もりなか・小川おがわ/本姓；藤原、医者小川白圭斎男) 1763-1823 61 名古屋医者；藩老志水家儒医、  
医；藩受蟹養斎門/故実；京の橋本経亮門/蘭方医学；江戸宇田川玄眞・吉田長淑門、  
京の辻蘭室・名古屋の野村立栄門、雅楽を研究/琵琶；天王寺方の林広猶門、  
筆纂；京方の安倍季康門、「歌舞品目」「歌舞雑識」「楽書類纂」「楽曲徴」「楽曲原始」外著多数、  
[守中(；名)の字/通称/号]字；誠甫、通称；廉治/廉次、号；進徳斎/敬所
- J4433 **守中**(もりなか・岩佐いさ、藤左衛門2男) 1795-1847 53 佐渡加茂郡新穂村の生/岩佐家の婿養子、  
佐渡相川で医者/歌人；海野遊翁門、佐渡奉行中島平四郎と歌の唱和、  
1846(弘化3)佐渡奉行詰医に抜擢；帯刀許可、翌年没、  
[守中(；名)の通称]玄的
- L4416 **執中**(もりなか・広田ひろた、) 1840-1864 自決 25 下野宇都宮藩士、1862侍講；藩主に意見11条奏上、  
山陵修補計画策定に参加/1863(文久3)同志岸上安臣と脱藩上京；長州藩邸入、  
1864(元治元)禁門の変；真木和泉守隊に属し敗戦；山崎天王山で岸上と自決、  
[執中(；名)の通称/号]通称；精一、号；謙堂/東海、変名；太田民吉/吉見范吉  
守中(もりなか・葦原) → 守中(しゅちゅう・葦原、読本) I 2 1 9 2  
盛央(もりなか・横田) → 柳几(りゅうき・横田よこた、酒造業/俳人) D 4 9 3 0
- G4407 **盛長**(もりなが・橘たちばな) ? - ? 平安期廷臣；官人、五位、  
歌人；1091宗通歌合参加、千載集1091、  
[小山田をやまだの庵いほにたく火のありなしに立つ煙けぶりもや雲となるらん](千載；雑1091)、  
(山田の庵[謫居の身?]の微かな煙も雲となり人目に映るだろうか/庵主に境遇を重ねる)
- G4408 **盛長**(もりなが・惟宗これむね) ? - ? 鎌倉中期廷臣；五位/檢非違使尉/1251筑後守、  
歌人/勅撰2首；続後撰987/新後撰1489、  
[うらみわびぬぬ夜かさなる唐衣夢にも人は遠ざかりつつ](続後撰集；恋987)
- G4409 **守長**(もりなが・丹波たんば、尚長なおなが男) ?-? 南北期医者；典薬助/従五下、行長の弟、  
歌人；1366年中行事歌合[公事五十番歌合]参加(二条良基催)/連歌；菟玖波；3句入、  
[長月やおくるにぎてに伊勢の海の浪のしらゆふかげやそふらん]、  
(年中行事歌合；廿七番右；例幣)
- G4410 **盛長**(もりなが・丹波たんば、定長男) ?-? 室町期医者；施薬院使/典薬頭、  
歌人；1443前摂政家歌合(一条兼良催)参加、  
[天地あめつちの春をしれとや神代より霞たなびきこほりとくらん]、  
(前摂政家歌合；初春十三番左)
- G4411 **盛長**(もりなが・安富やすとみ、盛範男/本姓；紀) ?-? 室町期東讃岐雨滝城主、守護細川勝元の重臣、  
東讃岐守護代/長禄1457-60頃社家奉行；雨滝城築城/勝元四天王(香西・香川・奈良氏と)、  
連歌；1466?成立「熊野法楽千句」(熊野千句)興行(興行年不詳；勝元・心敬・行助・宗祇ら)、  
[盛長(；名)の通称] 民部丞/山城守
- C4456 **盛長**(もりなが・東坊城ひがしほうじょう、初名；為治、為康男/長淳養子/本姓菅原) 1538-1607 70 廷臣；  
1560文章博士、1580参議/氏長者/82式部大輔/84権中納言/1606致仕、  
聯句；1556三条西公条催「大覚寺和漢千句」参加、狂歌；1666「古今夷曲集」入、  
[忍ぶ夜の松風のみか颯々さつさとやぶれ紙子かみのうらめしの身や](古今夷曲集；七恋、  
詞書「依恋恨貧こひによりてひんをうらむ」、人目を忍び通う夜の歌/謡曲「高砂」；相生の松颯々の声)
- J4477 **守長**(もりなが・木俣きた/本姓；橘、守明男) 1644-1722 79 近江彦根藩家老の家の生、  
1681(天和元)父隠居；家督嗣；木俣家4代当主、知行8千石/88筆頭家老；加増受け9千石、  
1891(元禄4)藩主井伊直興の命で家中由緒書を作成/1702次男守吉が井伊直興女と婚約、

1710(宝永7)長男守盈に家督譲り隠居、歌人；[彦根歌人伝・鶴]入、守盈・守吉の父  
[守長(；名)の通称/号]通称；半弥/土佐(代々の称)、号；良閑

参照 → 守勝(もりかつ・木俣きまた、初代) F 4 4 3 2

- I4483 **盛永**(もりなが・伊藤いとう) ? - ? 長門赤間関の大年寄/本陣経営、  
シーボルトと親交/奥平昌高と交流、1808菊舎尼に炉開雅筵のため持仏堂空月庵を貸す、  
[盛永(；名)の通称]通称；李之允、蘭名；ヘンリック・ファン・デン・ベルグ
- K4417 **盛長**(もりなが・関せき、通称；藤太郎)?-? 江後期；薩摩鹿兒島藩士/国学者/歌人、  
歌；八田知紀(1799-1873)門・国学；後醍院眞柱みはしら(1805-79)門  
盛長(もりなが・日根野) → 対山(たいざん・日根野ひねの/中原、絵師) K 2 6 1 0  
盛永(もりなが・高橋) → 乗専(じょうせん；法諱、真宗僧) T 2 2 9 2  
盛永(もりなが・大国) → 士豊(しほう・大国おおぐに、絵師) F 2 1 7 1
- G4412 **護良親王**(もりなが/もりよしんのう、法名；尊雲、後醍醐天皇皇子)1308-35殺害28 母；民部卿三位、  
大塔宮、天台座主、還俗；討幕活動/父と建武新政を施行、征夷大將軍、  
尊氏により鎌倉幽閉/渡辺義博により殺害
- G4413 **守永親王**(もりながしんのう、尊良親王男)?-? 母；今出川公頭女/後醍醐天皇の猶子、  
南朝；上野太守、歌人；新葉集；8首(74/189/209/623/654/740/806/1298)、  
号；一品宮/西応寺、  
[咲きそむる花やまがふと白雲に心をかけぬ山の端もなし](新葉集；一春74)
- G4414 **守夏**(もりなつ・菌田そのだ/本姓；荒木田、守洪もりひろ男)1668-172457 伊勢宇治の神職/1690従四下、  
内宮九禰宜、1699神御衣祭再興に尽力、1709正四上/1718三禰宜、  
和漢学修学；神典・国史に精通、  
「万寛集」「神器考証」「神宮大成記」「守夏随筆」「守夏筆乗」「守夏日次」「守夏覚書」、  
「和歌鎮終記」「神事提要」著、1695「勢陽類編」編/91703「御船神社修造勘例」外編著多数、  
[守夏(；名)の通称]源十郎/将監、守敬の兄、守浮もりちかの父
- K4464 **盛夏**(もりなつ・堤つみ、盛受もりうけ男)1806-4944 伊勢度会郡の内宮神職、国学者、盛雄もりたけの父、  
[盛夏(；名)の初名/通称/号]初名；盛隆、通称；長門、号；双溪
- G4415 **盛業**(もりなり・大国おおぐに、盛行男/本姓；荒木田)1777-184468 伊勢宇治の神職；正六位内宮権禰宜、  
五十鈴宮師職、国学・歌；本居宣長・春庭門、書；中西伯圭門、俳諧；徳田椿堂門、  
「家田」「山河」著(1847子息盛宗編刊)/1804「巨州翁盛業遺稿」、士豊しほうの兄、盛宗もりむねの父、  
[盛業(；名)の通称/号]通称；左内/丹波、号；巨州
- J4474 **守約**(もりなり・木下きのした、)1840-190566 信濃飯田の国学者；平田鉄胤門、  
[守約(；名)の通称] 郁三郎/孫六/由巳  
森之進(もりのしん・小林) → 勝清(かつきよ・小林こばやし、大庄屋/歌) U 1 5 6 2
- G4416 **守信**(もりのぶ・林はやし) ? - ? 1571存 武将；肥後御船城主?、中務少輔、連歌作者；  
1571百韻興行(；雅敦・紹巴・昌叱・心前ら参加)
- M4402 **盛信**(もりのぶ・大森おおもり、)?- ? 江前期；上方の歌人、  
1670下河辺長流[林葉累塵集]2首入、  
[ひむがし山しるだにといふ所にあひしれる人の庵をしばしの間借りて移り住む、  
かりそめのやどりながらの山里にのがるべき世をいざ心みむ](林葉累塵；雑1205)
- J4455 **盛信**(もりのぶ・大平おおひら、旧姓；大井)1652-171867 江戸の幕臣；御納戸組頭/裏御門番頭、国学者、  
[盛信(；名)の通称]角大夫/喜大夫/喜兵衛
- G4417 **盛信**(もりのぶ・吉川よしかわ、通称；半次)?-? 江前中期；京の絵師；浮世草子の挿絵、  
1717「忠義太平記大全」画
- G4418 **盛信**(もりのぶ・葦名あしな、盛定男)?-1777 陸奥(陸前)登米郡石越邑主、歌人；竹内惟庸門、  
父の代に針生はりゅうから本姓葦名に改正、盛連の養父、「暁月集」著、  
[盛信(；名)の幼名/通称]幼名；小太郎、通称；刑部ぎょうぶ、号；暁月庵/霜桂
- G4419 **守約**(もりのぶ・塙はなわ、通称；正吉)?-1834 羽後秋田の兵法家；小野寺道維門、「軍法議論編」、  
「極秘御居城秘考」「おち古保礼」「松風漫語」「養生雑記」著、「長野先生夜話集」編
- G4420 **盛信**(もりのぶ・淀川よどがわ、初名；盛業/通称；東市郎)1812-? 羽後秋田の国学者；1842平田篤胤門、  
「御道中記」著、淀川盛品もりただ著「陸奥羽街」補填；盛品と同族か？



- K4494 **守信**(もりのぶ・馬場ばば、) ? - 1869 尾張名古屋藩士;御蔵奉行、  
神道・国学・歌;氷室長翁ながとし(1784-1863)門、  
[守信(;名)の通称/号]通称;多喜之助/多喜助、号;一巢いっそう
- G4421 **守宣**(もりのぶ・藺田そのだ/本姓;荒木田、守約男)1823-8765 伊勢山田の神職/国学・歌;八羽光穂門、  
神典・故実精通、1825内宮権禰宣/62従三位内宮四禰宣/私財を投じ神事に尽力、  
1871内宮一禰宣/皇太神宮禰宣;祭典課長・権少教正を兼任/83致仕、「二冠記」「祝詞愚意」、  
「伊射波神社考」「鹿海神社古実」「皇太神宮撰社末社考」「月夜見宮小伝勘例」外著多数、  
[守宣(;名)の幼名/通称/号]幼名;喜久丸/幾久丸/菊丸、通称;誠之助(介)/若狭、  
号;芝翁/or芸翁うんおう
- K4445 **守命**(もりのぶ・竹内たけうち/旧姓;藤岡、)1838-190770 信濃安曇郡木舟村の貴布禰神社祠官、  
国学;竹内為明(養祖父)門/平田鎮胤門、  
[守命(;名)の通称]喜六/禰/大炊おおい
- K4466 **盛言**(もりのぶ・堤つみ/本姓;荒木田、)1844-191168 伊勢度会郡の内宮権禰宣、  
国学・歌;橋村淳風きよかぜ門、  
[盛言(;名)の通称]初丸/主水
- 守信(もりのぶ・狩野) → 探幽(たんゆう・狩野、絵師) I 2 6 6 1  
守信(もりのぶ・常盤井) → 巖戈(いしかほこ・常盤井ときわい、神主/国学) F 1 1 1 7  
守信(もりのぶ・藤原) → 鎮衛(やすもり・根岸/安生、幕臣/随筆) D 4 5 3 2  
守信(もりのぶ・斎藤) → 赤城(せきじょう・斎藤さいとう、儒者/教育) K 2 4 2 2  
もりのぶ(廿巻本女四宮歌合) → 守文(もりむむ・朝臣、廷臣/歌) G 4 4 4 8  
森之屋(もりのや) → 素檠(そぼく・藤森、商家/俳人) E 2 5 2 5
- G4422 **盛徳**(もりのり・藤原ふじわら、盛継男)?-? 鎌倉南北期の人/廷臣;五位/対馬守、1324前に出家、  
歌人;二条派、1314「為世勸進春日社三十首」35「内裏千首」出詠、頓阿・公順・元可の家集入、  
1337「十八代集作者部類」編(「勅撰作者部類」の母胎)、「古今秘聴抄」著、  
拾遺現藻集・続現葉集・松花集・臨永集・藤葉集(2首)などに入集、  
勅撰16首;新後撰(1367)続千(1041/1966/2019)続後拾(2首)新千(5首)新拾(357)新続古、  
[すみわびばたちかへるべき故郷をへだてなはてそ峰の白雲](新後撰雑1367)、  
[あくるよの山路のきりに立ちわかれ稲葉の風にをしか鳴くなり](藤葉;秋210)、  
[盛徳(;名)の通称/法名]通称;中条兵庫頭入道、法名;元盛(元盛法師)  
息女 → 万代(ばんだい・後醍醐院女蔵人、歌人) I 3 6 3 7
- G4423 **守則**(もりのり・荒木田あらかだ/家名;藺田、守喜男)1446-151671 神職;1455内宮禰宣/1505一禰宣、  
連歌作者、守武の従兄弟、1707「神路山かみじやま」、「神宮日記」「守朝守則記」、守直の父
- L4495 **守矩**(もりのり・水野みずの、忠矩ただのり、守政長男)?-1693 旗本・幕臣の世子;1657將軍家綱に謁、  
内藤清枚・成瀬正章室の兄、妻;伊沢政成女、歌人、父に先立ち没、  
[雪消えぬ谷の戸ながら鶯のなく音に春はよそとしもなし]([鳥の迹]春46/守矩)  
茂睡[鳥の迹]哀傷に、  
[水野守矩はかなくなりて後、終る時読みし歌の三十一字を一字づつ句の上に置いて、  
追善歌を高野幽三勸進]の京極兵部高門・酒井帯刀忠真・上杉采女義陳・柳陰堂の歌あり
- J4465 **守典**(もりのり・梶谷かじたに、)1742-180362 伊予八幡浜の医者、国学;本居宣長門、  
野井安定・野田広足・二宮正禎と共に[宣長四門]と称し南予の国学先駆者となる、  
息女;楨(万亀女まきじよ、1785-1844)、養嗣子;菊池守清もりきよ(1772-1800/医者)、  
婿養子;守久(1782-1847/楨の婿/医者)、  
[守典(;名)の通称]喜八/承慶
- K4432 **盛令**(もりのり・田中たなか/旧姓;丸山、)?-1798 近江彦根藩士/国学・歌;小原君雄(1752-1835)門、  
歌;[彦根歌人伝・寿]入、  
[盛令(;名)通称]喜助/喜作/方右衛門
- G4424 **守訓**(もりのり・井面いのも/本姓;荒木田、守純男)1767-184276 伊勢度会郡宇治神職;  
1811従三位/31正三位、1781伊勢内宮禰宣/のち内宮長官、守堅もりかた(旧姓沢田)の養父、  
国学/歌;1787本居宣長門/1810本居春庭門、音韻語源の研究、  
1821「井面守訓祝詞文」40「東家歌抄」、「渚の藻屑」「藻屑歌抄」「朝日のにほひ」外著多数、

- [守訓(；名)の幼名/通称/号]幼名；楠麿、通称；右近、号；東家(主人)/井面館/あさみ笠  
 K4431 **守規**(もりのり・片山かたやま、別号；墨雲斎、守春5男)1772-183362 備後芦田郡府中の狩野派絵師、  
 法橋に叙せられる
- G4425 **守典**(もりのり・榊原さかきばら/初姓；上田)1791-187585 加賀金沢の儒者、今枝内記臣の榊原家の養子、  
 1859小松在勤/63金沢住、詩文・書画に長ず、1811-62「窓燈集」/「金城風藻」著、  
 「アジャコレラを避る薬方等」著/「蘆城風藻」編、守郁[思斎]/有邑の父、  
 [守典(；名)の字/通称/号]字；子典、通称；三郎、  
 号；拙処/三痴/蘭所/夢松/一翁/逸翁/梅下書屋、
- G4426 **盛矩**(もりのり・神戸かんべ、盛象男)?-? 江後期加賀藩士；1797家督嗣/1802江戸御広式御用人、  
 物頭並/大組頭/1839致仕(月花翁と号す)、刀劍鍛法；2世泰平門/(雲牛軒と号す)、  
 「加賀鍛冶系図考」(化政頃著)/「刀劍得失考」著、  
 [盛矩(；名)の通称/号]通称；加平、号；月花翁/雲牛軒れいぎゅうけん
- J4478 **守位**(もりのり・木俣きたた/本姓；橋、)1782-183756 近江彦根藩家老、歌人；[鳩のうみ]入、  
 [守位(；名)の通称]互理
- J4431 **盛矩**(もりのり・稻次いなつぐ/有馬、盛苗男)1799-183335 筑後久留米藩士；家老、国学者；父門  
 [盛矩(；名)の通称]壹岐
- L4403 **盛徳**(もりのり・服部はつとり、通称；善七/号；楽甫)1825-8359 近江甲賀郡出身、国学者、近江神崎郡住  
 L4479 **盛徳**(もりのり・山下やました、通称；剛兵衛)1831-190979 薩摩北郷氏の日向都城領の藩士；納戸奉行、  
 国学者
- K4476 **守得**(もりのり・奈良原ならはら、別名；守衛/晴麿、舎幸いえゆき男)1847-191064 上野勢多郡の国学者、  
 国学；平田鋏胤・松沢直通門  
 守典(もりのり・中沢) → 景山(けいざん・中沢なかざわ、絵師) F 1 8 7 6  
 守典(もりのり・岸) → 達巻(たつこう・岸/修姓；崖、儒者/地誌) R 2 6 5 9  
 守紀(もりのり・山本、守起) → 探淵(たんえん・山本やまもと、絵師) K 2 6 0 4  
 守範(もりのり・山下) → 守範(しゅはん・山下やました、絵師/俳人) J 2 1 0 0  
 盛教(もりのり・松倉) → 嵐蘭(らんらん・松倉まつくら、俳人) 4 8 0 7  
 盛徳(もりのり・長山) → 菱涯(りょうがい・長山ながやま、文筆家) G 4 9 8 4  
 盛徳女(もりのりのむすめ・藤原) → 万代(ばんだい・後醍醐院女蔵人、歌人) I 3 6 3 7
- G4427 **盛見**(もりはる/もりみ/あきら・大内おおうち、弘世男/本姓；多々良)1377-1431討死55 武将；従四上左京大夫、  
 周防・長門・筑後・豊前の守護/1418-宇佐宮造営、1430大友・少弐と紛争；筑前深江で敗死、  
 歌人；耕雲門；師より「古今集難句注」を伝受、五山僧と交流；大内版を印行、義弘の弟、  
 幼名；六郎、法号；国清寺大先徳雄、「盛見詠草」「氷上山興隆寺縁起」著、  
 新続古今集1首1731、  
 [めぐりあはん頼みを月に契りても我が世ふけ行く秋ぞはかなき](新続古今；雑1731)  
 兄 → 義弘(よしひろ・大内、守護/歌/連歌) G 4 7 5 3
- K4430 **守春**(もりはる・片山かたやま、)1720-179475 備後芦田郡府中の狩野派絵師/法橋、  
 [守春(；名)の号]墨随斎/素準斎/鯨序斎、素準斎守規の父
- L4474 **盛治**(もりちか・矢田部やたべ、旧姓；橋爪)1824-7148 遠江掛川藩家老橋爪家の生、国学者、  
 1843(20歳)伊豆三島神職矢田部伊織盛正の養子/1850(嘉永3)67代三島神社宮司；  
 66代盛正を継嗣、1854安政大地震；69社殿再建、1868祇園原に新田開発；祇園原用水建設、  
 救世愛民の精神で災害のたびに救済事業、  
 1868戊辰戦争時；医津伊吹隊を結成し東征軍に参加、盛次もりつぐの父、  
 [盛治(；名)の通称]岩吉/式部
- G4428 **盛彦**(もりひこ・松木まつき、輔彦男/本姓；度会)1588-166679 松木匡彦の養子/伊勢外宮神官、権一座、  
 「荒木田祖考録」「松木盛彦細談」「外宮権官祭服記」「寛永七年外宮由奉幣儀式」著、  
 「盛彦残筆」、俳人；1633重頼「犬子集」4句入、満彦の父、  
 [鼻の穴むめあまりたる句ひかな](犬子集；一146/埋めと梅の掛詞)
- ☆[松木外宮禰宜家]匡彦-**盛彦**(養子)-満彦 ┌ 直彦-智彦-卓彦-言彦-算彦-品彦(養)-偉彦(養)  
 └ 親彦-条彦-意彦-宅彦-恒彦-武彦-偉彦 ↑
- I4458 **守彦**(もりひこ・小尾おび、蕪庵3世)?-? 江後期甲斐五町田村の里正/教育者、俳人；五味蟹守門、

蕪庵を継嗣、1834「土鳩集」編、追善集「旭露集」(清水彦貫編刊)、  
清水彦貫・植松田彦・小尾四友の父;各々蕪庵を継承

- K4475 **盛彦**(もりひこ・豊間とよま、通称;源之進)1835-68<sup>34</sup> 出羽久保田(秋田)藩士/国学者;平田鏡胤門、  
国学・歌;吉川忠行門  
守彦(もりひこ;名) → 尊円親王(そんえんしんのう、天台座主/書・歌) 2 5 3 2  
守彦(もりひこ・田辺山) → 賢亮(けんりょう・梅之本うめのもと、僧/歌人) N 1 8 6 2
- G4429 **盛久**(もりひさ・金刺かなさし) ? - ? 鎌倉後期1308-17頃信濃諏訪下社神職;五位大祝、  
武芸;流鏑馬の名手;諏訪七郎盛綱門/秘伝相伝、満貞の弟?、歌人:1310為相?「柳風抄」入、  
勅撰2首;新後撰1448/玉葉1965、  
[そむくべきことわりしらぬ心こそうき世に身をばをしみとめけれ](新後撰集;雑1448)、  
[なくむしの涙のうへの草の葉にことつゆそふるよひのむらさめ](柳風抄;秋69)
- J4466 **守久**(もりひさ・梶谷かたに、号;三圭)1782-1847<sup>66</sup> 伊予大洲の医者、伊予八幡の梶谷守典の養子;  
守典女の楨(万亀子/歌人/1785-1844)と結婚、医・国学;二宮正禎まさただ門、  
盛久(もりひさ・杉浦) → 盛樹(しげき・杉浦さざうら、陪臣/歌人) Z 2 1 0 1  
守古(もりひさ・森田) → 千庵(せんあん・森田もりた、蘭医者) L 2 4 5 5
- G4430 **守秀**(もりひで・荒木田、守房男)?-1478 伊勢内宮神職;三禰宜、  
妻;藤波氏経女、守氏・守晨・守武の父
- G4431 **盛英**(もりひで・井関いざき/越智/井門)?-1696 伊予宇和島藩士;1667郡方役人手伝;寛文検地、  
先祖は河野氏の家臣、中祖の盛景が伊予宇和郡井関城にあり井関を称す、  
三人扶持切米六石/のち一人扶持切米二石加増/1695隠居後一人分6俵を受、典拠に通ず;  
源氏物語を書写し藩主伊達宗利夫人に献上、1681「宇和日記」、「弑墅截いっしょせつ」著、  
[盛英(;名)の幼名/通称/号]幼名;五郎兵衛、通称;又右衛門、号;徳相軒
- G4432 **守秀**(もりひで・菌田そのだ/本姓;荒木田、守房3男)1696-1773<sup>78</sup> 伊勢宇治の神職/1718従四下、  
内宮九禰宜/53内宮一禰宜/71従二位、「守秀日記」、「文殿月次歌」著
- J4439 **盛栄**(もりひで・浦上うらみ、)1767-1820<sup>54</sup> 備後府中の商家/公共事業家/歌人、  
1799(寛政11)大戸直純と私塾楽群館を開設、福山義倉に出資、  
[盛栄(;名)の字/通称/号]字;士礼、通称;甚兵衛、号;溪南
- J4450 **盛栄**(もりひで・小野田おのだ、通称;権之助)1779-1826<sup>48</sup> 近江彦根藩士;江戸詰/武術・歌に長ず
- G4433 **盛秀**(もりひで・野村のむら、野元のもと元綱男)1831-73<sup>43</sup> 野村家を継嗣/薩摩藩士;島津忠義に出仕、  
薩英戦争で英艦捕虜の五代友厚の真情を訴え釈放に尽力/1867パリ万国博使節の随員;渡仏、  
維新後;長崎裁判所判事/長崎県知事など、1860-「野村盛秀日記」、「野村盛秀洋航日記」著、  
[盛秀(;名)の通称] 宗七
- K4410 **盛栄**(もりひで・白井しらい、通称;伊兵衛)1844-1909<sup>66</sup> 近江野洲郡の酒造家、  
国学者/歌人;[鳩のうみ]入
- G4434 **守人**(もりひと・津守つもの宿禰[;姓])?-? 奈良期住吉大社神主/遣唐使、  
731「住吉大社神代記」(津守嶋麻呂と共著;言上)
- I4440 **守仁**(もりひと・藤原ふじわら、安親やすちか男)?-? 母;藤原道明女、平安前期廷臣;従四下/山城守、  
歌:960天徳四年内裏歌合(:父安親と女房和歌合に参加)、時清の兄  
守人(もりひと・飯田) → 蓬室(ほうしつ・飯田、藩士/国学者) B 3 9 2 6  
護人(もりひと・大藪) → 延親(のぶちか・大藪おおやぶ/香川、神職/国学) H 3 5 7 5
- K4434 **森姫**(守姫もりひめ・田安たやす、近衛家久女)1721-1786<sup>66</sup> 京の生/江戸の田安宗武の妻、歌人、  
誠姫・裕姫・小次郎・鍊之助(英菊)・仲姫・治察(田安家2代/1753-74)・節姫の母、  
[森姫(;名)の別号/号]別号;通子(通姫)/知姫、号;宝蓮院  
盛姫(もりひめ、徳川家斉女) → 直正室(なおまさのしつ・鍋島、文筆家) C 3 2 4 9
- G4436 **守平**(もりひら・荒木田あらかた/家名;井面、字;与左衛門、守順男)?-1597 神職;内宮禰宜、御師の活動、  
連歌;1542宗牧・守武らと「何路百韻」/95「二根にこん集」編、守将の父
- G4437 **盛衡**(もりひら・堤つみ、幼名;藤九郎)1698?-1760<sup>63?</sup> 伊勢内宮権禰宜/従五下、国学、  
1707「御神楽由来」著
- K4455 **守潤**(もりひろ・辻つじ、通称;八郎左衛門)1585-1669<sup>85</sup> 佐渡相川の州吏(佐渡奉行所地役人)、  
歌・連歌を能くす、相川辻家初代、家督は養子守遊(しゅゆう/もりゆき、前田真近2男)が継嗣、



- 守潤(初代) - 守遊しゅうゆう/もりゆき(養子) - 守継もりつぐ - 守稠もりしげ … 守壽もりとし - 守富もりとみ
- G4438 **守広**(もりひろ・依田よだ、通称; 十郎左衛門/十郎左衛門尉)?-? 安桃江戸初期の禰津流鷹匠、1616「鷹書」「新鷹仕立次第」著、「鷹狩記根津流」伝
- G4439 **守洪**(もりひろ・藺田しのだ/本姓; 荒木田、守員男)1641-1705<sup>65</sup> 伊勢の神職; 1653従五下内宮十禰宜、1698正三位・内宮一禰宜、「宮殿萱制」「伊雑宮遷宮記」「守洪日記」著/1694「宮殿方制目録」編、1694「両宮殿舎方制」外編著多数、連歌; 1679「延宝千句」参加; 氏富らと、[守洪(;)名]の通称] 松之丞、 守夏もりなつ・守敬もりよしの父
- G4440 **守熙**(もりひろ・栗阪あわさか、別名; 守方)?-? 江中期肥後の八代城代松井家の家臣/家督、松井直之に出仕/のち出家、地誌研究; 熊本藩家老山名聴水の命で細川家五代の事蹟著作、1717「細川全記」、「八代人境考」、栗阪守政の孫、[守熙(;)名]の通称/号]通称; 伊左衛門/一太夫/市大夫、号; 恕軒(;)剃髮号)
- G4441 **守弘**(もりひろ・河野こうの/本姓; 越智、石崎通興男)1793-1863<sup>71</sup> 石崎家は伊予河野氏末裔、下野芳賀郡長沼の生/1814(22歳)結婚; 江戸に出奔; 河野を名乗る/国学・狂歌; 浅草市人門、のち帰郷し地誌編纂、勤王思想; 志士と交流/外孫河野通桓に影響を与う、1848「下野国志」編、「三音対格」「字音用格注解」「常陸国誌」著、「詞のやちまた外伝」補填、[守弘(;)名]の初名/通称/号]初名; 通弘、通称; 為蔵/伊右衛門、号; 浅芳庵/壺聚園/櫛園きゅうえん/氈屋せんおく、法号; 徳誉弘山道輝清居士
- I4496 **守弘**(もりひろ・川井かわい) ? - ? 江後期; 歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[蓬生の荒れたる宿も身の程に寒さぞしのぐ麻手小袷](大江戸倭歌; 冬1194)
- J4404 **盛寛**(もりひろ・大塚おつか、別名; 寛治)?-? 播磨竜野藩士、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入、[出でましのおほみ車の跡絶えて幾代経にけむ奈良の大路は](巨勢千首; 奈良にて詠)
- 守熙(もりひろ・鶴沢) → 探索(たんさく・鶴沢つるさわ)、絵師 I 2 6 7 5
- 守文(もりふみ・藤原) → 守文(もりふみ/もりふん/もりふう)・藤原、廷臣/歌) G 4 4 4 7
- 盛宥(もりひろ・森山) → 孝盛(たかもり・森山、幕臣/国学) D 2 6 9 1
- G4442 **盛房**(もりふさ・藤原ふじわら、定成男)?-? 1103存 母; 藤原惟規女?、平安中期廷臣; 従五下、1092肥後守、藤原師実・師通家の家司?、歌人; 二条関白師通家歌会参加、源俊頼と親交、1075「三六歌仙伝」著、後葉集・言葉集・夫木抄入集、金葉集95、[夏山の青葉まじりの遅桜初花よりもめづらしきかな](金葉; 二夏95/師通邸にて余花) ☆**盛房の供の侍**; 続詞花集; 連歌入集、[藤原盛房 越前のあすは(足羽)の宮に参りて又の日帰るとてかくいひければ、すゑを供なるさぶらひつけける、昨日来てけふこそかへれあすはより三日のはらゆく心地こそすれ](続詞花; 物名942)(明日は; 足羽/三日のはら; 山城の瓶原の離宮)
- G4443 **盛房**(もりふさ・北条ほうじょう、政氏男/本姓; 平)1242-97<sup>56</sup> 鎌倉期武将; 五位左近将監/丹波守、1288六波羅探題(南方)、歌; 新後撰集1021、[あだになど思ひそめけん朝露のおきわかれても消えぬ命を](新後撰; 恋1021)
- G4444 **守房**(もりふさ・吉田よしだ/本姓; 藤原、定房男)?-? 南朝の廷臣; 侍従/蔵人頭/右大弁/大納言/従一位、歌人; 新葉2首; 283/1053、[菵の戸の花も色そふ白露に千代の数みる玉しきの庭](新葉集; 四秋283)
- G4445 **盛房**(もりふさ・出淵でぶち/いづぶち、通称; 平兵衛、盛許男)?-? 新陰流出淵派の祖出淵盛次の孫、江前期越前福井藩士; 新陰流剣術家、1679「新陰流兵法免目録」著
- 盛房(もりふさ・横田) → 柳也(りゅうや・横田、布袋庵2世/俳人) F 4 9 8 1
- G4446 **守藤**(もりふじ・荒木田あらかた/家名; 藺田、行世男)?-? 1358存 伊勢神宮神職; 1331内宮十禰宜、1358四禰宜/従四位、守元の父、歌人; 新千載集957、連歌; 菟玖波2句入、[みなかみは深き神路の山ぞともみもすそ河の流れにぞ知る](新千載集; 神祇歌957)
- G4447 **守文**(もりふみ/もりふむ/もりふう・藤原ふじわら、有声もちな男or有敏男)?-951 母; 扶相王女、平安前期廷臣; 大蔵大輔/伊賀守/従五下、歌人; 藤原清正と贈答歌、後撰集3首270/1028/1409、[草の糸にぬく白玉と見えつるは秋の結べる露にぞありける](後撰; 五秋270)
- 盛履(もりふみ・中山) → 葦菴(あしが・中山なかやま、医・藩儒) 2 4 8 5

- G4448 **守文**(もりふむ;朝臣/姓不詳/別本;もりのぶのあそむ) ?-? 平安期廷臣;歌人、  
972(天禄3)女四宮規子内親王前裁合[野宮歌合]参加(判者源順/二十卷本;もりのぶ名)、  
[あだしののくさむらにのみまじりつるにほひはいまや人に知られむ](女四宮歌合;8、  
物名;紫蘭しらに;ふじばかまの異名)
- L4489 **執冬**(もりふゆ・吉松よしまつ、) 1747-1818 72 土佐高知藩士、和漢学者、  
増春ますはるの父/萬齡かづながの祖父、  
[執冬(;)名)の通称]甚太夫/甚右衛門
- 4428 **守部**(もりべ・橘たちばな、飯田元親男/本姓;北畠・源) 1781-1849 69 母方楠氏の本姓[橘]を名乗る、  
伊勢朝明郡小向村の人/1792一家破産/大阪住/97江戸住;ほぼ独学で国学修学/歌人、  
記紀万葉研究、宣長学を批判、1816「神風問答」33「万葉集緊要」34「湖月抄別記」38「心の種」、  
1842「難古事記伝」「万葉集墨繩」/44「稜威道別いつのちわき」46「稜威言別いつのことわき」、「雅言考」、  
家集「穿履うけぐつ集」、「詠歌玉津嶋」「巨海集おほむね」「越路の家づと」「蘆荻鈔」外著多数、  
蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、妻;政子、冬照・浜子(歌人)の父、  
[山がつが夜半にそひねのほた火こそ寒さ忘るるつま木なるらめ](大江戸倭歌;冬1316)、  
[海越えて八十島渡るあしたづもさすが御国の秋や恋ひしき](同;雑1779)、  
[守部(;)名)の幼名/別名/通称/別号]幼名;旭敬あさいや/吉弥、別名;元輔、通称;源助/庭麻呂、  
別号;蓬壺、波濺舎なざさのや/池庵/生薬園いくすりぞの/椎本しいがもと、法号;深達院  
守瓶(もりべ・池田) → 木蔭(こかげ・池田いけだ、狂歌) Q 1 9 3 2
- 4429 **守部王**(もりべのおおきみ、舎人親王男) ?-? 771前没 三原王・船王の弟/淳仁天皇の兄、万葉四期歌人、  
天平六734年難波宮行幸従駕の時応詔(万葉999/1000)、740従四下・従四上、猪名王の父、  
[血沼廻ちぬみより雨そ降り来る四極はつのは白水郎あま綱手綱あみてづな乾せり濡れもあへむかも]、  
(万葉;999/血沼は大阪湾和泉の地/四極は大阪湾住吉の地)
- G4449 **盛雅**(もりまさ・藤原ふじわら、右馬助範綱男) ?-? 平安後期廷臣;散位従五位下/良清・覚綱の兄、  
歌人;月詣集入、千載集418、  
[散りはててのちさへ風をいとふかなもみちを葺ふけるみ山べの里](千載;六冬418)
- G4450 **守昌**(もりまさ・橋本はしもと) ? - ? 江前期俳人、  
1670「物名誹諧千句」編(;)每延序/物名を賦した独吟十巻と追加市巻入)
- L4493 **守政**(もりまさ・水野みずの、荒尾重就男) 1623-1716 長寿 93 祖父の旗本水野守信の養子、  
1638(寛永14)守信没;家督継嗣/従五下/伊豆守/備中守、定火消/布衣着用許、1673持筒頭、  
1676百人組頭/82加増され禄5700石/1685(貞享2)大目付/87留守居、室;内藤正勝女、  
1888(元禄元)罪を得て小普請に降格;出仕停止、89赦免、1715(正徳5/95歳)没、  
水野忠矩・内藤清枚・成瀬正章室の父、家督は養子忠慎(荒尾帯刀男)が嗣、  
[守政(;)名)の初名/通称]初名;守行、通称;左京/半左衛門、
- J4476 **守将**(もりまさ・木俣きたた/本姓;橘、守貞男) 1737-1797 61 近江彦根藩家老家の生、  
1748(延享5)父没;家督嗣;木俣清左衛門家7代当主、彦根筆頭家老;知行1万石、  
1755(宝暦5)藩主直幸の命で勝手方俵約取締頭取に就任;財政改革を推進、  
1761(宝暦11)積銀仕法に反対する愛知川筋農民の一揆(積銀騒動)発生;問責で閉門、  
嫡男守前が家督嗣、歌人;[彦根歌人伝・鶴]入、  
[守将(;)名)の通称]大隅/土佐(代々の称)  
参照 → 守勝(もりかつ・木俣きたた、初代) F 4 4 3 2
- G4451 **盛昌**(もりまさ・森田もりた、) 1667-1432 66 加賀金沢藩士;1683金沢藩臣茨木家の近習御用、  
1687家督継嗣、1731致仕、武術に長じ画・連歌を嗜む、1697「宝の冊子」/1717「能州紀行」著、  
1722「自他群書」編/27「咄随筆」著、「能州紀行二種」編/「飛州高山在番雑記」著、  
[盛昌(;)名)の別名/通称/号]別名;自参、通称;小兵衛/平之丞、号;西岸/簾雨斎
- G4452 **守雅**(もりまさ・葛目くずめ) ? - ? 土佐の国学者/歌;谷真潮まほ[北溪]門、  
1794谷真潮「北溪先生歌集」編?
- I4483 **盛正**(もりまさ・生島いしま) ? - ? 江後期;歌人、幕臣?、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[有明の月影かをる心ちして梅のさしえに春風ぞ吹く](大江戸倭歌;春129/曙梅)
- K4468 **盛正**(もりまさ・富樫とがし、) 1811-1860 50 出羽久保田藩医、国学;平田篤胤門、

[盛正(；名)の字/通称/号]字；子格、通称；三益、号；笨斎ほんさい

G4453 **守正**(もりまさ・増山ますやま/本姓；藤原、田辺藩士増山正修男)1827-190175 丹後加佐郡田辺の医者、儒；速水簡軒門、武芸を修得、藩校明倫齋[館]の授読助、1847-52江戸・京で医・儒を修学、郷里田辺で医を開業/丹波綾部藩より招聘され1867藩主九鬼隆備の家臣、詩歌を嗜む、1872京都府文部省出仕、1861「双蓮集」/83「東京名勝詩集」著、  
[守正(；名)の通称/号]通称；復五郎またごろう/復定、号；静香園丹蓉

K4448 **守正**(もりまさ・武井たけい、姫路藩士武井領八男)1842-192685 播磨姫路藩校好古堂に修学、1857専業生に抜擢/儒；京の宮原潜叟門/国学；萩原広道門、帰郷後；好古堂授読、秋元安民・本居豊穎・坂正臣門、勤王派；国事奔走；捕縛、維新後赦免/新政府出仕、白石県権知事/内務省・農商務省局長/1888鳥取県知事/91貴族院勅選議員/93枢密顧問官、1893から実業家；帝国海上保険・日本商業銀行・明治商業銀行を創立、錦鶏間祇候、妻；ふじ(住友喜三郎女)、守成(作曲家)の父、  
[守正(；名)の通称]寅三/逸之助

J4418 **盛昌**(もりまさ・伊集院いじゅういん/旧姓；阪元)1846-7732 薩摩鹿児島藩士；歌人、  
[盛昌(；名)の通称] 勘十郎/権右衛門

権右衛門(ごんえもん・伊集院)→ 盛昌(もりまさ・伊集院いじゅういん/阪元、藩士) J 4 4 1 8

守正(もりまさ・藤原) → 守正(もりただ・藤原、後撰歌人) F 4 4 6 1

守正(もりまさ・安東) → 省庵(せいあん・安東、藩儒) 2 4 0 2

守正(もりまさ・中村) → 守手(もりて・中村/永井、神職/国学/歌) F 4 4 8 7

守雅(もりまさ・井面) → 守雅(もりつね・井面いのも、国学) F 4 4 8 2

守眞(もりまさ・狩野) → 探淵(たんえん・狩野かのう、幕府奥絵師) H 2 6 9 6

盛歆(もりまれ・平塚) → 春江(しゅんこう・平塚、漢学/詩文) J 2 1 6 6

I4486 **守躬**(もりみ・中神なががみ) ? - ? 江後期；国学者、歌人、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、幕府学問所組頭中神守節もりとき(1766-1824)との関係？

[植ゑばやと思ふあたりに生ひいでてわが心にもなびく若竹](大江戸倭歌；夏420/新竹)

K4449 **母理美**(母理躬もりみ・橘たちばな、号；芳斎) ?-?天保1830-44頃没 江後期；讃岐高松の国学者/歌人

G4454 **守拙**(もりみ・藺田そのだ/本姓；荒木田、中川経蔭男)1811-7868 伊勢宇治の神職；藺田守民の養嗣子、内宮権禰宜/1871神宮改革により免職、歌人/国学者、1859「伊勢両宮御朱印御改之先格」、1867「雑毫」編、  
[守拙(；名)の通称] 守宝/伯耆、守賀もりよしの父

守見(もりみ・鶴沢) → 探山(たんざん・鶴沢つるさわ、絵師) T 2 6 0 7

守身(もりみ・葛目) → 朝風(あさかぜ・葛目くずめ、藩士/国学者) C 1 0 6 7

守愚(もりみ・船越) → 清蔵(せいぞう・船越ひなこし、藩士/勤王家) D 2 4 2 0

盛見(もりみ・大内) → 盛見(もりはる/もりみ/もりあきら・大内/多々良、守護/歌) G 4 4 2 7

G4455 **護道**(もりみち・内藤ないとう、正賀男/本姓；藤原) ?-? 武家；長門守護代内藤氏の一族、

戦国期周防大内家の家臣/1480宗祇の筑紫旅行の接待；大内政弘の「何船百韻」に同座、

1496上京；宗祇・兼載と連歌興行；「明応五年六月七日何人百韻」、兼載「聖廟法楽千句」に注、

1532「享禄五年宗祇31年忌百韻」参加、新撰菟玖波集3句入、

[護道(；名)の通称/法名]通称；孫七/内蔵助、法名；宗俊そうしゅん

G4456 **守道**(もりみち・藺田そのだ/本姓；荒木田)1521-160181 藺田守朝の孫/伊勢の神職；1539内宮十禰宜、従五下/1585内宮一禰宜/87正四下、「神宮年代記」著、守洪もりひろの高祖父

G4457 **盛道**(もりみち・猿渡さわたり、通称；左衛門佐、遠山左衛門尉景政男)1577-162852 猿渡盛政の養嗣、武蔵府中総社六所宮(大国魂神社)の祠官；猿渡家を継嗣；同神社中興の祖、1624「武蔵国総社六所宮縁起并社伝」著、

G4458 **盛方**(もりみち・柴村しばむら、初名；定矩、定輝男)1722-? 1810存(89歳)母；山田重邦女、幕臣；1739家督、1755表右筆/57奥右筆/78表右筆組頭/95御膳物奉行/93寄合に列す、妻；益田脩由の養女、1810随筆「安寿嘉あすか川」著、

[盛方(；名)の通称] 金次郎/孫市/源左衛門

J4417 **守典**(もりみち・井面いのも/本姓；荒木田)1766-181853 伊勢度会郡の神職；内宮権禰宜、国学；本居宣長・春庭門、守雅もりつねの養父、



[守典(；名)の通称] 楠之助/出雲/与左衛門

- G4459 **守道**(もりみち・粟田あわた) ? - ? 1855存 江後期尾張熱田神社の社家、  
1855「熱田宮奉幣使事跡問答」
- G4460 **盛道**(もりみち・橋爪はしづめ、良助男)1805-8076 岩代会津藩士；藩命で昌平黌修学、肥薩を視察、  
帰藩し儒者見習/儒官に昇進；藩主松平容保の侍講/上京詩公用局に出仕、  
戊辰戦で軍事方に出仕；活躍、詩：「晒齋詩集」著、  
[盛道(；名)の字/通称/号]字；士恭、通称；助次郎/助三郎、号；晒齋さいさい、神号；靖彦霊社
- I4497 **守道**(もりみち・三田さんだ/みた/本姓；平、通称；善左衛門)?-? 江後期；歌人、幕臣？、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[つくづくと来ぬ夜かぞふるひとりねの枕にひびく鐘ぞわびしき]、  
(大江戸倭歌；恋1610/寄鐘恋、女の心で)
- J4432 **盛道**(もりみち・犬塚いぬづか) ? - 1875 出羽庄内藩士、鳥海山宮司/大講義  
盛道(もりみち・山内/藤原) → 宗友(そうゆう、武家/僧/早歌伝承者) B 2 5 3 4  
守道(もりみち・狩野) → 探信(たんしん・狩野かのう、絵師) I 2 6 8 6  
守道(もりみち・都筑) → 道雄(みちお・都筑つぎ、指物業/歌人) J 4 1 7 5  
守道(もりみち・真野) → 守約(もりちか・真野まの/佐藤、商家/歌) L 4 4 2 7  
守道(もりみち・長久保) → 赤水(せきすい・長久保/長、地理学者) D 2 4 6 3  
守道探信(もりみちたんしん) → 探信(たんしん・狩野かのう、絵師) I 2 6 8 6
- G4461 **守光**(もりみつ・広橋ひろはし/本姓；藤原、町まら広光男)1471-152656 母；藤原基有女、広橋兼頼の養嗣、  
廷臣；1505参議/左大弁/従三位/1518権大納言/26病で辞任/従一位准大臣、贈内大臣、  
神宮伝奏/武家伝奏を務む、「蔵人故実草」「中園抄」「守光公記」、1513「春日祭参行記」著、  
「白馬節会次第」「県召除目簡要抄」「小除目次第」「叙位議侍中要」「除秘抄職事要」外著多数、  
[守光(；名)の通称/法号]通称；是称院贈内大臣、法号；是称院廓室祐寂
- G4462 **守参**(もりみつ・辻つじ、守敬2男)1653-173886 1680御家人；将軍綱吉男の徳松に出仕、  
徳松没後幕臣；1683御勘定/88組頭/99美濃郡代；下野に5百石領す/1718御勘定吟味役、  
のち寄合に列す/1727致仕、多くの地方巧者の筆頭；小宮山昌世(謙亭)・田中丘隅らと並称、  
1741「地方要集録」「鶴翁草案」、「辻六郎左衛門上書」著、  
[守参(；名)の通称/号/法名]通称；弥市兵衛/六郎左衛門、号；鶴翁、法名；鶴翁
- J4482 **守盈**(もりみつ・木俣きた、守長男)1677-173458 近江彦根藩筆頭家老家の生、守吉の兄、守貞の父、  
1694部屋住で彦根藩家老；藩主井伊直興に出仕/1710(宝永7)父隠居；彦根藩筆頭家老、  
木俣清左衛門家5代当主/1718(享保3)執権職；若い藩主井伊直惟(なおのぶ)(1700-36)を補佐、  
知行1万石(以後代々継嗣)、  
連歌を嗜む；  
[朝日影くはつと目に立つは門の松](直惟)に付けて、  
[長閑に聞ゆ鶴の聲](守盈)、  
[守盈(；名)の通称] 半弥/清左衛門(代々の称)
- G4463 **盛充**(もりみつ・福王ふくおう、通称；茂十郎/盛翁)?-? 江後期能楽脇方の宗家福王家11世、  
観世座脇方を勤める、1809「福王伝書集成」著、福王家は播磨三木郡出身福王盛忠が流祖
- G4464 **守三**(もりみつ・葛垣くずがき/葛巻くずまき)1777-186084 京の俳人；江戸の鈴木道彦門、成美・乙二と交流、  
帰京後播磨姫路に住、文政1818-30頃風羅堂を継承、1816「葛垣の日くらし」「てきろく」編、  
1820「はりましほ」「実意金石集」編/51「和誠滑稽集」編、  
[守三(；名)の号] 風羅堂9世/丹頂堂/春曙庵
- J4487 **守満**(もりみつ・菊池きくち、沖満おきみつ男)1838-191073 伊予宇和郡日土村の鹿島神社祠官、  
神道；父門/国学；常磐井巖(いわしほ)門/儒・国学；矢野玄道門/国学・歌；近田八束門、  
[守満(；名)の初名/通称/号]初名；矢野彦、通称；兵部/大蔵正、号；梅枝  
守光(もりみつ・谷) → 宗臨(そうりん・谷たに、商家/連歌作者) D 2 5 2 0  
守光(もりみつ・矢野) → 左倉太夫(さくらだゆう、矢野/藤原、神職) H 2 0 3 2  
守光(もりみつ・館森) → 古道(たけみち・館森たてもり、儒者/歌人) Y 2 6 1 2  
盛光(もりみつ・藤原) → 基光(もとみつ・藤原、廷臣/絵師/歌人) E 4 4 3 7  
盛光(もりみつ・小河原) → 盛光(せいこう・小河原、俳人) E 2 4 4 0

- G4465 **守宗**(もりむね・藺田そのだ/本姓;荒木田)1619-9880 伊勢の神職;1647従五下・内宮十禰宜、1694正三位・内宮一禰宜、1694-98「守宗記」、「御公儀御書附」著
- G4466 **盛宗**(もりむね・大国おおくに、盛業もりなり男/本姓;荒木田)1807-6559 伊勢宇治の神職/正六上、滝祭宮内人、国学者:父門/井面守訓・益谷末寿門、漢学;鷹羽竜年門/書;中西圭門、画;叔父大国士豊門、1847父盛業「家田」「山河」編刊、61「巨州翁盛業遺稿」編、「磐堺神籬解」「恵美須大黒弁」「稜威考」「神道八箇国」「八坂瓊曲玉図考」「句一百問答」、「大八洲国」「天津罪国津罪目鼻問答」著、  
[盛宗(;名)の通称]治部/左太郎  
盛宗(もりむね・宇都宮) → 泰宗(やすむね・宇都宮/藤原、武将/歌) D 4 5 2 0
- G4467 **守村**(もりむら・新居あらい、秋住男)1808-9386 上州甘楽郡高瀬村の豪農(父は小幡藩用達頭取)、国学者:1839東条義門門/語学・音韻学に通ず、歌人/狂歌、維新後;大学中助教/貫前社祠堂、1868群馬県内神社史の調査、  
「新居守村詠草」「守村歌集」/1834「狂歌花の錦」「狂歌高友集」編、「韻鏡目安」「雲霞帖」、「字音の反故」「名乗字反故」「磨光韻鏡補字辨」1855「万葉集句々早見」著、外編著多数、  
[守村(;号)の通称]又左衛門/又三郎  
盛村(もりむら・蒲) → 正村(まさむら・蒲がま/長谷川、神職/国学) O 4 0 9 8  
盛乗(もりもち・中安) → 弦斎(げんさい・中安なかやす、藩士/家老) J 1 8 0 6
- J4445 **守本**(もりもと・小谷おだに、通称;左近助)1751-182171 土佐高知藩士;集録役、江戸で武家故実;伊勢貞丈門/帰藩後;藩士に故実を教授/流鏑馬・犬追物を行う、雑喉場どばに騎射場を作る
- L4450 **守元**(もりもと・藤林ふじばやし/旧姓;三谷みたに)1815-185844 伯耆日野郡江尾村生、若くして上京、京の蘭医学者藤林普山(1781-1836)の学塾に入学、国学・蘭学にも通ず、普山の長女タミ(母;千代/先夫馬木謙介と離婚)の後夫として婿養子(妻より4歳下)、養父没後;学塾の後継者となる、また有栖川宮家に出仕(侍医)、広瀬旭荘と交流、1847普山遺稿「西医今日方」刊行、1854/63の大火で藤林家類焼;普山・守元の書籍焼失、一家は近江大津坂本町に移住;医業、2男(元毅・元実)3女の父、1858(安政5)大津に病没、  
[守元(;名)の字/通称/号]字;素処、通称;泰作、号;耆山きざん
- M4424 **守屋**(もりや・物部ものべ、尾輿男)?-587 母;弓削阿佐姫(弓削倭古女)、飛鳥期豪族、  
麁仏論者;崇仏論の蘇我馬子と対立、572大連、  
582馬子が敏達天皇の許を得て仏法信奉;逆に疫病流行/守屋は蕃神の故とし仏法禁止、  
仏殿を焼払い仏像を海中に沈め仏教信者を捕縛/全裸の尼を海石榴市で鞭打つ、  
仏教弾圧しても疫病治まらず天皇も罹病;馬子に仏法を許可、天皇没、  
馬子妹の子の用明天皇即位(欽明天皇男)/587天皇罹病し仏法三宝を信奉したが没、  
守屋は用明天皇没後に穴穂部皇子を立てんとしたが逆に馬子により皇子は誅殺され失敗、  
守屋は河内の館で馬子の軍を退けたが、厩戸皇子の仏法加護祈願により仏法は世に弘通、  
567再建した馬子軍により守屋軍は敗北;守屋は迹見赤禱により射殺され一族は尽く殺害、  
厩戸皇子は四天王寺を建立/物部氏の領地は馬子と四天王寺に分割される、  
物部武麁(守矢氏祖)・朴井雄君(大海人皇子舎人)の父か、  
☆のち守屋は仏法の敵と見なされ伝承説話となる(日本霊異記・三宝絵詞・今昔物語等)、  
瞻西せんさい上人の雨漏の歌;[古へも今もつたへん語るにももりやは法のかたきなりけり]  
守舎(もりや・深沢/大垣) → 浅草庵守舎(2世あさくさあん・もりや、狂歌) E 1 0 3 2  
守屋(もりや・本間) → 季喜(すえよし・本間ほんま、国学/歌/神職) I 2 3 9 2  
守約(もりやく・但馬) → 千里(ちさと・田結荘たゆいのしょう/但馬、蘭学/砲術) B 2 8 9 6
- J4475 **守安**(もりやす・木俣きたた/本姓;橘、小田原北条氏家臣狩野主膳男)1586-167388 母;新野親矩女、1590小田原陥落後;叔母の夫木俣守勝を頼りその養子、1610(慶長15)養父没;家督継嗣;木俣清左衛門家2代当主/知行5千石/1614大坂冬の陣に井伊勢の先鋒;真田丸戦で負傷、1615(元和元)近江彦根藩筆頭家老、1661隠居;嫡男守明が家督嗣、歌;[彦根歌人伝・鶴]入、木俣清左衛門家は、徳川家康の家臣で井伊直政に与力として付けられ、のちに彦根藩井伊家の筆頭家老となった木俣守勝に始まる家/楠木正成孫正勝の末裔、家紋は三つ盛鱗、3代守明・5代守盈・10代守彝は執権職に就く、

[守安(；名)の通称/号]通称；右京/清左衛門・土佐(代々の称)、号；巖間/源鑑

参照 → 守勝(もりかつ・木俣きまた、初代) F 4 4 3 2

G4469 守易(もりやす・井面いのも/本姓；荒木田)？-？ 江中期伊勢山田の神職；1717「御朱印日次」著

G4470 守保(もりやす・多田ただ)1739-180668 出羽庄内藩士；1756庄内藩主酒井忠寄男の万之助の付人、万之助の命で石原富叔と「柳塘輯譚」共著、1765万之助(康伴)が膳所藩主本多康政の養子；随従し近江膳所に移住/主夭折後に一時国老と不和になり投獄/のち赦免され家老となる、武芸；無辺無極流に長ず、1790「膳所侯御行状記」編、庄内藩士多田翁右衛門の弟、

[守保(；名)の字/通称/号]字；輝之、通称；翁助、号；王亮/古曆/誠朗

J4443 守寧(もりやす・遠藤えんどう)？-？弘化1844-48頃没85歳 越後三条の国学者/歌・茶道・押花に通ず、

[守寧(；名)の通称/号]通称；元助、号；涉園

J4479 守易(もりやす・木俣きまた/本姓；橘、守前もりちか男)1798-185659 近江彦根藩家老家の生、1811(文化11)部屋住ながら家老に就任/藩主井伊直亮に出仕；1820(文政3)父隠居；家督嗣、木俣清左衛門家9代当主/彦根藩筆頭家老；知行1万石、直亮の意を受け弟鉄三郎を冷遇、1851(嘉永4)鉄三郎(直弼)が藩主となり守易は処罰隠居、趣味の楽焼に専念、松原村の別荘で茶入・茶碗・抹茶碗など優れた作品を残す；茶碗「藻刈船」は有名、頼山陽と交流；1832山陽来訪、守彝・守盟(幹)・守迪(畏三))の父

[守易(；名)の初名/通称/号]初名；半弥、通称；式部/大隅/土佐(代々の称)、

号；長閑/石香/淡水/小自在庵/楽山/櫻華

参照 → 守勝(もりかつ・木俣きまた、初代) F 4 4 3 2

守保(もりやす) → 守保(しゅぼ、連歌) J 2 1 0 3

守保(もりやす・松浦) → 桂川(けいせん・松浦まつら、藩士/儒者) E 1 8 7 4

森安(もりやす・友安) → 盛員(もりかず・友安ともやす、神職) F 4 4 2 7

茂立(もりゅう・大貫) → 杜哉(とさい・大貫、俳人) L 3 1 7 8

茂竜(もりゅう・真野) → 頼恭(よしたか・真野まの、藩士/儒/狂歌) I 4 7 9 1

G4471 盛行(もりゆき・度会わたらい、行家男)？-？ 南北期；1341伊勢外宮七禰宜、

歌；1321外宮北御門歌合；父と参加/新葉434、

[雪の中に心かよはば問ふやとて我をも人の今朝や待つらむ](外宮歌合；25番右50)

I4453 守幸(もりゆき) ？ - ？ 室町期神職；尾張熱田神宮の厨家大夫、

連歌；1423「熱田法楽連歌」連衆(3句)、

[冬咲きてひさしき菊の花盛り](熱田法楽；賦山何初裏5、

前句；仲範；星や雲居のまぼりともなる；雲居は宮中をも指す、

本歌；久方の雲の上にて見る菊は天あまつ星とぞあやまたれける；古今269敏行)

G4472 盛之(もりゆき・柴村しばむら、経房男)？-？ 1657存 江前期明暦1655-58頃江戸の和算家；測量術に長ず、徳川綱重の桜田邸に出仕、「地方細論集」「塵劫諸算記」、1657「格致算書」「算書」著、

[盛之(；名)の通称] 藤左衛門

G4473 守之(もりゆき・布施ふせ、別名；正之/忠之)？-？ 江前期播磨明石藩士；藩主松平信之に出仕、

のち出雲松江藩士；以後代々松江藩士、兵法；山鹿素行門、1656千田可慶と「武教小学」校訂、「山鹿流町見伝」著、

[守之(；名)の通称/法名]通称；源兵衛、法名；覚海、雅之の父

G4474 盛之(もりゆき・稲垣いながき) ？ - ？ 江戸前期歌人；1686注釈「順徳院御製百首和歌鈔」著

G4475 盛之(もりゆき・草薙くさなぎ/本姓；橘)1658-171962 兵法家；剣術/大和郡山藩主本多家に出仕、のち仙台に移住、客舎に没す、「賞罰録」「正伝八陣口解」「地理口解」「兵法正伝口決」著、

[盛之(；名)の通称/号]通称；与平次/丹下、号；韜晦

G4476 守如(もりゆき・目加田めがた、別名；秀東、信相男)？-？ 羽前米沢藩の御抱絵師；1675家督嗣、

1704法体し藩主上杉吉憲の近習、「鳥類粉本」画、

[守如(；名)の通称/号]通称；雲八、号；幽雲

G4477 守行(もりゆき・高橋たかはし、光正男)1716-6651 代々上州山田郡の庄屋/今泉などの庄官役を勤務、桐生の史跡探究に従事、「桐生今泉故事談」「桐生老談記」「桐生属軍記」「今泉見聞録」著、

[守行(；名)の通称/号]通称；庄左衛門、号；戲世軒庸世、

L4420 盛之(もりゆき・古川ふるかわ、之仲これなか長男)1753-181765 越後蒲原郡の青海神社の神主家の生、



1766(明和3)江戸の関五華門/京の神道管領吉田学館で松岡雄淵門;崎門朱子学修学、  
京で勤王家:中山愛親なるちか・町尻量原かずもと邸出入、1770(明和7)帰郷;青海神社祠官(神主)、  
1777(安永6)新発田藩主溝口直養の講堂造営に藩命で「講堂之記」を著、  
1779(安永8)藩主臨席で論語講義/藩学の振興に尽力、開塾;子弟教育、  
[盛之(;名)の通称/号]通称;舎人、号;茂陵もりよう

- K4478 **盛征**(もりゆき・中島なかじま、)1759-1840<sup>82</sup> 近江彦根の商家、歌人;[彦根歌人伝・続寿]入、  
[盛征(;名)の通称/号]通称;木綿屋市郎兵衛、号;静甫
- K4411 **盛之**(もりゆき・楊井やない、)1762-1823<sup>62</sup> 長門萩藩士;奥番頭格、盛良(三希)・宍道貞たしの父  
歌人、[七夕の明け行く空を恨みてや葛葉に秋の風さわぐらん]([萩の歌人]入)、  
[盛之(;名)の字/通称/号]字;子匡、通称;孫太郎/謙蔵、号;蘭洲
- I4485 **盛之**(もりゆき・黒川くろかわ/本姓;藤原、通称;善右衛門)?-? 江後期;歌人、幕臣?  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[河水のあらふとすれど影うつる月はいよいよ朧なりけり](大江戸倭歌;春184)
- K4441 **盛之**(もりゆき・高橋たかはし、)1789-1870<sup>82</sup> 伊予喜多郡五百木村の庄屋、  
国学/歌人;本居大平門  
[盛之(;名)の通称/号]通称;竹九郎、号;竹翁
- G4478 **盛征**(もりゆき・河内かわうち、通称;仙蔵)1813-? 加賀藩士/国学者;1834平田篤胤門、「古学諄辞集」編、  
「篤胤著述価付」編/1834「大壑平先生著撰書目」38「篤胤著述書目集」編、  
1838「気吹舎先生著撰書目」編
- K4447 **盛行**(もりゆき・竹村たけむら、盛次男)1838-1918<sup>81</sup> 伊豆君沢郡熊坂村の国学者;父門、  
[盛行(;名)の通称]源助(;父の称継嗣)/敬太郎/新兵衛/新平
- |                |   |                         |           |
|----------------|---|-------------------------|-----------|
| 守之(もりゆき・那波)    | → | 木庵(もくあん・那波なば/祐、儒者/藩儒)   | 4 4 0 3   |
| 守行(もりゆき・加藤)    | → | 遠沢(えんたく・加藤かとう、絵師)       | F 1 3 6 4 |
| 守行(もりゆき・水野)    | → | 守政(もりまさ・水野みずの/荒尾、旗本幕臣)  | L 4 4 9 3 |
| 守遊(もりゆき・辻)     | → | 守遊(しゅう・辻/前田、役人/詩歌)      | 2 1 8 1   |
| 盛之(もりゆき・長峯/佐瀬) | → | 林右衛門(りんえもん・佐瀬させ/長峯、勸農家) | K 4 9 0 0 |
| 盛行(もりゆき・黒沢)    | → | 深谷(しんこく・黒沢くろさわ、藩医/詩人)   | O 2 2 3 6 |
| 盛幸(もりゆき・平/坂口)  | → | 口阿(こうあ・平盛幸/坂口、早歌)       | 1 9 6 1   |
| 彬之(もりゆき・海野)    | → | 紫瀾(しらん・海野彬之、儒者)         | M 2 2 9 5 |
| 盛世(もりよ・関)      | → | 葦雄(あしお・関せき、茶道/国学)       | H 1 0 7 9 |
- G4479 **茂良**(もりよう・清瀬きよせ、名;昌雄)?-? 江後期京の俳人、中立売千本東入住/北野満蔵院住、  
1805「俳諧華月抄」編、1807「びはふくろ」著、「常盤樹」編、  
[茂良(;号)の通称/別号]通称;伊勢屋庄三郎、別号;むぐら/葎庵むぐらあん/百巢
- 茂陵(もりよう・岡部/賀茂)→ 眞淵(まぶち・賀茂/岡部、国学者/歌) 4 0 3 1
- 茂陵(もりよう・古川) → 盛之(もりゆき・古川ふるかわ、神職/勤王家) L 4 4 2 0
- 模陵舎(もりようしゃ) → 百子(ひやくし・堤/塘つみ、狂歌/雑俳) E 3 7 5 1
- G4480 **積善**(もりよし・高階たかしな、成忠男)?-? 1014存 平安中期廷臣;弾正少弼/左少弁/1014正四下、  
詩;紀伝道門、寛弘年間(1004-12)有国らと勸学会再興、1010?「本朝麗藻」編纂、  
藤原道長主催の詩宴参加、本朝文粹・麗藻・類聚題・教家摘句などに入、明順あきよりの弟、
- G4481 **守是**(もりよし・藺田そのだ/本姓;荒木田、守雄男)1535-1608<sup>74</sup> 伊勢宇治の神職;  
1546従五上内宮十禰宜、1587正四下/1601内宮一禰宜、歌人、「守是解除集」編
- G4482 **守儀**(もりよし・飯沼いぬま) ? - ? 江前期尾張藩士、柳生蓮也の親戚(又々甥)、  
「連也翁一代記」著
- G4494 **守義**(もりよし・岩井いわい) ? - ? 江前期寛文1661-73頃;地誌「浅草地名考」編
- I4451 **守美**(もりよし・田井たい) ? - ? 江前期備後福山の俳人/貞門系、  
1672種寛「続詞友俳諧集」入、1679宗臣「詞林金玉集」入
- G4483 **守敬**(もりよし・もりたか・藺田そのだ/本姓;荒木田、守洪もりひろ2男)1689-1752<sup>64</sup> 伊勢宇治の神職、  
内宮十禰宜/1741正三位・内宮一禰宜(長官)、歌人、1720文殿月次奉納和歌に参加、  
「奉納千首和歌」1749「遷宮祝賀和歌」50「奉納文殿百首和歌」参加、守夏の弟
- G4484 **守由**(もりよし・渡辺わたなべ、善右衛門男)1701-62<sup>62</sup> 母;大沢与太夫女、下総佐倉藩士;1712出仕、

1716家督継嗣;150石/23藩主稲葉正知転封に随い淀藩に移る;塩増方・使者番・取次を歴任、1757留守居役、地理歴史を修学;佐倉・淀の史料を著す、「古今佐倉真佐子」「山州淀の記」著、[守由(;名)の幼名/通称]幼名;助五郎/助之進、通称;善右衛門

- G4485 **守敬**(もりよし/もりたか・兵頭ひょうどう/常磐井ときわい、兵頭正秀男)1709-5749 伊予大洲の阿蔵八幡社神主、橋家神道・国学・漢学;正木正英門、帰国後伊予松山藩で講義、門人鎌田五根を通し橋家神道を出雲の千家尊信に伝える、歌;職仁親王門、「神道大意」著、[守敬(;名)の通称]式部、守枝もりえだの父
- G4486 **守義**(もりよし・国枝くにえだ、字;方叔)?-? 1774以後没 江中期;尾張の詩人:1774「牧山遺稿」著
- G4487 **守義**(もりよし・細川ほそかわ)?-? 江戸期下野鹿沼の鍛冶職、郷土史文筆家、篤行多く宇都宮藩主から受賞、「宇都宮明神縁起」「宇都宮明城主御代々記」著
- J4435 **盛美**(もりよし・上原うねはら、号;笹園/小竹園)1767-? 京の歌人;香川景樹門、木下幸文・玄如と交流
- K4406 **盛喜**(もりよし・齋藤さいとう、)1782-185069 信濃小県郡高梨村の湯屋、国学/歌人;桃沢夢宅門、[盛喜(;名)の通称/号]通称;兵治/弥惣太、号;鹿住
- G4488 **守良**(もりよし・藺田そのだ、初名;守稲もりい、守諸もりつら男/本姓荒木田)1785-184056 伊勢宇治内宮禰宜、故典儀礼;古代法制研究、「荒木田系譜」編、「西園詞三径」「歴史紀年鑑」「六朝紀略」、[守良(;名)の通称/号]通称;大式、号;西園主人、一斎は双子の弟、母;磯部親門女;三津代子  
妻由貴は歌人 → 由貴(ゆき・藺田/向井) E 4 6 1 9  
参考 → 一斎(いっさい・藺田、禰宜/儒詩) E 1 1 1 8
- J4490 **守由**(もりよし・衣笠きぬがさ、東長兵衛2男)1785-185268 筑前福岡藩御用絵師衣笠守起の養子、家督嗣;衣笠家6代;福岡藩御用絵師/歌人、黒田斉清・長溥に出仕、桑原鳳井の師、[守由(;名)の通称/号]通称;久之助/要、号;福草舎
- G4489 **盛良**(もりよし・楊井やない、盛之[蘭洲]長男)1797-186064 長門萩藩士/儒者(家学):父門/詩文に長ず、小姓頭/直目付公儀人/奥番頭格;江戸藩邸に出仕、頼山陽と交流、1844「遠夷処置紀聞」著、[盛良(;名)の字/通称/号]字;子温/士温、通称;孫太郎、号;蕙洲(けいしゅう/静斎/青坡/長福村叟/三希、宍道貞ただし(芝斎)の兄
- G4490 **盛淑**(もりよし・小田切おだぎり)?-? 出羽米沢藩士/儒/漢学者・1830藩主上杉治憲はるのり(鷹山)の「南亭余韻」(1767-1821の文章50編)を編纂
- G4491 **盛美**(もりよし・山中やまなか、山中壱岐守盛征男)?-? 江後期幕臣;田安家用人/1835西丸徒頭、1851先手鉄砲頭/1862御役御免;勤仕並寄合、「性論集」/1837「楊満登多万志飛やまとだましひ」著、[盛美(;名)の通称/号]通称;又兵衛/主膳、号;静翁、弁吉郎の父
- G4492 **守善**(もりよし・橋本はしもと)1837-189458 羽前山県長源寺に生/漢学;松岡庸友門、和算家;最上流二伝高橋仲善門/奥義を究める、諸国歴遊:1869帰郷、後藤算斎と最上流算学の再挙を計画/1870東京日本橋田所町に最上社を開塾;和洋数学・簿記・漢籍・地理・天文を教授、「天生法雑題集」「算法両式術起源」編、「算法方内黒積極数術」「七拾五異題一通術」著、[守善(;名)の幼名/別名/通称/号]幼名;源八、別名;積善、通称;源八郎、号;和山、法号;数量院
- G4493 **守良**(もりよし・山島やましま)?-? 江末期京の聖護院村の和算家、「政正算梯」校訂/「点竄術初件」著  
[守良(;名)の通称/字/号]通称;大輔、字;子正、号;篁斎
- I4491 **盛美**(もりよし・細田ほそだ)?-? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[真清水の岩根を伝ふ音のみか秋を吹きこす風ぞ涼しき](大江戸倭歌;夏653)
- J4494 **盛可**(もりよし・小島こじま、通称;平五郎)1746-188641 越後村上藩士、国学;平田鉄胤/井上頼閔門、近江の日吉神社祠官/大和大神おほみわ神社神職、権中教正、三輪の大神教おほみわきょう会長
- L4480 **盛好**(もりよし・山下やました、)1819-188466 讃岐那珂郡の琴平(金刀比羅)宮祠官、国学;平田鍊胤門、[今日よりは象の御山の小松菊千代さかえ行く末や久しき];(宥常の琴平宮19代別当就任時に詠)  
[盛好(;名)の初名/通称/号]初名;真澄、通称;周磨/直馬、号;楯乃舎

- K4485 **盛良**(もりよし・長井ながい、通称:新蔵/喜左衛門)1831-8050 信濃小県郡和田村の名主、  
国学;平田鏡胤門、小県郡青木村の日吉神社宮司/のち熱田神社宮司
- K4424 **守賀**(もりよし・藺田そのだ/本姓:荒木田、守拙もりみ男)1843-8745 伊勢度会郡の内宮禰宜、国学者、  
[守賀(;名)の通称] 出雲/中務  
守善(もりよし・中島) → 竜雄(たつお・雲井、藩士/詩人) G 2 6 1 7  
盛義(もりよし・松本) → 董斎(とうさい・松本、書家/俳) E 3 1 3 1  
敬義(もりよし・山崎) → 闇斎(あんさい・山崎やまさき、垂加流神道) 1 0 3 7  
護良親王(もりよししんのう) → 護良親王(もりながしんのう、建武新政) G 4 4 1 2  
模陵舎(もりようしゃ) → 百子(ひやくし、紀海音女婿、俳人/狂歌) E 3 7 5 1
- G4495 **茂林**(もりん;道号・興樹こうじゅ;法諱)?-1408 室町期但馬の臨濟僧:大明寺開山月庵宗光門/法嗣、  
但馬大明寺住持、1806「月庵和尚行実」著、「月庵和尚語録」編
- G4496 **茂林**(もりん;道号・宗植そうしよく;法諱、徳光普照禪師)1686-174964 江中期筑前の臨濟僧:  
京大徳寺301世大梅宗円門;法嗣、1734大徳寺326世/1740江戸品川東海寺73世輪番、  
「追哭和韻」著  
茂林斎(もりんさい) → 曲溪(きよくけい・菅原、書肆/詩歌俳文) O 1 6 8 7  
茂林堂(もりんどう・長野) → 馬貞(ばてい・長野ながの、医者/俳人) F 3 6 3 4  
茂林塾(もりんや) → 武文(たけふみ・白玖はく/しらく、神職/歌) V 2 6 1 5
- G4498 **諸会**(もろあい・葛井連ふじのむらじ)?- ? 746存 奈良期廷臣;711対策/741頃正六上;山城介、  
747相模守/737従五下、歌;万葉四期;3925(:746年掃雪肆宴応詔歌/55歳頃)、詩:経国入、  
[新あたしき年の初めに豊とよの稔としするすとならし雪の降れるは](万葉;3925/稔は実り)
- H4400 **師顕**(もろあき・中原なかはら、師兼男)?-? 1309存 鎌倉期廷臣;明経博士/1275大外記兼越前権守、  
1280大隅守/94穀倉院別当/1309肥後守/正四上、1288「師顕記」
- G4499 **庶明**(もろあきら・源みなもと;宇多流、齊世親王[宇多天皇皇子]男)903-95553 母;橘公廉女、賜姓;源、  
平安前期廷臣;941参議/951従三位中納言、大和物語に逸話、歌人;921醍醐内裏菊合参加、  
945日本紀竟宴和歌参加、勅撰;後撰4首(697/699/1056/1112)、  
[つまに生おふることなし草ぐさを見るからに頼む心ぞ数まさりける](後撰;十恋697)、  
(初めて文を遣した女からの白紙の返しに詠む/つまは軒端/言無草を事成草に転換)  
[庶明(;名)の通称] 広幡中納言、  
庶明女 → 計子(けいし・源、広幡御息所ひろはたのみやすどころ、拾遺歌人) F 1 8 8 2  
師鯨(もろあじ) → 橘実副(たちばなのみぞえ、狂歌詩) G 2 6 1 5
- H4401 **師淳**(もろあつ・中原なかはら、師弘男)?-? 鎌倉期廷臣;明経博士/大隅守/大外記/正五下、  
1288「師淳記」
- B4466 **師充**(もろあつ・押小路おしこうじ/本姓;中原、小槻盈春男)1730-54早世25 母;西大路頼業女、  
押小路師守の養子、廷臣1744大外記/掃部頭/46造酒正/50従五上、  
「当代将軍家宣旨留」/1748-54「師充記」著  
師淳(もろあつ・大中臣) → 師淳(もろきよ・大中臣中臣/西、神職) H 4 4 1 9
- H4403 **師家**(もろいえ・藤原ふじわら、経輔男)?-1058 母;資業女、平安後期廷臣;摂津守/右中弁/従四下、  
詩人;1051侍臣詩合参加、1056殿上詩合;弟師基と参加/「中右記部類紙背漢詩集」入、  
女 → 典侍(すけ、藤原師家女/歌人) F 2 3 9 2
- 4431 **師氏**(もろうじ・藤原ふじわら、忠平4男)913-97058 母;源能有女の昭子、実頼・師輔の弟/師尹もろまさの兄、  
平安前期廷臣;929侍従/蔵人頭・左近中将歴任/944参議/948従三位/右衛門督・中納言、  
春宮大夫/970権大納言/正三位皇太子傅、歌人、家集「海人手古良あまのこら集」、  
953「内裏菊合」の念人、女婿藤原高光の「多武峯少将物語」入、秋風集・夫木抄入集、  
勅撰11首;後撰(764/480題)新古(1626)新勅(49/194/226/441)続古(1234)続千(2033)以下、  
[泣き流す涙のいとゞ添ひぬればはかなきみづも袖濡らしけり](後撰集;十一恋764)、  
(町尻の君への贈歌の返事に「見つ」とのみあったのでまた贈る歌/水と見つを掛る)  
[師氏(;名)の通称] 枇杷大納言びわのだいなごん、桃園大納言  
女 → 師氏女(もろうじのむすめ・藤原、高光妻/歌人) H 4 4 0 5  
女婿高光 → 高光(たかみつ・藤原、961出家;如覚、歌人) 2 6 1 8  
町尻の君 → 町尻子(まちじりのこ、女房歌人) J 4 0 6 2



- I4452 **師氏**(もろじ・細川ほそかわ、公頼男/本姓;源)?-? 南北期武将/尊氏の家臣/従五下掃部助/淡路守、連歌;菟玖波1句入(675;流布本)(源師義の句とも)、  
[寺あれはまた入相の鐘きゝて](前句;けふは難波の浦の夕暮れ)(菟玖波流布本;675)  
源師義 → 師義(もろよし・佐竹/本姓源、武将/連歌) I 4 4 1 1
- H4404 **師氏**(もろじ・東とう、常頭男/本姓;平)1343-1426<sup>84</sup> 室町期武将;中務丞/下野守、益之(素明)の養父、歌人:1421(応永28)父常頭の33回忌和歌を勧進、足利義尚「打聞集」(未完)入、  
勅撰4首;新後拾遺集(657)新続古今集(388/1170/1952)、  
[夏山の青葉にまじり咲く花や春におくるる梢なるらん](新後拾;七雑春657)、  
[師氏(;名)の通称/法名]通称;四郎、法名;素杲そこう
- H4405 **師氏女**(もろじのむすめ・藤原ふじわら、多武峯少将藤原高光の妻)?-? 平安前期歌人:  
「多武峯少将物語」の桃園の姫君、勅撰2首;新勅撰1209/続後撰1210、  
[あはれとも思はぬ山に君し入らば麓の草の露と消けぬべし](続後撰;雑1210)、  
(高光が剃髪し比叡に登ると言って家を出るとき自分を厭うゆえと恨んで詠む歌)  
父 → 師氏(もろじ・藤原、桃園大納言913-970) 4 4 3 1  
夫 → 高光(たかみつ・藤原、多武峯少将入道940?-994/歌人) 2 6 1 8
- H4406 **衆海**(もろうみ・藤原ふじわら) ? - ? 平安中期天曆947-57頃大学寮生/詩人:  
本朝文粹1首入;貧居老生の不遇を嘆く[秋夜懷を書して諸文友と南隣の源处士とに呈す]
- 4430 **諸兄**(もろえ・橘たちばな宿禰すくね/朝臣あそみ、初名;葛城王かつらぎのおおきみ、美努[三野]王男)684-757<sup>74</sup> 廷臣、母:県犬養あがたいぬかい宿禰三千代みちよ、731参議/732大納言/736臣籍;母方姓橘宿禰諸兄を名乗る、733右大臣:政權掌握、738左大臣/749正一位/750朝臣/756仲麻呂の圧力で致仕、歌界保護;万葉編纂主導?/家持・書持を招き歌宴催、  
万葉8首;1025/3922/4056/4270/4447/4448/4454/4455/題・左注多数、勅撰5首;新勅以下、  
[降る雪の白髪しろかみまでに大君に仕へ奉まつれば貴たふともあるか](万葉集;十七3922)、  
(天平18年[746]正月元正太上天皇の平城京内裏中宮院掃雪肆宴での応詔歌/左大臣の時)、  
息 → 奈良麿(ならまろ・橘宿禰/朝臣、廷臣) 3 2 2 5  
諸会(もろえ・葛井連) → 諸会(もろあい・葛井連、万葉歌人) G 4 4 9 8  
諸衛(もろえ・永岡) → 久宜(ひさよし・永岡ながおか、神職/歌人) C 3 7 1 8
- H4407 **師緒**(もろお・中原なかはら、師冬男)?- 1334? 鎌倉期廷臣;明経博士、造酒正/木工助/助教、1318大外記/掃部頭/従四下、1320後醍醐天皇が辛酉革命の改元勘文の際に識緯説に反対、結局1321元亨と改元;24出家、「師事年中行事」編/「師緒年中行事」著、師治の父
- J4448 **諸雄**(もろお・小野おの、屋号;田辺屋/伊勢屋)1681-1753<sup>73</sup> 備中倉敷の商家、歌人;有賀長伯門、  
[諸雄(;名)の通称/号]通称;与八郎/菌右衛門/権左衛門、号;雅志/泰夏
- H4408 **師香**(もろか・中原なかはら、師梁男)?- 1389 中原師千の養子/南北期廷臣;1338掃部頭、1368大外記/越前権守/但馬権守/1384明経博士;正四上、「山門嗽訴記」「皇代記」著
- H4409 **師香**(もろか・石山いしやま/本姓;藤原、葉川[壬生]基起2男)1669-1734<sup>66</sup> 石山家の祖、廷臣;1677従五下/侍従/1703従三位大藏卿/05左兵衛督/07正三位/22参議従二位、1734権中納言、画・書に長ず、「六歌仙絵巻」画、直宗・利香・石山基名室の父、  
[師香(;名)の別号]葉川基信(;初名)/師信/基董
- K4451 **諸香**(もろか・中馬ちゅうま、) ? - 1760 薩摩藩士;京詰、歌;烏丸家入門、  
[諸香(;名)の通称]源兵衛/源太夫/源右衛門
- H4410 **諸蔭**(もろかげ・藤原ふじわら、恒有男[or恒有の父岑人男or橘峯守男])?-? 平安前期従五下備前権守、式部少輔、「延喜交代式」著
- H4411 **師員**(もろかず・中原なかはら、法名;行厳ぎょうごん、師茂男)1185-1251<sup>67</sup> 鎌倉期廷臣;少外記/大藏権少輔、直講/助教/1225鎌倉幕府初代の評定衆、摂津守/明経博士/主計頭/大外記/41正四下、1251出家;没、歌人:雲葉集入、勅撰6首;続後撰(1060)玉(531/2003)続千(299/834/1852)、  
[あまつかぜなほ吹きとちよ七夕の明るる別れの雲の通ひ路](続後撰;十六雑1060)
- 4432 **師賢**(もろかた・源みなもと、資通男、母;源頼光女)1035-81<sup>47</sup> 平安後期廷臣;正四下少納言/左少弁、安藝権介/左中弁/木工頭/藏人頭、1056(天喜4)刑部大輔、和琴郢曲を嗜む、歌人;俊綱邸伏見山荘歌会/1075白河催「殿上歌合」参加、1078「承暦二年内裏歌合」参加、

自邸梅津山荘で歌・管絃を通して経信・政長・橘俊綱らと交流、  
後葉集・続詞花集・万代集・秋風集・雲葉集・夫木抄等入集、  
勅撰16首；後拾(5首3/233/326/686/835)金葉(5首94/244/以下)詞花(2首)新古(926)以下、  
[東路あまちはなこそこの関もあるものをいかでか春の越えて来つらん](後拾遺；一春3)、  
(春は東より来たる/礼記月令；[迎春於東郊])、  
[師賢(；名)の通称] 藤津弁

- H4412 **師賢**(もろかた・花山院かざんいん、師信2男/本姓；藤原) 1301-3232 母；藤原忠継(僧惠一)の女、  
鎌倉期廷臣；1316従三位、17参議/26権大納言/27正二位/29大納言、  
1331元弘の変；後醍醐天皇身代わりに叡山で出家、  
1332下総に配流；同地で没、南朝より贈太政大臣、「師賢卿記」著、「尹大納言絵詞」書、  
歌人；後醍醐天皇に重用；二条派の有力廷臣歌人、家集「花山院大納言師賢卿歌集」、  
臨葉集3首入、光吉集入、松花集・臨永集・藤葉集入集、  
勅撰14首；続千載(1612)続後拾(252/397/890)以下、新葉集49首(158/224/355/389以下)入、  
[うらみ侘びかかるとだにも知らせばやつらさにたへぬ袖の涙を](続千載；十五恋1612)、  
[師賢(；名)の通称/法名/法号]通称；尹大納言、法名；素貞、法号；得聖院、諡号；文貞公  
妻 → 俊光女(としみつのむすめ・日野、歌人) N 3 1 8 4  
→ 家賢母(いえかたのはは、文貞公室、歌) E 1 1 0 1  
息子 → 家賢(いえかた・花山院、歌人) 1 1 3 2  
息女 → 師賢女(もろかたのむすめ・花山院、文貞公女) H 4 4 1 4
- H4413 **師象**(もろかた・押小路おしこうじ/本姓；中原、師富男) 1482-153150 廷臣；1494掃部頭/1505大外記、  
1518河内守/22正四上、1512「知仁親王御元服記」/26「師象記」、「春日山木枯槁之記」外著多
- I4454 **師賢**(もろかた・舟橋ふなはし、則賢男/本姓清原) 1783-183250 母；冷泉為村女、明経博士、1832正二位、  
「易占備忘」「聞書著述」「六十四卦飛伏六親備忘」著  
師質(師賢もろかた・中根) → 雪江(ゆきえ/せっこう・中根なかね、藩士/国事) E 4 6 3 3  
師賢室(もろかたのしつ・花山院) → 俊光女(としみつのむすめ・日野、歌人) N 3 1 8 4
- H4414 **師賢女**(もろかたのむすめ・花山院かざんいん、通称；文貞公女) ?-? 南北期歌人；新葉集；3首292/354/1283、  
[きく人も袖ぞぬれける秋の野の露分けて鳴くさをしかの声](新葉集；秋292)
- H4415 **諸勝**(もろかつ・巧こう) ? - ? 平初期漢詩人・経国集入
- H4416 **師兼**(もろかね・中原なかはら、師重男) 1195-125359 鎌倉期廷臣；権少外記/主計権助/直講、  
1221明経博士/30大外記/下総守・河内守・紀伊守、1253出家；没(59歳)、「師兼記」著、  
師頭の父
- H4417 **師兼**(もろかね・花山院かざんいん/本姓；藤原、家賢男?) 1349-9345 南朝の廷臣；1389左大将、権大納言、  
大学頭/春宮大夫/内大臣、歌人；1371南朝三百番歌合/75五百番歌合参加、76「師兼千首」、  
新葉集24首；8/28/114/149/160/177/234/250/352/407/455/526/632/663/757/787以下、  
[風寒みなにかはるといはしろや雪だにとけぬ松の下水](新葉；春8)
- L4453 **師鋌**(もろかね・三宅みやげ、通称；七郎) ?-1897? 讃岐高松の国学者；中村尚輔ひさすけ門
- H4418 **諸君**(もろきみ・磐余忌寸いわれのいみき) ?-? 刑部少録/主典、755以前の防人歌8首を家持に進歌、  
万葉集廿の左注
- H4419 **師淳**(もろきよ・大中臣おおなかとみ/家名；西、号；松ノ屋、師光男) 1433-150472 戦国期の春日社の神職；  
1480新権神主/91権神主/正四下、1503従三位、1497「春日権神主師淳記」著、師順もろなおの父  
茂六(もろく・植田) → 義方(よしかた・植田うえだ/高須、商家/歌・俳) C 4 7 6 9  
師国(もろくに・北畠) → 持房(もちふさ・北畠きたばたけ、廷臣/歌人) B 4 4 6 1  
諸九尼(もろくに) → 諸九尼(しよきゅうに、有井なみ、俳人) C 2 2 2 9
- H4420 **師定**(もろさだ・押小路おしこうじ/本姓中原、師生男) 1620-7657 廷臣；1643大外記/44掃部頭/69正四上、  
「師定朝臣記」/53「恒例臨時公事之目録」/1659-62「師定雑記」著、「改元定記」編、外記録多
- L4410 **師貞**(もろさだ・原はら、) 1774 - 183258 信濃伊那郡の医者、  
阿島陣屋知久家(柳間詰交代寄合)出仕の医者、歌人；森広主門、  
[師貞(；名)の別名/通称/号]別名；師馨、通称；多門、号；桂堂/文亀
- H4421 **師貞**(もろさだ・有沢ありさわ、貞庸さだつね男) ?-? 江後期1818-44頃加賀藩士/軍学者、1821新知百石、

御近習勤/表小將/御馬廻使役・頭並を歴任/1837父遺知450石嗣、  
「梧井文庫蔵書目録」「諸事日記」「続潜告私記」「師貞教誡」、「三品記聞」編、  
[師貞(；名)の通称]武松/守右衛門/才右衛門/采女吉

師貞(もろさだ；名) → 花山天皇(かざんてんのう、歌人) 1 5 1 6

H4422 師郷(もろさと・中原なかはら、法名；覚順、師胤男) 1387-1460 74 室町期廷臣；大外記/1410助教、  
1445(文安2)正四上、1450出家、「師郷記」著、  
[薩戒記]永享6年(1434)6月12日条に足利義教の忌避の廷臣の1として入、  
師富もろとみの父、歌人；新統古1197、

[なれてこそ心にかかれ玉だれの水はわするるひまもあらまし](新統古；十二恋1197)

H4423 師実(もろざね/もろみ・清原きよはら) ?- ? 平安期廷臣；六位、歌人、  
951成立「後撰集」712:[くれはとり]の歌(俊頼髓脳・奥義抄・和歌色葉など歌学書に引用)、  
[くれはとりあやに恋しくありしかばふたむら山も越えずなりにき](後撰；十一恋712)、  
(朝廷の使者として東国に出張途中に訂正があり引き返し帰途に就くとき、  
途中で贈られた呉服くれはとりの綾を二疋ふたむら包み恋人に送ったときの贈歌、  
くれはとりはあやの枕詞/綾とあやに[むしょうに]・尾張両村山ふたむらよまと二疋の掛詞)、  
返歌；713[唐衣たつを惜しみし心こそふたむらやまの関となりけめ](裁つと出立の掛詞)

H4424 師実(もろざね・藤原ふじはら、関白頼通男) 1042-1101 60 母；源頼成女の藤原祇子、廷臣；1055従三位、  
1060内大臣/65従一位右大臣/69左大臣/75氏長者/88大政大臣/白河天皇関白/堀河天皇摂政、  
1101出家；没、師通・経実・忠教・能実の父、琵琶・箏に長ず/歌人；1075中殿和歌御会参加、  
1089・94高陽院七番歌合(前関白太政大臣家歌合)催、「京極関白記」「京極関白集」著、  
続詞花・月詣・万代・秋風・雲葉集入、  
勅撰16首；後拾遺(329)詞花(19)千載(43/50/616)新古(102)新勅(548)続後撰(328/775)以下、  
[わが宿に秋の野辺をば移せりと花見にゆかん人につげばや](後拾；秋329/関白前左大臣)  
[師実(；名)の通称/法名]通称；京極殿/京極太閤、後宇治殿/後宇治関白、法名；法覚  
妾 → 中納言(ちゅうなごん、藤原基貞女、歌人) G 2 8 7 0

H4425 師重(もろしげ・中原なかはら、師尚男) 1166-1221 56 鎌倉期廷臣/官人；1198大外記/1210明経博士、  
1219正四下、九条兼実の家司/記録所寄人、妻；三善康信女、師兼・師光の父、「雑例抄」編、  
「師重改元定記」「任官雑例」著、歌；新千載集1968、  
[若草の末たのもしきかげぞとも庭の訓をいを知る人ぞ知る](新千載；十七雑1968；返歌)、  
(建保六年1218；権少外記任官の息子師光の姿を見て藤原定家が贈った歌への返し)、  
(定家の贈歌1967；末とほき若葉の草のみどりより庭のをしへの跡ぞたがはぬ、  
師光はのち中原師季の猶子)

H4426 師重(もろしげ・北畠きたばたけ、師親男/本姓；源) 1270-1322 53 母；宗頭法印女、親房の父、鎌倉期廷臣；  
1291従三位/95権中納言/99正二位/1303権大納言/1307後宇多天皇落飾時出家、  
1296「舍利奉請状」、歌人/勅撰7首；新後撰(507/1006)玉葉(1079)続千載(4首)、  
[夜もすがら降り積む雪の朝ぼらけにはほはぬ花を梢にぞ見る](新後撰集；六冬507)、  
[師重(；名)の号]出家号；経覚きょうがく/深覚、法号；法隆院

H4427 師茂(もろしげ・中原なかはら、師右すけ男) 1312-78 67 南北期廷臣官人；1339大炊頭/45大外記、  
1349穀倉院別当/50明経博士/66正四上局務、北朝の故実家；光厳天皇の諮問に応ず、  
「師守記」(弟の記録)に行状入、「大風例事」、師秀・師夏の父

H4428 師重(もろしげ；号・古山ふるやま/菱川/長谷川、通称；太郎兵衛) ?-? 1692 存 江戸浮世絵師；菱川師宣門、  
江戸長谷川町住、師宣第一の高弟/嘶本・役者絵本の挿画、1686「鹿の巻筆」「好色江戸紫」、  
1688「役者絵づくし」91「好色染下地」95「好色旅枕」、「はるさめこと」「和歌絵抄」「春雨草紙」、

H4429 諸成(もろしげ・狛こま/家名；野田、近方男) 1722-1802 81 母；住吉広澄女、代々江戸楽人；1740家督嗣、  
1743田安家宗武に出仕/国学；宗武門・賀茂真淵門、1772致仕、妻；伊藤祐之女、多方面の学、  
1768「田安殿胡飲酒舞譜」編/79「住吉物語校異」87「神楽考註」89「県居すさみくさ」編、  
1794「竹取物語伊佐々米言」96「古本風俗歌注」「伊夫岐具佐」、「花かつみの考」外著多数、  
歌；賀茂真淵門、本居大平「八十浦の玉」入、  
[いつも見る光よりけに佐夜の山さやけくもあるかこよひの月夜]、  
(八十浦；上32/菅原信幸母八十賀屏風絵題和歌参加/山より月さしいづ)、



[諸成(；名)の別名/通称/法号]別名；毛呂成/諸志計もろしげ、通称；富之助/岩之丞/帶刀/宿禰、  
法号；搜玄院

師茂(もろしげ・高) → 重茂(しげもち・高こう/高階、武将/歌人) D 2 1 1 4

諸成(もろしげ・千村) → 鶯湖(がに・千村ちむら、藩士/儒者) C 1 5 0 1

師成親王(もろしげしんのう、後村上皇子) → 慧梵(えぼん・竺源、歌人) 1 3 8 5

H4430 師季(もろすえ・平たいら、行義男 or その息範国男)?-? 1096存 平安後期廷臣；蔵人/式部丞/下野守、  
従五下/1083官使を射殺したため位記を剥奪/96出家、歌；金葉Ⅱ200/Ⅲ194、  
[三笠山光を射して出でしよりくもらで明けぬ秋の夜の月](金葉；三秋200/八月十五夜)

H4431 師季(もろすえ・中原なかはら、師綱男)1175-123965 平安末鎌倉期廷臣/官人；1189大外記/直講、  
1192記録書寄人/越後介/筑前守/助教/1223明経博士/37正四下、関白九条兼実の家司、  
歌人；藤原為家の依頼で八代集の四位以下の作者の伝を記す、万代・秋風集入集、  
勅撰6首；新勅撰(264/1155)続後撰(1149/1185)続古今(1740)玉葉(2711)、猶子；師光、  
[待ちえても心やすむるほどぞなき山の端ふけていつる月影](新勅撰；四秋264)

師季(もろすえ・阿野) → 実惟(さねただ・阿野あ、権中納言/日記)K 2 0 9 2

4433 師輔(もろすけ・藤原ふじわら、忠平男)908-96053 母；源能有女昭子、廷臣；935参議/938従三位、  
947右大臣/955正二位、人望厚く兄実頼に勝ると称される/女安子が冷泉・円融天皇出産、  
孫の即位前に病を得て没(実頼が関白)、子孫九条流は天皇家外戚として摂関家となる、  
故実家；九条流有職故実の祖、故実「九曆」「九条年中行事」「新撰年中行事」「貞信公教命」、  
「九条右丞相殿遺誠」、歌人；家集「師輔集(九条右大臣集)」、953内裏菊合；念人、  
956「坊城右大臣師輔前裁合」主催、古今六帖・万代集・秋風集入集、  
勅撰35首；後撰(13首281/283/292/587以下)拾遺(286/650)新古(1180)新勅(5首)以下、  
[折をりて見る袖さへ濡るゝ女郎花をみなし露けきものと今や知るらん](後撰；秋281)  
(延喜皇后宮の大輔たいらへ女郎花を折り遣す歌/282大輔の返歌/283師輔贈歌)、  
師氏・師尹(もろまさ)の兄、妻；経邦女の盛子(せい)、  
[師輔(；名)の通称] 九条殿/坊城右大臣、  
女；安子(あんし、村上中宮)C 1 0 1 1・登子(とうし、村上妃)E 3 1 7 1・愛宮(あいみや)1 0 5 5 など、  
男；伊尹(これまさ・兼通かねみち・兼家かねいえ・高光たかみつ・為光ためみつ・公季きんすえ) など

H4432 師右(もろすけ・中原なかはら、師古男)1295-134551 鎌倉末南北期廷臣；官人/右将監/直講/兵庫頭、  
大舎人頭/大炊頭/1329大外記/局務/正五下、故実家、1311「師右記」、  
妻；法名顕心、師茂・師守の父

H4433 師資(もろすけ・押小路おしこうじ/本姓；中原、小槻盈春男)1744-180158 母；中原師守女、  
兄の押小路師充もろあつの養子、廷臣；1754大外記/造酒正/55掃部頭/1801従三位；没、  
「師資記」/1760「関東御転任参向一会」90「遷幸一会」1815-16「恒例臨時記事記」外記録多数

L4460 諸助(もろすけ・宮西みやにし、旧姓；本間)1822-8059(64歳説) 江戸日枝神社(山王社)の宮西家の養子、  
日枝山王宮附禰宜、医学；権田直助門/国学；平田鍊胤門/歌道；相川景見かげみ門、医者、  
維新後；大鳥神社神職/静岡県三島神社神職、「古医方経験略口義疫門」著  
[諸助(；名)の初名/通称]初名；仲友、通称；中務/大助

H4434 専堯(もろたか・河合かわい、備中岡田藩士仙石せんごく定則3男)1692-178089 河合章堯の養嗣子、  
備中岡山藩士；藩校督学、和漢学に通ず、「道の記」著、  
[専堯(；名)の幼名/字/通称/号]幼名；隆吉、字；直卿、通称；七郎次郎、号；静宇

師教(もろたか・源) → 師教(もろり・源、歌人) H 4 4 6 9

H4435 師武(もろたけ・押小路おしこうじ/本姓；中原、師資男)1770-180637 廷臣；1776大外記/治部少輔、  
1780造酒正、1786掃部頭/1800従四上、  
1781-1805「師武記」/1796-97「家齊公若君初官位一会」著

H4436 師忠(もろただ・源みなもと；村上上流、師房男)1054-111461 母；藤原頼宗女、廷臣；1073参議/81正二位、  
1100大納言/中宮大夫；1106病により致仕、和琴の名手/歌人；万代集入、  
勅撰3首；新古今449/新勅撰92/玉葉160、  
[山里の稲葉いなばの風にねざめして夜ぶかく鹿の声をきくかな](新古今；秋449)、  
[師忠(；名)の通称] 沢大納言/壬生大納言、俊房・顕房・麗子の兄弟  
妻には蔵人少将俊長女・修理大夫橘俊綱女・藤原良綱女がいる、

左衛門督北方(後拾遺作者)はいずれか不明、

→ 師忠室(もろただのしつ・源、左衛門督北方) H 4 4 3 8

H4437 師忠(もろただ・二条にじょう、良実男/本姓;藤原) 1254-134188 母;坊門親仲女、廷臣;1262従三位、1275左大臣/77従一位/87関白;氏長者/94出家、歌人;1280東宮歌会始・89和歌御会参加、増鏡に逸話、勅撰2首;続拾743/新後撰1305、道良・教良・兼基の兄弟、弟兼基を嗣子とす、[いく秋とかぎらぬ月の光こそ君が御かげのためしなりけれ](続拾遺;十賀743)、[師忠(;名)の通称/号/法名]通称;左大臣(;続拾遺)入道前関白左大臣(;新後撰)、号;香園院、法名;行隆/行証

師尹(もろただ・藤原) → 師尹(もろまさ/もろただ・藤原、左大臣/歌) H 4 4 9 2

H4438 師忠室(もろただのしつ・源みなもと、通称;左衛門督北方)?-? 平安後期歌人/藤原良綱女or橘俊綱女、後二条関白藤原師通[1062-99]家女房;師通男家政を出産、のち大納言源師忠[1054-1114]の室;弾正大弼源師長を出産、大納言源俊賢[960-1027]の室説(勅撰作者部類)は年齢的に疑問、歌:1086成立「後拾遺集」1045(左衛門督北方名/当時左衛門督職は源師忠)、[年を経て見し人もなきふるさとかはらぬ松ぞあるじならまし](後拾遺;雑1045)(もと住んだ昔馴染み家の松を見て詠む)

H4439 諸立(もろたち・庵/奄君いおりのきみ/あむのきみ)?-? 万葉四期歌人;卷八1483;夏雑歌、景行紀4年の条に日向襲津彦ひむかのそつひに皇子が阿牟あむの君の祖とある(奄はアムの2音仮名)、[我が背子がやどの橘たちばな花を良よみ鳴くほととぎす見にそ我が来し](万葉集;八1483)

H4440 師親(もろちか・北畠きたばたけ、雅家男/本姓;源) 1241-131575 母;鷹司頼平女、鎌倉期廷臣;1262従三位、1276正二位/83権大納言/89龜山天皇落飾時に出家(号;覚円)、1269「師親卿序始次第」著、法号;源徳院、師重もろしげの父

H4441 師親(もろちか・平たいら) ? - ? 鎌倉期廷臣;五位/歌人、勅撰3首;続千載(1689)続後拾(865)新千載(1809)、[吹く風のさそはばせめていかがせん心と花の散るかなしき](続千載;1689)

H4442 師親(もろちか・押小路おしこうじ/本姓;中原、師徳男) 1828-? 兄師身の養子、廷臣;1847従五下大外記、1855正五下、「師親記」/1859「新嘗祭記」

師親(もろちか・源) → 親教(ちかのり・源、資平男/廷臣/歌人) B 2 8 5 9

諸近(もろちか・坂田) → 諸遠(もろとお・坂田さかた、藩士/故実家) H 4 4 4 8

H4443 師継(もろつぐ・花山院かざんいん、忠経男/本姓;藤原) 1222-128160 母;藤原宗行女、定雅の弟、鎌倉期廷臣;1231侍従/37頭中將/45従三位左近中將/47(宝治元)参議/48正三位、1249権中納言/51従二位/55権大納言/56正二位/61皇后宮大夫/68春宮大夫/71内大臣、1275致仕、歌人、「妙槐記」「県召除目次第」「除目執筆秘抄」「蟬冕翼せんべんよく鈔」「春除目大躰並篇目抄」著、歌:1247後嵯峨院歌合/48宝治百首/51影供歌合/65白河殿七百首/78弘安百首など参加、勅撰33首;続後撰(755/976)新統古(3首573/698/1538)続拾遺(7首)新後撰(3首)以下、[かはらやのしたにこがるる夕煙たえぬ思ひのありとだに見よ](続後撰;恋755)[師継(;名)の号] 妙光寺/花山門府/堀川

H4444 師嗣(もろつぐ・二条にじょう、良基男/本姓;藤原) 1356-140045 母;土岐善忠女、師良の弟、廷臣;1368従三位/権中納言/79従一位関白/左大臣/辞任・還補を繰返す/三度目関白;99出家、満基・持基の父、「女官装束部類抄」著、歌人;自邸で歌会主催、1366年中行事歌合参加/「永和百首」出詠、「関白師嗣百首和歌」著、1387浄阿奉納[隱岐高田明神百首]父と参加(7首入)、勅撰6首;新後拾(131/232+;関白前左大臣、1212・1257?;前関白左大臣;冬通?)、新統古(227/1104/1441/1945;入道関白左大臣)、[さそひ行く嵐の末も吹きまよひ木のもとうすき花の白雪](新後拾;春131/関白前左大臣)、[師嗣(;名)の号/法名]号;後香園院、通称;関白前左大臣/入道関白左大臣、法名;円誉

M4411 師綱(もろつな・源みなもと) ? - ? 平安期廷臣;甲斐守、歌;続詞花集入、[甲斐守にて国に侍りける頃朝光大将(・藤原/951-995/大納言)の許に侍りける人の許へ、いひつかはしける、

- さすらふる身をいづこにと人とはばはるけき山のかひにとをいへ] (続詞花; 雑888)
- M4412 **師綱** (もろつな・源みなもと; 村上流、大納言師頼 [1068-1139] 男) ?-? 廷臣; 従五下/三河権守、通称; 鈴鹿権守、師能 (左中弁)・師教 (弾正大弼)・師光 (左京権大夫/歌人)・証禅・証遍・藤原重通室の兄弟
- I4469 **師綱** (もろつな・藤原ふじはら; 忠平流、尹時の長男) ?-1172 母; 大納言源師忠女、平安後期廷臣; 宮内卿/大膳大夫/陸奥守、正四下/鎮守府将軍、濟綱・親綱・僧綱円らの父、歌人、1142陸奥守在任中; 陸奥実行支配の藤原基衡に強硬姿勢で臨み朝廷権威を高揚 (古事談)
- 4434 **師綱** (もろつな・朝山あさやま、朝山義景男/本姓; 勝部/大伴/伴) 1349-? 1417存 室町幕臣足利義満近習、1379左衛門尉/87出雲守従五下/1391義満の使者; 薩摩下向/了俊の九州経営に関与、1392義満の相国寺供養に列席/1392?出家; 奥州行脚/1404義満の命で再度九州へ/08帰洛、歌・連歌; 二条良基門、1384「梵燈庵袖下集」/85石山百韻参加 (8句)、1387浄阿奉納 [隠岐高田明神和歌] 出詠 (伴師綱名) /90「長短抄」/1412「年中発句」、1414頓証寺法楽一日千首参、1415「梵燈連歌合十五番」17「梵燈庵主返答書」、「名所百韻」、「梵燈庵主連歌」「梵燈庵鷹詞百韻連歌」「梵燈庵主三百六十日発句次第」、勅撰2首; 新後拾遺987/新続古今1717、[川音の雨より月のながれきて] (梵燈連歌合; 三番左/前句; おなじ谷をやいづる雲水)、[なほざりに思ひしほどやつつみけん恨にあまる袖の涙を] (新後拾; 十一恋987)、[見るままに同じ緑にしげるなり松にならびの岡の木ずゑは] (高田明神歌; 23/岡新樹) [師綱の通称/号] 通称; 朝山小次郎/朝山出雲守、出家号; 梵燈/梵燈庵ぼんとうあん
- H4445 **師経** (もろつな・藤原ふじはら、登朝男) 1009-6658 母; 藤原安親女、廷臣; 侍従/差兵衛佐/修理権大夫、1044大蔵卿/45従三位/52但馬権守兼任、閑院大将朝光の孫、歌人; 1035「賀陽院水閣歌合」参加; 方人、後拾遺集1048、[みどりにて色もかはらぬ呉竹はよのながきをや秋と知るらん] (後拾遺; 雑1048)、(夜と節よとの掛詞/呉竹は清涼殿東庭北側に植えられている)
- H4446 **師庸** (もろつな・押小路おしこうじ/本姓; 中原、師定男or甥) 1650-172576 廷臣; 1676大外記/掃部頭、造酒正/1693正四下、「師庸記」「外記勘例」「勘申甲子年被行例事」/1687「年中下行」著
- H4447 **師遠** (もろとお・中原なかはら、師平男) 1070-113061 平安後期廷臣; 官人/1090大外記/直講/助教、主計頭/図書頭/1123明経博士、1093天文密奏を奉ずるべき宣旨を受/1113正五上、1127「鯨珠記」、「師遠記」「師遠年中行事」「随見聞抄」著、師安・師元の父
- H4448 **諸遠** (もろとお・坂田さかた、医者盧道省昌修2男or西徳寺住職聖自男) 1810-9788 秋月藩坂田諸保養子、筑前秋月藩士; 1842養家の家督嗣; 1846躰方稽古、国学者/故実家; 松岡辰方・行義門、歌人、諸役歴任後1858隠居、維新後外務省出仕、掃苔を好む、1846「尾紀水三家老臣武鑑」編、「南島事略」「大谷木醇堂筆乘」編、「將軍家装束考」「野辺の夕露」「高尾墳墓考」著、[諸遠 (名) の別名/通称/号] 別名; 諸近 (初名)、通称; 勘十郎/木工助/九郎右衛門、号; 篁蔭、法号; 清節院
- H4449 **師時** (もろとき・源みなもと; 村上流、俊房2男) 1077-113660 母; 源基平女、平安後期廷臣; 蔵人頭、右中将/1122 (保安3) 参議/23皇后宮権大夫/30 (大治5) 権中納言/35 (長承4) 正三位、白河・鳥羽両院の寵臣、1136 (保延2) 出家; 没、歌人; 堀河歌壇で活躍、日記「長秋記」、「堀河院百首和歌」入、1096「師時家歌合」/1110「山家五番歌合」主催、後葉・続詞花・万代・秋風・雲葉・和漢兼作集入集、「今鏡; 堀河の流れ」・「宇治拾遺」に逸話入、勅撰20首; 金葉 (5首165/290/295/636/694) 千載 (190/788/852) 新古 (1072) 新勅 (4首) 以下、師頼・師俊の兄弟、師清・師行・師基・師親・師季・師仲・師任の父、[七夕の飽かぬ別れの涙にや花のかづらも露けかるらん] (金葉; 秋165、花かづらは花を糸で貫いて作った髪飾り)
- 師言 (もろとき・山科) → 頼言 (よるとき・山科・藤原、廷臣/故実/歌) J 4 7 1 7
- H4450 **師俊** (もろとし・源みなもと; 村上流、初名; 俊仲、俊房男) 1080-114162 母; 平重経女、叔父師忠の養子、平安後期廷臣; 1133参議/34従三位/35権中納言/皇后宮権大夫/36病のため出家、師頼の兄弟、妻; 源俊頼女、詩歌人; 1118-21忠通家歌合3度参加、その他多くの歌合に出詠、後葉集・続詞花集2首・万代集・秋風集・和漢兼作集・夫木抄入集、勅撰11首; 金葉 (6首44/190/255/309/364/423) 千載 (499) 新古 (1076) 新勅 (9/377) 玉 (146)、



[今日くれぬ明日もきてみむ桜花こゝろして吹け春の山風](金葉集;一春44)、  
(参考;けふくれば明日も来て見む梅の花はな散るばかり吹くな春風[兼盛集])

- H4451 **師寿**(もろとし・大中臣おおなかとみ/家名;西、中臣祐守2男)1773-184472 大中臣(西)師孟の養子、春日社の神職;1815新権神主/22権神主/従三位/27正神主/正三位、1815「春日権神主大中臣師寿文化十二年記」著
- H4452 **師富**(もろとみ・中原なかはら/家名;押小路、師郷もろさと男)1434-150875 官人;直講/助教/1459大外記、1471大外記再任/穀倉院別当/1502正四上/05出家(法名;覚城)、師象の父、「師富記」「除目抄」編/1480「県召除目次第」90「延徳二年節会記」著、連歌;新菟玖波2句入
- H4453 **師倫**(もろとも・中原なかはら) ? - ? 平安末期廷臣;散位/歌:1186文治二年藤原経房家歌合参加、[夜もすがらくまなき月に誘はれてねぬさへひるの心地こそすれ](経房歌合;十四右62)
- H4454 **師豊**(もろとよ・中原なかはら、師守男)1345or49-? 1370存 南北期廷臣;官人;穀倉院別当/直講/助教、雅楽頭/1370権少外記/大外記/局務/正五下、1392「師豊記」
- H4455 **諸鳥**(もろとり・林はやし/本姓;塩瀬)1720-9071 江戸霊岸島の菓子商/国学:荷田在満門、家業を擲ち国学・歌に専念;長歌を詠む、律令に精通、長枝ながえの父、「和字挙要」「万葉五百首」「日記考証」著/1775「三代八百首」76「鄙百首」著、1781「諸鳥陸奥紀行」著/81「六帖題苑」88「記紀歌集」編、[諸鳥(;号)の通称/別号]通称;和助/道樹、別号;林居士(薙髮号)
- H4456 **師直**(もろなお・高こう、法名;道常、師重男/本姓;高階)?-1351討死 武将:足利尊氏家臣/右衛門尉、三河守/五位/武蔵守、尊氏の執事;1338北畠顕家の大軍を破り戦功;高一派を形成、足利義詮を擁立し執事/足利直義と対立;1349直義出家/一応治る、51観応の擾乱勃発、播磨雀松原の合戦で上杉・畠山軍に敗北;出家/攝津武庫川で討死(園太暦入)、兼好に恋文を代筆させた逸話あり(太平記入)、歌人:1336「住吉社法楽和歌(尊氏以下五首和歌)」/44金剛三昧院奉納歌参加、藤葉集入、勅撰;風雅集2首(1332/2151)、[あまくだるあら人神のしるしあれば世に高き名はあらはれにけり](風雅;賀2151)、(暦応元1338年攝津の合戦に勝利し住吉社に参詣の時の歌)
- H4457 **師順**(もろなお・大中臣おおなかとみ/家名;西、師淳もろきよ男)1464-153168 戦国期の神職;刑部大輔、、1529従四下/30春日社新権神主、1483「春日社司師順記」著  
師尚(もろなお・中原) → 師尚(もろひさ・中原、廷臣/明経博士/歌)H4473
- H4458 **師仲**(もろなか・源みなもと;村上流、師時男)1116?-7257? 母;源師忠女の待賢門院女房、廷臣;1156参議/従三位/58正三位/59権中納言、平治乱で解任;1160下野配流/66召還;本座復職、1167従二位、妻;石清水八幡別当光清女的美濃、歌:平治物語入、千載集2首(518/1230)、[おぼつかないかになる身のはてならむ行方ゆくへも知らぬ旅のかなしさ](千載;羈旅518)、(下野配流のとき尾張鳴海にての詠)、[師仲(;名)の通称]伏見源中納言
- H4459 **諸仲**(もろなか・五辻いつじ、富仲男/本姓;源)1487-154054 廷臣;蔵人/左近将監/左京大夫/治部卿、1538従三位、1500「蔵人拜賀記」、「永正十年(1513)御会始」著
- H4460 **師長**(もろなが・菅原すがら、輔元男)?-? 平安中期廷臣;1007勘解由次官/11式部少輔、1016従四下/25左京権大夫、氏長者、漢学者、1025「関寺縁起」著
- H4461 **師長**(もろなが・藤原ふじわら、左大臣頼長2男)1138-9255 母;源信雅女、祖父太政大臣忠実の養子、平安期廷臣;右中将/1151(仁平元)正四下参議/左中将/52従三位/53正三位/従二位、1154(久寿元)権中納言/56(保元元)保元の乱で土佐配流;父の宇治合戦連座、1164召還、1165正二位/66(仁安元)権大納言/67大納言/68皇太后宮大夫/69左大将/76内大臣、1177(安元3)太政大臣/従一位、79(治承3)平清盛により解官追放/尾張配流;出家、1181帰京、楽人/歌人、琵琶;「三五要録」、箏;「仁智要録」「三五詳録」「三五要録楽目録」著、「声明譜」「白馬節会」「法華懺法」著、歌:千載集494(1156清輔[続詞花集]694;前中納言名)、[教へをく形見をふかくしのばなむ身は青海あをうみの浪に流れぬ](千載;七離別494)、(土佐配流のとき淀川の港まで送りにきた箏の門弟源惟盛に秘曲青海波を教授)、(源惟盛は縫殿助で陪従[はいじゅう;地下の楽人];台記・久寿二年四月廿日の条入)、[師長(;名)の通称/法名]通称;妙音院/四条大相国、法名;理覚

- H4462 **師良**(もろなが・一条/本姓;藤原、通称;三位中将、実経男)1258-93<sup>36</sup> 鎌倉期廷臣;左中将/正四下、歌人:1275家経「撰政家月十首歌合」参加(三位中将名)、勅撰4首;続拾遺490・655/新後撰460・894  
[今更に春とて人もたづね来ずただ宿からの花のあるじは](続拾遺;七490/右近中将名)  
師良(もろなが・二条) → 師良(もろとし・二条、良基男)
- H4463 **師夏**(もろなつ・中原なかはら、師茂男/師秀の弟)?-? 南北期廷臣/官人;1377権少外記/大外記、大炊権頭/縫殿頭、1364-74「師夏記」
- H4464 **師生**(もろなり・押小路おこじ/本姓;中原、初名;師頼、師庸もろつね男?)1581-1646<sup>66</sup> 廷臣;1591掃部頭、1592大外記/99造酒正/1601河内守/31正四上、「外記勘例之留」「叙位并女叙位次第」、1601「県召除目之時宣旨案」02「女官加階叙位例勘申」外記録多数  
諸成(もろなり・狛) → 諸成(もろしげ・狛こま、楽人/国学) H 4 4 2 9  
諸成(もろなり・千村) → 鸞湖(がこ・千村ちむら、藩士/儒者) C 1 5 0 1  
師成親王(もろなりしんのう、後村上皇子) → 慧梵(えぼん・竺源、歌人) 1 3 8 5
- H4465 **師信**(もろのぶ・花山院かざんいん、師継男/本姓藤原)1274-1321<sup>48</sup> 鎌倉後期廷臣、母;大江季光女(家女房)、師賢・兼信の父、正四下頭中将/1291(正応四)参議・従三位、1294正三位、1299従二位権中納言/1302正二位/03権大納言/09春宮大夫兼任/16大納言、1317従一位/1319内大臣/皇太子傅/21母没後に没、通称;後花山院内大臣のちのかざんいんのないだいじん、号;後花山院、歌人:1303後二条院歌合/20文保百首参加、自邸歌会(草庵集入)、菟玖波;1句入(頓阿と)、勅撰17首、新後撰(373/919/1045)新千(5首101-)続後拾(2首)風(1首)新千(3首)以下、[あくがれて行末とほきかぎりをも月に見つべき武蔵野の原](新後撰;秋373)
- H4466 **師宣**(もろのぶ・菱川ひしかわ/菱河、縫箔師菱川吉左衛門男)?-1694 安房平群郡保田村の絵師:早く江戸に出て絵画修業;寛文1661-73頃版本挿絵画家として活動/書肆と組み絵本制作、浮世絵版画発展に尽力、肉筆画の掛幅・画卷・屏風など;遊里・芝居等の風俗画を多数制作、1678「伊勢物語ひら言葉」/78「古今役者物語」「卜養狂歌集」82「竹齋」84「好色一代男」画、「今様枕屏風」「裏四十八手」「絵本手引艸」「職人尽倭画」「菱川師宣風俗画」など画多数、[菱川師宣(;号)の通称/別号]通称;吉兵衛、剃髮号;友竹、法号;勝誉即友  
息子師房・師永も絵師、友総・師重の師
- H4467 **師信**(もろのぶ・菱川ひしかわ) ? - ? 江前期元禄享保1688-1736頃の絵師:菱川派?、美人画・艶本挿絵を残す、1700「女用訓蒙図会」、「好色はつむかし」「好色名女枕」画、「四季模様諸礼絵鑑」画、[菱川師信(;号)の通称]長兵衛?  
師宣(5世もろのぶ・菱川;自称) → 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7
- H4468 **師範**(もろのり・大春日おおかすが)?-? 平安前期延長923-31頃の廷臣;六位御書所預、隼人佐、歌人:後撰集166(;朱雀天皇の東宮の時[925-930]に御書所で酒宴の際の歌)、[さみだれに春の宮人来る時は郭公ほととぎすをやうぐひすにせん](後撰;四夏166)
- H4469 **師教**(もろのり・源みなもと;村上流、師頼[1068-1139]男)?-? 母;藤原忠俊女、平安後期廷臣、従四下弾正大弼、師光の兄、歌人:歌会を主催、千載集1075、[老おいが世に宿に桜を移し植ゑてなほこゝろみに花を待つかな](千載;雑1075)
- H4470 **師教**(もろのり・九条くじょう、忠教男/本姓;藤原)1273-1320<sup>48</sup> 母;西園寺公相女、鎌倉期廷臣;1285従三位/99左大臣/1300従一位/05関白・氏長者/1308撰政;同年致仕、歌人:1303嘉元仙洞百首参、1315為兼[詠法華経和歌]参加、勅撰15首;新後撰(1080/1191)玉葉(252/2203)続千(4首)以下、[覚めぬればもとのつらさのうつつにてなかなかなりや思ひ寝の夢](新後撰;恋1080)  
[師教(;名)の法号]己心院/浄土寺、道教の父
- H4471 **師徳**(もろのり・押小路おこじ/本姓;中原、小槻敬義男)1799-1846<sup>48</sup> 1810押小路師賛もろしの家継嗣、廷臣;1810大外記/掃部頭/造酒正/1846従三位;没、「師徳卿記」1830「太神宮炎上勘例」、「彗星出現之事」編/「彗星年表」、「関東左府転任内府任槐一会記」外記録多数  
師教(もろのり・源) → 親教(ちかのり・源、資平男/廷臣/歌人) B 2 8 5 9
- H4472 **師尚**(もろひさ・高階たかしな、茂範男)823-880<sup>58</sup> 平安前期廷臣;右中将/従四下、業平と齋宮怡子い内親王との密通の子か?[故事談・江次第](;但し年齢が不合)

- H4473 **師尚**(もろひさ/もろなお・中原なかはら、師元男)1129or31-119769-67 平安後末期廷臣/官人;1153大外記、直講/助教、1183明経博士/主税頭/対馬頭/大炊頭、1194正四下/97出家;没、  
「師尚記」著、山槐記;記事入、歌人;続詞花集・言葉集・万代集入集、藤原隆房と交流、  
勅撰5首;千載(1083/1277)続後撰(881)新後撰(1266)新続古(1600)、  
[数ならぬ身を浮雲の晴れぬかなさすがに家の風は吹けども](千載;十七雑1083)、  
(1166頃三条実房家十五首参加/家の風は儒家の家の伝統)  
[交野のわたりに通ふ女にもの申しけるが つねはかしこにのみ侍りけるが、  
京に上りて侍りける又下るとてこの度は程なく帰りくべきよし申しけるに遣しける、  
いさしらずかりにときけど逢うことのまたかたのにやならんとすらん](続詞花恋574)
- H4474 **師久**(もろひさ・賀茂かも、遠久男)?-? 鎌倉後期神職;上賀茂神社権禰宜/四位、  
歌人;続千載(1054)/新千載(1097)、  
[我ばかり思ふも苦し玉かづらかけても人はしらじものゆゑ](続千載;十一恋1054)
- H4475 **師古**(もろひさ・下田しもだ、六右衛門由正男/本姓;大江)1692-172837 幕臣;父を継嗣;御先手与力、  
1715表御右筆/16奥御右筆/23御書物奉行、国学者;将軍吉宗の側近の1、「京職々掌考」著、  
「戸令俗解」「田令俗解」「式内馬品考」「兵武式考異」「社稷考略」/1724-5「師古日記」外著多、  
[師古(;名)の通称/法号]通称;幸太夫、法号;高源院  
師久(もろひさ・近衛) → 経熙(つねひろ・近衛/藤原、右大臣/日記)D 2 9 5 5
- H4476 **師秀**(もろひで・中原なかはら、師茂男/師夏の兄)1339?-? 南北期廷臣/官人;1347大炊権助、  
明経博士/正五上、1353権少外記/67助教、「文安度革命勘文案」
- H4477 **師栄**(もろひで・中原なかはら、師夏男)?-? 南北期廷臣/官人;小外記/伊予守、「外記日記」著
- H4478 **師英**(もろひで・押小路おしこうじ/本姓;中原、栗原水円男)1679-171840 押小路師庸もろつねの養子、  
廷臣;1709掃部頭/大外記/1714従四上、1692-1718「師英記」、「年中公事記」「両局訓解」著
- H4479 **諸人**(もろひと・若麻績部わかおみべ)?-? 755防人/上総国主帳丁しゅちょうのよほろ、万葉廿4350  
[庭中にはなかの阿須波あすはの神に小柴さし我あはれは斎いははむ帰り来くまでに](万葉;廿4350)、  
(阿須波神は穀物神大年神の子;庭にあるのは同一氏集団の屋敷神/小柴は後世の幣串か)  
師仁(もろひと) → 光格天皇(こうかくてんのう、歌人) 1 9 8 6
- H4480 **師平**(もろひら・中原なかはら、師任男)1022-9170 母;紀数遠女、中原貞親の養子、平安後期廷臣/官人、  
直講/少外記/助教/1059大外記/63明経博士/66大炊頭/67淡路守/78土佐守/88主税頭、  
1091肥後守・従四下;任国で没、1088-89「師平記」、師淳の父
- H4481 **師平**(もろひら・藤原ふじわら、家時or家衡男)?-? 鎌倉期廷臣;讃岐守、  
歌人;1261宗尊親王百五十番歌合参加  
[眺めてもいかでかたへむ霞みつつ花さへにほふ春のあけぼの](宗尊歌合;十二右24/春)  
家時男なら;本名忠時、宮内卿/正四下、  
家衡男なら;父歌人;六条、
- H4482 **師平**(もろひら・鷹司たかつかさ/本姓;藤原、鷹司冬平男)1310-5344 叔父鷹司冬教の猶子  
母;中将(姓不詳)長平女or近衛兼良女、冬通の父、  
廷臣;1327従三位/39右大臣/42関白;氏長者/44従一位/53出家、  
歌人;1344仙洞歌会参加/46仙洞詩歌会兼作参加、勅撰2首;風雅382/新拾遺691、  
[しげりあふ庭の木ずゑを吹き分けて風にもりくる月のすずしさ](風雅集;四夏382)、  
[師平(;名)の通称/号]通称;前関白右大臣、号;昭(照)光院、法名;禅理
- 4435 **諸平**(もろひら・加納かのう、夏目麿磨みかまろ長男)1806-5752歳 遠州の生/和歌山藩医加納伊竹の養子、  
医学を修学/句読;中山美石門/国学・歌;本居大平門、和歌山藩士;1856藩新政国学所総裁、  
毒をもられ投獄、柿園派を率いる;石川依平・近藤芳樹と共に[二平一樹]と称せらる、  
1828-54「類題和歌鮫玉集1~7編」/30「山菅」39「都のつと」46「難波記行」53「柿園詠草」、  
「柿園考説」「柿の落葉」「額田王考」「山多豆考」「斬髮考」「諸平家集」「加納諸平詠草」外著多、  
[沖つ洲に夕ゐる鷗かもむれ立ちて浪の穂は赤あかし月やいづらん](柿園詠草:325/海上月)  
[諸平(;名)の別名/通称/号]別名;長樹/兄瓶えみか、通称;小八郎/春太/杏仙/兵部/小太郎、  
号;柿園かきぞの、法号;聡明院
- H4483 **師平母**(もろひらのは・鷹司たかつかさ、中将[姓不詳]長平女or近衛兼良女or家女房)?-? 鎌倉後期歌人、  
鷹司冬平[1275-1327]の室/師平[1310-53]の母、風雅集143(;前関白右大臣母)、



[咲かぬまの待どほにのみおぼゆるは花に心のいそぐなるらし](風雅集;春143)

- H4484 **師弘**(もろひろ・中原なかはら、師朝男)?-? 鎌倉期廷臣/官人;穀倉院別当/造酒正/大外記、明経博士/局務、正五上、「和漢春秋」/1245-6有職故実「除目抄」(写本「除秘抄」)
- H4485 **師周**(もろひろ・大中臣おおなかとみ/家名;西、師興男)1700-5556 江中期春日社の神職;1731正四下、1752春日社新権神主、1728「布留記」34「辨異要録」、「服忌辨異要録」著
- H4486 **師房**(もろふさ・源みなもと;村上流、初名;資定、具平親王[村上天皇皇子]男)1008-7770 母;為平親王女、1020賜姓/藤原頼通の猶子、廷臣;1024従三位/65内大臣/69右大臣/74従一位/77致仕、妻;道長女の尊子、撰関家と縁戚となり村上源氏の地位向上、和漢の才人/歌人;1037-44頃「源大納言家歌合」5度催行(和歌六人党など官人・女房歌人などを集める)、1049内裏歌合判者、家司として祿子内親王家一連の歌合の後見、家記「土右記」著、新撰朗詠集・続文粹に詩入、玄々集(資定名)・秋風集・和漢兼作集に歌入集、勅撰10首;後拾遺(146/222)金葉(214)千載(241)新古(713)続後撰(1357)続後拾(1首)以下、[行く末をせきとどめばや白河の水とともにぞ春もゆきける](後拾遺;春146、白河しらかはにて花の散りて流れけるを詠む/白河;鴨川の支流)、[師房(;名)の通称]土御門右大臣/久我右大臣、俊房・頼房・師忠・麗子の父  
妻 → 尊子(そんし、藤原道長女、源師房室/歌人) F 2 5 1 1  
娘 → 師房女(もろふさのむすめ・源、藤原通房室/歌) H 4 4 8 8
- H4487 **師房**(もろふさ・菱川ひしかわ、師宣の長男)?-? 江前期絵師:父門、貞享元禄1684-1704頃活躍、美人風俗画に長ず、父を継承せず;のち父祖の縫箔染色業に従事、1700「好色一もとすゝき」、「好色にせむらさき」画、[菱川師房(;号)の通称] 吉左衛門/吉兵衛
- H4488 **師房女**(もろふさのむすめ・源みなもと、土御門右大臣女)?-? 1077存 母;藤原道長女、1042藤原通房の室、1044夫と死別、歌;後拾576(夫への哀傷歌;土御門右大臣女名)/新古805/玉葉2360 [別れにし人は来くべくもあらなくにいかにもふるまふさゝがにぞこは]、(後拾;哀傷576/帳のうちの蜘蛛を見て詠む)、  
参照 → 通房(みちふさ・藤原、宇治大将、右大将) C 4 1 4 1  
諸淵(もろふち・三瀬) → 周三(しゅうぞう・三瀬みせ、洋学者/医者) X 2 1 8 9
- J4473 **諸史**(もろふみ・上林かんばやし、旧姓;杉)1810-187566 周防玖珂郡の商家/大年寄、国学(古学)・歌人;岩政信比古さねひ・藤井高尚門/岩国に住、[空蟬の世にかゝるとも思はぬは錦の帯の橋の見渡し](錦帯橋を詠める)、[諸史(;名)の通称/号]通称;円蔵、号;柿廼下舎、屋号;宇治屋
- J4444 **諸文**(もろふみ・小貝おがい)1842-192281 尾張熱田中瀬町の魚問屋、歌人;中村守手・八田知紀・小出榮門、新年御題撰歌の榮に逢う、[諸文(;名)の通称/号]通称;謚三郎しんざぶろう、号;鑑古堂
- H4489 **もろふむ**(もろふん・藤原ふじわら)?-? 平安前期廷臣;伝不詳、歌人;972(天禄3)女四宮規子内親王前栽歌合参加、[高砂の山のをじかは年を経ておなじをにこそたちならし鳴け](女四宮歌合;右12)、(物名;紫苑しむに、おなじをは同じ尾根/続詞花集・袋草紙には日向の歌としている)
- H4490 **師冬**(もろふゆ・高こう、師行男/本姓;高階)?-1351自害 南北期の武将:従兄弟の高師直もろなおの猶子、五位/三河守/播磨守、武蔵・伊勢の守護、関東管領;北朝方の関東平定に功績、1345天竜寺供養に参列、観応の擾乱の際に甲斐で自害、師秋の実弟/師詮の義弟、歌人;風雅集1531、[初秋はまだながからぬ夜半なれば明るるや惜しき星逢ひのそら](風雅;雑1531) [師冬(;名)の通称] 四郎左衛門尉
- H4491 **師冬**(もろふゆ・今小路いまこうじ、基冬男/本姓;藤原)?-? 廷臣;1395左中将;従三位非参議/96権中納言、1399正三位権大納言/1400従二位/01辞退;致仕、02正二位/04従一位;出家:常空?、1407内裏九十番歌合参加、[おのづからただよふ雲もさゆる夜のあらしにはれてすめる月かな] (内裏九十番;十番左19;入道従一位常空)

- 諸平(もろへい・加納) → 諸平(もろひら・加納、歌人) 4 4 3 5  
 諸兵衛(もろへえ・愛甲) → 喜春(きしゅん・愛甲あいこう、医者/儒) K 1 6 8 5
- H4492 師尹(もろまさ/もろただ・藤原ふじわら、太政大臣忠平5男) 920-969 50 母;源能有女、実頼・師氏・師輔の弟、平安前期廷臣;935侍従/944蔵人頭/左近中将/945参議/946備前守/947左兵衛督兼任、948従三位権中納言/950春宮大夫兼任/951中納言;左兵衛督・春宮大夫/953左衛門督兼任、別当兼任/956正三位/957右大将兼任/961権大納言/963按察使兼任/966従二位、967右大臣;正二位/969左大臣・左大将;没(50歳);安和変に源高明を讒言のためとの噂、贈正一位、「少左記」著、歌人;943日本紀竟宴和歌参加/960内裏歌合参加;方人、966内裏前裁合参加、後撰集3首(67/196/735、203・738題詞入)、  
 [青柳のいとつれなくもなりゆくかいかなるすぢに思ひよらまし](後撰;春67)、  
 (女の許に贈る歌/柳の糸と程度副詞[いと]の掛詞・すぢは糸の縁語で細い手順)、  
 [師尹(;名)の幼名/通称]幼名;あや君、通称;小一条左大臣、息子;濟時、  
 息女芳子よこ → 宣耀殿女御(せんようでんのようご、古今集すべて暗誦の逸話) G 2 4 7 4
- H4493 師政(もろまさ・福地ふくち/旧姓;大塚おつか、通称;三左衛門)?-1742 肥前の人;初め商業に従事、肥前佐賀藩足軽福地氏より身分譲渡され福地に改姓、漢学;武富廉斎門、家塾を開;講説、黄檗僧大潮元皓門/和算;筑前高屋安兵衛門;天元算方式を受、1716頃に佐賀聖堂の和算師、「算法見笑記」著、門弟数百人  
 諸麿(もろまる・兼清) → 蔭正(かげまさ・兼清かねきよ、国学者) L 1 5 3 2
- H4494 師身(もろみ・押小路おこじ/本姓;中原、師徳男) 1819-? 1854 存 母;押小路師武女、江後期廷臣;1823大外記/35造酒正/46掃部頭/54正四下、「師身記」/1830「地震勘例」、養嗣子;弟師親  
 師実(もろみ・清原) → 師実(もろざね/もろみ・清原、廷臣/歌人) H 4 4 2 3
- H4495 師通(もろみち・藤原ふじわら、師実男) 1062-99 38 母:源師房女の従一位麗子いし、廷臣;1075従三位、1077正三位;参議/83内大臣/94関白・氏長者/96従一位/99出家;没、琵琶/書/蹴鞠に通ず、詩歌人;1078内裏歌合/93郁芳門院根合参、自邸で歌会・作文会主催、家記「後二条師通記」、大江匡房に「江家次第」を撰ばせる、中右記部類紙背詩集・和漢兼作・秋風集入集、勅撰4首;後拾遺(230)千載(51)新古今(1454/1652)  
 [夏の夜の有明の月を見るほどに秋をもまたで風ぞすずしき](後拾遺230;内大臣の時)  
 [師通(;名)の通称]後二条殿/後二条関白/二条関白、  
 師道(もろみち・屋代) → 師道(しどう・屋代やしろう/源/永邨、幕臣/歌) V 2 1 2 6
- H4496 師光(もろみつ・源みなもと;村上流、初名;国仲/国保、頼国男)?-1100? 母;藤原仲清女、頼実・頼綱の弟、平安後期廷臣;従五下/蔵人/信濃守/相模守、相人そじにん、詩歌、1061七条亭作文詩会参加、1075殿上歌合参加(;蔵人左衛門尉国仲名)、勅撰2首;後拾遺854/金葉537、  
 [常よりもさやけき秋の月を見てあはれ恋しき雲の上かな](後拾遺;雑854)、  
 (蔵人として昇殿を許されていた先帝の治世を懐かしむ/当代への期待)
- H4497 師光(もろみつ・源みなもと;村上流、法名;生蓮しょうれん、師頼男) 1131?-? 1203 存 母;藤原能実女、左大臣藤原頼長の猶子、平安末・鎌倉期廷臣;正五下/右京権大夫;官途不遇/1181出家、歌人;六条藤家・歌林苑に接近、1160清輔朝臣家歌合/72広田社歌合/95民部卿家歌合参加、1198御室五十首・1200初度百首出詠、1203千五百番歌合;祝・恋の判者、今撰・月詣・玄玉集入、1182頃家集「源師光集」、私撰集「花月集」編(散佚)、「一品経和歌懐紙」入、通称;小野宮、勅撰27首;千載(6首409/681/735/773/829/1088)新古(1458/1772/1840)新勅(5首)続後撰下、  
 [時雨ゆく遠をちの外山とまの峰つゞき移りもあへず雲がくるらむ](千載集;冬409)、  
 [しばしこそ頼む心もおぼえけれききなれにけり嶺の嵐も](正治初度百首;1793)、  
 妻 ; → 安芸④(後白河院安芸ごしらかいんのあき) C 1 0 4 8 ④  
 男(息子); → 具親(ともちか・源、歌人) P 3 1 7 5  
 → 泰光(やすみつ・源、歌人) D 4 5 1 1  
 → 尋恵(じんえ、天台僧/歌人) V 2 2 8 2  
 → 澄覚(ちようかく、天台僧/歌人) N 2 8 9 7  
 女(息女); → 宮内卿(くわいきよう、後鳥羽院、歌人) 1 7 0 5
- H4498 師光(もろみつ・藤原ふじわら) ? - ? 平安後期廷臣/歌人、  
 通憲(信西1106-59)の乳母子西光か?、続千載1181、

[よそにだにみぬめの浦の海士人あまびとやただいたづらに袖ぬらすらん] (続千載;恋1181)

→ 西光(さいこう:法諱、藤原師光/鹿谷談合) F 2 0 7 5

- H4499 **師光**(もろみつ・中原なかはら、師重男) 1205-6560 鎌倉期廷臣/官人;中原師季の猶子、1240明経博士、大外記/越中守/穀倉院別当/1257正四下;仙洞近習(;尊卑分脈)、1265出家、1236-46「師光記」、「卯杖進献例」「局中宝」「読新抄」「師光年中行事」、歌人;万代・秋風集入、勅撰8首;続後撰(607/1153)続拾(368)新後撰(659)玉(2790)続後拾(1096)新千(2335)以下、「中古歌仙三十六人伝」著作説あり、師宗の父、  
[葦原のしげきことの葉かき分けて法のみちをもけふ見つるかな] (続後撰;积教607)、  
(国史にある弘法大師の法験を記してほしいという人に詠む)  
☆袋草紙の宣旨請文の大博士師光(中原忠良男/掃部頭大外記博士越前守)とは別人
- F4492 **諸光**(もろみつ・橘たちばな/薄) 1547-85横死絶家39 廷臣:左衛門佐/従五位、狂歌;「古今夷曲集」入、  
[たらしつゝと言ひかく言ひ言ひなびけ君にちとのま逢ふよしもがな] (古今夷曲集七)  
(本歌[かくしつゝともかくにもながらへて君が八千代に逢ふよしもがな]古今347)
- 師光(もろみつ・藤原) → 長房(ながふさ・藤原、大蔵卿/大弐/歌) F 3 2 6 3  
師光女(もろみつのむすめ・源、生蓮女) → 宮内卿(くなくさきょう、鎌倉期歌人) 1 7 0 5
- I4400 **師岑**(もろみね・押小路おしこうじ/本姓;中原、師庸もろつね男) 1690-172435 押小路師英もろひでの養子、廷臣;  
1715造酒正/18大外記/掃部頭/23正五下、1715-23「師岑記」著
- I4401 **師宗**(もろむね・中原なかはら、師光男) 1239-131981 鎌倉期廷臣/官人;掃部頭/助教/記録所寄人、  
1287大外記/造酒正、院の文殿の開闢/河内守/1316明経博士/1319正四下;没、  
「師宗朝臣記」「内蔵頭重服勘例」、1312「改元二月三月例勘文」、坊城俊定・源兼任と交流、  
歌人;勅撰7首;新後撰(1081/1281)玉葉(813/1144)続千載(1778/1896)新千載(1920)、  
[思ひ寝の夢のうちにもなぐさまでさむるうつつはなほぞかなしき] (新後撰;恋1081)
- 師村(もろむら・藤原) → 浄心(じょうしん;法諱、幕臣/僧/連歌) K 2 2 0 2  
諸持(もろもち・千種庵) → 紫文斎(しぶんさい、宇治、浄瑠璃) F 2 1 6 0
- I4402 **師基**(もろもと・藤原ふじわら、権大納言経輔男) 1031-7747 母;資業女、師家・長房弟、平安後期廷臣;  
若狭守/右中弁/正四下、歌;1049内裏歌合参加、51(永承4)内裏歌合;清書/56春秋歌合講師、  
詩;51侍臣詩合/56殿上詩合参加、「中右記部類紙背漢詩集」入、  
[あさなあさなうつろふ菊はむらさきに重ねて花の咲くかとぞみる]、  
(永承4年内裏歌合;七番残菊左)
- I4403 **師元**(もろもと・中原なかはら、師遠男) 1109-7567 平安後期廷臣;1121大外記/57掃部頭/60大外記再任、  
撰関家家司/穀倉院別当/明経博士/大炊頭/但馬・出羽守、1128関白忠実の家司、  
1137-54藤原忠実の故実言談「中外抄」筆録編/1172正四上、「口遊抄」「富家語」編、  
「師元記」「師元年中行事」著、歌;万代集入集、師安もろやすの弟、師尚の父
- I4404 **師基**(もろもと・二条にじょう、兼基男/本姓;藤原) 1301-6565 母;源兼任女、廷臣;1312従三位、  
1316(正和5)権大納言、1317正二位/大宰権帥/兵部卿、  
南朝廷臣;1351(正平6)従一位/左大臣/55(正平10)関白/59出家、  
歌人;自邸歌合催、新葉集13首;12/37/80/93/253/277/495/681/794/873/1095/1262/1404、  
[なれもまづ谷の戸出でて君が代にあへるをときと鶯ぞ鳴く]  
(新葉集;春12/正平八1353内裏千首歌/初鶯)、  
[師基(;)の号/通称] 福音寺前関白内大臣(;新葉集)、 教基・教頼の父
- I4405 **師守**(もろもり・中原なかはら/家名;押小路、師右もろつけ男) ?-? 1370以前没 母;法名顕心、師茂の弟、  
廷臣/官人;1338小外記兼主計権助院上北面/直講/助教/明経博士/主税頭/正五上、  
記録所寄人;北朝の朝儀・公儀・南北朝内乱の動静などを記録、「師守記」/1349「貞即記」著
- I4406 **師盛**(もろもり・大中臣おおなかつみ/中臣、時俊男) 1339-142486 春日社権神主;1399従三位/1417刑部卿、  
正三位、1385「春日権神主師盛記」/1407-27「春日社御造替日記」、「春日御詣記」「師盛記」
- I4407 **師守**(もろもり・押小路おしこうじ/本姓;中原、小槻章弘男) 1714-4431 母;小槻季連女、  
押小路師岑の養子、廷臣;1724大外記/掃部頭/26造酒正/42従四下、  
「師守記」、1726「関白宣下記」著
- I4408 **師安**(師康もろやす・中原なかはら、師遠男) 1088-115467 平安後期廷臣/官人;1107大外記/院文殿/直講、  
助教/佐渡守/関白家家司/1139大外記再任/44明経博士/54穀倉院別当を息子師業に譲渡、



正四下、「函中抄」「師安記」「康治元年(1142)外記日記」、23-39頃「大鏡裏書」加筆、師元の兄師保(もろやす・四条) → 隆良(たかよし・四条/鷲尾、廷臣/歌) E 2 6 0 6

- I4409 師梁(もろやな・中原なかはら、師蔭男)?-1326 鎌倉期廷臣/官人;1322権少外記/造酒正/主計助、1325致仕/26従五下、「保元物語」作者説あり、「皇代記」編、歌;続現葉集入
- I4410 師行(もろゆき・北畠きたばたけ、雅家男/本姓;源)?-1296 母;平信繁女、鎌倉期廷臣;1266因幡弁、1281左中将/95従三位、具行の父、歌人;続千載集587、  
[筏師よ秋の名残の大井河この暮くれしばしいそがずもがな](続千載;五秋587)
- I4411 師義(もろよし・佐竹さたけ、貞義男/本姓;源)?-? 母;海上胤泰女、南北期武将/掃部助/刑部大助、足利尊氏の家臣;1336筑紫多々良浜合戦に参戦;戦功により常陸国内に所領を得、1345尊氏の天童寺供養に供奉、連歌;菟玖波2句;675/1695入(675は流布本;源師氏)、1387頃軍記「源威げん集」著者説[結城直光説もある]、義篤よしあつの弟  
[漕ぐ舟は浦より浦にうつりきて](菟玖波;1695/前句;里こそかはれ旅の行末)  
→ 師氏(もろうじ・細川/源、武将) I 4 4 5 2
- I4412 師良(もろよし・二条にじょう、良基男/本姓;藤原)1345-8238 廷臣;1353従三位/左近大将、69関白、1370左大臣/71従一位/1381出家、歌人;1366年中行事歌合/67新玉津島社歌合参加、1369後光厳天皇催[応二年内裏和歌]父と参/1374父より「知連抄」を受領、勅撰4首;新拾遺(460/1591)新統古(357/768)、  
[鹿の音ぞ空にきこゆる夕霧のへだつる方や尾上なるらん](新拾遺;秋460/左近大将名)、  
[師良(;名)の号/法名]号;是心院、法名;明空、師嗣もろつぐの兄弟、道豪・桓教の父
- I4413 師賛(もろよし・押小路おしこうじ/本姓;中原、師武男)1798-1810夭逝13歳 廷臣;1806大外記/掃部頭、従五上、1807造酒正、「師賛記」著  
師良(もろよし・一条) → 師良(もろなが・一条、実経男/廷臣/歌) H 4 4 6 2
- 4436 師頼(もろより・源みなもと;村上流、通称;小野宮大納言おのみやだいごん、俊房男)1068-113972 母;源家基女、橘俊綱の養子、1098従三位参議/1101正三位/07右兵衛督、  
1113永久の陰謀事件(鳥羽天皇暗殺未遂事件)の嫌疑で失脚(正三位参議のまま据置)、鳥羽院政期に復活;1130中納言/31従二位権大納言/33正二位/34皇后宮大夫/36大納言、藤原頼長に近親;漢書を講義、39(保延5)出家;没、  
歌人;堀河院歌壇で活躍・1093「郁芳門院根合」1102「堀河院艶書合」参加、堀河院百首出詠、1109自邸で歌合を催(源俊頼を判者)、忠通家歌合参加/21「長実家歌合」参加、1117「永久五年祈雨日記」著、「万葉集」次点の一人、  
後葉集・続詞花集・万代集・雲葉集・和漢兼作集・夫木抄など入集、  
勅撰24首;金葉(5首135/197/342/554/598)千載(4首19/242/251/1042)新古(123/925)以下、  
[五月雨に沼の岩垣水越えて真菰まもかるべきかたも知られず](金葉集;夏135)  
師時・師俊の兄弟、師能・師教・師光・師綱・証遍・大納言重通室・中納言光隆室の父  
師頼(もろより・押小路) → 師生(もろなり・押小路/中原、廷臣/記録) H 4 4 6 4
- I4414 文阿弥(もんあみ・綉谷庵しゅうこくあん、文阿)?-1517 室町期足利將軍の同朋衆、華道家;立花・瓶花、「立花伝書」著
- I4415 文阿弥(2世もんあみ) ? - ? 室町後期華道家;初世門、  
足利義輝の「花論二十箇条」編纂参加、1553「文阿弥立花口伝」著  
門一阿闍梨(もんいちあじり) → 日障(にちじん;法諱、円光坊、日蓮僧) C 3 3 5 0  
紋右衛門(もんえもん・工藤) → 野松(やしゅう・工藤くどう、藩士/俳人) 4 5 7 0  
紋右衛門(もんえもん・杉山) → 健吾(けんご・杉山すぎやま、庄屋/皇学) N 1 8 9 0
- I4473 間加(もんか;法諱) ? - ? 江前期山城伏見深草大亀谷の多門院僧/俳人、  
1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
[枕より跡より寒き襦袢じばん哉](手鑑/  
謡曲[松風];起き臥しわかで枕よりあとより恋の責め来ればせん方涙に伏し沈む)  
文嘉(もんか;字) → 日審(にっしん;法諱・靈鷲院、日蓮僧) E 3 3 4 6  
文海(もんかい;法諱) → 竜洲(りゅうしゅう;道号・文海、曹洞僧) H 4 9 8 4
- I4416 文覚(もんかく;法諱、俗名;遠藤盛遠、遠藤茂遠男)1139?-1205?67? 撰津渡辺の武士;上西門院出仕、出家;真言僧として苦行修練/1168高雄山神護寺の再興を發願;後白河院莊園を所望;逆鱗、

伊豆流罪/配地で源頼朝に出会い平家追討を促す、後白河院・頼朝の庇護で諸大寺復興、頼朝没後後鳥羽院勢力により1199佐渡配流/1205対馬流罪：鎮西に没、書簡；「後白河院宛起請文」（「神護寺旧記」入）、1200「僧文覚答源羽林書」「文覚上人消息」、「文覚法師書簡」「釈文覚復頼家將軍書」「秘香図」著

問鶴園(もんかくえん) → 葆堂(ほうどう・戸田とだ、藩士/詩人) F 3 9 9 1

I4417 文閑(もんかん/ぶんかん;法諱、惣吉男)?-? 時宗の四条道場僧(一説に六条道場僧)、連歌:1571幽齋「大原野千句」の執筆、紹巴と活動;1577宗牧33回忌追悼百韻/78羽柴千句参、1582織田信長追善懐旧百韻参加、84昌休33回忌千句連歌参加、1603玄仲千句;巻頭発句、1604千句連歌参加;第三百韻の発句、醒睡抄に逸話

文観(もんかん/ぶんかん;字) → 弘真(こうしん;法諱・文観;字、真言僧) J 1 9 8 8

門喜(もんき・小山) → 武岑(たけみね・小山こやま、藩士/古書筆録) O 2 6 8 0

I4418 門吉(もんきち/かどきち・半田はんた、名;成久なりひき、久隆男)1834-64自刃<sup>31</sup> 筑後八女郡の久留米藩士;1854軽輩から目付役/藩命により変名し時勢視察、1863天誅組に参加;長州へ敗走、1864長州藩兵の東上に随い蛤御門で銃創を受け自刃、歌人;討幕論の真木保臣に私淑、1863「大和戦争日記」著、京鞍馬口上善寺に首塚、[門吉(;通称)の別通称/変名]別通称;紋吉、変名;武田二郎

紋吉(もんきち・船曳) → 子錦(しきん・船曳ふなびき、医者) B 2 1 1 4

紋吉(もんきち・木下) → 光邦(みつくに・木下きのした、商家/歌人) I 4 1 7 8

門吉郎(もんきちろう・藤川) → 貞世(さだよ・藤川ふじかわ、藩士/国学/歌) P 2 0 2 6

I4468 文慶(もんきょう/もんけい;法諱、藤原佐里[真覚]男)966-1046<sup>81</sup> 平安中期天台僧;園城寺余慶門;顕密、のち勸修寺勝算門;三部大法職位を受法、父が開祖の京岩倉の大雲寺の初代別当、1008権律師/11律師/権少僧都/13園城寺長吏;3度/法印/23権大僧都、24辞職、成尋の師、歌;万代集入、[しばしこそふみもたがへめたれとても仏の道にいらざらめやは](万代;釈教1695)

I4419 門喬(もんきょう・近松ちかまつ/森田)?-1802 大阪宮地の芝居作者/のち歌舞伎作者:近松徳三門、1794大阪角座初見/95同座で近松門喬を名乗る/のち森田門喬に戻る、1796京四条南側芝居で二枚目作者、97立作者、98江戸で近松門喬名で市村座二枚目作者、1799市村座立作者、1794「当世寄族撰」96「雨夜の時鳥」/1799「江戸紫男鑑」「歌枕雪鉢木」、1800「いろふかき花錦」/01「竹の露」「敵討認雁的かたきうちねらいのがんまと」/02「其姿恋い字」外多数、[近松門喬(;号)の別号] 森田文橋(;初号)/森田門喬(;次号)

文句(もんく;字) → 日将(にっしょう;法諱、日蓮僧) E 3 3 2 9

文慶(もんけい;法諱) → 文慶(もんきょう/もんけい;法諱、天台僧) I 4 4 6 8

文猊(もんげい・日辰) → 日辰(にっしん・文猊、曹洞僧) E 3 3 4 7

I4420 門限面堂(もんげんめんどう・高橋たかはし徳八)?-1803 江戸浜町住;館林藩秋元但馬守家家士/狂歌:1785「徳和歌後万載」4首/85菅江「故混馬鹿集」/87狂歌才蔵集3首入、

[朝がへり女房の機嫌あしびきの山の神とておがまれぬ顔](才蔵集;十三571/栗花集下)

問厚(もんこう;法諱・象山) → 象山(しょうざん;道号・問厚、曹洞僧) J 2 2 2 1

I4421 聞号(もんごう;法諱) 1771 - 1831<sup>61</sup> 大和向淵の真宗本願寺派僧、花内村円通寺天足門、出家/大和葛下郡磯野村の順照寺住職、真宗学;大瀛・興情門、長谷寺の快道・河内の慈雲門、唯識・俱舎・悉曇・律を修学、三業惑乱後に1824勧学就任、京の興正寺の侍講;同寺で没、「極微集成」「梵学秘囊」「三帖和讃節用」「浄土和讃鄙見」「宗要愚案記早見」外著述多数、[聞号(;法諱)の別法諱/号]別法諱;正受/深慧、号;石園/自休、諡号;深妙院

I4422 聞谷(もんこく;道号・浄抽じょうちゅう;法諱、初号;紋国/初法諱;元抽)1666-1742<sup>77</sup> 越後岩船郡村上生、1677(12歳)播磨雲松寺の実伝道鈞門;出家/黄檗僧:1692美濃芥見村清水寺の鉄舟道英門、嗣法/1705美濃清水寺3世/1708尾張知多郡竜雲寺4世/25同寺抱膝庵に退隠、「鉄舟和尚行業記」編/「遼東集」著

4437 門左衛門(初世もんざえもん・近松ちかまつ、本名杉森信盛、福井藩士杉森信義2男)1653-1724<sup>72</sup> 福井の生、寛文七/八1667-68頃上京/浄瑠璃作者修業;1677頃まで宇治加賀掾門/加賀掾に書いた「世継曾我」が1684大坂道頓堀で竹本義太夫に語られ評判;作者地位確立、1695都万太夫座付作者;歌舞伎狂言も制作/1705義太夫と連携;竹本座専属作者、

1706大坂に移住;生涯浄瑠璃制作に専念、浄瑠璃作品:90余編、歌舞伎狂言;約30編、  
**時代物**(約80曲):「世継曾我」「出世景清」「用明天皇職人鑑しよくにんかがみ」「国性爺こくせんや合戦」、  
「平家女護島によごのしま」「碁盤太平記」「信州川中島合戦」「関八州繫馬つなぎうま」など、  
**世話物**(24曲):[**心中物**];「曾根崎心中」「心中重井筒かさねいづつ」「丹波与作待夜の小室節」、  
「冥途の飛脚」「博多小女郎波枕」「心中天の網島」「心中宵庚申」など  
[**妻敵討物**めがたきうちもの];「堀川波鼓なみつみ」「鍮やりの権三ごんぞ重帷子かさねかたびら」など、  
[**姦通物**];「五十年忌歌念仏」「夕霧阿波鳴門」「大経師昔暦むかしこよみ」「女殺油地獄」など、  
[近松門左衛門(;号)の幼名/通称/別号]幼名;次郎吉、通称;平馬/作左衛門、

別号;平安堂/巢林子/不移山人、法号;阿禰院あどういん穆矣日一具足居士

門左衛門(2世もんざえもん・近松)→焉馬(2世えんば・鳥亭、狂歌・戯作) B 1 3 3 4

門左衛門(もんざえもん・近松屋)→狂言堂(きやうげんどう・近松、浄瑠璃/囃会/雑俳) N 1 6 6 7

門左衛門(もんざえもん・上代)→敏政(としまさ・上代かみしろ、歌人) U 3 1 8 1

紋左衛門(もんざえもん・小嶋)→景福(かげとみ・小嶋こじま、武道家) L 1 5 0 8

紋左衛門(もんざえもん・松尾)→駿淵(しゅんえん・松尾、藩士/歴算家) M 2 1 4 9

紋左衛門(もんざえもん・不破)→有親(ありちか・不破ふわ、藩士/記録) E 1 0 5 0

門作(もんさく・柏木)→如亭(じよてい・柏木/柏、幕府棟梁/詩) C 2 2 8 3

文利(もんきつ;法諱・大淵)→大淵(だいえん;道号・文利、曹洞僧) J 2 6 2 4

紋三郎(もんざぶろう・加茂)→義明(よしあき・加茂かも、和算家) B 4 7 9 5

門三郎(紋三郎もんざぶろう・上田)→胤親(たねちか・上田うえだ、国学/歌) V 2 6 7 9

I4423 **文思**(もんし;道号・竜淵りゅうえん;法諱、号;幻成逸人)?-? 1832存 江戸寛永寺勧学講院の僧吏、  
天台or黄檗僧?、1811「東叡山勧学講院了翁碑文註」/32「般若心経夢性解」著

J4407 **門次**(すけお・浅田あさだ、)1786-1861 76 筑後久留米藩士;砲術師範、歌人

紋次(もんじ・亀山)→兵助(ひょうすけ・勝、歌舞伎作者/狂言方) F 3 7 2 9

紋次(もんじ・朝山)→嘉寛(よしひろ・朝山あさやま/勝部、神職) L 4 7 2 4

紋治(もんじ・真野)→豊綱(とよつな・真野まの、神職/国学) R 3 1 3 0

紋治(もんじ・近田)→永潔(ながきよ・近田ちかだ/矢野、庄屋/国学) N 3 2 8 7

門次(もんじ・菅谷)→帰雲(きくうん・菅谷すがや、藩士/儒者/詩) E 1 6 9 8

門次(もんじ・松本)→春朝斎(しゅんちゆうさい・竹原、絵師) K 2 1 2 8

門治(もんじ・大久保)→仙杖(せんじょう・大久保おおくぼ、俳人) F 2 4 9 7

門之太夫(もんしだゆう・真野)→豊綱(とよつな・真野まの、神職/国学) R 3 1 3 0

紋七郎(もんしちろう・大野)→三楓(さんふう・大野おおの、藩士/俳人) M 2 0 7 3

I4424 **門瑟**(もんしつ・小宮山こみやま)?-1790 江戸の俳人:柳居門、1745頃立机/葛飾の草庵で生活、  
1780「晒布集」、「柳居発句集」編(;霜後刊)、

[門瑟(;師の号を踏襲)の別号] 敲氷/涼雲斎/抱山宇(;師の庵号)

門瑟(もんしつ・佐久間)→柳居(りゅうきよ・佐久間、麦阿、俳人) D 4 9 3 3

捫蝨(もんしつ・日柳)→燕石(えんせき・日柳くさなぎ、詩人/勤王派) B 1 3 8 1

捫虱庵主(もんしつあんしゅ)→重石丸(いかりまる・渡辺、国学・神道家) B 1 1 4 0

文珠(もんじゅ;法諱・大観)→大観(だいかん;道号・文珠、臨濟僧) J 2 6 5 1

文守(もんじゅ/ぶんしゅ・一絲)→一絲(いっし・文守、臨濟僧/歌) E 1 1 6 2

文殊院(もんじゆいん)→立詮(りつせん;法諱・泉秀、真言僧/詩歌) C 4 9 0 9

文殊院(もんじゆいん)→玄智(げんち;法諱、真宗僧大谷派僧) L 1 8 1 1

文殊院(もんじゆいん)→政友(まさとも・住友すみとも、商家/涅槃僧) E 4 0 6 6

文十(もんじゅう)→文十(ぶんじゅう・高橋/宇陀野/宇施/露木、俳人) F 3 8 7 2

I4425 **文十郎**(もんじゅうろう・喜多きた、5世織衛の養嗣)1834-90 57 能楽喜多流宗家分家;

代々彦根藩抱能楽師、彦根分家6世/1877頃東京上京、

1882宗家継承の少年千代造(14世六平太能心)の補導、喜多流再興に尽力、

「能楽造花寸法」「喜多流能役者付」著、

[文十郎(;通称)の法号] 喜翁院

門十郎(もんじゅうろう・服部)→安休(あんきゅう・服部はつとり、藩士/神道) G 1 0 0 2

門十郎(もんじゅうろう・丹羽)→貴明(たかあき・丹羽にわ、家老/文武奨励) L 2 6 4 7



- 文殊小僧(もんじゅこそう) → 玄智(げんち;法諱、真宗僧大谷派僧) L 1 8 1 1  
 文殊僧正(もんじゅそうじょう) → 光暁(こうぎょう;法諱、円暁/法相僧) I 1 9 3 4  
 文殊丸(もんじゅまる・源) → 頼光(よりみつ・源みなもと、武将/歌人) J 4 7 7 9
- I4426 聞証(もんしょう;法諱・良光/誠観;字、林はやし政重男)1634-8855 京の浄土学僧;1650呈観門;出家、  
 浄土宗学;空山・東暉とうき門、のち江戸芝増上寺・武州蓮馨寺・鎌倉光明寺の檀林に修学、  
 唯識;奈良興福寺盛源門、晩年は下野円通寺・武州岩槻浄国寺・京の浄教寺で学徒教導、  
 1674「唯識本頌略解」75「当麻曼陀羅変相便覧」77「大原問答」、「啓蒙雜記」「俱舍綱要」外著多
- I4464 聞生(もんしょう;法諱、号;竜雲閣/諡号;至心房、俗姓;龜山)1792-185968 肥後の真宗本願寺派僧、  
 肥後仏誓寺了庵門;法嗣;寺席を継嗣し仏誓寺住職、1841司教、没後勸学を追贈、  
 「華嚴五教章聴記」「入出二門偈筆記」「文類聚鈔聴記」著
- 文性(もんじょう;字) → 亮典(りょうてん;法諱・文性、真言僧/教育) J 4 9 0 5  
 文貞(もんじょう;字) → 日徴(にっしょう;法諱・玄成院、日蓮僧) F 3 3 2 2  
 文貞(もんじょう;字) → 日芳(にっほう/日忠;法諱、日蓮僧) F 3 3 6 0  
 門松子(もんしょうし) → 豪山(ごうざん、俳人) J 1 9 3 9  
 文字楼(もんじろう) → 春馬(しゅんば・三亭、戯作/狂歌) 2 1 6 5  
 文次郎(もんじろう・佐々木) → 長秀(ながひで・佐々木/吉田、天文) F 3 2 4 9  
 門次郎(門二郎もんじろう・堀田) → 正毅(まささね・堀田/紀、藩主/文学) C 4 0 6 3  
 紋次郎(もんじろう・萩原) → 正巳(まさみ・萩原はざわら、書家/歌) H 4 0 3 5  
 紋次郎(もんじろう・田中) → 義近(よしか・田中たなか、儒者/詩文) E 4 7 5 9  
 紋次郎(もんじろう・石黒) → 知雄(ともお・石黒いさくろ、国学者) U 3 1 2 0  
 問秦庵(もんしんあん) → 楚竹(そちく・竹田たけだ、医者/狂歌) E 2 5 0 0  
 問津亭(もんしんてい) → 信景(しんかげ・天野あまの、藩士/国学者) 2 0 1 8
- I4428 問随(もんずい) ? - ? 江前期伏見の俳人;1691江水「元禄百人一句」入、  
 [起初おきそめて今年は和歌の浦うらを見ん](百人一句;71/浦に内奥を掛ける)
- I4465 聞随(もんずい;法諱・赤巖せきがん;号)?-? 江後期真宗本願寺派僧;智洞門、播磨覚正寺住職、  
 1792「成唯識論詮量」99「因明入正理論疏権衡」、「易行品印相」「浄土和讃碎骨」外著多数
- I4445 紋助(もんすけ) ? - ? 狂歌;1787「才蔵集」入;621(;黒沢氏の下男紋助とある)、  
 [われは人の数ならねども天が下にそのかさもりの誓ひに洩れんや](才蔵集;神祇621)、  
 (詞書;瘡がさを病みけるととき瘡守稲荷の神に祈る/左注;やがて癒えにけり)
- 文選復興楼(もんせんふっこうろう) → 鉄兜(てつとう・河野、医/儒/詩歌) C 3 0 5 7
- I4429 門蔵(もんぞう・桐竹きりたけ)?-? 浄瑠璃人形遣/作者;  
 1836案山子「梅魁荅八総はなのあにつぼみのやつあさ」共作
- 門蔵(もんぞう・宮負) → 定雄(やすお・宮負みやおい、名主/農政) B 4 5 0 2  
 門蔵(もんぞう・百井/中島) → 東関(とうかん・中島、藩士/儒者) C 3 1 2 8  
 門蔵(もんぞう・高階/西田) → 惟恒(これつね・西田にしだ、国学者) O 1 9 5 4  
 門蔵(もんぞう・久津摩) → 季敏(すえとし・久津摩くづま、藩士/国学) I 2 3 4 4  
 紋太(もんた・太井ふとい、小舟「絵本見立百化鳥みたてひやっかちよう」跋;作者漕川小舟ともに亀成の戯名)  
 → 亀成(きせい・山本・雨夜庵初世、俳/画) B 1 6 3 5
- I4430 聞諦(もんたい;法諱) ? - ? 1707存? 江前期江戸の浄土僧;芝増上寺源誉存庵門、  
 江戸橋場の法源寺住職/駿河宝台院住職、「浄土史料」/1707刊「諸経多在弥陀採摘」、  
 [聞諦の法名]行蓮社団誉
- 門太夫(もんだゆう・早崎) → 巖川(がんせん・早崎はやさき、儒者) H 1 5 7 0  
 門太夫(もんだゆう・山田) → 青峨(せいが・山田やまだ、俳人) H 2 4 6 6  
 紋太夫(もんだゆう・綾野) → 正紀(まさのり・綾野あやの、藩士/砲術/歌) N 4 0 2 2  
 門太郎(もんだらう・橋村) → 正甫(まさなみ・橋村はしむら/度会/村山、神職) R 4 0 7 1
- I4431 文智(もんち・ぶんち;法諱) ? - ? 僧侶・歌人、1359成立「続千載集」入;867、  
 [宮みせし神代思へばかたそぎの行あひのしもは年ふりのけり]  
 (続千載:神祇867/かたそぎは神殿の千木)
- I4466 聞中(もんちゅう;道号・浄復じょうふく;法諱、鈴木藤九郎男)1739-1829長寿91 伊勢河曲郡神戸川町の生、  
 1748(10歳)伊勢多気郡相可村黄檗宗法泉寺の雷巖広音門;出家、1757嗣法、諸寺住持歴任、

晩年京の一乗寺村円光寺桂林庵住、儒・大典門、詩文・書画に通ず、池大雅・伊藤若冲と交流、  
「聞中禪師語録」「聞中禪師詩文草」、  
[聞中浄復の別道号/別法諱/号]初道号;薬樹、別法諱;浄王/徳復/衍復/契復、  
号;小溪/大芝/芝葺しあん/幻処/大耳

- I4432 **関哲**(もんでつ;法諱・西海さいかい;号)1684-1766<sup>83</sup> 江前中期紀伊日高郡の僧、歌人:林松庵俊栄門、  
「由良の華」著
- I4433 **主水**(もんど・宇野うの) ? - ? 安桃期天正1573-92頃の本願寺頭如けんよの家臣、  
1582頭如の紀伊鷲森時代すでに側近、和泉貝塚動座・大坂天満本願寺移転にも頭如に随従、  
右筆役か、「頭如上人貝塚御座所日記」「貝塚御座所雑記」著
- I4434 **主水**(もんど・原はら、名;胤信、胤義男)1587-1623<sup>火刑37</sup> 徳川家康の家臣/走衆頭、キリシタン、  
1612剃髪し潜伏;布教活動
- I4435 **主水**(もんど・梶山かじやま、名;次俊)1763-1804<sup>42</sup> 陸中一関藩士;家老職、和算家;藤田貞資門、  
「梶山先生好問解」著、千葉胤秀の師、  
[主水(;通称)の別通称/号]別通称;平七/八十八/左門、号;岷江みんごう

主水(もんど・前田)	→	利物((としたね・前田まだ、藩主/武術)	M 3 1 7 7
主水(もんど・藤堂)	→	高陳(高延たかのぶ・藤堂、藩主/歌人)	D 2 6 4 1
主水(もんど・樋口)	→	宗武(むねたけ・樋口ひぐち、国学者/書家)	B 4 2 5 3
主水(もんど・大久保)	→	忠寄(ただより・大久保、幕臣/蔵書家)	G 2 6 1 3
主水(もんど・水野)	→	忠之(ただゆき・水野、藩主/老中/享保改革)	R 2 6 1 3
主水(もんど・筑紫)	→	従門(よりかど・筑紫/藤原、幕臣/神道)	I 4 7 5 3
主水(もんど・松平)	→	乗春(のりはる・松平まつだいら/源、藩主)	K 3 5 0 5
主水(もんど・菅沼)	→	定実(さだざね・菅沼すがぬま、幕臣)	I 2 0 1 8
主水(もんど・石野)	→	広明(ひろあきら・石野いしの/中原、幕臣/歌)	I 3 7 2 5
主水(もんど・石川)	→	総茂(ふさしげ・石川いしかわ、藩主)	C 3 8 0 9
主水(もんど・中根)	→	正英(まさてる・中根なかね、幕臣/記録)	E 4 0 2 6
主水(もんど・柳生)	→	久寿(ひさとし・柳生やぎゅう/菅原、幕臣/歌)	I 3 7 2 7
主水(もんど・広岩)	→	敬敏(たかとし・広岩、神職)	M 2 6 4 2
主水(もんど・井面)	→	守和(もりかず・井面いのも/荒木田、神職)	F 4 4 2 9
主水(もんど・儘田)	→	柳軒(りゅうけん・儘田まだ、問屋業/歌)	D 4 9 6 3
主水(もんど・黒川)	→	春村(はるむら・黒川、商人/狂歌/国学)	3 6 3 8
主水(もんど・箕曲)	→	在六(ありむつ・箕曲みのわ/秦、曆算家)	F 1 0 8 6
主水(もんど・大館)	→	氏晴(うじはる・大館おおだち、故実家)	C 1 2 6 0
主水(もんど・円山)	→	応挙(おうきよ・円山まるやま/藤原・源、絵師)	1 4 4 6
主水(もんど・円山)	→	応瑞(おうずい・円山まるやま/源、絵師)	B 1 4 3 3
主水(もんど・木下/円山)	→	応震(おうしん・円山まるやま/源、絵師)	C 1 4 5 5
主水(もんど・寺井/円山)	→	応立(おうりゅう・円山まるやま/源、絵師)	C 1 4 7 2
主水(もんど・高城)	→	都雀(とじゃく・高城たかしろ、俳人)	N 3 1 9 8
主水(もんど・藤原)	→	重全(しげまさ・藤原、神職/書肆)	S 2 1 6 4
主水(もんど・酒井)	→	徳隣(のりちか・酒井さいかい、幕臣/歌人)	I 3 5 6 3
主水(もんど・滝)	→	方山(かたやま・芳山ほうざん・滝たき、俳人)	B 3 9 0 0
主水(もんど・今枝)	→	恒明(つねあき・今枝/日置、藩士/日記)	B 2 9 5 0
主水(もんど・宮内)	→	嘉長(よしなが・宮内/清原/永井、神職/和漢学)	F 4 7 3 1
主水(門人もんど・朝倉)	→	景実(かげざね・朝倉あさくら、兵法家)	K 1 5 8 8
主水(もんど・兵頭)	→	正秀(まさひで・兵頭ひょうどう、神職/歌人)	S 4 0 1 1
主水(もんど・中河内/中村)	→	清旭(きよあき・中村、藩士/尊王派)	N 1 6 0 4
主水(もんど・倉谷)	→	友于(ともゆき・倉谷くらたに/藤原、医者/歌)	Q 3 1 8 6
主水(もんど・林)	→	罔雄(国雄くにお・林、国学者/狂歌)	C 1 7 6 5
主水(もんど・古山)	→	則満(のりみつ・古山ふるやま、藩士/歌人)	G 3 5 5 0
主水(もんど・吉田)	→	澹軒(たんけん・吉田よしだ、藩家老/財政)	T 2 6 3 7
主水(もんど・千家)	→	豊広(とよひろ・千家せんげ/出雲臣、国学/歌)	C 3 1 4 2

主水(もんど・吉澤) → 末盈(すえみつ・吉澤よしざわ/度会、国学) J 2 3 3 9  
 主水(もんど・吉澤) → 末慶(すえよし・吉澤/度会、末盈男/国学) J 2 3 4 0  
 主水(もんど・堀) → 達之助(たつのすけ・堀ほり、通事/英語) G 2 6 2 5  
 主水(もんど・福井) → 春水(しゅんすい・福井ふくい、本草家) L 2 1 2 0  
 主水(もんど・西池) → 重誠(しげのぶ・西池/賀茂、藤木、神職/歌) S 2 1 0 0  
 主水(もんど・葦名) → 盛倫(もりとも・葦名あしな、邑主/国学) J 4 4 0 8  
 主水(もんど・関根) → 忠和(ただかず・関根せきね/平、歌人) U 2 6 6 4  
 主水(もんど・松平) → 清倫(きよとも・松平まつだいら/源、旗本/歌) T 1 6 2 9  
 主水(もんど・小田切) → 昌倫(まさとも・小田切おだぎり、幕臣/国学) O 4 0 1 1  
 主水(もんど・大杉) → 安直(やすなお・大杉おおすぎ/日下部、国学) F 4 5 5 1  
 主水(もんど・大沢) → 基明(もとあきら・大沢おおさわ、幕臣/侍従) J 4 4 5 2  
 主水(もんど・不破/三上) → 藤川(とうせん・三上/不破、儒/医/尊攘) G 3 1 1 5  
 主水(もんど・入谷) → 澄士(すみお・入谷いりや、藩士/歌人) I 2 3 0 9  
 主水(もんど・座光寺) → 為明(ためあき・座光寺ざこうじ、旗本/歌人) X 2 6 3 0  
 主水(もんど・神白) → 朝興(ともおき・神白こうじろ、神職/歌人) V 3 1 2 0  
 主水(もんど・堤) → 盛言(もりのぶ・堤つみ/荒木田、神職・歌) K 4 4 6 6  
 主水(もんど・橋村) → 正長(まさなが・橋村はしむら/度会、神職/歌) R 4 0 7 0  
 主水(もんど・橋村) → 正河(まさかわ・橋村はしむら/度会、神職/歌) R 4 0 6 2  
 主水(もんど・橋村) → 正並(まさなみ・橋村/度会/中山、正河の養子/神職) R 4 0 6 1  
 主水(もんど・中川) → 善継(よしつぐ・中川なかがわ、眼科医/歌) O 4 7 1 5  
 主水(もんど・坪内) → 清禪(きよよし・坪内つぼうち、藩士/国学) U 1 6 7 9  
 主水(もんど・宮藤) → 稜威雄(いずお・佐伯ささき、神職/尊攘) K 1 1 2 6  
 主水(もんど・樋口) → 泉(いずみ・樋口ひぐち/岩佐、和算家/歌) K 1 1 5 8  
 主水(もんど・谷) → 麗国(よしくに・谷たに/小林、国学者) P 4 7 7 9

M4425 **文徳天皇**(もんとくてんのう、名;道康みちやす、仁明天皇第1皇子)827-858<sup>32</sup> 母;藤原冬嗣女の順子、  
 842承和の変で皇太子恒貞親王廃嫡/解決に功の伯父良房に推薦され即位;在位850-858、  
 東宮時に良房女明子あきらけいのが入内;第4皇子惟仁親王(清和天皇)を出産、  
 天皇は第1皇子惟喬親王(母;紀静子)を寵愛したが権力者良房により惟仁が皇太子となる、  
 天皇は良房と暗闘;内裏正殿には一度も居住せず;天皇不在の摂関政治の始まりの原因、  
 858病死;暗殺説あり/通称;田邑帝

主水正(もんどのしょう・松平) → 乗春(のりはる・松平まつだいら/源、藩主) K 3 5 0 5  
 主水正(もんどのしょう・高木) → 正剛(まさかた・高木たかぎ/松平/源、藩士/歌) L 4 0 6 9  
 主水正(もんどのしょう・沢) → 宣嘉(のぶよし・沢さわ/姉小路、攘夷派) E 3 5 0 5  
 主水正(もんどのしょう・石川) → 忠房(ただふさ・石川/伊丹、幕臣/記録) F 2 6 7 7  
 主水佑(もんどのすけ・板倉) → 勝喜(かつよし・板倉いたくら、藩主/国学) N 1 5 9 9  
 文如(もんにょ;号) → 光暉(こうき、真宗本願寺派本願寺18世) I 1 9 1 5

I4436 **文雄**(もんのう;法諱・僧谿そうけい;字、俗姓:中西)1700-63<sup>64</sup> 丹波桑田郡上窪村の浄土僧、  
 1713(14歳)玉泉寺の鏡誉門;出家/園部教伝寺の交誉門/京の了蓮寺誓誉門、  
 江戸伝通寺に修学;和漢典籍を涉獵、中国音:太宰春台門、帰京し下津谷迎接寺住、  
 大坂伝光寺住/京了蓮寺住職誓誉を継嗣/1751頃千光寺に隠棲、  
 護法の念篤く富永仲基「出定後語」に反駁し「非出定後語」著、韻鏡研究「韻学階梯」、  
 1744「磨光韻鏡」、「磨光韻鏡後編」「韻鏡律正」「順環録」「釈門字統」「連歌茶談」外著多数、  
 [文雄(;法諱)の法名/号]法名;然蓮ねんれん社/洞誉/光阿/無相、号;尚綱堂

I4437 **門之助**(初世もんのすけ・市川、屋号;瀧之屋、俳名;新車)1691-1729<sup>39</sup> 歌舞伎役者;2世団十郎門、  
 若衆方

I4438 **門之助**(2世もんのすけ・市川、屋号;瀧之屋、俳名;新車)1743-94<sup>52</sup> 歌舞伎役者;4世団十郎門、  
 1770襲名、若衆方

I4439 **門之助**(3世もんのすけ・市川、屋号;瀧之屋、男女蔵男)1794-1824<sup>急死</sup><sup>31</sup> 歌舞伎役者、1815襲名  
 門之助(4世もんのすけ・市川) → 文字大夫(4世もじだゆう・常盤津、歌舞伎役者/音曲/作曲) B 4 4 2 0



- 門之助(ものすけ・越智) → 通輔(みちすけ・越智おち、藩士/歌人) I 4 1 3 1  
 門之助(ものすけ・楠本屋) → 和夫(にぎお・福田ふくだ、国学/神職) H 3 3 3 3  
 紋之助(ものすけ・前田) → 東溪(とうけい・前田/一色、菊叢、藩儒) D 3 1 0 4  
 B4434 汶巴(もんば) ? - ? 江中期江戸雑俳点者、1702「赤兎ぼし」入  
 門平(もんべい・西依) → 成斎(せいさい・西依にしより/西、儒者) B 2 4 5 5  
 門兵衛(もんべえ・大久保) → 鷲山(しゅうざん・大久保、藩士/儒者) H 2 1 4 7  
 門兵衛(もんべえ・諏訪) → 行宅(ゆくいえ・諏訪すわ/一戸、藩士/神職) G 4 6 9 4  
 I4441 間本(もんぼん;法諱・梅山ばいざん;道号)?-1417 美濃の僧;幼時に美濃の律寺入;出家、  
 曹洞宗に帰依;京建仁寺の孤山禪師門/加賀仏陀寺の太源宗真門;法嗣、加賀金剛寺開山、  
 遠江大洞院・越後耕雲寺開祖、能登総持寺住持/加賀竜沢寺退隠;足利義満の招聘も辞す、  
 「梅山和尚戒法論」/1411「普蔵院規式」著  
 4438 文武天皇(もんむてんのう、軽[珂瑠]皇子、草壁皇子男)683-707早世<sup>25</sup>母;阿閉皇女(元明天皇)、  
 697立太子;即位/701大宝律令選定完成、詩歌;懐風藻3首/万葉二期歌人;1首(74)、  
 [献呈歌;45-49人麻呂/71-73忍坂部乙麻呂・藤原宇合・長皇子/1667-79]、  
 聖武天皇の父、万葉集では[大行だいぎょう天皇]を諡号?のように用いている、  
 [み吉野の山のあらしの寒けくにはたや今夜こひも我がひとり寝む](万葉;一74)  
 文盲散人(もんもうさんじん) → 銀鷄(ぎんけい・平亭、医/滑稽本作者) D 1 6 9 5  
 I4470 問也(もんや) ? - ? 江前期上方の俳人  
 1673西鶴「生玉万句」第一梅発句入、  
 [鶯は藪から棒の高音たかね哉](生玉万句;梅発句)  
 門弥(もんや・築田) → 義重(よししげ・築田/梁田、家老/測量) D 4 7 6 0  
 門弥(もんや・桜田) → 贅庵(ぜいあん・桜田さくらだ、儒者) H 2 4 3 3  
 門弥(もんや・藤田) → 嘉言(よしとき・藤田ふじた、藩士/和算家) E 4 7 8 7  
 門弥(もんや・水野) → 敏樹(としき・水野みずの、藩士/歌人) W 3 1 5 8  
 紋弥(もんや・中村) → 中侖(ちゅうろう・中村、藩士/医/儒者) G 2 8 5 6  
 紋弥(もんや・水野) → 在澄(ありずみ・水野みずの/赤川、藩士/歌) L 1 0 5 7  
 文雄(もんゆう・井上) → 文雄(ふみお/もんゆう・井上、医者/歌人) 3 8 2 6  
 汶陽(もんよう/ぶんよう・北川) → 堅壽(かたとも・北川、武芸/兵法家) N 1 5 0 1  
 門誉誓岸(もんよせいがん) → 良弘(りょうこう・平野ひらの、俳人;雑俳) H 4 9 4 6  
 C4494 門柳(もんりゅう) ? - ? 江戸牛込の植木職人、川柳作者;  
 招聘されて麴町初音連に主評者、誹風柳多留三三篇より評者、  
 [夕立は十七屋から京へ知れ](柳多留;一七)  
 門六(もんろく・山川) → 利順(としのぶ・山川やまかわ、国学者/歌) W 3 1 8 2